

データベース検索・更新ツール

SkyLink *Ver.13* for Desktop

Windows **7** **8.1** **10**

ユーザーズマニュアル





はじめに

この度は SkyLink をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。
SkyLink は、Windows 7/8.1/10 のクライアントから、サーバのデータベースへの検索／更新を行うアプリケーションソフトウェアです
(使用環境については SkyLink の使用環境を参照してください：
☞ 1.2 SkyLink の使用環境)

SkyLink の特長は・・・

1. 検索する項目や条件などを、特に SQL を意識することなく、マウスを使ってウィンドウ上で簡単に設定することができます。
2. 検索した結果のデータは、ウィンドウ画面に出力する他に、他のアプリケーション（Microsoft Excel, Microsoft Internet Explorer, 風神レポート）や、ファイル、クリップボードに出力できます。
3. 設定した項目や条件をコマンド／マクロとして登録し、ファイルに保存することができます。必要なときは、このコマンド／マクロを呼び出して簡単に検索を行うことができます。

正しくお使いになるために、このマニュアルを最後までお読みください。そして、SkyLink をどうぞご活用ください。

SkyLink が、少しでもあなたのお役に立つことができたなら、私達もとてもうれしく思います。



マニュアルの読み方

マニュアルの構成

マニュアルは以下の構成になっています。

1 SkyLink とは

SkyLink の概要を説明しています。

2 SkyLink のインストール

SkyLink のインストール方法を説明しています。初めてインストールする場合にお読みください。

3 ユーザーズガイド

SkyLink の基本操作を説明しています。

SkyLink を使用するうえで必要な基本事項について説明していますので、必ずお読みください。

4 メニューリファレンス

SkyLink のメニューの機能について説明しています。

付録 A

ユーザーサポートと販売条件

マークの説明

本マニュアルでは、以下のマークを使って注意を促しています。

📖 **参考**：参考にしていただきたい事柄を説明しています。

🔗 **X.X.X**：参照していただきたい項目を示しています。

1. SkyLinkとは

SkyLink の概要を説明します。

1.1

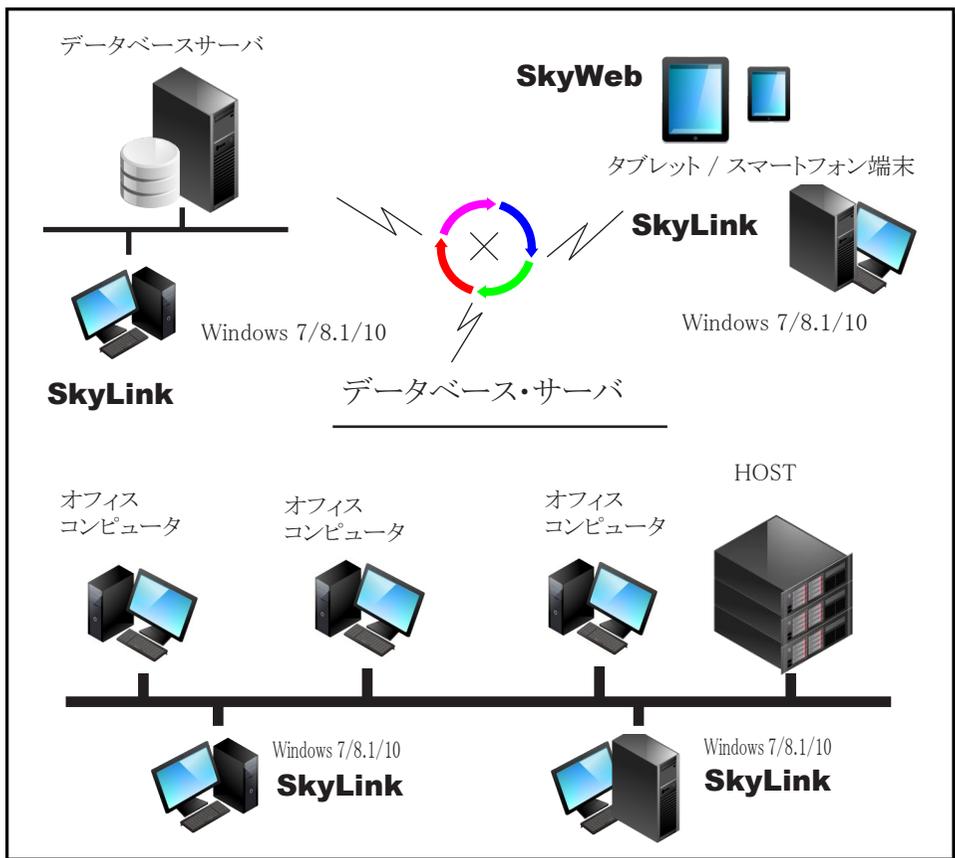
SkyLinkで何ができるか

1.1.1 SkyLinkとは

SkyLink は、クライアントマシンからサーバ内のデータベースに接続して、データベースの検索・更新を行う Windows アプリケーションです。SkyLink の画面には、表（テーブル）が見やすく配置されており、処理する表をマウスで選択します。

検索条件や更新条件も、ダイアログの項目を選択することにより設定できるため、SQL の知識がない方でも、簡単にデータベースの検索や更新を行うことができます。

次の図は、SkyLink を取り囲むマシン環境の例です。



SkyLink に接続することのできるサーバ・データベースは、以下の通りです。

- * Oracle10g / Oracle11g / Oracle 12c(R2含む) / Oracle18c
- * NEC RDB サーバ対応データベース
- * 富士通 Symfoware
- * IBM DB2
- * ODBC 対応データベース
- * Microsoft SQL Server(ADO.NET 接続)

実行環境としては以下のオペレーティング・システムで動作可能です。

- * Windows 7/8.1/10

1.2

SkyLink の使用環境

SkyLink をお使いになるには、以下のクライアント環境が必要です。

ハードウェア

パーソナルコンピュータ本体

メモリ ご利用の OS に合わせた必要メモリ容量

[参考] Windows7:1GB 以上 (32bit)

2GB 以上 (64bit)

Windows8:1GB 以上 (32bit)

2GB 以上 (64bit)

Windows10:1GB 以上 (32bit)

2GB 以上 (64bit)

※ 64bitOS 上では WOW64 上で

32bit アプリケーションとして動作します

ハードディスク SkyLink のインストール時

検索用 SkyLink は 85M バイト、

検索／更新用 SkyLink は 196M バイト必要

(インストールするオプションにより、
必要な容量は異なります)

ディスプレイ

マウス

キーボード

ネットワークインタフェースカード

ソフトウェア

日本語 Microsoft Windows 7/8.1/10

および データベースのクライアント環境 (2019 年 5 月現在)

* Oracle :

SQL*Net 2.2, 2.3 / Net8 / Oracle Net

*NEC RDB サーバ対応 DB :

PC-RDB サーバ Ver. 6. 51 以降

* 富士通 Symfoware :

DPC ライブラリ V7.2L10 以降

* IBM DB2 :

DB2 CAE

* ODBC 対応 DB :

各 DB の Net プログラムと 32 ビット版 ODBC ドライ
バ

* Microsoft SQL Server(ADO.NET 接続) :

ADO.NET 2.0 以降

各 OS への対応については各メーカー／各データベースのクライ
アント環境 (ミドルウェア) の対応次第となります。

※ データベースミドルウェアには、32ビット版を使用する必要があります。

1.3

SkyLinkの仕様

SkyLink の仕様を以下に示します。

1つのSQL文で使用可能な表の数.....	15
SQL文での最大項目数	
(Oracle).....	1,000
(NEC RDB サーバ ACOS).....	255
(NEC RDB サーバ ACOS 以外).....	127
(富士通 Symfoware).....	1,000
(IBM DB2).....	1,000
(ODBC では DB に依存).....	最大 1,000
SQL文の最大長	
(Oracle).....	20,480
(NEC RDB サーバ).....	3,470
(富士通 Symfoware).....	2,048
(IBM DB2).....	20,480
(ODBC).....	16,384
最大レコード長	
(NEC RDB サーバ).....	3,700
(その他).....	32,000
選択リストに表示できるスキーマ数.....	1,500
選択できるスキーマ数.....	1,500
選択リストに表示できる表数.....	1,500
選択できる表数.....	1,500
表ウィンドウに表示できる表の最大数.....	32
表結合の最大数.....	32
ひとつの表の列の最大数.....	1,000
自動生成コマンドの項目の最大数	
(Oracle).....	1,000
(NEC RDB サーバ ACOS).....	255
(NEC RDB サーバ ACOS 以外).....	127
(富士通 Symfoware).....	1,000
(IBM DB2).....	1,000
(ODBC).....	最大 1,000 (DB に依存)
1項目についての条件の最大数.....	8

コマンド名の最大長(半角/全角混在可能)半角 64 文字
..... 全角 32 文字
1 ファイルに登録できるコマンドの最大数.....100
ユーザー入力の SQL 文の最大行.....200
一覧画面、レコード画面に表示できる件数 999,999
挿入画面から一度に挿入できる件数 999,999

SkyLink で扱うことができる SQL 文

SELECT 文 (UNION含む)、INSERT 文、DELETE 文、
UPDATE 文

自動生成する SQL 文に使用されるキーワード

SELECT 文 :

FROM 句
WHERE 句
GROUP BY 句
HAVING 句
ORDER BY 句

検索条件 :

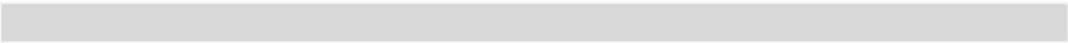
DISTINCT, AND, OR, NOT
(,), =, <>, <, >, <=, >=, +, -, *, /
LIKE, NOT LIKE, NULL, NOT NULL, IN,
NOT IN, ALL, SOME

列関数 :

AVG, MAX, MIN, SUM, COUNT

📖 参考

制限事項については、Readme ファイルをご覧ください。





2. SkyLinkのインストール

SkyLink のインストール方法を説明します。
初めてインストールする場合にお読みください。

2.1

本パッケージの内容

本製品のパッケージには、以下のものが同梱されています。

- | | |
|---------------------------|------|
| (1) SkyLink セットアップ CD-ROM | …2 枚 |
| 検索用 | 1 枚 |
| 検索／更新用 | 1 枚 |
| (2) インストールガイド | …1 枚 |
| (3) プロダクトキー記載カード | …1 枚 |
| (4) お客様カード | …1 枚 |
| (5) プログラム使用権許諾書 | …1 枚 |

インストールされる各プログラムについてご説明します。

SkyLink (検索用/検索更新用)

データベースの検索、更新を行うための基本的なアプリケーションです。

ユーザーのパソコンにインストールして使用し、データベースへの接続はクライアントパソコンから行います。また、SkyLink Playerや for Webで利用する検索条件や集計条件を保存するコマンドやコマンドを組み合わせたマクロの作成もこのアプリケーションで行います。

更に、Webサービス接続を利用することで、社外からもデータベース検索を行うことができ、その際は、データベースミドルウェアのインストールは必要ありません。

SkyLink Online

SkyLinkの機能をInternet Explorerのアドオン機能を使用してブラウザ上で実行するためのツールで、URLにアクセスするだけで、自動的にインストールが開始されます。

SkyLink for Desktopとほぼ同様の機能を持ち、SkyLink for Desktopで作成したコマンドファイル、マクロファイルをそのまま活用できます。

Webサービス接続機能を併用すれば、データベースミドルウェアのインストール管理という手間も無くなります。

SkyLink Player

定型業務を円滑に行うために、SkyLink for Desktopで作成したコマンド/マクロの実行に特化したアプリケーションです。情報システム部門がコマンドを作成、現場担当者がSkyLink Playerで処理を実行するといった使い方が安全かつ便利です。操作メニューもHTML形式で作成可能。また検索結果を複数同時に表示させることも可能です。

SkyKicker

SkyKickerは、プログラム自動インストール/更新機能付きのSkyLink起動プログラムです。現在も同様の機能を持つSkyLink Onlineがありますが、Internet ExplorerのActiveX技術廃止方向を踏まえ、Onlineに代わる新しいプログラムとしての位置づけとなります。

SkyKickerを起動する事で、SkyLink本体プログラムの自動インストール/更新が行われ、いつでも最新のプログラムが実行されます。

又定義ファイルを変更することで、コマンド/マクロファイルの配布や、SkyLink Playerなどのプログラムを配布する事も可能です。

SkyWeb ジェネレータ

for Desktopで作成したコマンドファイルを基にデータベースアクセスアプリを自動生成できます。

スマートフォンに最適化されたアプリも生成可能です。

管理者のみが必要とします。

SkyLink ユーザーマネージャ

データベースに接続するためのログインIDを、データベースとは別に管理可能とし、そのID毎に使用できる表や列を細かく指定が可能です。

また、その際の表の名前や列の名前を別の名前に変更が出来、データベースアクセスログ出力機能も指定できます。

管理者のみが必要とします。

ユーザーマネージャ適用ツール

上記ユーザーマネージャの設定を、サーバ上に設定するツールです。管理者のみが必要とします。

Excelアドイン

指定したフォルダにあるSkyLinkのコマンド/マクロファイルを、Microsoft Excelのリボンバー上に一覧表示するアドインソフトです。Excelからワンクリックで該当のコマンド/マクロファイルを開き、デ

データベース検索を行う事が出来ます。

2.2

SkyLinkのインストール

SkyLink をインストールする手順を説明します。

2.2.1 SkyLink（検索用）のインストール

SkyLink をインストールする手順を説明します。インストール先やドライブ名が異なる場合は、置き換えてお読みください。

（使用環境については SkyLink の使用環境を参照してください：

☞ 1.2 SkyLink の使用環境）

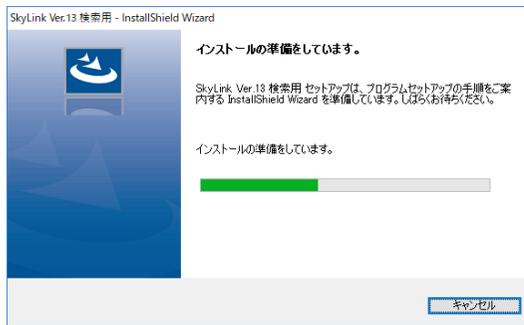
1 検索用 SkyLink の CD-ROM を挿入します。

CD-ROM が「自動再生」に設定されている場合は、自動的にインストールが開始されます。

「自動再生」に設定されていない場合は、パソコンからエクスプローラでドライブを選択して中身を表示して [setup.exe] をクリックして実行するか [ファイル名を指定して実行 (R)] を選択し、「CD-ROM ドライブ名：¥Setup.exe」と入力し [OK] ボタンをクリックします。

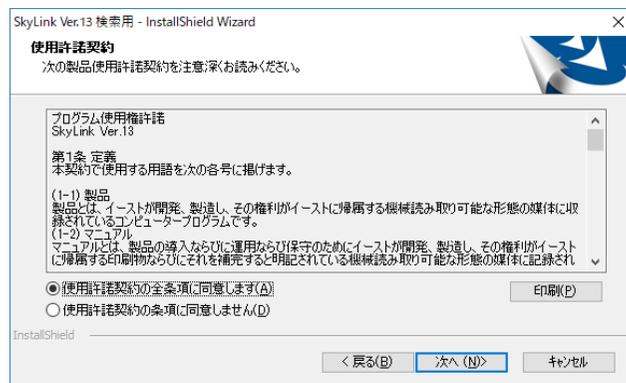
サーバに保存したユーザー定義ファイルを適用してユーザー管理やログの管理を行うための各クライアントへのインストール方法は、2.2.6「ユーザー定義ファイルの適用とログ出力を設定する場合のインストール」を使用してインストールを行ってください。

2 [InstallShield ウィザード] ダイアログが表示されます。

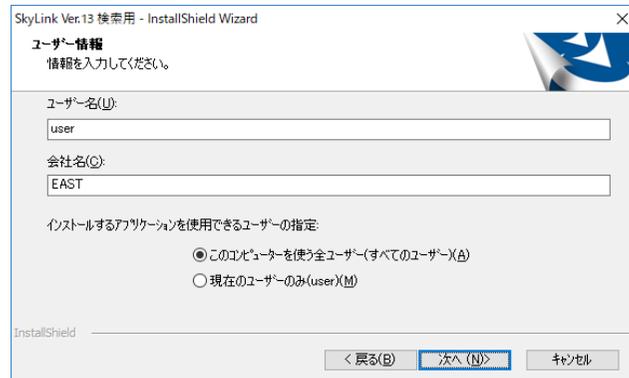


セットアップの準備が行われます。

- 3 [使用許諾契約] に同意して [次へ (N)] ボタンをクリックします。



- 4 [ユーザー情報] を入力し [次へ (N)] ボタンをクリックします。



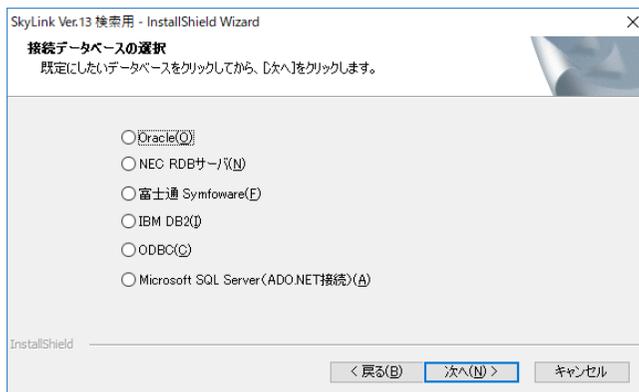
- 5 プロダクトキーを入力します。

「プロダクトキー記載カード」に記載されたインストールに必要な「プロダクトキー」を入力します。



6 既定にするデータベースを選択して、[次へ (N)] ボタンをクリックします。

既定にするデータベースを6つのラジオボタンから1つ選択します。



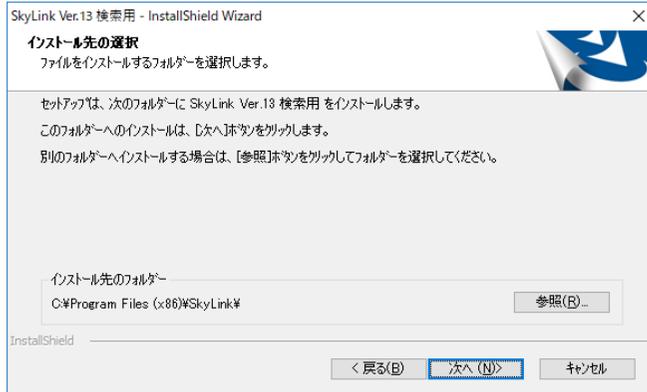
7 セットアップタイプを選択して、[次へ (N)] ボタンをクリックします。



セットアップタイプによりインストールされる内容は以下となります。

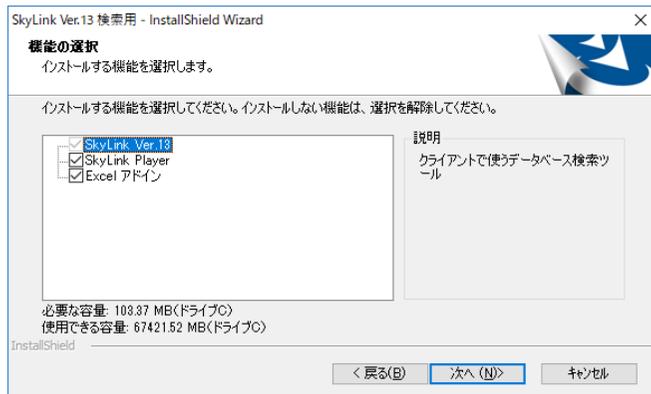
- ・標準 (C) : SkyLink Ver.13 検索用のみ
- ・カスタム (S) : インストールするプログラムの機能を選択できます。

8 インストールするフォルダを確認の上、[次へ (N)] ボタンをクリックします。



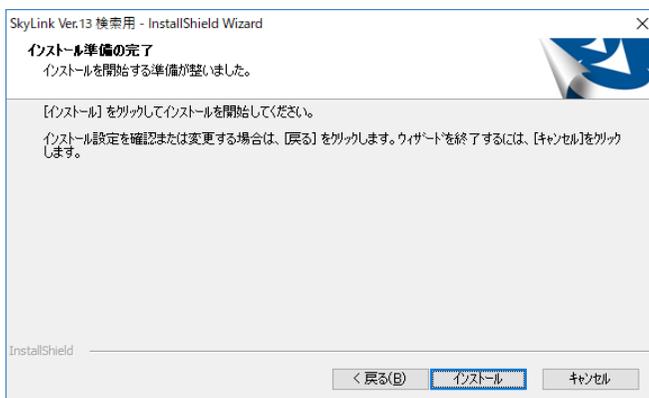
表示されているフォルダ以外にインストールする場合は、[参照 (R)] ボタンをクリックして、インストール先を指定します。

9 セットアップタイプで [カスタム (S)] を選択した場合、インストールするコンポーネントを選択します。

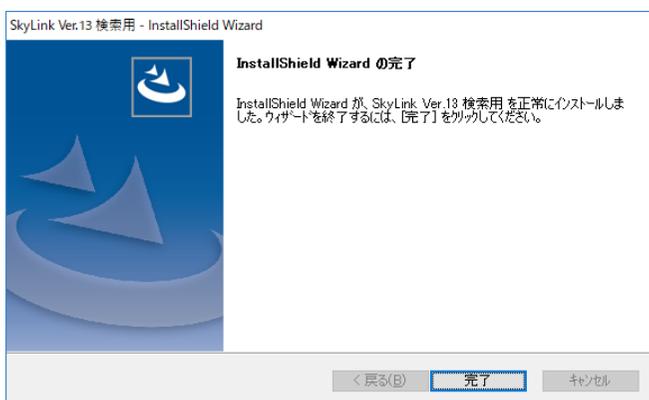


10 [インストール] ボタンをクリックして、インストールを実行します。

インストールが完了すると、「InstallShield Wizard の完了」と表示されます。



11 「完了」ボタンをクリックして、インストールを終了します。



お使いの環境によっては、SkyLink のインストール後、マシンの再起動が必要となりますので、画面の指示に従います。

2.2.2 SkyLink（検索/更新用）のインストール

- 1 検索/更新用 SkyLink の CD-ROM を挿入します。
CD-ROM が「自動再生」に設定されている場合は、自動的にインストールが開始されます。
「自動再生」に設定されていない場合は、パソコンからエクスプローラでドライブを選択して中身を表示して [setup.exe] をクリックして実行するか [ファイル名を指定して実行 (R)] を選択し、「CD-ROM ドライブ名：¥Setup.exe」と入力し [OK] ボタンをクリックします。

サーバに保存したユーザー定義ファイルを適用してユーザー管理やログの管理を行うための各クライアントへのインストール

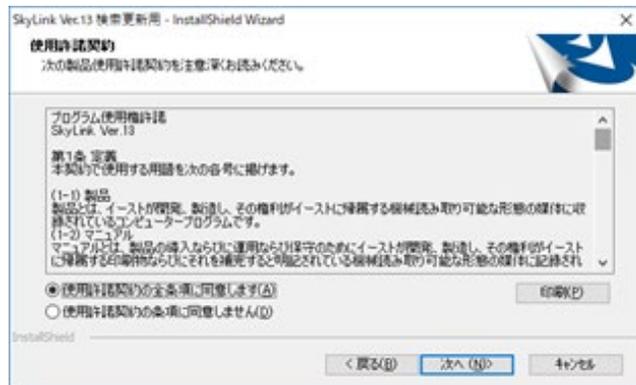
方法は、2.2.6「ユーザー定義ファイルの適用とログ出力を設定する場合のインストール」を使用してインストールを行ってください。

2 [InstallShield ウィザード] ダイアログが表示されます。

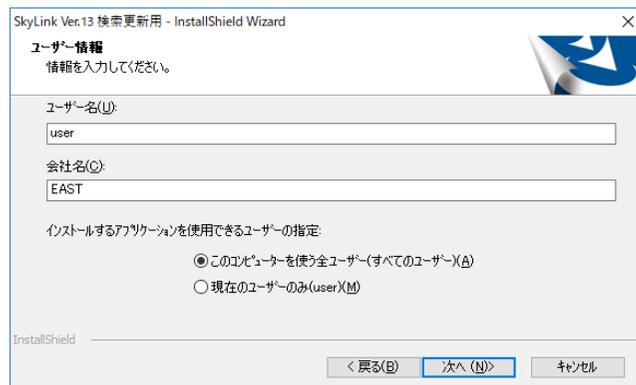
セットアップの準備が行われます。



3 [使用許諾契約] に同意して [次へ (N)] ボタンをクリックします。



4 [ユーザー情報] を入力し [次へ (N)] ボタンをクリックします。



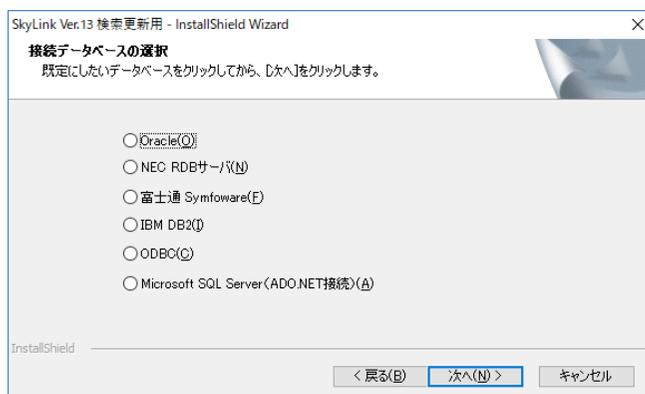
5 プロダクトキーを入力します。

「プロダクトキー記載カード」に記載されたインストールに必要な「プロダクトキー」を入力します。



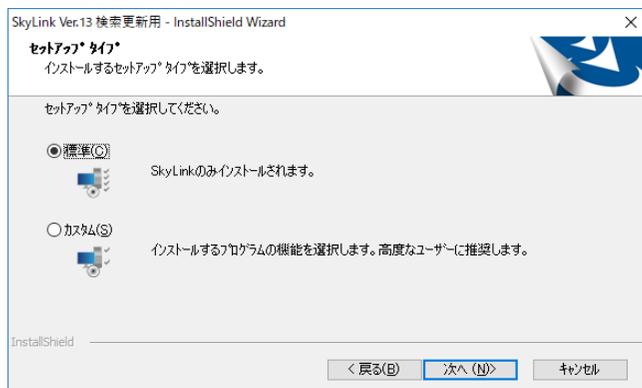
6 既定にするデータベースを選択して、[次へ (N)] ボタンをクリックします。

既定にするデータベースを6つのラジオボタンから1つ選択します。



7 セットアップタイプを選択して、[次へ (N)] ボタンをクリックします。

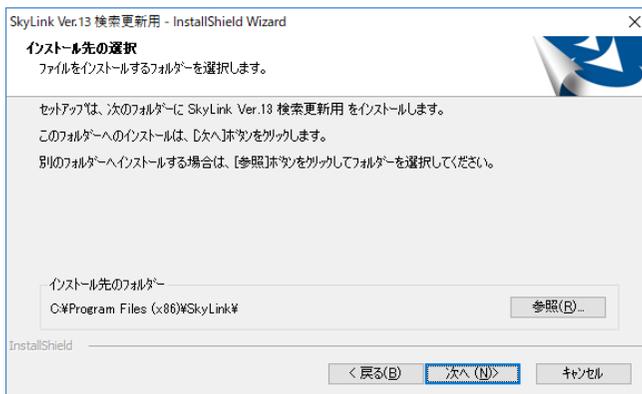
セットアップタイプによりインストールされる内容は以下となります。



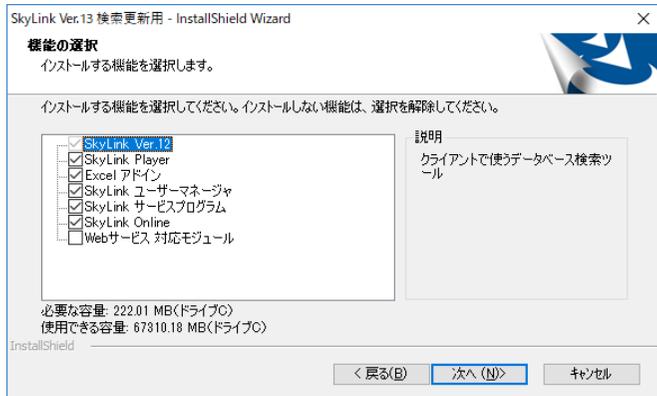
- 標準 (C) : SkyLink Ver.13 検索・更新用のみ
- カスタム (S) : インストールするプログラムの機能を選択できます。

8 インストールするフォルダを確認の上、[次へ (N)] ボタンをクリックします。

表示されているフォルダ以外にインストールする場合は、[参照 (R)] ボタンをクリックして、インストール先を指定します。



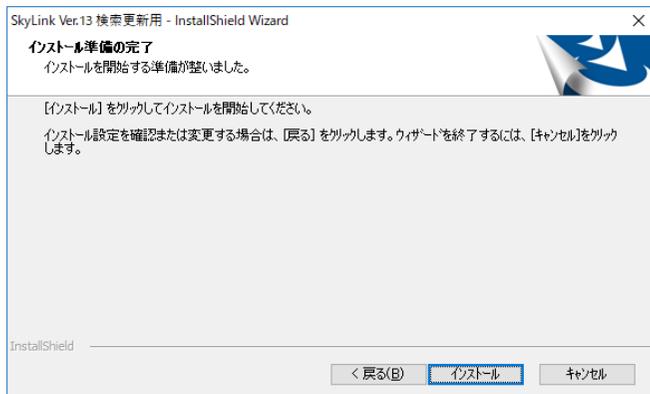
9 セットアップタイプで [カスタム (S)] を選択した場合、インストールするコンポーネントを選択します。



SkyLink Ver.13 は必ずインストールされチェックを外すことはできません。

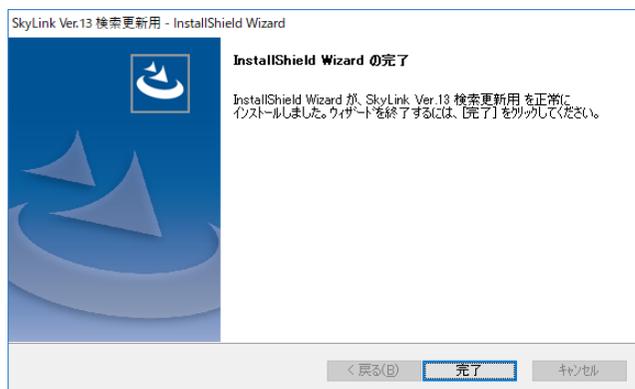
10 [インストール] ボタンを

クリックして、インストールを実行します。



インストールが完了すると、「InstallShield Wizard の完了」と表示されます。

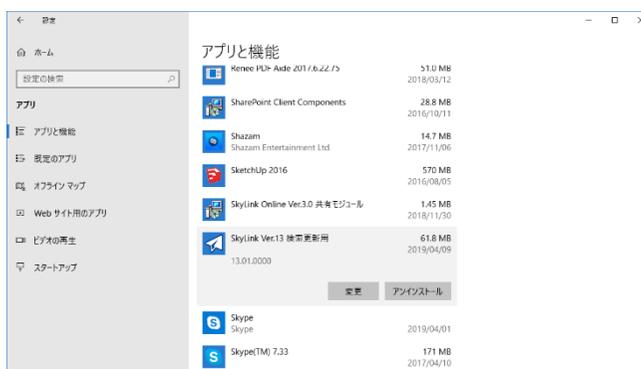
11 [完了] ボタンをクリックして、インストールを終了します。



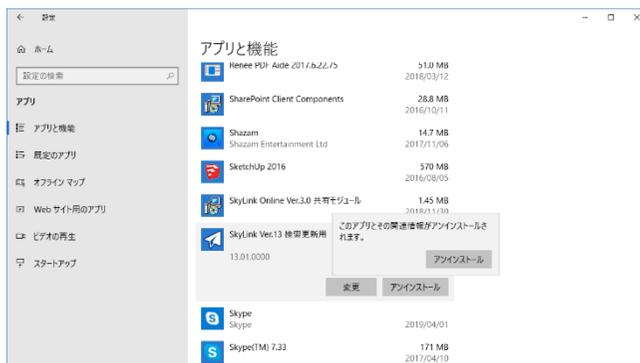
お使いの環境によっては、SkyLink のインストール後、マシンの再起動が必要となりますので、画面の指示に従います。

2.2.3 SkyLinkの追加とアンインストール

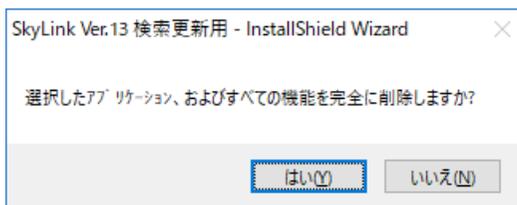
- 1 Windows ボタンから[設定]を選択して[設定]ウィンドウを開きます。
- 2 [システム]項目を選択して[アプリと機能]メニュー項目を選択します。
- 3 表示されたアプリケーション一覧から [SkyLink Ver.13] を選択します。



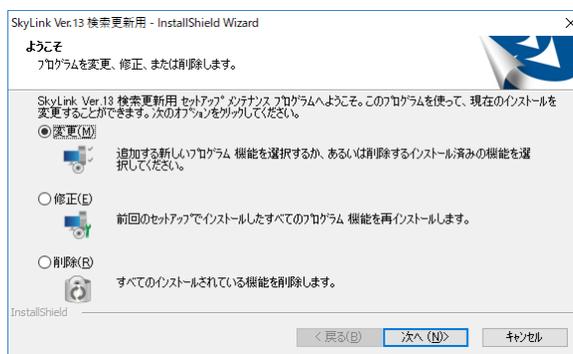
- 4 表示された [アンインストール] ボタンをクリックします。



- 5 [アンインストール] を選択すると、以下のメッセージが表示され、[はい] でアンインストールされます。

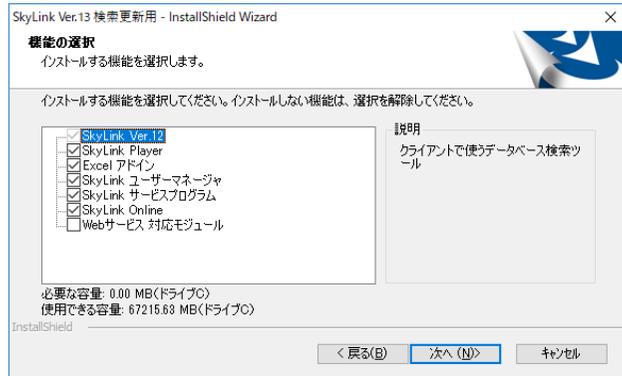


- 6 [変更] を選択すると、[変更 (M)]、[修正 (E)]、[削除 (R)] のいずれかを選択し、[次へ (N)] ボタンをクリックします。



[変更 (M)]

手順 6 で [変更 (M)] を選択した場合は、追加する新しい機能を選択するか、あるいは削除するインストール済みの機能を選択します。



7 追加、または削除するコンポーネントを選択して、[次へ (N)] ボタンをクリックするとインストールが開始されます。

8 [完了] ボタンをクリックします。



[修正 (E)]

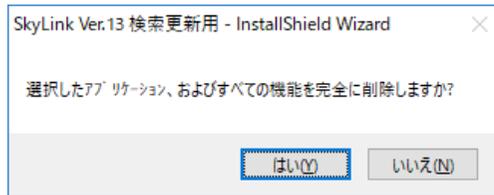
手順 6 で [修正 (E)] を選択した場合は、前回のセットアップでインストールしたすべてのプログラム機能を再インストールします。

9 [次へ (N)] ボタンをクリックして、プログラムの修復を実行します。

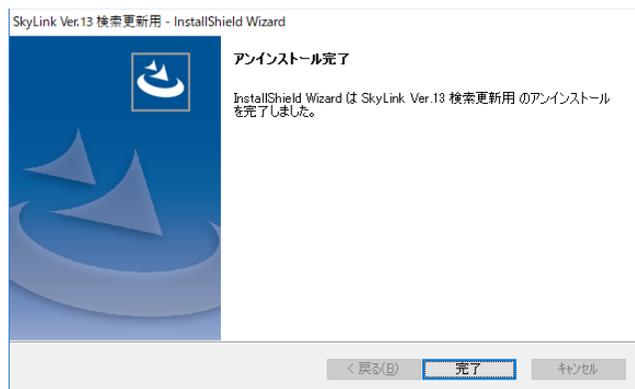
[削除 (R)]

手順 6 で [削除 (R)] を選択した場合は、すべてのインストールされている機能を削除します。

- 10 選択したアプリケーション、およびすべての機能を完全に削除しますか？とウィザードで表示されるので [はい (Y)] ボタンをクリックします。

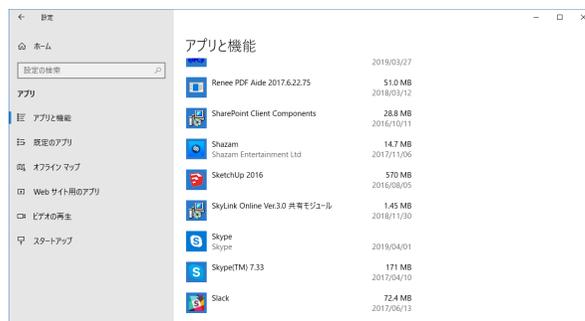


- 11 [完了] ボタンをクリックします。



アンインストールが完了すると、[プログラムと機能] ダイアログが表示されます。

- 12 SkyLink が削除されていることを確認します。



[プログラムと機能] ダイアログの一覧から、SkyLink が削除されていることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。

2.2.4

SkyLinkユーザーマネージャのインストール

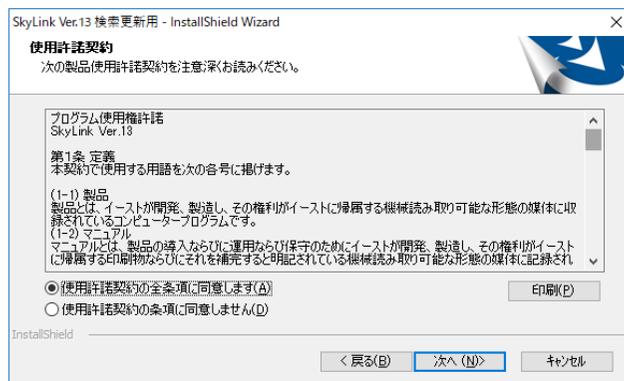
SkyLink ユーザーマネージャをインストールする手順を説明します。

- 1 検索／更新用 SkyLink の CD-ROM 内の Setup.exe を実行します。
- 2 [InstallShield ウィザード] ダイアログが表示されます。

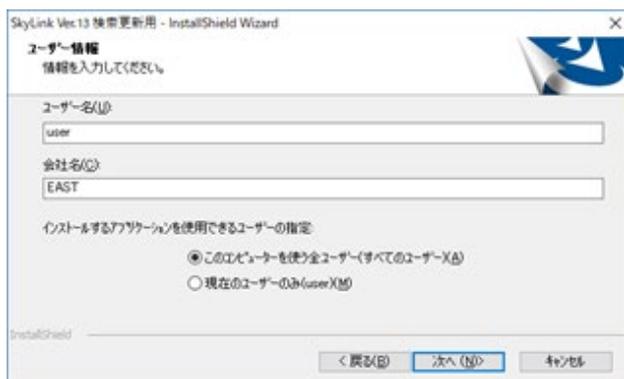


セットアップの準備が行われます。

- 3 [使用許諾契約] に同意して [次へ (N)] ボタンをクリックします。



4 [ユーザー情報] を入力し [次へ (N)] ボタンをクリックします。



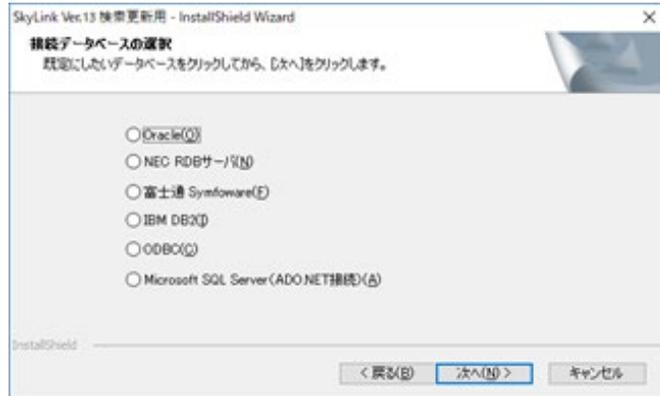
5 プロダクトキーを入力します。

「プロダクトキー記載カード」に記載されたインストールに必要な「プロダクトキー」を入力します。

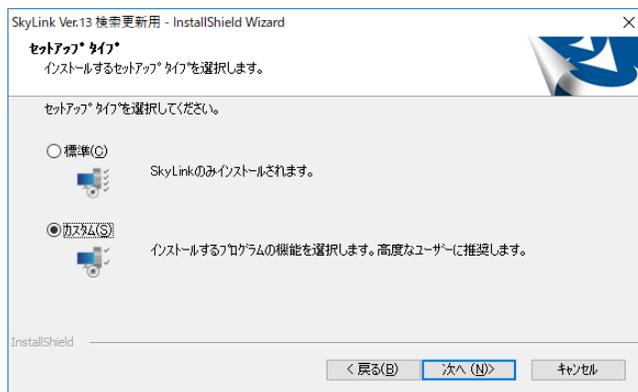


6 既定にするデータベースを選択して、[次へ (N)] ボタンをクリックします。

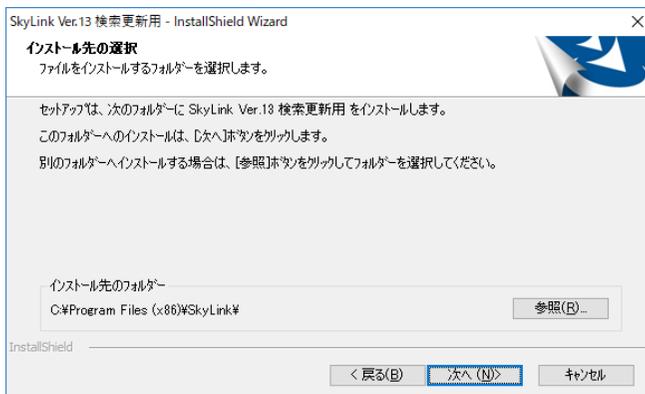
既定にするデータベースを6つのラジオボタンから1つ選択します。



7 セットアップタイプの選択で「カスタム (S)」を選択して [次へ (N)] ボタンをクリックします。

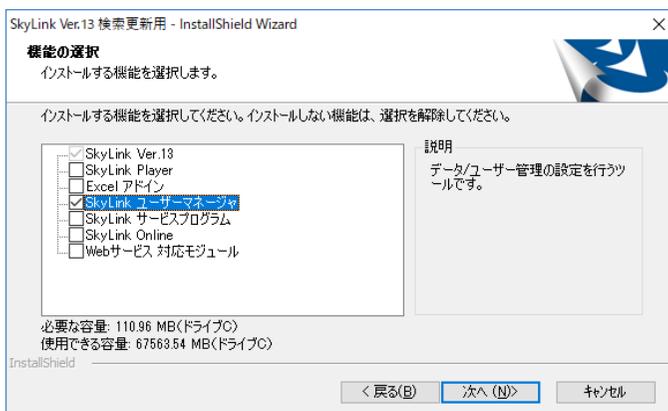


8 インストールするフォルダを確認の上、[次へ (N)] ボタンをクリックします。



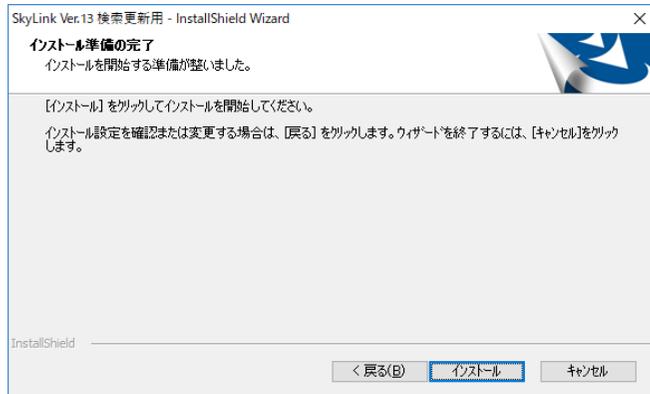
表示されているフォルダ以外にインストールする場合は、[参照 (R)] ボタンをクリックして、インストール先を指定します。

- 9 機能の選択画面が出ますので [SkyLink ユーザーマネージャ] を選択して [次へ (N)] をクリックします。



SkyLink Ver.13 は必ずインストールされチェックを外すことはできません。

- 10 [インストール] ボタンをクリックして、インストールを実行します。



インストールが完了すると、「InstallShield Wizard の完了」と表示されます。

- 11 [完了] ボタンをクリックして、インストールを終了します。



お使いの環境によっては、SkyLink のインストール後、マシンの再起動が必要となりますので、画面の指示に従います。

アンインストール手順は、「2.2.3 SkyLink の追加とアンインストール」をご参照ください。

また、他の機能がインストールされていて削除したくない場合は [変更 (M)] を選択し、[次へ (N) >] ボタンをクリックして表示される [機能の選択] 画面で、SkyLink ユーザーマネージャのチェックを外します。

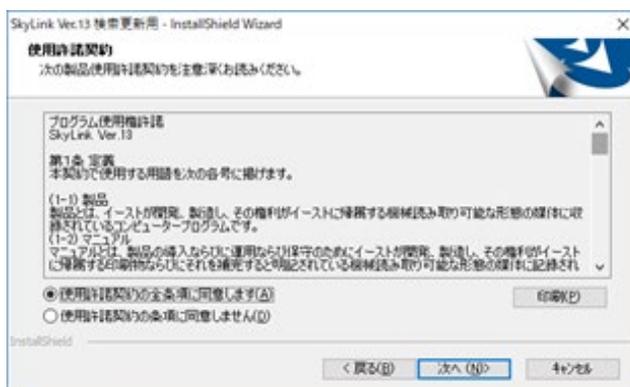
2.2.5 サービス定義プログラムのインストール

ログの管理とサーバ単位に SkyLink ユーザーマネージャで作成したユーザー定義ファイルを適用するサービス定義プログラムをインストールする手順を説明します。

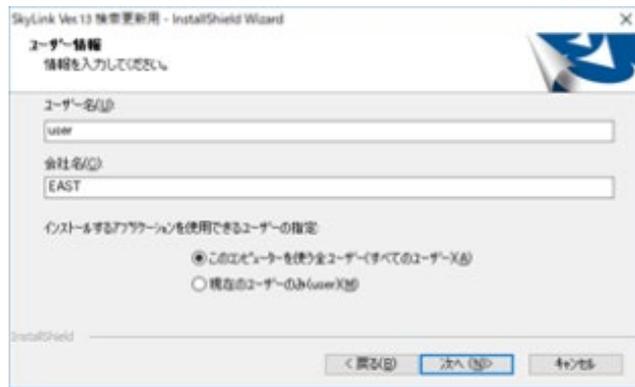
- 1 検索／更新用 SkyLink の CD-ROM 内の Setup.exe を実行します。
- 2 [InstallShield ウィザード] ダイアログが表示されます。セットアップの準備が行われます。



- 3 [使用許諾契約] に同意して [次へ (N)] ボタンをクリックします。



- 4 [ユーザー情報] を入力し [次へ (N)] ボタンをクリックします。



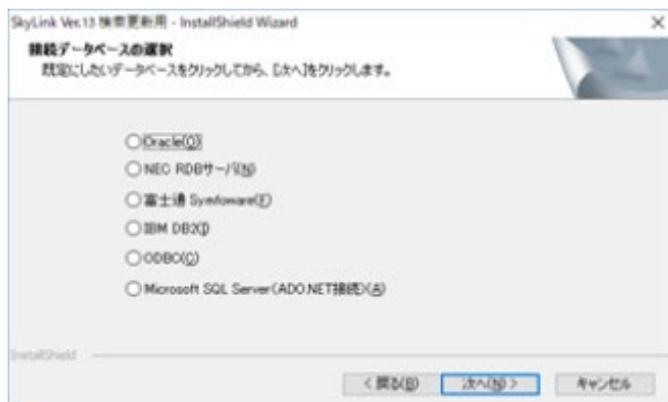
5 プロダクトキーを入力します。

「プロダクトキー記載カード」に記載されたインストールに必要な「プロダクトキー」を入力します。



6 既定にするデータベースを選択して、[次へ (N)] ボタンをクリックします。

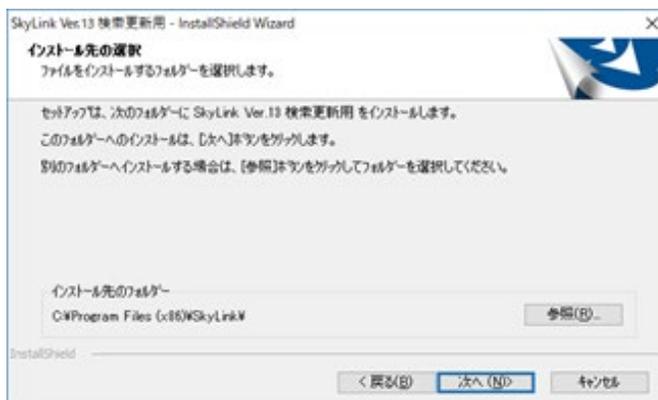
既定にするデータベースを 6 つのラジオボタンから 1 つ選択します。



- 7 セットアップタイプの選択で「カスタム (S)」を選択して [次へ (N)] ボタンをクリックします。

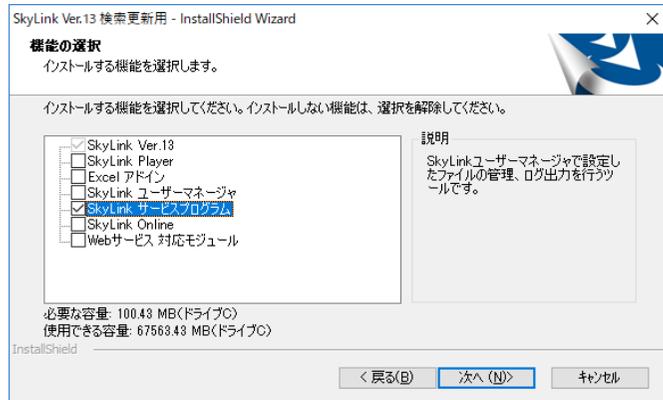


- 8 インストールするフォルダを確認の上、[次へ (N)] ボタンをクリックします。



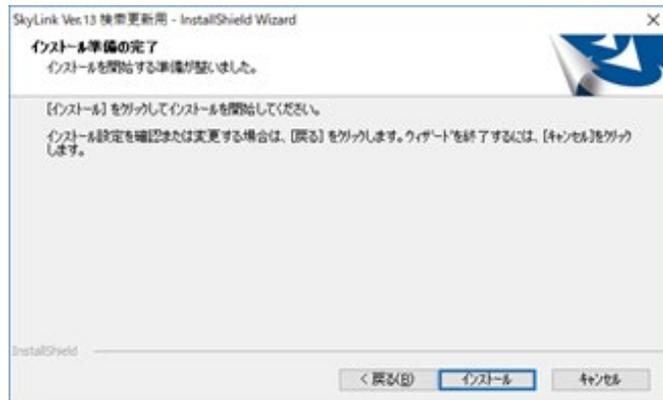
表示されているフォルダ以外にインストールする場合は、[参照 (R)] ボタンをクリックして、インストール先を指定します。

- 9 機能の選択画面が出ますので [SkyLink サービスプログラム] を選択して [次へ (N)] をクリックします。



SkyLink Ver.13 は必ずインストールされチェックを外すことはできません。

- 10 [インストール] ボタンをクリックして、インストールを実行します。



インストールを中止する場合は、[キャンセル] ボタンをクリックします。

- 11 [完了] ボタンをクリックします。



アンインストール手順は、2.2.3 SkyLink の追加とアンインストールをご参照ください。

また、他の機能がインストールされていて削除したくない場合は [変更 (M)] を選択し、[次へ (N)] ボタンをクリックして表示される [機能の選択] 画面で、サービスプログラムのチェックを外します。

2.2.6 ユーザー定義ファイルの適用とログ出力を設定する場合のSkyLinkのインストール

各クライアントでユーザー定義ファイルを使用した状態でデータベースに接続させ、ログの出力をする場合の、クライアントインストール用セットアップを作成する方法を説明します。

インストールを行う前に、後述の ini ファイルを作成してください。

1 userman.ini という名称の ini ファイルを作成します。

userman.ini ファイルは以下のように記述します。

```
[Server]
ManagingServer=XXXXXX
LogServer=XXXXXX
UserManFile=XXXX
[Install]
DBKind=?
TargetPath=XXXXXX
```

ManagingServer の値にはユーザー定義ファイル管理サーバを指定します (¥¥ は付加しないでください)。

LogServer の値にはログサーバ名を指定します (¥¥ は付加しないでください)。ユーザー定義ファイル管理サーバでログを管理する場合は、指定する必要がありません。

UserManFile の値にはユーザー定義ファイルを指定します。

UserManFile は過去の互換性のためと、複数のユーザー定義ファイルを利用する場合に指定します。通常は ManagingServer の値のみ指定してください。

DBKind の値には接続先データベースの規定値を設定します。設定する数値は以下の通りです。

1=Oracle 2=NEC 3= 富士通 4=IBM DB2 5=ODBC

この記述があると規定のデータベースを選択する画面はスキ

ップします。

TargetPath の値にはインストール先を指定します。インストール先選択画面はスキップしませんが、初期値が設定されます。

例：C:\Program Files\SkyLink

- 2 検索／更新用 SkyLink の CD-ROM のルートフォルダをサーバの共有フォルダにコピーします。
- 3 コピーしたサーバの共有フォルダに上記 1 で作成した userman.ini ファイルをコピーします。
- 4 各クライアントマシンからコピーしたサーバの共有フォルダにアクセスして、Setup.exe を実行します。
各クライアントユーザは、ここから SkyLink のインストールを行うことになります。
- 5 ウィザードの指示に従ってインストールを行い、[完了] ボタンをクリックしてインストールを終了します。

2.2.7 SkyLink Onlineのインストール

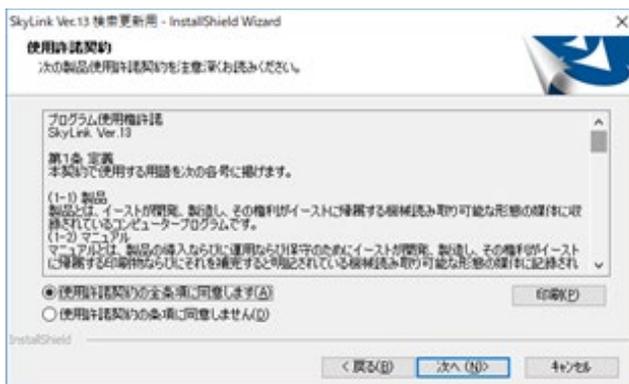
SkyLink Online をインストールする手順を説明します。

- 1 検索／更新用 SkyLink の CD-ROM 内の Setup.exe を実行します。
- 2 [InstallShield ウィザード] ダイアログが表示されます。

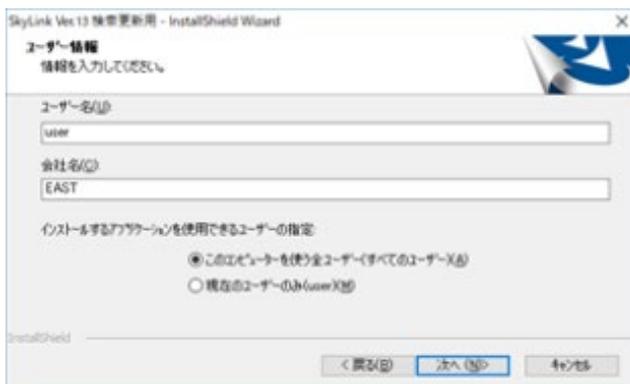


セットアップの準備が行われます。

- 3 [使用許諾契約] に同意して [次へ (N)] ボタンをクリックします。



- 4 [ユーザー情報] を入力し [次へ (N)] ボタンをクリックします。



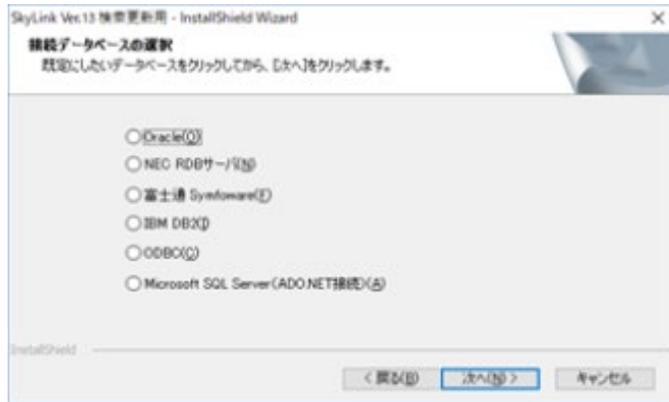
- 5 プロダクトキーを入力します。



「プロダクトキー記載カード」に記載されたインストールに必要な

な「プロダクトキー」を入力します。

- 6 既定にするデータベースを選択して、[次へ (N)] ボタンをクリックします。

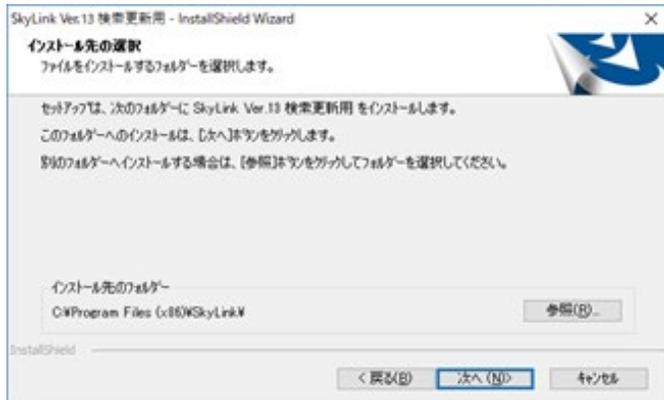


既定にするデータベースを 6 つのラジオボタンから 1 つ選択します。

- 7 セットアップタイプの選択で「カスタム (S)」を選択して [次へ (N)] ボタンをクリックします。

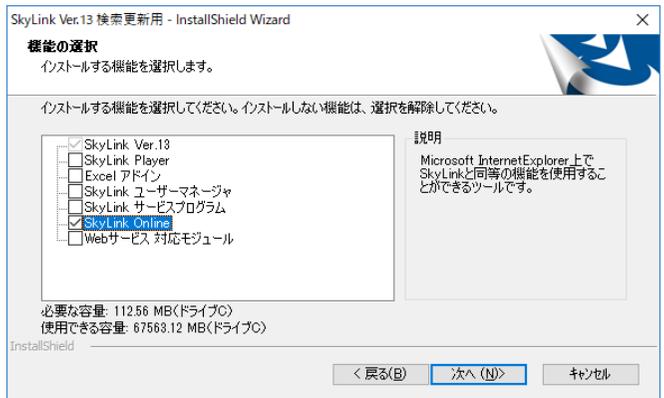


- 8 インストールするフォルダを確認の上、[次へ (N)] ボタンをクリックします。



表示されているフォルダ以外にインストールする場合は、[参照 (R)] ボタンをクリックして、インストール先を指定します。

- 9 機能の選択画面が出ますので [SkyLink Online] を選択して [次へ (N)>] をクリックします。



- 10 [インストール] ボタンをクリックして、インストールを実行します。



インストールを中止する場合は、[キャンセル] ボタンをクリック

します。

11 [完了] ボタンをクリックします。



12 インストールしたフォルダの中身を、公開する場所にすべてコピーします。

公開する場所はファイルサーバ上、または Web サーバ上となります。ファイルサーバの場合は、他のクライアントマシンから参照できるように共有の設定をしておく必要があります (☞ 8.3.2 SkyLink Online の設定)。

13 Online フォルダ以下の inc フォルダ内にある sky_param.vbs ファイルをメモ帳で開きます。

使用するデータベースの種別やコマンドファイルの編集の可否、検索用か検索/更新用の設定をします (☞ 8.3.2 SkyLink Online の設定)。

14 Online フォルダ以下の inc フォルダ内にある sky-linkonline.js ファイルをメモ帳で開きます。

1 行目の CODEBASE キーの内容を公開する場所に合わせて skyonline.cab ファイルの存在する場所に変更します。

[ファイルサーバの場合]

CODEBASE="file:// サーバ名 / 任意のディレクトリ / skyonline.cab# ~"

例) CODEBASE="file://skyweb/online/skyonline.cab# ~"

[Web サーバの場合]

CODEBASE="http:// サーバ名 / 任意のディレクトリ / skyonline.cab# ~"

例) CODEBASE="http://skyweb.est.co.jp/online/skyonline.cab# ~"

2.2.8 SkyWebサービス対応モジュールのインストールとアンインストール

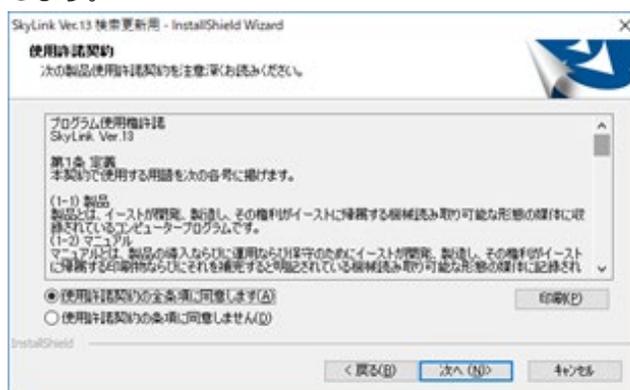
SkyWeb サービス対応モジュールをインストール、アンインストールする手順を説明します。なお、SkyWeb サービス対応モジュールのみの追加と削除はできません。

SkyWeb サービス対応モジュールをインストールするためには、Internet Information Server(IIS) がインストールされている必要があります。

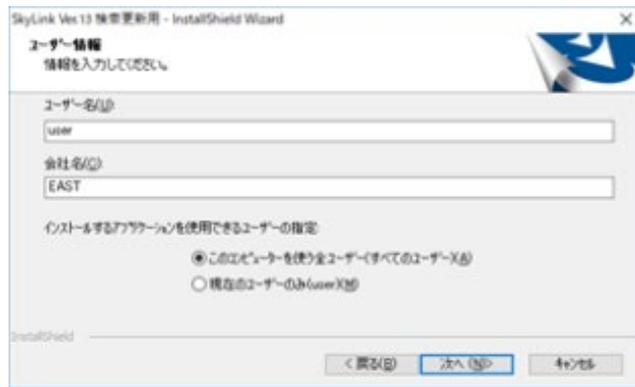
Windows Server 2008 以降の環境にインストールする場合には、IIS に IIS6 互換コンポーネントがインストールされている必要があります。

インストール

- 1 検索／更新用 SkyLink の CD-ROM 内の Setup.exe を実行します。
- 2 [InstallShield ウィザード] ダイアログが表示されます。
セットアップの準備が行われます。
- 3 [使用許諾契約] に同意して [次へ (N)] ボタンをクリックします。



- 4 [ユーザー情報] を入力し [次へ (N)] ボタンをクリックします。

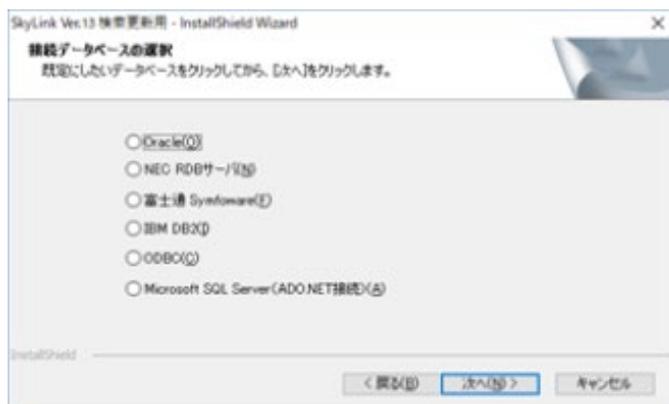


5 プロダクトキーを入力します。



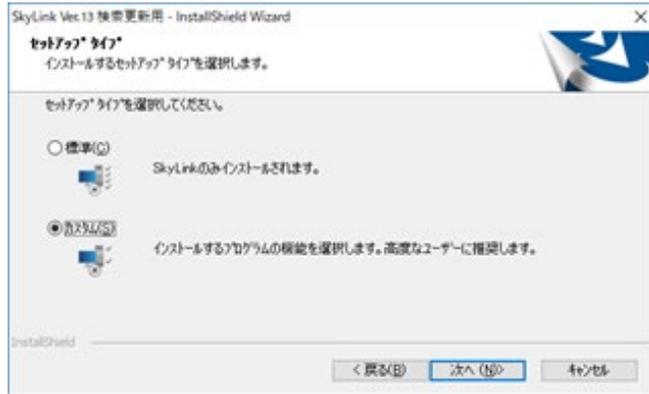
「プロダクトキー記載カード」に記載されたインストールに必要な「プロダクトキー」を入力します。

6 既定にするデータベースを選択して、[次へ (N)] ボタンをクリックします。



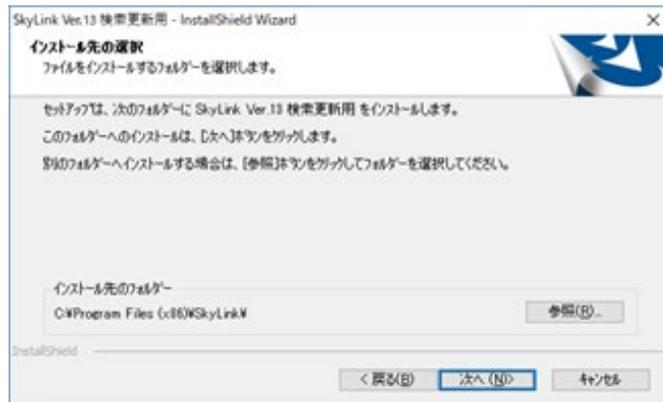
既定にするデータベースを6つのラジオボタンから1つ選択します。

- 7 セットアップタイプの選択で「カスタム (S)」を選択して [次へ (N)] ボタンをクリックします。

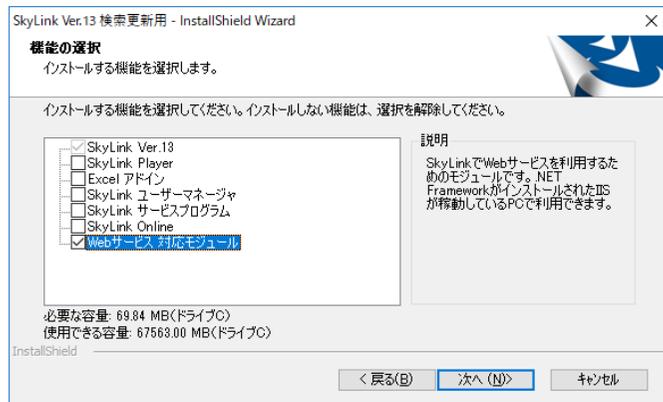


- 8 インストールするフォルダを確認の上、[次へ (N)] ボタンをクリックします。

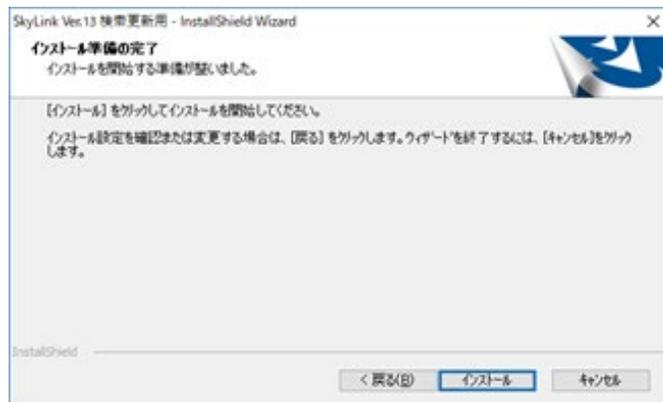
表示されているフォルダ以外にインストールする場合は、[参照 (R)] ボタンをクリックして、インストール先を指定します。



- 9 機能の選択画面が出ますので [Web サービス対応モジュール] を選択して [次へ (N)] をクリックします。



10 [インストール] ボタンをクリックして、インストールを実行します。



インストールを中止する場合は、[キャンセル] ボタンをクリックします。

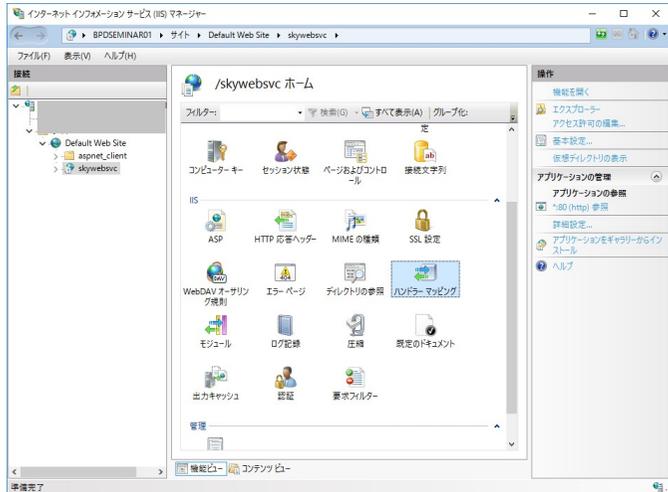
11 [完了] ボタンをクリックします。



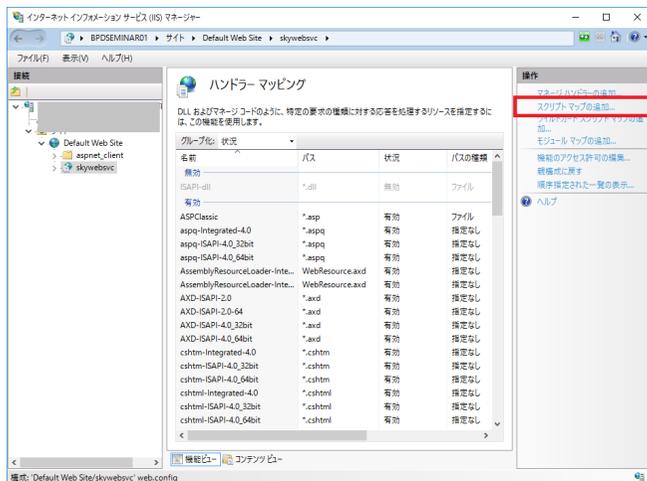
お使いの環境によっては、SkyWeb サービス対応モジュール

のインストール後、マシンの再起動が必要となりますので、画面の指示に従います。

12 IIS 管理マネージャを起動します。

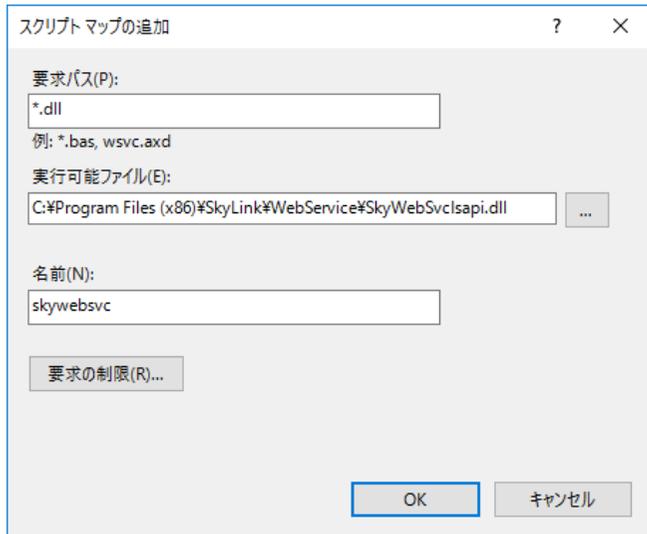


13 機能ビューの [IIS] から [ハンドラーマッピング] を選択します。

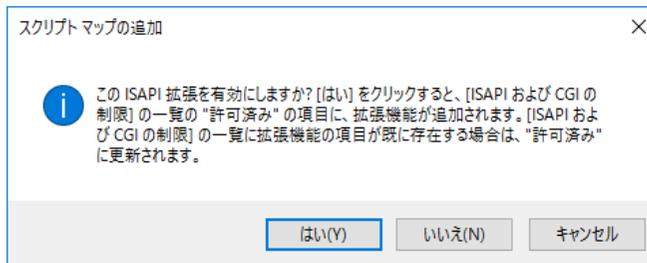


14 [操作] から [スクリプトマップの追加 ...] を選択して

Web サービス対応モジュール (SkyWebSvcIsapi.dll) を追加します。

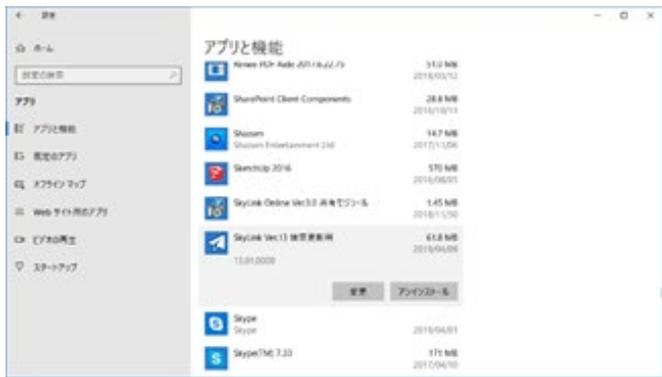


- 15 ISAPI 拡張の有効確認ダイアログが表示されますので[はい (Y)] を選択します。

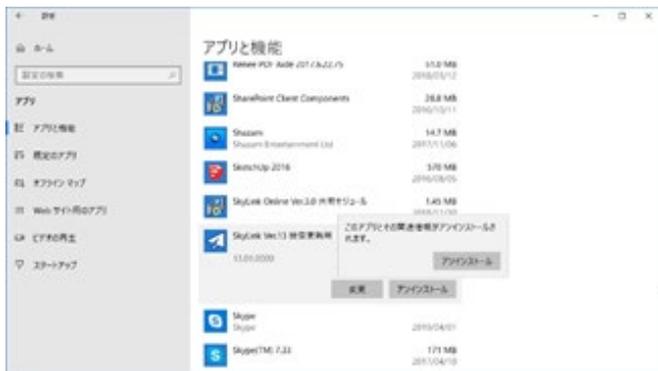


アンインストール

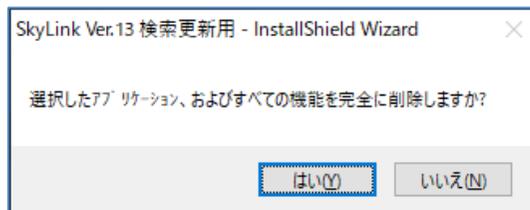
- 1 Windows ボタンから [設定] を選択して [設定] ウィンドウを開きます。
- 2 [システム] 項目を選択して [アプリと機能] メニュー項目を選択します。
- 3 表示されたアプリケーション一覧から [SkyLink Ver.13] を選択します。



- 4 表示された [アンインストール] ボタンをクリックします。



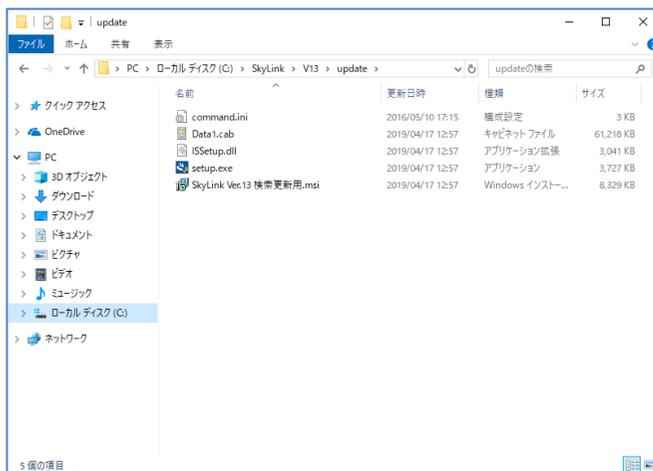
- 5 [アンインストール] を選択すると、以下のメッセージが表示され、[はい (Y)] でアンインストールされます。



2.2.9 Excelアドインのインストール

Excel アドインをインストールすると、Excel のリボンメニューに [SkyLink] タブが追加されます。SkyLink ユーザーのドキュメントフォルダに保存したコマンドファイルがボタンとしてリスト表示されます。

社内で共有したいコマンドがある場合、あらかじめ [command.ini] ファイルを作成しておきます。SkyLink をインストールする前に SkyLink の setup.exe のあるフォルダに [command.ini] ファイルを保存します。その後、SkyLinkのインストールを行うことで共有フォルダ内のコマンドファイルがリストされます。



[command.ini] ファイルは以下のように記述します。

[Command]

CommandFiles= コマンドファイルのあるフォルダ

GroupLabel= リボンに表示する名前

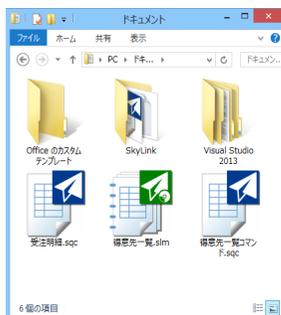
(例)

[Command]

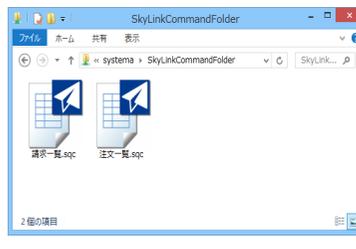
CommandFiles=¥¥Systema¥SkyLinkCommandFolder

GroupLabel= 共有フォルダ

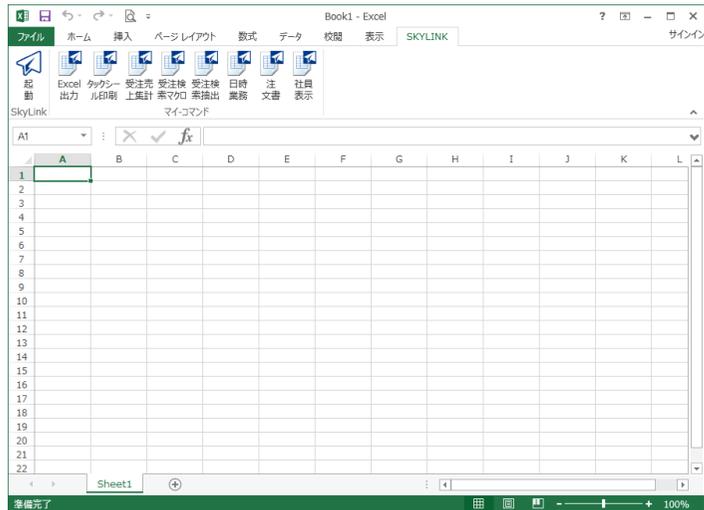
[マイドキュメント]



[共有フォルダ]



[アドイン実行状態]



インストール

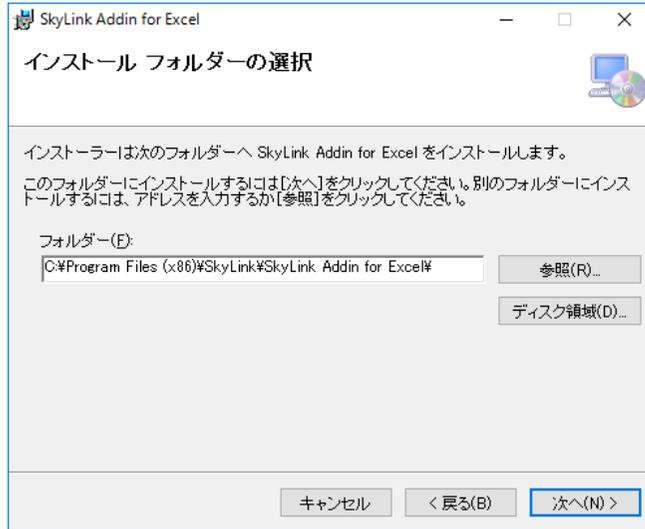
Excel アドインを組み込むためのインストール手順を説明します。
SkyLink をインストールしたインストールフォルダ内に [ExcelAddin]
フォルダが作成されていて、Excel アドインインストール用の [setup.
exe] がインストールされています。

- 1 「setup.exe」を選択して実行します。
- 2 セットアップウィザードが表示されます。

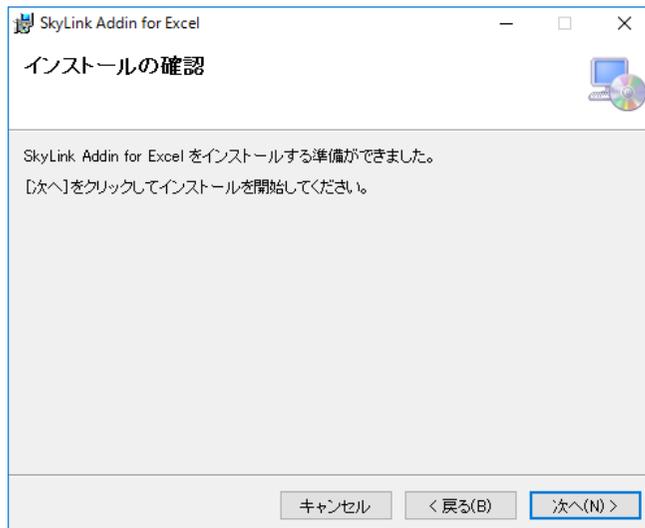


[次へ (N)>] をクリックします。

- 3 インストールフォルダの選択画面が表示されます
アドインプログラムをインストールするフォルダを指定します。デフォルトでは [C:\Program Files\SkyLink\SkyLink Addin for Excel] フォルダとなっています。

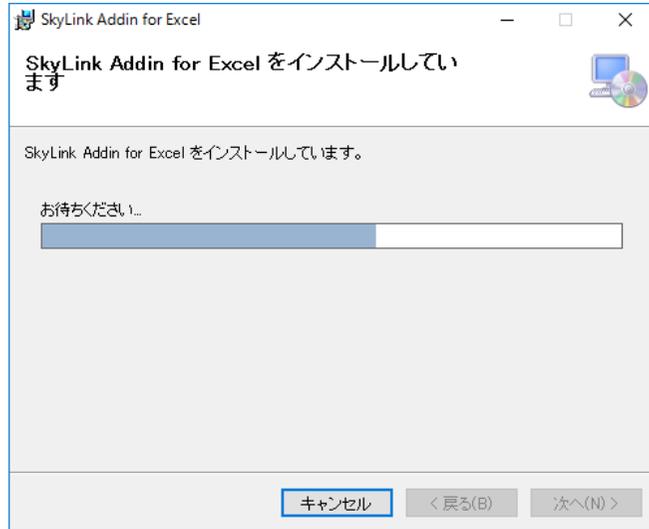


- 4 インストールの確認画面が表示されます。

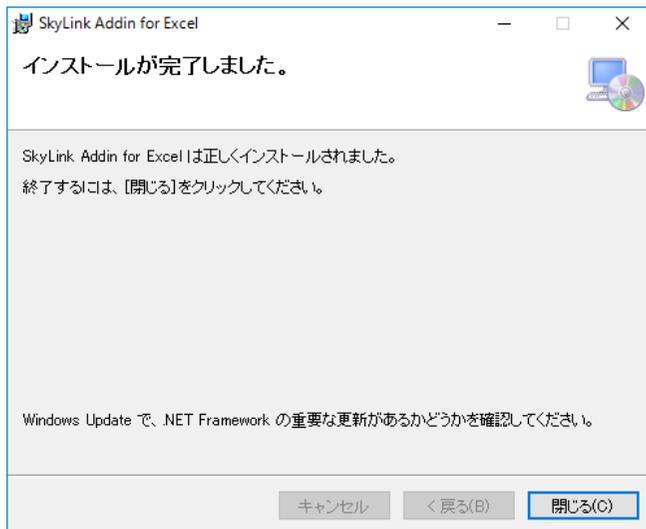


[次へ (N)>] をクリックします。

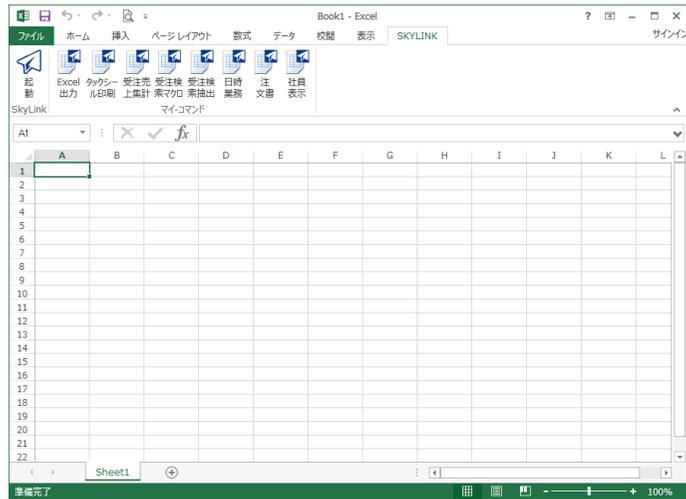
5 インストール中の画面が表示されます。



6 [閉じる (C)] ボタンをクリックして。インストールを終了します。

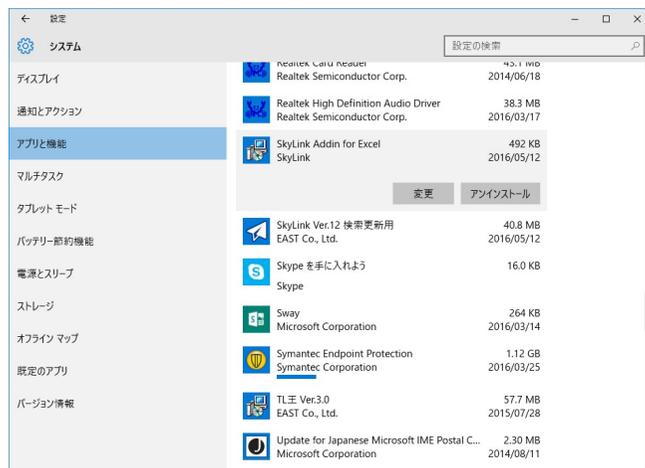


- 7 Excel を起動すると新しいリボンバーとして [SkyLink] が追加されています。

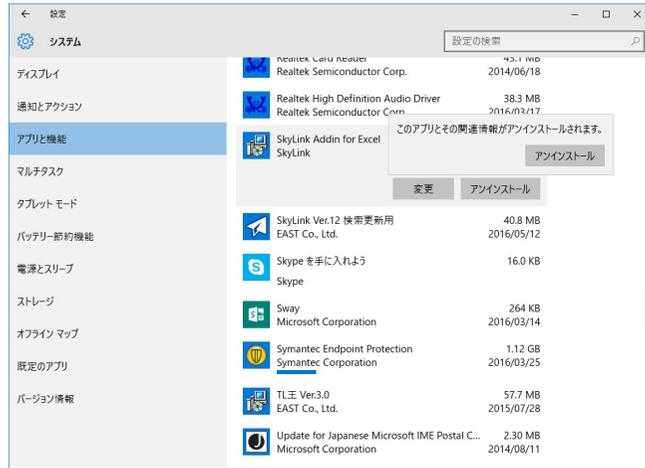


アンインストール

- 1 Windows ボタンから [設定] を選択して [設定] ウィンドウを開きます。
- 2 [システム] 項目を選択して [アプリと機能] メニュー項目を選択します。
- 3 表示されたアプリケーション一覧から [SkyLink Addin for Excel] を選択します。



4 表示された [アンインストール] ボタンをクリックします。



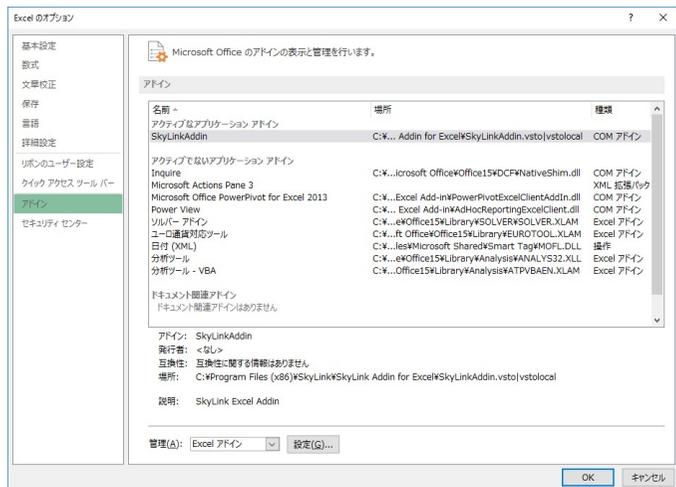
5 [アンインストール] を選択すると、[Excel アドイン] のアンインストールが実行されます。

6 SkyLink Addin for Excel が削除されていることを確認します。

Excel アドインを一時的に使用しない設定

1 Excel のオプションを表示します。

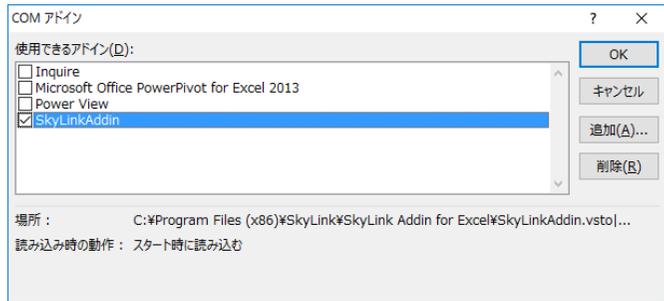
アドインカテゴリを選択します



2 [管理] から [COM アドイン] を選択して [設定] ボタンを

クリックします。

- 3 [COM アドイン] 画面が表示されます。



- 4 表示されたリストから [SkyLinkAddin] を選択して左のチェックボックスのチェックを外します。

2.2.10 SkyKickerを利用したSkyLinkのインストール

SkyKickerを利用したSkyLinkのインストール方法について、ご説明します。SkyKickerを利用する事で、常に最新のプログラムをダウンロードして利用する事が可能となります。

SkyKickerを利用するには、Webサーバが必要となります。

このサイトを、SkyLinkServerというマシンにSkyKickerという名前で作成した前提で、以下をお読みください。

Webサイトの物理パスは、C:\EAST\SkyKicker とします。

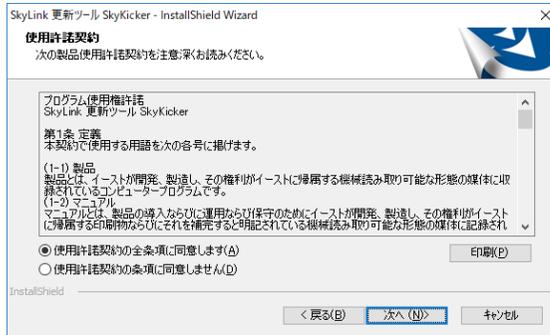
サーバ側インストール

SkyKicker (サーバ側) のインストール手順を説明します。

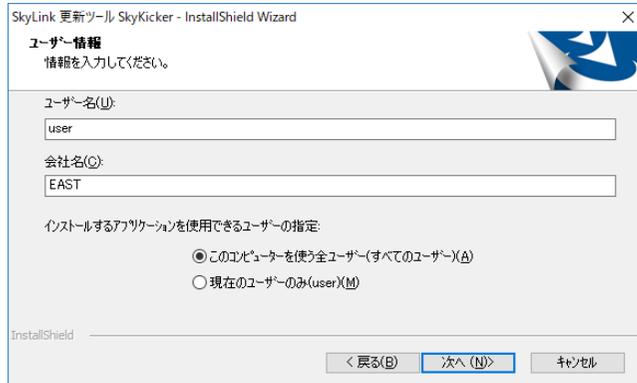
- 1 検索／更新用 SkyLink の CD-ROM 内の SkyKickerフォルダにあるSetup.exe を実行します。
- 2 [InstallShield ウィザード] ダイアログが表示されます。



3 [使用許諾契約] に同意して [次へ (N)] ボタンをクリックします。

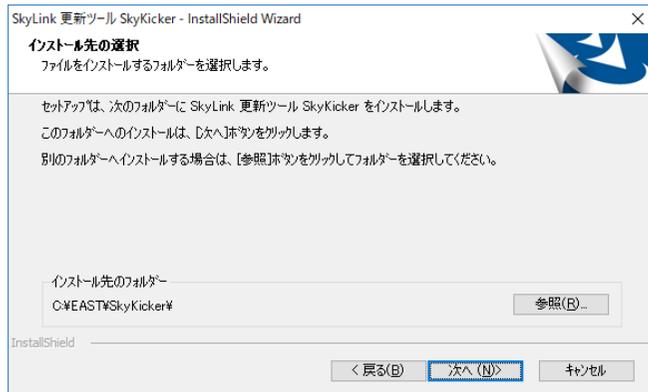


4 [ユーザー情報] を入力し [次へ (N)] ボタンをクリックします。

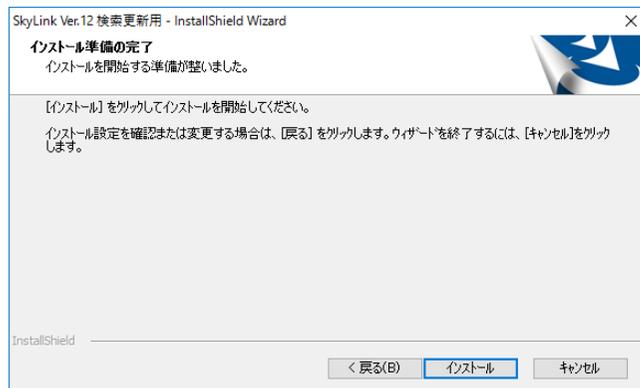


5 インストールするフォルダを確認の上、[次へ (N)] ボタンをクリックします。

表示されているフォルダ以外にインストールする場合は、[参照 (R)] ボタンをクリックして、インストール先を指定します。

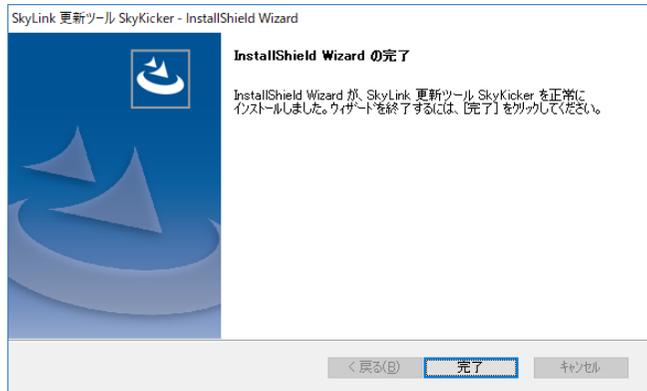


6 [インストール] ボタンをクリックして、インストールを実行します。



インストールを中止する場合は、[キャンセル] ボタンをクリックします。

7 [完了] ボタンをクリックします。



8 定義ファイルの準備を行います。

上記でインストールしたフォルダ (C:¥EAST¥SkyKicker) をエクスプローラで表示します。

その中のApplicationList.xmlをメモ帳等で開き、

```
<!-- Webサーバ -->
```

```
<name>SkyLinkServer</name>
```

のSkyLinkServerを実際に展開したマシン名に変更し保存します。

9 3つのファイルをzip圧縮します。

ApplicationList.xml

Interop.IWshRuntimeLibrary.dll

SkyKicker.exe

3つのファイルを選択し、右クリックメニューから[送る]-[圧縮(zip形式)フォルダー]を選んで、圧縮ファイルを作成します。

ここでは、SkyKicker.zipというファイル名で作成したものとします(クライアント側インストール時の初期ファイルとなります)。

10 初期設定データ(SkyConfig.txt)を登録します。

SkyConfig.txtファイルをメモ帳等で開き、必要な設定を行います。接続データベース種別、ユーザーマネージャ指定、デフォルトフォルダーの設定などがありますので、SkyConfig.txtに書かれている説明に従って編集を行います。

11 Webサイトを作成します。

インターネットインフォメーションサービスマネージャを起動します(コントロールパネル-システムとセキュリティ-管理ツール-インターネットインフォメーションサービス(IIS)マネージャ)。

サイト-Default Web Siteを右クリックして、メニューから「アプリケーションの追加」を選びます。

エイリアスをSkyKicker、物理パスにC:¥EAST¥SkyKickerを指定し、OKで終了します。

クライアント側インストール

1. 上記9で作成したzipファイルをダウンロードします。
ブラウザを起動し、アドレスバーに
`http://SkyLinkServer/SkyKicker/SkyKicker.zip`
と入力しEnterキーを押して、SkyKicker.zipがダウンロードされる事
を確認します。
2. クライアントのPCに、フォルダを作成します。
便宜的に、C:¥SkyKicker というフォルダを作成し、そこに1でダウ
ンロードしたzipファイルを展開します。
3. SkyKickerを起動します。
展開したファイルの中のSkyKicker.exeを右クリックし、「管理者と
して実行」からプログラムを実行します。
初回は必ず「管理者として実行」で起動してください。
その後共有モジュールのインストールが始まりますので、そのま
まインストールを行います。インストール後、SkyLinkに必要なモ
ジュールがダウンロードされ、正常終了するとSkyLinkが起動さ
れます。
実際のSkyLinkの使用方法は、ユーザーズマニュアルをご覧ください。
2回目以降は、デスクトップに作成されたショートカットをダブル
クリックする事で、最新のモジュールをダウンロード(あれば)後
SkyLinkが起動されます。

ApplicationList.xmlの編集

ApplicationList.xmlを編集して、コマンドファイル等をダウンロード
するようにする方法をご説明します。

1. <application>ブロックの構成

```
<application>
  <!-- 表示用アプリケーション名 -->
  <name>SkyLink</name>
  <!-- 詳細説明 -->
  <description>データベース検索ツール</description>
  <!-- 実行プログラムのファイル名 -->
  <mainModule>SkyLink.exe</mainModule>
  <!-- 実行プログラムと参照しているDLLの配備ディレクトリ
  名 -->
  <baseDirectory>/SkyKicker</baseDirectory>
  <submodules>
```

```

    <name>configmodule</name>
        <binName>SkyConfig.txt</binName>
        <regist>0</regist>
    </submodules>
</application>

```

2. Application毎にフォルダの名前を設定する事が可能です。

上記の場合、Modulesフォルダの下に<name>タグに書かれているSkyLinkというフォルダが作成され (Modulesは固定)、サーバの/SkyKickerサイトにあるSkyLink.exeをSkyLinkフォルダにコピーします。

3. <submodules>は必要に応じて指定します。

例えば複数のコマンドファイルをダウンロードさせたい場合は、そのコマンド毎に<binName>タグの中身をコマンドファイル名にして<submodules>タググループを列挙します。

この場合の<name>タグは、フォルダ名にはなりません。

新規の「CommandFiles」というフォルダにコマンドファイルをコピーしたい場合は、<application>タグを新たに作成し、<name>タグにCommandFilesと記述します。

<regist>タグは、DLL等レジストリに登録する必要があるモジュールの場合「1」に設定します。

```

<application>
    <!-- 表示用アプリケーション名 -->
    <name>CommandFiles</name>
    <!-- 詳細説明 -->
    <description>コマンドファイル配布</description>
    <!-- 実行プログラムのファイル名 -->
    <mainModule>CommandFile1.sqc </mainModule>
    <!-- 実行プログラムと参照しているDLLの配備ディレクトリ名 -->
    <baseDirectory>/SkyKicker</baseDirectory>
    <submodules>
        <name>CommandFile2</name>
        <binName>CommandFile2.sqc</binName>
        <regist>0</regist>
    </submodules>
</submodules>

```

```
<name>CommandFile3</name>
  <binName>CommandFile3.sqc</binName>
  <regist>0</regist>
</submodules>
</application>
```

4. その他、出荷時はコメントアウトされているSkyLinkPlayerをダウンロードさせたい場合は、コメントマーク(<!-と-->)を削除してください。

参考

ApplicationList.xmlを編集し、追加したタグを削除しても、既にダウンロードされたファイルは、クライアント側で削除はされません。

SkyKickerのアンインストール

サーバ側のアンインストールは、Webサーバ上で作成したサイトを削除し、コントロールパネルより[プログラムと機能]からSkyKickerのアンインストールを行います。

クライアント側のSkyKickerを削除する場合は、コントロールパネルより[プログラムと機能]から[SkyLink Online Ver.3.0共有モジュール]をアンインストールし、その後、上記「クライアント側インストール」の2番で作成したフォルダ毎削除、更にデスクトップ上に作成されたショートカットを削除する事で、アンインストールが終了します。

2.3

インストール後のフォルダ

SkyLink をインストールした後のフォルダ・インストールされるファイルについて説明します。

以下の構成でフォルダが作成されます。

検索用 SkyLink

[SkyLink]
└─ [ExcelAddin] Excel アドイン

検索／更新用 SkyLink

[SkyLink]
├─ [Online] SkyLink Online
└─ [ExcelAddin] Excel アドイン

以下のアプリケーションとマニュアルが SkyLink フォルダにインストールされます。

[検索用]

アプリケーション名	SkyLink 実行ファイル
SkyLink	SkyLink.exe
SkyLinkPlayer	SkyLinkPlayer.exe

マニュアル名

SkyLink Ver.13 ユーザーズマニュアル
SkyLink Player Ver.12 ユーザーズマニュアル
readme.htm(SkyLink についての補足説明)

[検索／更新用]

アプリケーション名	SkyLink 実行ファイル
SkyLink	SkyLink.exe
SkyLinkPlayer	SkyLinkPlayer.exe
SkyUserMgr (ユーザーマネージャ)	SkyUserMgr.exe
SkyUserRegist (適用ツール)	SkyUserRegist.exe

マニュアル名

SkyLink Ver.13 ユーザーズマニュアル

SkyLink Player Ver.12 ユーザーズマニュアル

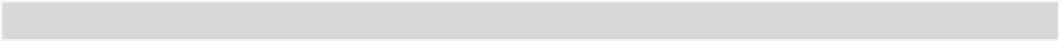
SkyLink Online Ver.12 ユーザーズマニュアル

SkyLink ユーザーマネージャ Ver.12 ユーザーズマニュアル

ユーザーマネージャ適用ツール Ver.12 ユーザーズマニュアル

readme.htm(SkyLink についての補足説明)

尚、「使いこなしガイド (SkyLink Ver.11 版)」が、CD-ROM 内の [Manual] フォルダ内に PDF データ形式で収録されています。



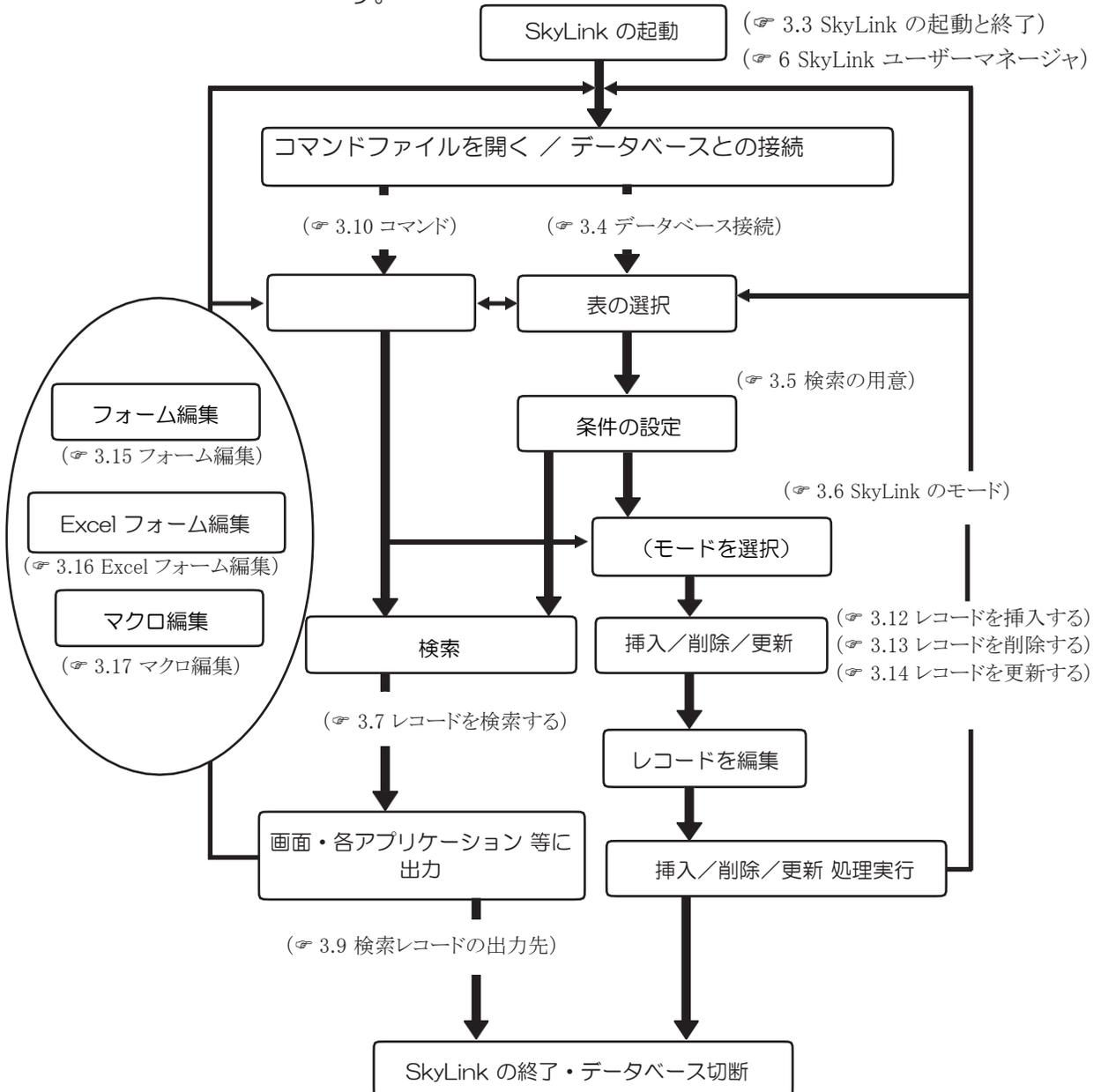
3. ユーザーズガイド

SkyLink の操作を説明します。
SkyLink を使用するうえで必要な事項について説明していますので、必ずお読みください。

3.1

SkyLinkの操作の流れ

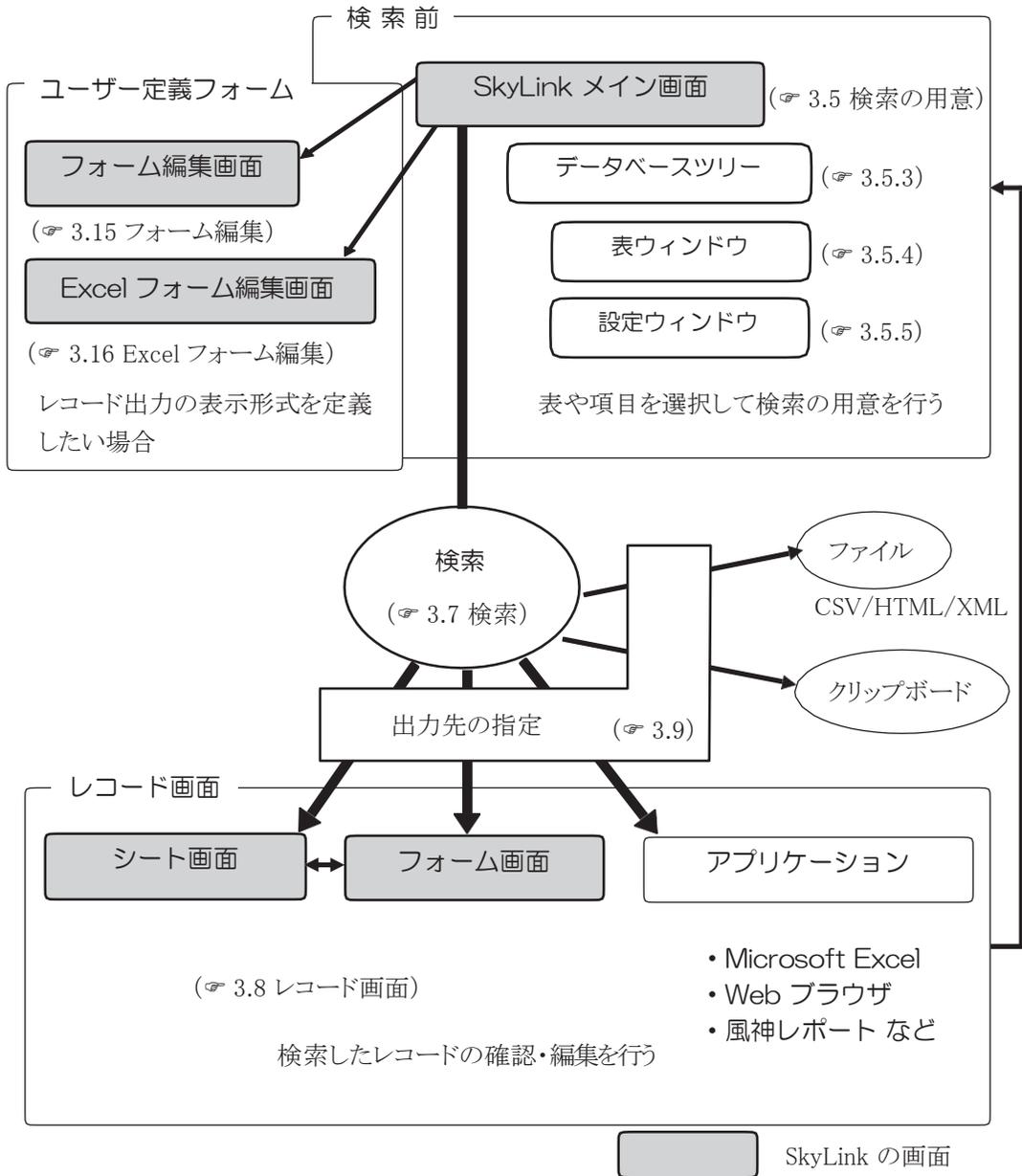
SkyLink のおおまかな操作の流れは、次のようになります。



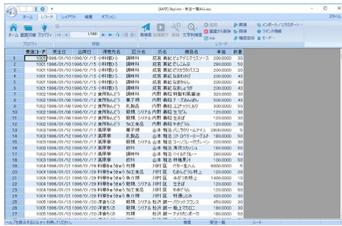
3.2

SkyLinkの画面

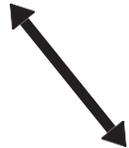
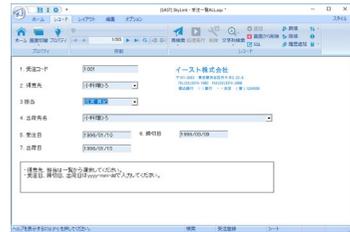
SkyLink の主な画面遷移は、次のようになります。



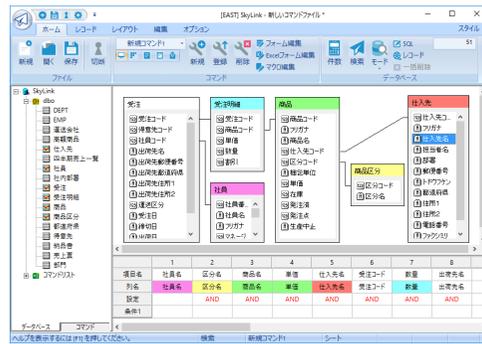
レコード画面（シート画面）



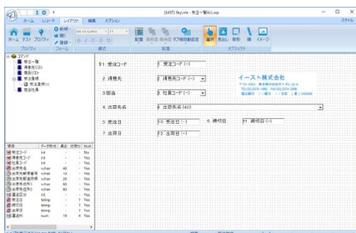
レコード画面（フォーム画面）



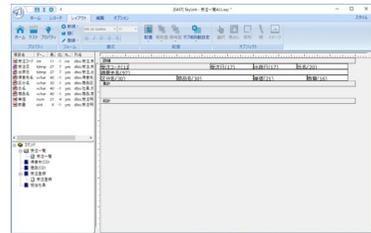
SkyLink メイン画面



フォーム編集画面



Excel フォーム編集画面



3.3

SkyLinkの起動と終了

SkyLink の起動方法と終了方法を説明します。

3.3.1 SkyLinkの起動

SkyLink を起動する手順を Windows10 を参考に説明します。

- 1 Windows ボタンから「すべてのアプリ」を選択して [SkyLink Ver.13] から [SkyLink Ver.13] アイコンをクリックします。



SkyLink のショートカットアイコン

参考

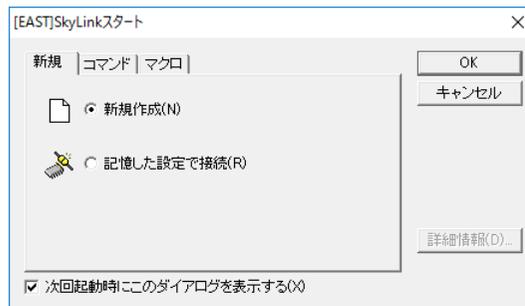
デスクトップに SkyLink のショートカットアイコンを置いている場合は、次の操作でも SkyLink を起動できます。ショートカットアイコンについては Windows のヘルプ/マニュアルをご覧ください。

- SkyLink のショートカットアイコンを選択して、Enter キーを押します。
- SkyLink のショートカットアイコンをダブルクリックし

ます。

- SkyLink のアイコンを右クリックして「スタート画面にピン留めをする」を選択しておくことで [スタートメニュー] として登録することも可能です。
- コマンドファイルから SkyLink を起動することもできます (☞ 3.10.9 コマンドファイルから SkyLink を起動する)。

[SkyLink スタート] ダイアログが表示されます。



2 SkyLink で行う作業を選択し、[OK] ボタンをクリックします。

- 表を新たに選択して処理を行う場合
[新規] タブの [新規作成 (N)] を選択します。
- 以前記憶させた表の作業状態を呼び出す場合
[新規] タブの [記憶した設定で接続 (R)] を選択します。
- 前もって作成したコマンドファイルを読み込む場合
[コマンド] タブをクリックしてから、ファイルを選択します。
- 前もって作成したマクロファイルを読み込んでマクロを実行する場合
[マクロ] タブをクリックしてから、ファイルを選択します。

[コマンド] タブと [マクロ] タブの [詳細情報] ボタン: (☞ 4.1.2 [ファイル (F)]-[開く (O)])

📖 参考

[SkyLink スタート] ダイアログは設定により表示されない場合があります (☞ 4.8.1 [オプション(O)] [全般] タブ)。その場合は目的に応じて、[ファイル (F)] メニューの [新規作成 (N)] または [接続 (T)]、[記憶した設定で接続 (M)]、[開く (O)]、あるいは接続ボタン 、新規ボタン 、開くボタン  をクリックして接続を行ってください (☞ 3.4 データベース接続)。

参考

SkyLink はデータベースにある表を操作するアプリケーションです。

データベースへの接続と同時に、手順2で選択した作業の編集状態になります。SkyLink では、コマンドという単位で、行う処理や接続先を登録し、ファイルに保存することができます。以降に行う作業を新規のコマンドファイルとして保存する準備がなされます (☞ 3.10 コマンド)。[接続 (T)]・接続ボタン  と [新規作成 (N)]・新規ボタン  も、同様の機能となります。

[OK] ボタンをクリックすると、データベースへの接続画面が表示されます。

3 データベースへの接続を行います。

データベースに接続するために必要な指定を行い、[OK] ボタンをクリックして、データベースの接続処理を行います。

(☞ 3.4 データベース接続)

NEC RDB サーバの接続画面 Oracle の接続画面

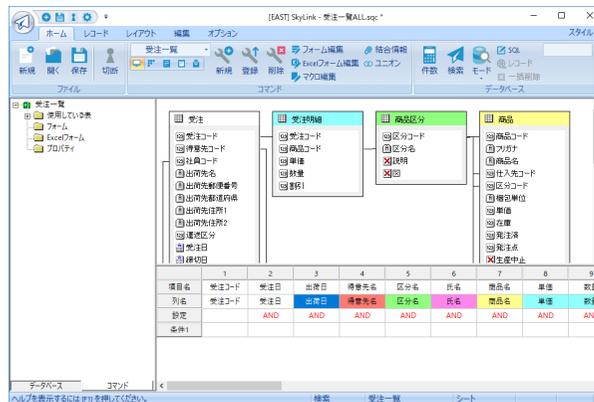
参考

接続データベースの種類の変更は、データベースに非接続時に [オプション] ダイアログの [接続] タブで行います。(☞ 4.8.5 [オプション] ダイアログ [接続] タブ)

参考

[SkyLink ユーザーマネージャ] を使用する場合は、データベースへの接続ではなく、データソースへの接続となります。(☞ 6 SkyLink ユーザーマネージャ)

SkyLink のメイン画面が表示されます。



コマンドファイルを開いた場合は、画面のタイトルにファイル名が表示され、ウィンドウにはコマンドファイルから読み込まれた表と項目が設定されており、検索の準備が整っています。それ以外の接続の場合には、接続したデータベースの表名を見ることができるデータベースツリーが表示されています。

[新規作成 (N)] を選択した場合、まだ表や項目の設定はされていない状態です。

[記憶した設定で接続 (M)] を選択した場合はウィンドウに表が表示されます。

これから行う処理をコマンドファイルに保存するまでは、画面のタイトルに「新しいコマンドファイル」と表示されています (☞ 3.4 データベース接続) (☞ 3.5 検索の用意)。

☰ 参考

Ver.8.0 までのインターフェイスはクラシックモードとして選択できます。(☞ 4.8.1 [オプション (O)] [全般] タブ)

3.3.2 SkyLinkの終了

SkyLink を終了すると、データベースに接続されている場合にはデータベースとの接続は自動的に切断され、すべての画面を閉じてプログラムを終了します。

ファイルメニューから終了

SkyLink ボタン  をクリックし、[SkyLink を終了する] を選択します。SkyLink のどの画面からでも終了することができます。

す。



画面タイトルから終了

SkyLink ボタン  をダブルクリックします。

ショートカットキーで終了

Alt キーを押しながら F4 キーを押します。

Windows の [閉じるボタン] で終了

Windows の右上の [閉じるボタン] をクリックします。

3.4

データベース接続

データベース接続、データベース切断について説明します。

3.4.1 データベースとの接続方法

SkyLink はデータベースにあるレコードを操作するアプリケーションですから、まずデータベースとの接続を行います。データベースと接続するには、次の 4 つの方法があります。

① 新規作成

新規ボタン 、または接続ボタン  を選択します。

SkyLink ボタン  [ファイル (F)]-[新規作成 (N)]

または [ファイル(F)]-[接続(T)] も同様の機能となります。

② 記憶した設定を呼び出す

SkyLink ボタン  [ファイル (F)]-[記憶した設定で接続 (M)] を選択します。

③ コマンドファイルを開く

④ マクロファイルを開く

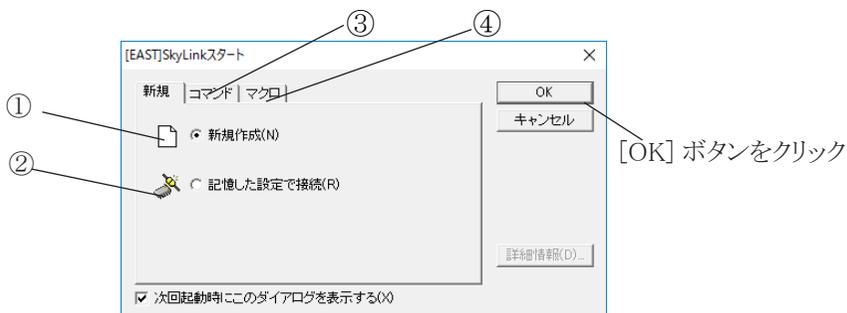
開くボタン  を選択し、コマンドファイルまたはマクロファイルを選択します。

SkyLink ボタン  [ファイル (F)]-[開く (O)] も同様の機能となります。

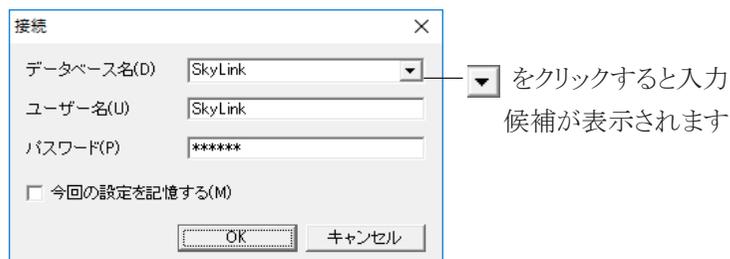
(☞ 3.4.7 コマンドファイルによる接続)

(☞ 3.4.8 マクロファイルによる接続)

SkyLink 起動時に [SkyLink スタート] ダイアログが表示された場合は、上記①②③④のタブまたはラジオボタンを選択し、[OK] ボタンをクリックします。



いずれの方法においても、[接続] ダイアログが表示されます。「④ マクロファイルを開く」場合のみ、自動で接続するように設定できます。次の図は Oracle / IBM DB2 の [接続] ダイアログです。ダイアログの項目は、データベース名/実行ステーション/サーバ名、ユーザー名/利用者 ID など、お使いのデータベースにより異なります (☞ 3.4.2 ~ 3.4.6)。



参考

SkyLink で Oracle、NEC RDB サーバ、IBM DB2 に接続する場合は、データベース名/実行ステーション、ユーザー名などをあらかじめ登録しておく、それぞれの項目に入力候補として表示されるので便利です。登録は [ツール (T)] - [データベース名登録 (D)] で行います (☞ 4.8.8 [データベース名登録 (D)] [ステーション名登録 (D)])。

参考

[SkyLink ユーザーマネージャ] を使用する場合は、データベースへの接続ではなく、データソースへの接続となります (☞ 6 SkyLink ユーザーマネージャ)。

「①新規作成」の場合は、データベース名、ユーザー名、パスワードなど必要な項目に入力し、[OK] ボタンをクリックして、データベースに接続します。データベースへの接続が正常に行われた場合、データベースから表情報が取得されて画面に表示されます。

[接続] ダイアログの [今回の設定を記憶する (M)] にチェックすると、切断時の表ウィンドウの情報が自動保存され、次回、「記憶した設定で接続」で接続した際に、自動的に表ウィンドウの情報が復元されます。

「②記憶した設定を呼び出す」の場合は、以前に「今回の設定を記憶する (M)」にチェックして接続した時の内容で [接続] ダイアログが表示されます。[接続] ダイアログにはすでに記憶されたデータベース名、ユーザー名など (お使いのデータベースによって異なります) が表示されるので、パスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックして、

データベースに接続します。接続後、記憶された表が画面に表示されます。

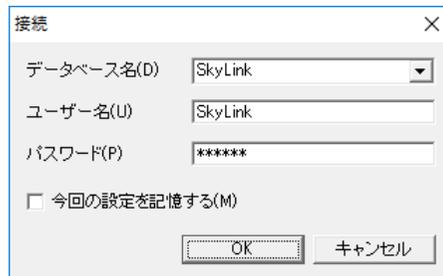
①または②の場合、これから登録されるコマンドを保存するために、コマンドファイルが新規に作成されます (☞ 3.10 コマンド)。

☞ 参考

[ツール (T)]-[オプション (O)] の [接続先を固定する (F)] にチェックした場合、接続するデータベース名、ユーザー名、パスワードを固定します。ODBC ではこの項目はありません。次回①または②の方法で接続の場合、[接続] ダイアログは表示されず、前回と同じ接続を行います。

3.4.2 Oracle/IBM DB2との接続

Oracle / IBM DB2 をお使いの場合は、次の接続ダイアログが表示されます。



[データベース名 (D)] コンボボックス

Oracle に接続する場合は、データベース名、または Oracle にあらかじめ登録されているデータベース別名を指定します。IBM DB2 に接続する場合は、データベース名、または DB2 にあらかじめ登録されているデータベース別名を指定します。Oracle や DB2 に登録してあるデータベース名は、前もって SkyLink にも登録しておく便利です。

複数登録している場合は、▼をクリックするかキーボードの ↓ キーでリストを表示して選択できます。登録していない場合は、データベース名を直接キーボードで入力します。

SkyLink への登録はメニューの [ツール (T)] - [データベース名登録 (D)] を選択して行います。

[ユーザー名 (U)] ボックス

データベースに登録済みのユーザー名を入力します。

[パスワード (P)] ボックス

データベースに登録済みのパスワードを入力します。パスワード欄には入力した文字の代わりに、「*」（アスタリスク）が表示されます。

[今回の設定を記憶する (M)] チェックボックス

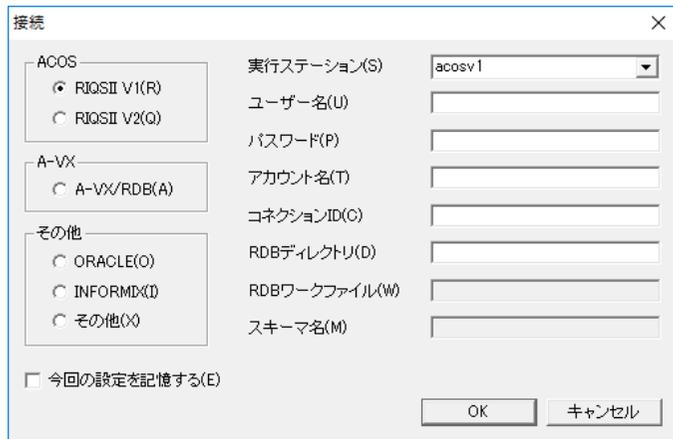
チェックをつけると、切断時の表ウィンドウの情報が自動保存され、次回、「記憶した設定で接続」で接続した際に、自動的に表ウィンドウの情報が復元されます。

[コマンド] タブまたは開く (O)、開くボタンで接続した場合は、この項目は表示されません。

3.4.3 NEC RDBサーバ対応データベースとの接続

NEC RDB サーバをお使いの場合は、次の接続ダイアログが表示されます。選択したデータベースによって設定するパラメータの種類、数が変わります。

RIQSII V1 を選択した場合



接続

ACOS

- RIQSII V1(R)
- RIQSII V2(Q)

A-VX

- A-VX/RDB(A)

その他

- ORACLE(O)
- INFORM4(D)
- その他(X)

今回の設定を記憶する(E)

実行ステーション(S)

ユーザー名(L)

パスワード(P)

アカウント名(T)

接続ID(C)

RDBディレクトリ(D)

RDBワークファイル(W)

スキーマ名(M)

OK キャンセル

RIQSII V2 を選択した場合

The screenshot shows a dialog box titled "接続" (Connection) with a close button (X) in the top right corner. It contains three radio button groups for selecting a connection type: "ACOS" (with "RIQSII V2(Q)" selected), "A-VX" (with "A-VX/RDB(A)" selected), and "その他" (Other) (with "ORACLE(O)", "INFORMIX(I)", and "その他(X)" options). To the right of these groups are labels for various connection parameters: "実行ステーション(S)", "ユーザー名(U)", "パスワード(P)", "アカウント名(T)", "コネクションID(C)", "RDBディレクトリ(D)", "RDBワークファイル(W)", and "スキーマ名(M)". Each label is followed by a text input field. The "実行ステーション(S)" field contains the text "acosv2". At the bottom left, there is a checkbox labeled "今回の設定を記憶する(E)" (Remember this setting) which is currently unchecked. At the bottom right, there are two buttons: "OK" and "キャンセル" (Cancel).

A-VXII, III, IV または O1 を選択した場合

The screenshot shows the same "接続" (Connection) dialog box. In this case, the "A-VX" radio button group is selected, and the "A-VX/RDB(A)" option is checked. The "実行ステーション(S)" field now contains the text "avx". All other elements, including the "その他" group, the parameter labels, the "記憶する(E)" checkbox, and the "OK" and "キャンセル" buttons, are identical to the previous screenshot.

ORACLE を選択した場合

The screenshot shows the "接続" (Connection) dialog box with the "その他" (Other) radio button group selected, and the "ORACLE(O)" option checked. The "実行ステーション(S)" field now contains the text "Oracle". All other elements, including the "A-VX" group, the parameter labels, the "記憶する(E)" checkbox, and the "OK" and "キャンセル" buttons, are identical to the previous screenshots.

INFORMIX を選択した場合

接続

ACOS

RQSII V1(R)

RQSII V2(Q)

A-VX

A-VX/RDB(A)

その他

ORACLE(O)

INFORMIX(I)

その他(X)

実行ステーション(S) informix

ユーザー名(U)

パスワード(P)

アカウント名(T)

コネクションID(C)

データベース名(D)

RDBワークファイル(W)

スキーマ名(M)

今回の設定を記憶する(E)

OK キャンセル

その他 (PERCIO, UNIFY) を選択した場合

接続

ACOS

RQSII V1(R)

RQSII V2(Q)

A-VX

A-VX/RDB(A)

その他

ORACLE(O)

INFORMIX(I)

その他(X)

実行ステーション(S) percio

ユーザー名(U)

パスワード(P)

アカウント名(T)

コネクションID(C)

データベース名(D)

RDBワークファイル(W)

スキーマ名(M)

今回の設定を記憶する(E)

OK キャンセル

[実行ステーション (S)] コンボボックス

TCP/IP 接続の場合は、ホスト名を指定します。COM-XE 接続は本バージョンでは対応しておりません。

[ユーザー名 (U)] ボックス

データベースに登録済みのユーザー名を入力します。

[パスワード (P)] ボックス

データベースに登録済みのパスワードを入力します。パスワード欄には入力した内容の代わりに、「*」(アスタリスク)が表示されます。

[アカウント名 (T)] ボックス

[コネクション ID(C)] ボックス

- [RDB ディレクトリ (D)] ボックス
- [データベース名 (D)] ボックス
- [RDB ワークファイル (W)] ボックス
- [スキーマ名 (M)] ボックス

接続パラメータ、および詳細については「PC-RDB サーバのマニュアル」をご覧ください。

- [今回の設定を記憶する (M)] チェックボックス

チェックをつけると、切断時の表ウィンドウの情報が自動保存され、次回、「記憶した設定で接続」で接続した際に、自動的に表ウィンドウの情報が復元されます。

[コマンド] タブまたは [開く (O)]、開くボタン  で接続した場合は、この項目は表示されません。

3.4.4 富士通Symfowareとの接続

富士通 Symfoware を使いの場合は、次の接続ダイアログが表示されます。



- [サーバー名 (S)] コンボボックス

DPC ライブラリのユーティリティを使用してあらかじめ登録されているサーバ名を指定します。

- [利用者 ID (I)] ボックス

データベースに登録済みの利用者 ID を入力します。

- [パスワード (P)] ボックス

データベースに登録済みのパスワードを入力します。パスワード欄には入力した内容の代わりに、「*」(アスタリスク) が表示されます。

- [今回の設定を記憶する (M)] チェックボックス

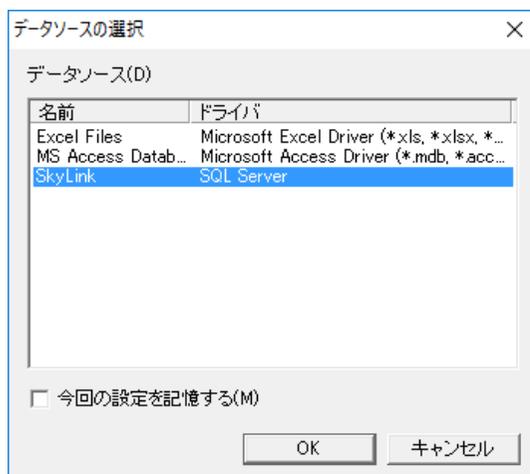
チェックをつけると、切断時の表ウィンドウの情報が自動保存

され、次回、「記憶した設定で接続」で接続した際に、自動的に表ウィンドウの情報が復元されます。

3.4.5 ODBC対応DBとの接続

[コマンド]タブまたは[開く(O)]、開くボタンで接続した場合は、この項目は表示されません。

ODBC 対応 DB との接続をお使いの場合は、次の [データソースの選択] ダイアログが表示されます。



[データソース (D)] リスト

あらかじめ ODBC 対応 DB として登録されているデータソース名が表示されますので、リストから選択します。データソースを選択すると、選択したデータソースの ODBC 対応 DB により、[接続] ダイアログが表示されます。ユーザ名とパスワードが、データベース固有に管理されているものもあります。なお、データソースの登録、および詳細は ODBC 対応 DB のマニュアルをご覧ください。

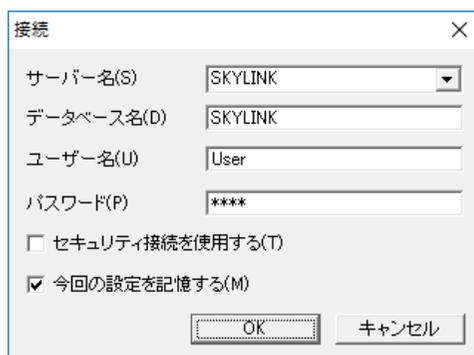
[今回の設定を記憶する (M)] チェックボックス

チェックをつけると、切断時の表ウィンドウの情報が自動保存され、次回、「記憶した設定で接続」で接続した際に、自動的に表ウィンドウの情報が復元されます。

[コマンド]タブまたは[開く(O)]、開くボタンで接続した場合は、この項目は表示されません。

3.4.6 SQL Server(ADO.NET接続)による接続

SQL Server(ADO.NET 接続)をお使いの場合は、次の接続ダイアログが表示されます。



[サーバー名 (S)] コンボボックス

Microsoft SQL Server のインスタンス名を指定します。

▼をクリックすると、使用できるサーバの一覧が表示されます。

[データベース名 (D)] ボックス

データベース名を入力します。未入力の場合、デフォルトのデータベースと接続します。

[ユーザー名 (U)] ボックス

データベースに登録済みのユーザー名を入力します。

[パスワード (P)] ボックス

データベースに登録済みのパスワードを入力します。パスワード欄には入力した内容の代わりに、「*」(アスタリスク)が表示されます。

[セキュリティ接続を使用する (T)] チェックボックス

チェックを付けたらここで入力したユーザー名、パスワードは使用されずに、現在、Windows にログオンしているユーザーのアクセス権が使用されます。

[今回の設定を記憶する (M)] チェックボックス

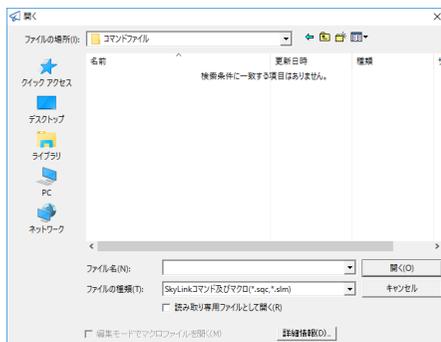
チェックを付けたら、切断時の表ウィンドウの情報が自動保存され、次回、「記憶した設定で接続」で接続した際に、自動的に表ウィンドウの情報が復元されます。

3.4.7 コマンドファイルによる接続

あらかじめ保存したコマンドファイルを選択して、データベースに

接続することができます (☞ 3.10 コマンド)。

[SkyLink スタート] ダイアログで [コマンド] タブの一覧から [その他ファイル] を選択するか、メニューの [ファイル (F)]-[開く (O)] または開くボタン  を選択すると、[ファイルを開く] ダイアログが表示されます。



[ファイルを開く] ダイアログでコマンドファイル名を入力または一覧から選択して、[開く (O)] ボタンをクリックすると、[接続] ダイアログが表示されます。

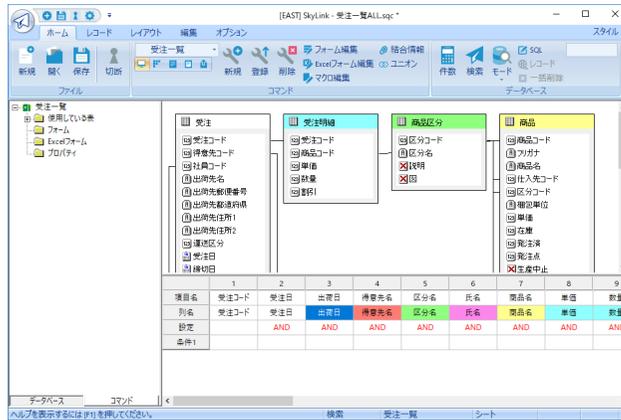
または、[SkyLink スタート] ダイアログで [コマンド] タブの一覧からコマンドファイルを選択すると、[接続] ダイアログが表示されます。[接続] ダイアログにはファイルから読み込まれたデータベース名 / 実行ステーション / サーバ名、ユーザー名 / 利用者 ID などが表示されるので、パスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックして、データベースに接続します。接続後、コマンドファイルに保存された表情情報が読み込まれ、表が画面に表示されます。

参考

データベースにすでに接続されており、開こうとするコマンドファイルの接続先と同じ場合、接続解除は行わず、[接続] ダイアログも表示されません。コマンドファイルを開くと、それまでの画面で作業していた表はキャンセルされ、コマンドファイルから読み込まれた表が表示されます。

次の図は、コマンドファイルを開いた状態です。

コマンドファイルを開くと、コマンドファイル内の先頭のコマンドが選択され、検索の準備が整います。



このように、コマンドファイルを開くことにより、直接目的のデータベース操作環境に移行することができ、作業対象の表と検索条件なども画面に再現することができます。

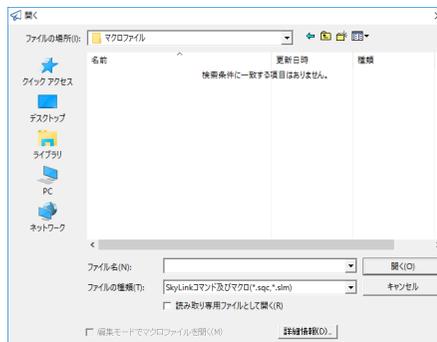
頻繁に行う検索処理などがある場合、コマンドファイルを作成しておくとう便利です。

3.4.8 マクロファイルによる接続

あらかじめ保存したマクロファイルを選択してデータベースに接続することができます。

[SkyLink スタート] ダイアログで [マクロ] タブの一覧から [その他のファイル] を選択するか、メニューの [ファイル (F)]-[開く (O)]

または開くボタン  を選択すると、[ファイルを開く] ダイアログが表示されます。



[ファイルを開く] ダイアログでマクロファイル名を入力または一覧から選択して、[開く (O)] ボタンをクリックすると、[接続] ダイアログが表示されます。

または、[SkyLink スタート] ダイアログで [マクロ] タブの一覧からマクロファイルを選択すると、[接続] ダイアログが表示されます。

[接続] ダイアログにはファイルから読み込まれたデータベース名

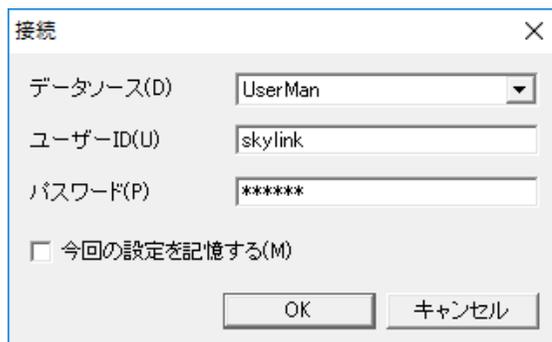
／実行ステーション／サーバ名、ユーザー名／利用者 ID などが表示されるので、パスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックして、データベースに接続します。接続後、マクロファイルに保存されたマクロ情報が読み込まれ、マクロが実行されます。

参考

マクロファイルのプロパティで [データベースの接続を自動で行う (A)] にチェックされている場合は、[接続] ダイアログが表示されずに自動で接続することができます。

3.4.9 ユーザーマネージャを使用した場合の接続

ユーザーマネージャを使用した場合は、次の接続ダイアログが表示されます。(6 SkyLink ユーザーマネージャ)



[データソース (D)] コンボボックス

ユーザーマネージャを使用してあらかじめ設定したデータソースを指定します。

複数登録している場合は、▼をクリックするかキーボードの↓キーでリストを表示して選択できます。登録していない場合は、データベース名を直接キーボードで入力します。

[ユーザー ID (U)] ボックス

ユーザーマネージャに登録済みのユーザー ID を入力します。

[パスワード (P)] ボックス

ユーザーマネージャに登録済みのパスワードを入力します。パスワード欄には入力した内容の代わりに、「*」(アスタリスク)が表示されます。

[今回の設定を記憶する (M)] チェックボックス

チェックを付けると、切断時の表ウィンドウの情報が自動保存され、次回、「記憶した設定で接続」で接続した際に、自動的に表ウィンドウの情報が復元されます。

[コマンド] タブまたは [開く (O)]、開くボタン  で接続した場合は、この項目は表示されません。

3.4.10 データベースとの切断

データベースとの接続を解除するには、切断ボタン  を押すか、SkyLink ボタンから、メニューの [ファイル (F)] - [切断 (D)] を選択します。

参考

SkyLink のアプリケーション終了時も、接続中のデータベースとの接続は自動的に切断されます。

3.5

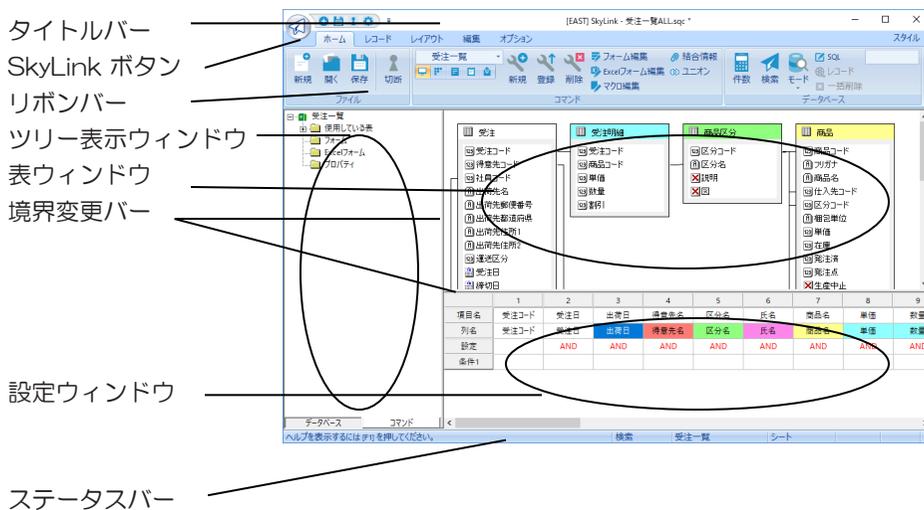
検索の用意

データベース接続後に表示される画面（SkyLink メイン画面と呼びます）でこれから行う検索の準備を行います。

3.5.1 SkyLinkメイン画面

データベース接続が正常に行われると、データベースから表の情報を取得し、SkyLink メイン画面が表示されます（☞ 3.4 データベース接続）。

次の図は、検索処理を行う表を選択して検索条件を設定した状態です。コマンドファイルを開いた場合は、このように設定した表などが表示されています（☞ 3.10 コマンド）。



最初に、各ウィンドウについて解説します。
表の選択と条件の設定方法については後述します。

タイトルバー

アプリケーション名「[EAST] SkyLink」とコマンドファイル名が表示されます。コマンドファイルを開かないでデータベースに接続した場合（☞ 3.4.1 データベースとの接続方法 ①

②)、メイン画面の作業状態をコマンドファイルに保存するまでは、「新しいコマンドファイル」と表示されます。

リボンバー

SkyLink の機能を実行したり設定を行うためのボタンが表示されます。複数のカテゴリから構成されており、画面によって初期表示されるタブが異なります。ボタンの上にマウスポインタを移動するとそのボタンについての簡単な解説（ツールヒント）が表示されます。

ツリー表示ウィンドウ

[データベース] タブを選択している状態ではデータベースツリーを、[コマンド] タブを選択している状態では、コマンドツリーを表示するウィンドウです。また、[列一覧] タブを選択している状態では、列一覧ツリーを表示するウィンドウです。

データベースツリー

ツリー表示ウィンドウの [データベース] タブをクリックして表示されるツリーです。

データベースから読み込んだ表名を、エクスプローラなど同様の操作でツリー表示します。

アイコン  は接続したデータベース名、 はオーナー/スキーマ名 (NEC RDB サーバ対応 DB A-VX, RIQS II V1 以外)、 は表名をあらわしています。

データベースツリーから表を選択して検索の準備をする手順については後述します (☞ 3.5.6 検索前の手順)。

参考

データベースツリーの表示/非表示は、オプションカテゴリの [データベースツリー] チェックボックスを選択して行います。また、データベースツリーを表示できない場合もあります。[ファイル (F)]-[ファイルのプロパティ (R)] を選択して表の追加を禁止するオプションを設定し、ファイルを保存した場合は、そのコマンドファイルを開いている間はデータベースツリーを表示することができません (☞ 4.1.8 [ファイル (F)]-[ファイルのプロパティ (R)])。

コマンドツリー (標準モードのみ)

ツリー表示ウィンドウの [コマンド] タブをクリックして表示されるツリーです。

現在登録されているコマンドと、コマンドによって表ウイン

ドウに表示されている表の列名を、エクスプローラなどと同様の操作でツリー表示します。

列一覧ツリー（クラシックモードのみ）

ツリー表示ウィンドウの[列一覧]タブをクリックして表示されるツリーです。

現在登録されているコマンドと、コマンドによって表ウィンドウに表示されている表の列名を、エクスプローラなどと同様の操作でツリー表示します。

アイコン  は表名をあらわし、表名の下層の各アイコンは、列の属性をあらわしています。

列一覧ツリーから列を選択して検索の準備をする手順については後述します（☞ 3.5.6 検索前の手順）。

表ウィンドウ

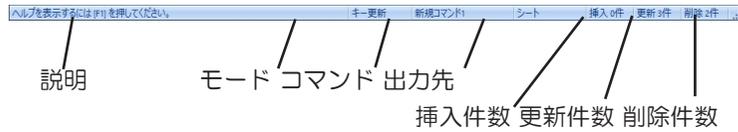
表が視覚的に表示される、SkyLink のインターフェースの特長であるウィンドウです。データベースツリーから、検索や更新を行うための表をこのウィンドウに追加します。このウィンドウからさらに表または項目を選択して設定ウィンドウに追加し、検索を実行します。表の定義内容の確認や、表結合の指定もここでを行います。表の様々な選択方法については後述します（☞ 3.5.4 表ウィンドウ）。

設定ウィンドウ

検索や更新を行う表の項目や条件を設定するためのウィンドウです。表ウィンドウから、またはデータベースツリーや列一覧ツリーからダイレクトに表の項目を設定することができます。項目の様々な設定方法については後述します（☞ 3.5.5 設定ウィンドウ）。

ステータスバー

メニュー項目やツールバーのボタンの上にマウスカーソルを移動すると、ステータスバーにその機能の説明が表示されます。クリックする前に操作の確認を行えるほか、選択中のモード（検索／更新用SkyLinkのみ）（☞ 3.6 SkyLink のモード）や、検索結果の出力先（☞ 3.9 検索レコードの出力先）、選択しているコマンド名（☞ 3.10 コマンド）が表示されるので、確認しながら作業を行うことができます。レコード画面ではモードにより挿入件数、削除件数、更新件数が表示されます。



境界変更バー

このバーをマウスでドラッグすると、ツリー表示ウィンドウ、表ウィンドウ、設定ウィンドウの境界が移動して、各ウィンドウの大きさが変わります。

SkyLink の各画面のウィンドウでは、基本的にマウスのクリックあるいはマウスのドラッグ・ドロップをすることで操作を行えますが、キーボードによってメニューを選択して操作することもできます（☞ 4 メニューリファレンス）。また、ツリー表示ウィンドウ、表ウィンドウ、設定ウィンドウでは、右クリックするとそれぞれのポップアップメニューが表示されます。画面に検索結果を出力した場合のシート画面、フォーム画面、またはフォーム編集画面（☞ 3.15 フォーム編集）、Excel フォーム編集画面（☞ 3.16 Excel フォーム編集）でも同様です。

3.5.2 ホームカテゴリ（メイン画面）

[ホーム] カテゴリには、メイン画面でよく使われるボタン類が配置されています。



[ファイル] パネル



新規ボタン

データベースへの接続を行い、コマンドファイルを新規に作成します（☞ 3.4 データベース接続）。現在、登録・削除・変更されたコマンド（☞ 3.10 コマンド）がある場合は、「コマンドファイルは変更されています。ファイルに保存しますか？」とメッセージが表示されます。必要に応じて、コマンドファイルへの保存を行ってください。

開くボタン

コマンドファイルおよびマクロファイルを開くためのダイアログを表示します。(☞ 3.10 コマンド、☞ 3.17 マクロ編集)

コマンドファイルを選択して開いた場合は、ファイルから読み込んだ表や項目、設定条件を画面に表示します。すでに接続されているデータベースとコマンドファイルで使用しているデータベースが同じ場合は、データベースへの再接続は行いません(☞ 3.4 データベース接続)。現在、登録・削除・変更されたコマンド(☞ 3.10 コマンド)がある場合は、「コマンドファイルは変更されています。ファイルに保存しますか?」とメッセージが表示されます。必要に応じて、コマンドファイルへの保存を行ってください。

マクロファイルを選択して開いた場合は、マクロを実行します。

保存ボタン

すでに登録されているコマンドをコマンドファイルのプロパティ(☞ 4.1.8 [ファイル(F)]-[ファイルのプロパティ(R)])とともに現在開かれているコマンドファイルに上書き保存します(☞ 3.10 コマンド)。コマンドファイルを新規作成、または開いてから何も変更されていない場合は、このボタンは使用できません。コマンドファイルを新規作成してから初めて保存する場合は、[ファイル(F)]-[名前を付けて保存(A)]を選択します。コマンドファイルへの保存を行わないと、コマンドの登録または削除、変更が失われますのでご注意ください。

接続 / 切断ボタン

新規ボタンと同様にデータベースへの接続を行い、コマンドファイルを新規に作成します(☞ 3.4 データベース接続)。すでにデータベースに接続している場合は、切断ボタンになり、接続中のデータベースとの接続を解除します。接続中のデータベースから他のデータベースへ接続したい場合はこのボタンで切断してから行います。現在、登録・削除・変更されたコマンド(☞ 3.10 コマンド)がある場合は、「コマンドファイルは変更されています。ファイルに保存しますか?」とメッセージが表示されます。必要に応じて、コマンドファイルへの保存を行ってください。



[コマンド] パネル

新規コマンド1 ▼ コマンド一覧コンボボックス

▼ をクリックすると、登録されているコマンドの一覧が表示されます。処理を行いたいコマンドを選択すると、コマンドとして記憶されている表や項目、設定条件が画面に表示され、検索の準備が整います (☞ 3.10 コマンド)。

[画面] ボタン

検索結果の出力先を画面にする場合に選択します。

[アプリケーション] ボタン

検索結果の出力先をアプリケーションにする場合に選択します。

[ファイル] ボタン

検索結果の出力先をファイルにする場合に選択します。

[クリップボード] ボタン

検索結果の出力先をクリップボードにする場合に選択します。

[出力先詳細] ボタン

検索結果の出力先の詳細を設定する場合に選択します。出力先詳細ダイアログが表示され、各出力先の詳細な設定を行う事が出来ます。

[新規] ボタン

新しいコマンドが新規に作成されます。現在のコマンドが変更されている場合、「編集集中のコマンドを登録しますか」と表示されます。

設定ウィンドウをクリアして、新しいコマンドを設定できるようにします。表ウィンドウで表結合の指定がされていた場合は、表結合が解除されます。コマンドが選択されていた場合は、コマンドはキャンセルされ、新しい検索項目でコマンドを登録でき

るようになります。



[登録] ボタン

[コマンドの登録] ダイアログを表示します。[コマンドの登録] ダイアログでコマンド名を入力し、[OK] ボタンをクリックすると、現在設定ウィンドウに設定している項目と条件をコマンドとして登録することができます。すでにあるコマンドと同じ名前を付けた場合は、コマンドが上書き登録され、コマンドが更新されます (☞ 3.10.3 コマンドの登録)。



[削除] ボタン

コマンド一覧コンボボックスで選択しているコマンドを削除します。



[フォーム編集] ボタン

検索条件フォーム、入力・編集フォームを作成するためのフォーム編集画面を表示します。



[Excel フォーム編集] ボタン

検索結果を Excel に出力する際の、Excel フォーム編集画面を表示します。



[マクロ編集] ボタン

現在編集中のコマンドファイルを使用して、マクロを設定する場合に選択します。マクロ編集ダイアログが表示されます。



[結合情報] ボタン

表結合の追加、編集、削除を行う場合に選択します。結合情報ダイアログを表示します。



[ユニオン] ボタン

ユニオン検索を行う場合に選択します。ユニオンクエリダイアログを表示します。

[データベース] パネル





[件数] ボタン

レコードのデータではなくレコードの件数のみ検索して、隣の件数表示フィールドに検索されたレコード件数を表示します。



[検索] ボタン

レコードの検索処理を実行します。データベースからレコードを検索し、指定されている出力先 (☞ 3.9 検索レコードの出力先) に検索結果を表示します。検索／更新用 SkyLink でキー削除、キー更新、一括更新処理を行う場合は、まずこのボタンで検索処理を実行します。



[モード] ボタン

データベースにアクセスする場合の、モードを選択します。モードには、検索、挿入、キー削除、一括削除、キー更新、一括更新の 6 種類があります。検索用 SkyLink をインストールした場合には、表示されません。



[SQL] ボタン

SQL ウィンドウを表示します。SkyLink は設定ウィンドウに設定された項目と条件から SQL を自動生成しますが、ユーザーが SQL ウィンドウで直接 SQL を編集して処理し、それをコマンドとして登録することもできます。直接編集した SQL を使用して検索する場合は、設定ウィンドウはクリアされます (☞ 3.7.6 SQL 編集)。



[レコード] ボタン

レコード画面が表示され、直前に検索した結果一覧を表示します。SkyLink 内部で保存している結果を表示するだけで、新たにデータベース検索は行いません。



[一括削除] ボタン

モードが一括削除の場合のみ、押すことが可能です。ボタンを押すと、現在設定ウィンドウに設定されている情報で、データベースからレコードを削除します。確認メッセージが表示され、OK を押すと、実際にデータベースからマッチしたレコードを削除します。

5795

[件数表示] フィールド

検索実行ボタンまたは件数検索ボタンをクリックすると、検索されたレコード件数がここに表示されます。

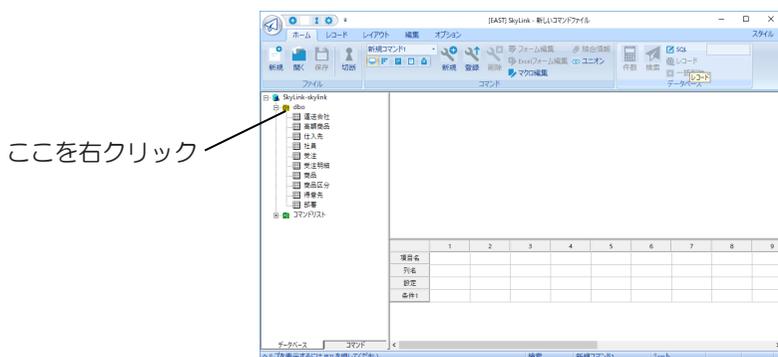
3.5.3 データベースツリー

データベースツリーの操作について説明します。検索を行うまでの連続した手順は後述します (☞ 3.5.6 検索前の手順)。

データベースツリーは、ツリー表示ウィンドウで [データベース] タブを選択すると表示することができます。

データベースツリーに表示されている表をドラッグして表ウィンドウにドロップすると、表ウィンドウに表を追加することができます。表をダブルクリックしても同様です。

オーナー/スキーマが表示されている場合、オーナー/スキーマをドラッグ・ドロップすると、オーナー/スキーマ内のすべての表ウィンドウに追加することができます。

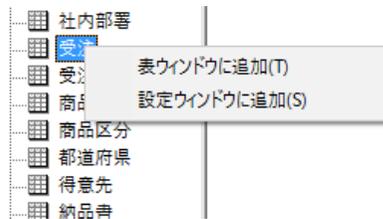


参考

データベースツリーからドラッグ・ドロップする以外に、表名をダブルクリックしても、表を表ウィンドウに追加することができます。

データベースツリーから表を設定ウィンドウにドラッグ・ドロップして、表の項目すべてを設定ウィンドウに追加することもできます。設定ウィンドウにドラッグ・ドロップした表は、同時に表ウィンドウに追加されます。

ドラッグ・ドロップの代わりに、データベースツリーで表名を右クリックすると表示される次のポップアップメニューで選択することもできます。



[コマンド] タブ (標準モードのみ)

ツリー表示ウィンドウで [コマンド] タブを選択すると表示することができるコマンドツリーから表を設定ウィンドウにドラッグ・ドロップして、表の項目すべてを設定ウィンドウに追加することもできます。

[列一覧] タブ (クラシックモードのみ)

ツリー表示ウィンドウで [列一覧] タブを選択すると表示することができる列一覧ツリーから表を設定ウィンドウにドラッグ・ドロップして、表の項目すべてを設定ウィンドウに追加することもできます。

3.5.4 表ウィンドウ

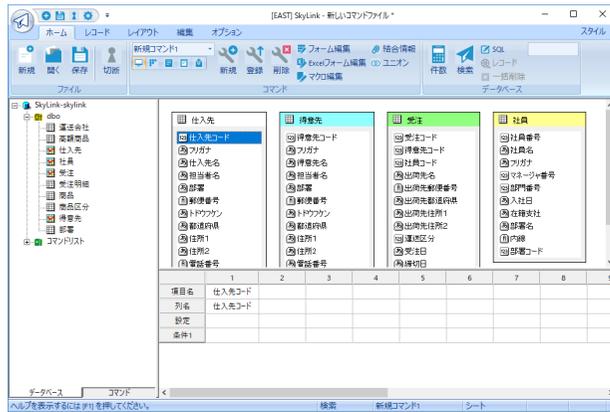
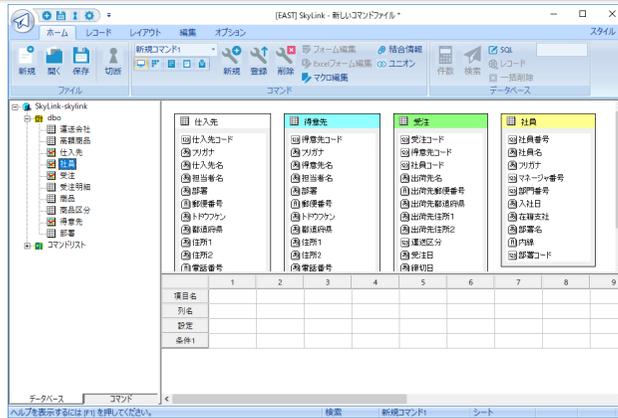
表ウィンドウの操作について説明します。検索を行うまでの連続した手順は後述します (☞ 3.5.6 検索前の手順)。
検索や更新を行うためには、操作対象の表を表ウィンドウに追加する必要があります。データベースツリーから表ウィンドウに表をドラッグ・ドロップすると、表を表ウィンドウに追加することができます (☞ 3.5.3 データベースツリー)。

📖 参考

データベースツリーで操作対象の表をダブルクリックしても、表を表ウィンドウに追加することができます。

標準モード

表ウィンドウには表を最大 32 個まで追加することができます。表のタイトルバーには表名が表示され、その中には表の項目 (列) が表示されます。
表ウィンドウの項目をドラッグして設定ウィンドウにドロップすると、設定ウィンドウに項目を追加することができます。



参考

表ウィンドウに追加された表の表名をダブルクリックするか、右クリックして表示されるポップアップメニューから [設定ウィンドウに追加 (A)] を選択すると、表のすべての項目を設定ウィンドウに追加することができます。

参考

ツリー表示ウィンドウで [コマンド] タブを選択し、[使用している表] フォルダに表示されている表を設定ウィンドウにドラッグ・ドロップすると、表のすべての項目を設定ウィンドウに追加することができます。また、表ウィンドウの [表情報] タブを選択して表示される列説明を設定ウィンドウにドラッグ・ドロップ、またはダブルクリックすると、その項目を設定ウィンドウに追加することができます。

参考

ツリー表示ウィンドウで [データベース] タブを選択し、[コマンドリスト] を開くと登録したコマンドの一覧が表示されます。そのコマンドを表ウィンドウにドラッグ・ドロップすると、コマンドで指定した列のリストを

表と同じように扱う事が可能です。

表ウィンドウで表示される各表のタイトル名横に表示されるアイコンの色によって、実表なのかコマンドリストから選択された表なのかを判別できます。

表の順序の入れ替え

表ウィンドウ内の表をドラッグして、表示の順序を変更することができます。また、表を右クリックして表示されるポップアップメニューから削除を選択することで、表ウィンドウから表を削除することができます。データベースツリーやコマンドツリーからドラッグする表を、表ウィンドウの表と表の間にドロップすることもできます。

表の整列

表ウィンドウ内の表を追加順に並び替えることができます。表ウィンドウ内で右クリックして表示されるポップアップメニューから [整列 (A)] を選択することで表が整列されます。

表の位置の保存

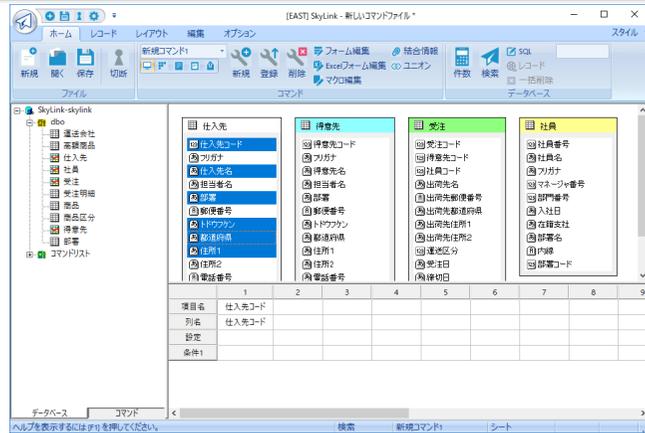
表ウィンドウ内で右クリックして表示されるポップアップメニューから [現在のウィンドウ位置を保存 (S)] を選択することで表の位置が保存されます。

表情報を最新の情報に更新

表ウィンドウ内で右クリックして表示されるポップアップメニューから [表情報を最新の情報に更新 (R)] を選択することで表テーブル情報をデータベースから取得して最新の情報に更新します。

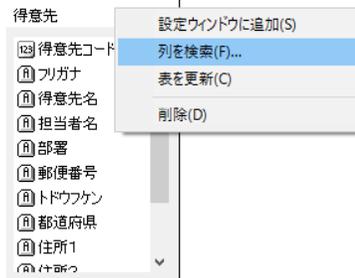
項目の選択

表ウィンドウで表示されている項目名は、クリックして選択することができます。項目名は、選択されると反転表示されます。反転表示された項目名を再度クリックすると、選択は解除されます。Ctrl キーや Shift キーを使用して項目を効率的に選択することもできます (☞ 3.5.6 検索前の手順)。



列を検索

表ウィンドウ内に追加された表の表名を右クリックして表示されるポップアップメニューから [列を検索 (F)...] を選択することで表内の項目を検索するダイアログが表示されます。項目数が多い時に該当する項目を探しやすくなります。



表を更新

表ウィンドウ内に追加された表の表名を右クリックして表示されるポップアップメニューから [表を更新 (C)] を選択することで表テーブル情報をデータベースから取得して最新の情報に更新します。

コマンドツリーでの選択により表ウィンドウに表示される情報が変わります。

表の結合を確認する



コマンドツリーでコマンド名 (新規時は新規コマンド 1 と表示) を選択すると、表ウィンドウに表結合のリレーション図が表示されます。

使用している表を確認する

コマンドツリーで使用している表を選択すると、表ウィンドウに使用している表の表説明とスキーマが表示されます。

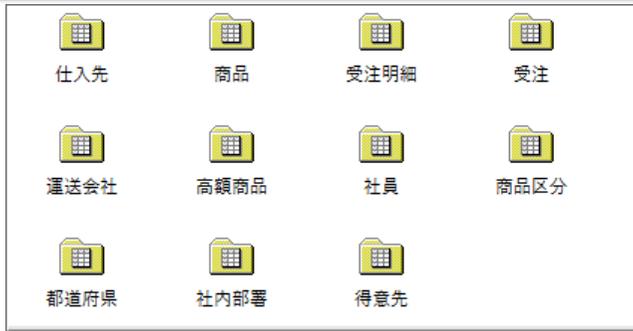
表ウィンドウ内で右クリックして表示されるポップアップメニューから [詳細 (D)] を選択した場合

表名	スキーマ
仕入先	dbo
商品	dbo
受注明細	dbo
受注	dbo
運送会社	dbo
高額商品	dbo
社員	dbo
商品区分	dbo
都道府県	dbo
社内部署	dbo
得意先	dbo

表名：表説明または表名が表示されます。

スキーマ：スキーマ名が表示されます。

表ウィンドウ内で右クリックして表示されるポップアップメニューから [アイコン(N)] を選択した場合



表の定義を確認する

コマンドツリーで [使用している表] 以下の表名を選択し、表ウィンドウで [表情報] タブを選択すると表の定義が表示されます。

表ウィンドウ内で右クリックして表示されるポップアップメニューから [詳細 (D)] を選択した場合

表情報	制約				
列名		データ型	サイズ	スケール	null
<input checked="" type="checkbox"/> 商品コード		num	10	0	No
<input type="checkbox"/> フリガナ		vchar	80		Yes
<input type="checkbox"/> 商品名		vchar	40		Yes
<input checked="" type="checkbox"/> 仕入先コード		num	10	0	Yes
<input checked="" type="checkbox"/> 区分コード		num	10	0	Yes
<input type="checkbox"/> 梱包単位		vchar	20		Yes
<input checked="" type="checkbox"/> 単価		num	19	0	Yes
<input checked="" type="checkbox"/> 在庫		num	5	0	Yes
<input checked="" type="checkbox"/> 発注済		num	5	0	Yes
<input checked="" type="checkbox"/> 発注点		num	5	0	Yes
<input type="checkbox"/> 生産中止		char	1		No

列説明： 列説明または列名が表示されます。

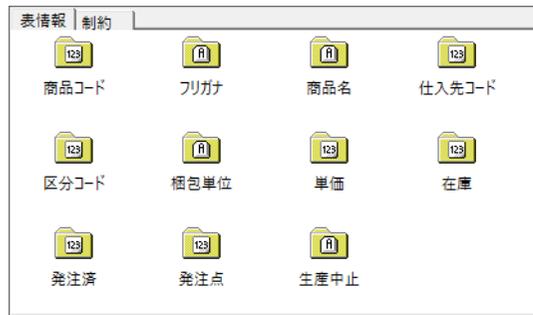
データ型： 文字型、数値型など列データの型が表示されます。SkyLink で扱えない型には先頭に「*」が表示されています。各版での表記は付録 A をご覧ください(☞付録 A SkyLink での列の型の表記法)。

サイズ： 型が文字型（日本文字型）の場合、データの長さが文字数で表示されます。数値型の長さは、データベースに定義されている長さです。

スケール： 小数点以下の桁数が表示されます。

null : NULL 値を許す場合に「yes」、許さない場合に「no」が表示されます。(NEC RDB サーバ版以外)

表ウィンドウ内で右クリックして表示されるポップアップメニューから [アイコン(N)] を選択した場合



キーなどの表の情報を確認する

Oracle、IBM DB2、ODBC の場合で、データベース上で表にインデックス、キー、外部キー、複合キーなどが定義されている場合は、これらの情報を確認することができます。コマンドツリーで [使用している表] 以下の表名を選択し、表ウィンドウで [制約] タブを選択すると、表示することができます。

表情報		制約	
名前	タイプ	参照スキーマ	参照テーブル
FK_DEPTNO	FOREIGN	SCOTT	DEPT
PK_EMP	PRIMARY		
列		参照列	
DEPTNO		DEPTNO	

名前 : 定義する表制約の名前が表示されます。

タイプ : 一意、主キー、外部キー、チェックなどの使用可能な制約タイプが表示されます。

参照スキーマ : 定義する制約で外部キーにより参照されるス

キーマが表示されます。

参照テーブル：定義する列により参照されるテーブルが表示されます。

列： 制約を設定する列が表示されます。

参照列： 参照整合性制約で、外部キーにより参照される列（一意キーまたは主キー）が表示されます。

フォームの種類を確認する

コマンドツリーでフォームを選択すると、表ウィンドウにフォームの種類が表示されます。

表ウィンドウ内で右クリックして表示されるポップアップメニューから[詳細(D)]、または[アイコン(N)] のどちらかを選択します。

Excel フォームの種類を確認する

コマンドツリーで Excel フォームを選択すると、表ウィンドウにフォームの種類が表示されます。

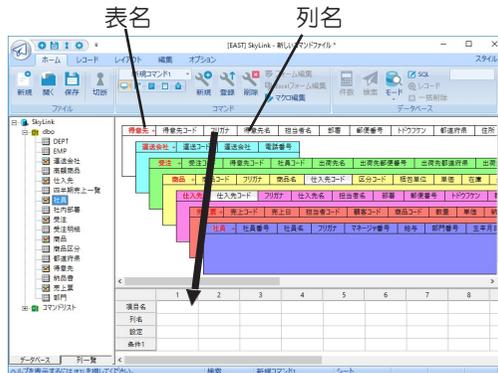
表ウィンドウ内で右クリックして表示されるポップアップメニューから[詳細(D)]、または[アイコン(N)] のどちらかを選択します。

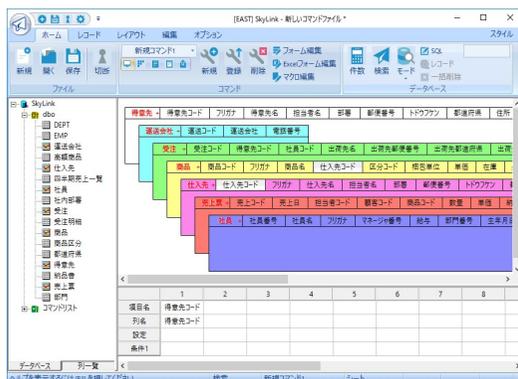
クラシックモード

表ウィンドウには表を最大 32 個まで追加することができます。

表ウィンドウに表示された表の左上には表名が表示され、その右には表の項目（列）が表示されます。

表ウィンドウの項目をドラッグして設定ウィンドウにドロップすると、設定ウィンドウに項を追加することができます。





参考

表ウィンドウに追加された表の表名を設定ウィンドウにドラッグ・ドロップすると、表のすべての項目を設定ウィンドウに追加することができます。

参考

ツリー表示ウィンドウで [列一覧] タブを選択すると表示することができる列一覧ツリーから表を設定ウィンドウにドラッグ・ドロップすると、表のすべての項目を設定ウィンドウに追加することができます。また、列一覧ツリーから列を設定ウィンドウにドラッグ・ドロップすると、その項目を設定ウィンドウに追加することができます。

表の順序の入れ替え

表ウィンドウ内の表をドラッグして、表示の順序を変更することができます。また、表をデータベースツリーや列一覧ツリーにドロップすると、表ウィンドウから表を削除することができます。データベースツリーや列一覧ツリーからドラッグする表を、表ウィンドウの表と表の間にドロップすることもできます。

表の選択と項目の選択

表ウィンドウで表示されている表名と項目名は、それぞれクリックして選択することができます。表名または項目名は、選択されると反転表示されます。反転表示された表名または項目名を再度クリックすると、選択は解除されます。Ctrl キーや Shift キーを使用して項目を効率的に選択することもできます。

列名： データベースにより、次のいずれかが表示されます。

列説明： 列説明または列名が表示されます。

(NEC RDB サーバ)

空白値： NULL 値を許す場合に「yes」、許さない場合に「no」が表示されます。

(NEC RDB サーバ以外)

表名： データベースにより次のいずれかが表示されます。

スキーマ： (富士通 Symfoware、IBM DB2、
NEC RDB サーバ (A-VX を除く))

表説明または表名： (NEC RDB サーバ A-VX, RIQS
II V1)

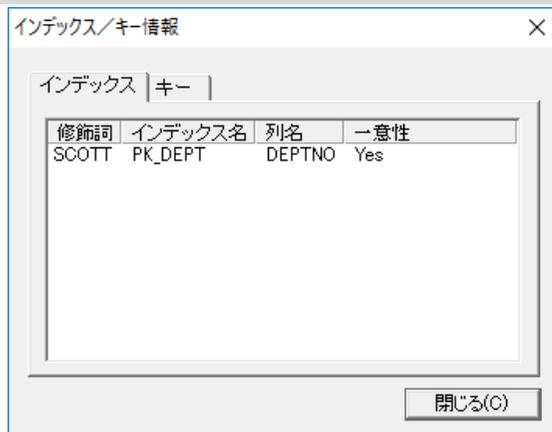
オーナー名： (Oracle、その他)

キーなどの表の情報を確認する

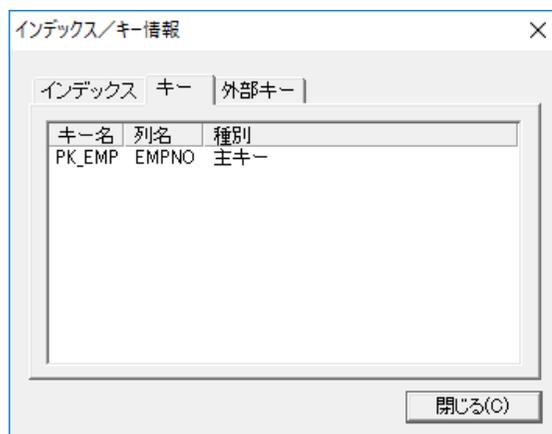
Oracle、IBM DB2、ODBC の場合で、データベース上で表にインデックス、キー、外部キー、複合キーなどが定義されている場合は、これらの情報を確認することができます。情報を確認する表名を右クリックして表示されるポップアップメニューから [インデックス/キー情報 (I)] を選択すると、[インデックス/キー情報] ダイアログが表示されます。[インデックス/キー情報] ダイアログの各タブを切り替えてそれぞれの情報を表示することができます。



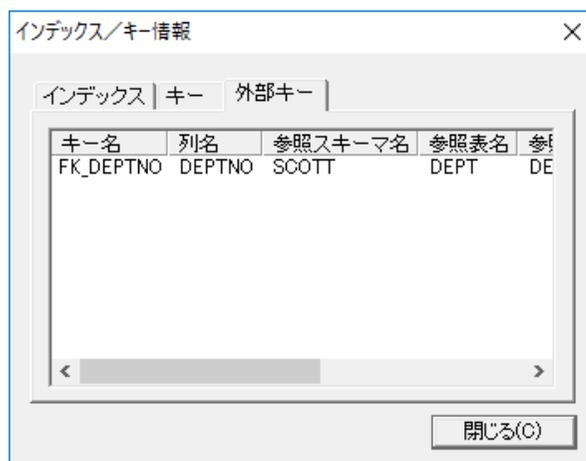
[インデックス] タブ



[キー] タブ



[外部キー] タブ



インデックス、キー、外部キー、複合キーのいずれも持たない表の場合は、ポップアップメニューに「インデックス/キー情報（ありません）(I)」と表示され、このメニュー項目は使用できません。また、[インデックス/キー情報] ダイアログの各タブは該当する情報がある場合のみ表示され、各タブに該当する情報がない場合はタブそのものが表示されません。

表の情報を更新する

表ウィンドウを右クリックして表示されるポップアップメニューから [表情報の更新 (R)] を選択すると、表ウィンドウにある表の最新情報を取得し、表情報を更新することができます。

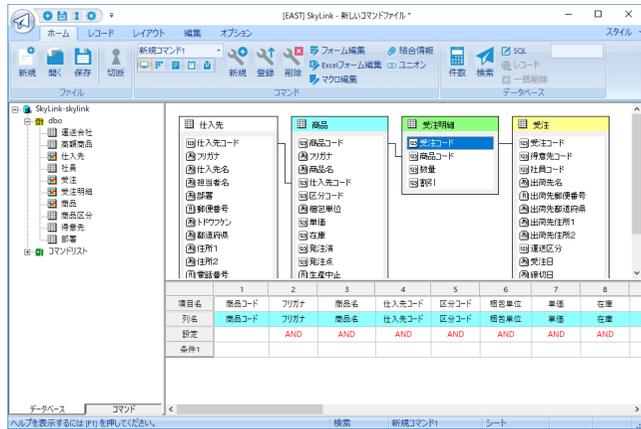
3.5.5 設定ウィンドウ

設定ウィンドウの操作について説明します。検索を行うまでの連続した手順は後述します (☞ 3.5.6 検索前の手順)。

検索や更新を行う表の項目や条件を設定するためには、目的の項目を設定ウィンドウに追加する必要があります。表ウィンドウ、データベースツリー、コマンドツリーまたは列一覧ツリーから設定ウィンドウに目的の項目をドラッグ・ドロップすると、項目を設定ウィンドウに追加することができます。また、特定の表のすべての項目を追加する場合は、表ウィンドウ、データベースツリーまたは列一覧ツリーから設定ウィンドウに目的の表をドラッグ・ドロップすると、すべての項目を追加することができます (☞ 3.5.3 データベースツリー) (☞ 3.5.4 表ウィンドウ)。

☞ 参考

表ウィンドウ、データベースツリー、コマンドツリーまたは列一覧ツリーからドラッグ・ドロップする以外に、追加する項目を選択して、SkyLink ボタンの [編集 (E)] - [選択列追加 (T)] を選択すると、選択した項目を設定ウィンドウに追加することができます。また、表ウィンドウ、コマンドツリーまたは列一覧ツリーで追加する項目をダブルクリックしても、目的の項目を設定ウィンドウに追加することができます。また、特定の表のすべての項目を追加する場合は、表ウィンドウ、データベースツリー、コマンドツリーまたは列一覧ツリーで目的の表をダブルクリックすると、表のすべての項目を設定ウィンドウに追加することができます。



参考

異なる表の項目を設定ウィンドウに追加する場合は、異なる表が表結合されている必要があります。結合されていない表の項目は、設定ウィンドウに追加することはできません（☞ 3.11 表を結合して検索）。

項目の順序の入れ替え

設定ウィンドウ内の項目の列名をドラッグして、項目の順序を変更することができます。また、項目の列名を表ウィンドウにドロップすると、設定ウィンドウから項目を削除することができます。表ウィンドウからドラッグする項目を、設定ウィンドウの項目と項目の間にドロップすることもできます。

項目の選択

設定ウィンドウで表示されている項目は列名の行をクリックして選択することができます。列名は、選択されると反転表示されます。反転表示された列名を再度クリックすると、選択は解除されます。Ctrl キーや Shift キーを使用して項目を効率的に選択することもできます（☞ 3.5.6 検索前の手順）。

	1	2	3	4	5	6	7
項目名	商品コード	フリガナ	商品名	仕入先コード	区分コード	梱包単位	単価
列名	商品コード	フリガナ	商品名	仕入先コード	区分コード	梱包単位	単価
設定		AND	AND	AND	AND	AND	AND
条件1							

選択した項目を右クリックすると、ポップアップメニューが表示されます。ポップアップメニューのメニュー項目は、状況に応じて変わります。

	1	2	3	4	5	6	7
項目名	商品コード	フリガナ	商品名	仕入先コード	区分コード	梱包単位	単価
列名	商品コード	フリガナ	商品名	仕入先コード	区分コード	梱包単位	単価
設定		AND	AND				AND
条件1							

全項目を削除(A)
 全項目の設定・条件を削除(L)
 選択項目を削除(S)
 選択項目の設定・条件を削除(C)

参考

[オプション]カテゴリ[オプション]ボタン  の [レコード] タブ [列番号を表示する (N)] にチェックしていない場合、設定ウィンドウの先頭行の列番号は表示されません。また、列数の上限は SkyLink の版により異なります (☞ 1.3 SkyLink の仕様)。

項目名

ここでいう項目名は、検索結果を出力した際に列のタイトルとして使用される名前です。項目名をクリックすると項目名を入力して変更することができる状態となります。デフォルトは設定した列の列名です。

参考

項目名を右クリックすると背景がグレーとなり、この項目は条件設定のみで使用され、データの抽出は行われません。

列名

表ウィンドウ、データベースツリーまたは列一覧ツリーから追加した項目の列名または列説明が表示されます。

設定

設定欄をクリックすると [設定] ダイアログが表示されます。[設定] ダイアログではソート、演算、グループ化などの設定を行うことができます (☞ 3.7 レコードを検索する)。

条件 1～8

条件1～8欄をクリックすると [条件] ダイアログが表示されます。[条件] ダイアログでは検索条件を指定することができます。

条件は最大 8 個まで指定することができます。

また、個々の条件間の検索条件をかつ (AND) / または (OR) で指定することができます (☞ 3.7 レコードを検索する)。

参考

項目「社員番号」の設定欄はセル A になります。項目「マネージャ番号」の条件 1 欄はセル B です。

	1	2	3	4	5
項目名	社員番号	社員名	フリガナ	マネージャ番号	給与
列名	社員番号	社員名	フリガナ	マネージャ番号	給与
設定		AND	AND	AND	AND
セル A					
セル B					
	条件1				

それぞれのセルをクリックして、検索条件の設定を行います。

3.5.6 検索前の手順

すでにコマンドを登録している場合は、コマンド一覧コンボボックスからコマンドを選択すれば、検索の準備は完了です。

ここでは、コマンドを新規作成して登録するまでの手順を説明します（☞ 3.10 コマンド）。

例として、表「社員」の「社員番号」「社員名」「フリガナ」「マネージャ番号」「給与」「部門番号」「生年月日」という項目を検索する場合にメイン画面で行う、検索の前段階の操作手順を説明します。

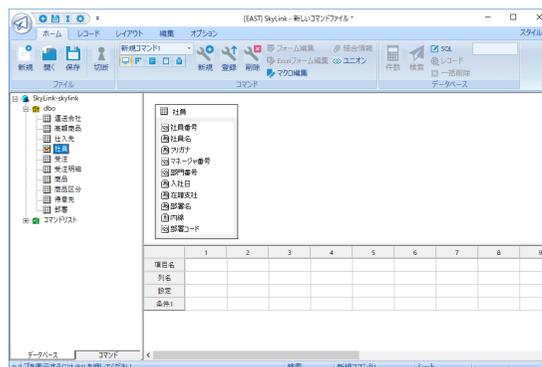
1 新規ボタンをクリックする

コマンド一覧コンボボックスに「新規コマンド + 番号」と表示され、設定ウィンドウはクリアされて空になります。

コマンド名は、手順6でコマンドの登録を行う際に変更することができます。

2 表を選択する

データベースツリーから表「社員」を探し、その表名をドラッグして表ウィンドウにドロップします。表名をダブルクリックすることでも表ウィンドウに追加することができます。



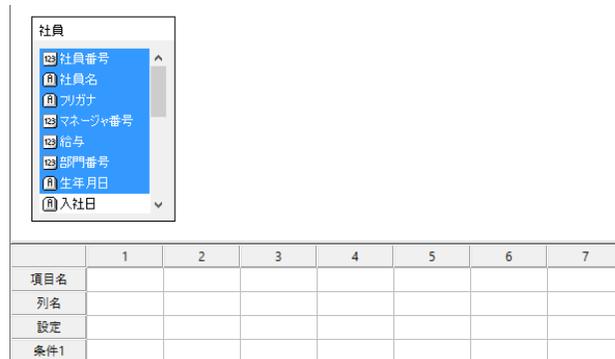
参考

表ウィンドウ内に表テーブルを配置した時、既に配置された表の中に同名の項目が存在する場合には、自動的に結合が行われます。新しい表テーブルの項目が（Null 許可）でなく、既に配置された項目名と同名の場合に結合されます。

3 項目を選択する

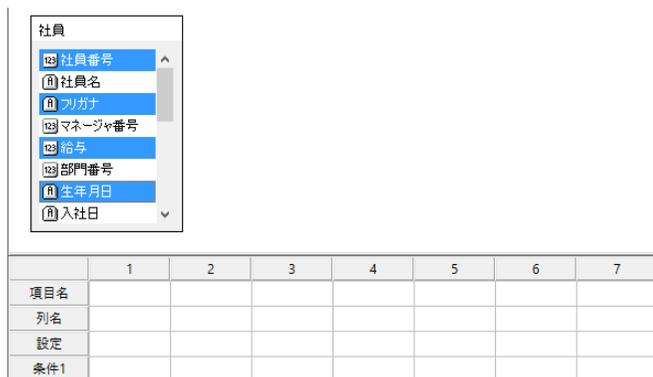
表ウィンドウから表「社員」の「社員番号」「社員名」「フリガナ」「マネージャ番号」「給与」「部門番号」「生年月日」各項目を設定ウィンドウにドラッグ・ドロップします。

Ctrl キーまたは Shift キーを押しながらクリックすると、表ウィンドウの項目を効率的に選択できます。



	1	2	3	4	5	6	7
項目名							
列名							
設定							
条件1							

「社員番号」をクリックして選択しておいて、Shift キーを押しながら「生年月日」をクリックした状態



	1	2	3	4	5	6	7
項目名							
列名							
設定							
条件1							

Ctrl キーを押しながら「社員番号」「フリガナ」「給与」「生年月日」をクリックした状態

これらの状態で、選択されている項目のうちいずれかをドラッグすれば、他の選択項目もいっしょに設定ウィンドウにドロップ

プすることができます。

参考

クラシックモードでは、項目を選択する際に間違えて他の項目を選択してしまった場合は、もう一度 Ctrl キーを押しながらその項目をクリックすると、選択を解除することができます。

4 設定ウィンドウを確認する

設定ウィンドウに項目が表示されていれば、検索処理を実行することができます。設定ウィンドウの内容を元に検索処理は行われるので（次の場合を除く：☞ 3.7.6 SQL 編集）、表示を良く確認する必要があります。また、設定ウィンドウで検索条件やグループ化、表結合などの指定も行うことができます（☞ 3.7 レコードを検索する）（☞ 3.11 表を結合して検索）。

	1	2	3	4	5	6
項目名	社員番号	社員名	フリガナ	マネージャ番号	給与	部門番号
列名	社員番号	社員名	フリガナ	マネージャ番号	給与	部門番号
設定		AND	AND	AND	AND	AND
条件1				=3		
条件2						

項目の移動

現在「社員番号」「社員名」「フリガナ」「マネージャ番号」「給与」「部門番号」「生年月日」の順に並んでいますが、「マネージャ番号」を「部門番号」の次に移動したい場合は次のようにドラッグします。

	1	2	3	4	5	6
項目名	社員番号	社員名	フリガナ	マネージャ番号	給与	部門番号
列名	社員番号	社員名	フリガナ	マネージャ番号	給与	部門番号
設定		AND	AND	AND	AND	AND
条件1				=3		
条件2						

項目名を変更する

設定ウィンドウの項目名は、検索を実行して出力する際の列の見出し、タイトルです。最初は項目名に列名と同じ名前が表示されています。「給与」を「基本給」という見出しに変更する場合は、項目名をクリックして「基本給」と入力した後Enter キーを押して、変更を確定します。

	1	2	3	4	5	6	7
項目名	社員番号	社員名	フリガナ	基本給	部門番号	マネージャ番号	生年月日
列名	社員番号	社員名	フリガナ	給与	部門番号	マネージャ番号	生年月日
設定		AND	AND	AND	AND	AND	AND
条件1						=3	
条件2							

5 検索レコードの出力先を指定する

これから検索するレコードを画面／アプリケーション／ファイル／クリップボードのどれに出力するのかを指定します（☞ 3.9 検索レコードの出力先）。最初は出力先に画面（シート画面／フォーム画面）が選択されています。

6 コマンド登録ボタンをクリックする

手順5までで検索を実行する準備ができましたが、現在の設定ウィンドウの内容と出力先を記憶しておいて再利用するために、コマンドに登録します（☞ 3.10 コマンド）。

7 検索実行ボタンをクリックして検索処理を実行する (☞ 3.7 レコードを検索する)

以上の手順通りに進まず、正しい操作に戻る方法が解らない場合は前のページをご覧ください。上の手順以外にも操作方法はいくつかあります（☞ 3.5.3 データベースツリー）（☞ 3.5.4 表ウィンドウ）（☞ 3.5.5 設定ウィンドウ）。

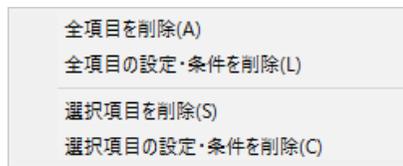
次の検索を行う場合→手順1に戻る

今度は別の項目で検索を行う場合、手順1に戻り、設定する表・項目を変更して同様繰り返します。

設定ウィンドウをクリア

設定ウィンドウの項目を別の項目に変更したい場合は、設定ウィンドウをクリアします。

設定ウィンドウを右クリックして表されるポップアップメニューから [全項目を削除 (A)] を選択するか、メニューの [編集 (E)]-[全項目を削除 (A)] を選択します。



参考

上のポップアップメニューの [全項目の設定・条件を削除 (L)] またはメニューの [編集 (E)]-[全項目の設定・条件を削除 (L)] を選択すると、設定ウィンドウに設定された条件と項目設定のみがクリアされます（☞ 3.7 レコードを検索する）。

3.6

SkyLinkのモード

検索／更新用 SkyLink には 6 つのモードがあります。

3.6.1 SkyLinkのモードについて

検索用 SkyLink はモードの切り替えはなく、常に「検索モード」となります。

検索／更新用 SkyLink では、データベースのレコードに対して行う処理の種類によって、「モード」を切り替えて操作を行います。SkyLink のモードには次のものがあります。

検索モード

レコードの検索を行うモードです (☞ 3.7 レコードを検索する)。

挿入モード

レコードを挿入するモードです (☞ 3.12 レコードを挿入する)。

削除モード (キー削除モード)

削除を前提に検索したレコードから、実際に削除するレコードをキーで絞り込み、削除を行うモードです (☞ 3.13 レコードを削除する)。

削除モード (一括削除モード)

検索したレコードをすべて削除するモードです (☞ 3.13 レコードを削除する)。

更新モード (キー更新モード)

更新を前提に検索したレコードから、実際に更新するレコードをキーで絞り込み、レコードの項目データを更新するモードです。レコードの挿入およびキーによるレコードの削除も、同時に行えます (☞ 3.14 レコードを更新する)。

更新モード (一括更新モード)

検索したすべてのレコードの指定項目について、すべて指定した同一の値で更新を行うモードです (☞ 3.14 レコードを更新する)。

モードの選択は、[データベース]パネル[モード]ボタンを選択して表示されるメニューから行います。メニューには、現在選択されているモードに●マークが付いて表示されます。



また、ステータスバーにも選択されているモードが表示されます。

3.6.2 モードの変更

SkyLink 起動時のモードは、検索モードです。必要に応じて、各モードに変更してください。モードの変更は、基本的に自由に行えますが、レコード画面でのレコードの編集状態によっては、データの不整合を防ぐためにモードを変更できないことがあります。

以下は、各モードにおいて留意する点です。

〇〇モード → レコード画面からメイン画面に戻る

検索モードにリセットされます。

〇〇モード → 挿入モード

検索結果レコードがある場合は、検索結果が破棄されます。また、レコード画面で編集を行っていた場合は、編集内容が破棄されます。挿入するレコードを入力するための画面が表示されます(☞ 3.12 レコードを挿入する)。

挿入モード → 〇〇モード

挿入モードからモードを変更するためには、データ検索の実行が必要となるためレコード画面を終了してメイン画面に戻り、メイン画面でモードを変更します。

一括削除モード

唯一、検索を実行せずにメイン画面で処理を行えるモードです(☞ 3.13 レコードを削除する)。

検索モード → キー削除/キー更新モード

レコード画面でキーに指定する項目のデータが変更されている場合は、モードを変更できません。

キー更新モード → キー削除/一括削除モード

レコード画面でレコードの追加を行った後は、モードを変更できません。

キー更新モード → 一括更新モード

レコード画面でレコードの追加または削除を行った後は、モードを変更できません。

検索／挿入／キー更新モード

レコード画面で表示されているレコードのデータを編集することができます (□3.8 レコード画面)。しかし検索モードでは、編集の結果をデータベースに反映することはできません。

📖 参考

モードを変更すると、前のモードで行っていたレコードの挿入・削除・更新の処理は実行されません。処理をデータベースに反映させるためには、モードを変更する前にメニューの [レコード (R)]-[処理実行 (X)] を選択して、処理を実行してください。

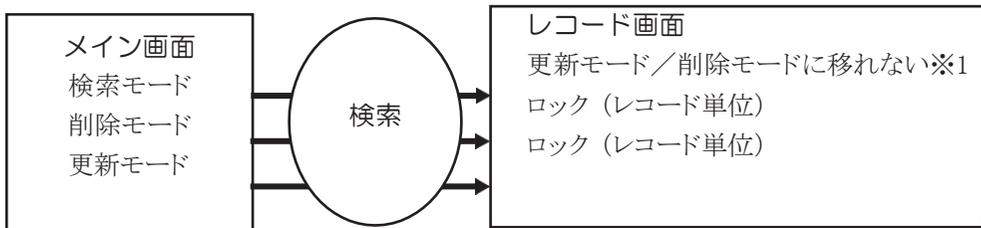
📖 参考

検索モードで検索した後、そのまま更新モードや削除モードへ移行できない場合があります (☞ 3.6.3_レコードのロック)。

3.6.3 レコードのロック

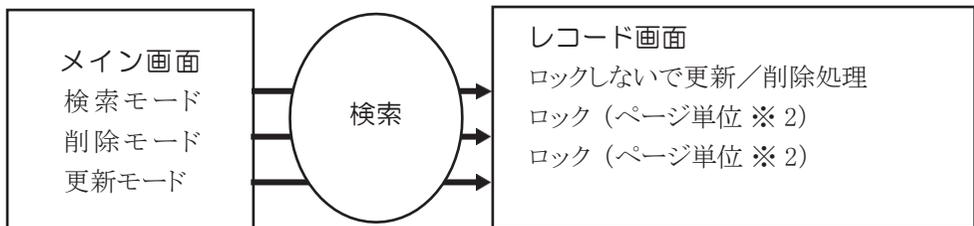
更新／削除処理を行う場合は、検索結果が他のクライアントマシンから更新されることのないように、SkyLink がロック処理を行う場合があります。その場合はステータスバーのモードを表示するフィールドに🔒が表示されます。

Oracle



※1 ロック処理が必要なため、モードの変更はできません。

富士通 Symfoware / IBM DB2 / ODBC



※2 データベースにもよりますが、レコードに対してページ単位 (例えば 4KB) で

ロックが掛かります。レコード単位でロックを掛けることができるデータベースもありますので、詳細については各データベースのマニュアルをご覧ください。

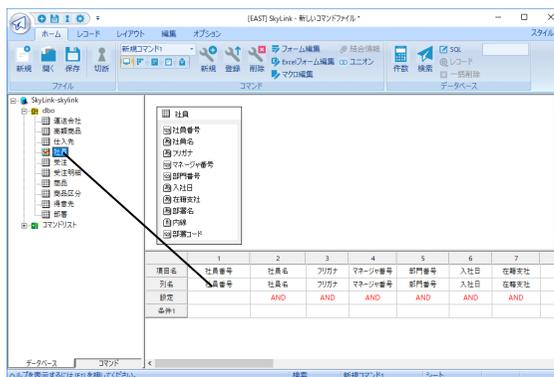
3.7

レコードを検索する

データベースの表から指定した条件を満たすレコードを抽出し、その結果を出力することを検索といいます。

3.7.1 検索の手順

- 1 検索の対象となる表を設定ウィンドウに設定する
次の画面では、表「社員」をデータベースツリーから設定ウィンドウにドラッグしています（☞ 3.5 検索の用意）。



- 2 検索モードを確認する

検索用 SkyLink では常に検索モードとなるため、この手順は不要です。検索／更新用 SkyLink をお使いの場合のみ、ステータスバーに「検索」と表示されていることを確認してください。「検索」と表示されていない場合は、[データベース] パネル [モード]-[検索 (S)] を選択します（☞ 3.6 SkyLink のモード）。

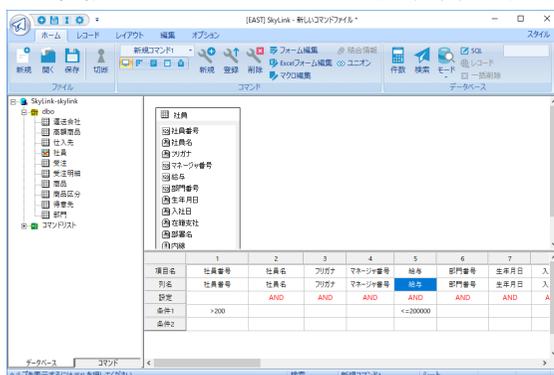


選択したモードの「検索」が表示されます。



3 検索条件を指定する

設定ウィンドウで検索条件を指定します（☞ 3.7.2 検索条件の設定）。検索条件で検索を実行すると、表「社員」のすべてのレコードが出力されます。次の画面では、社員番号が 200 より大きく、給与が 200000 より少ないという条件を設定しています。

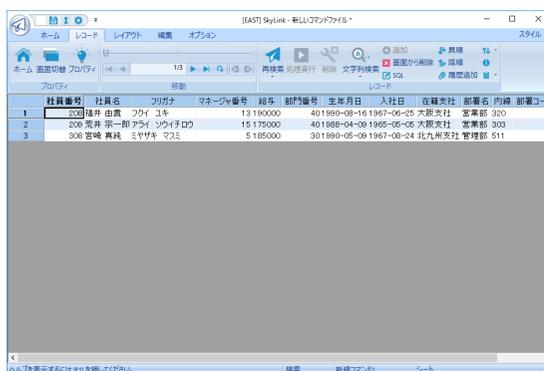


4 検索レコードの出力先を指定する

これから検索するレコードを、画面／アプリケーション／ファイル／クリップボードのどれに出力するのかを指定します（☞ 3.9 検索レコードの出力先）。デフォルトは画面（シート画面／フォーム画面）となっています。

5 検索を実行する

検索実行ボタン  または SkyLink ボタン  -[検索 (S)]-[レコード (S)] をクリックして、検索処理を実行します（☞ 3.7.4 検索の実行）。手順4で出力先を画面のシート表示に指定した場合は、次のように検索結果が出力されます（☞ 3.8 レコード画面）。



6 検索レコードを確認・利用・加工する

検索レコードを画面に出力した場合、画面に表示されている

レコードの中から目的のレコードを「文字列検索」「文字列置換」(☞ 4.3.8 [編集 (E)]-[文字列検索 (S)]、☞ 4.3.9 [編集 (E)]-[文字列置換 (E)]) の機能により探すことができます。また、必要なデータを CSV ファイル・HTML ファイル・XML ファイルに再出力 (エクスポート) (☞ 4.10.14 [レコード (R)]-[エクスポート (S)]-[アプリケーション (A)]、☞ 4.10.15 [レコード (R)]-[エクスポート (S)]-[ファイル (F)]) することもできます。さらに、画面上でコピー・貼り付けを行って、レコードデータを編集することができます (☞ 3.8 レコード画面)。

3.7.2 検索条件の設定

検索レコードを Excel に出力する場合は、書式化して出力することもできます (☞ 3.16 Excel フォーム編集)。

設定ウィンドウの [条件] 欄をクリックすると、[条件] ダイアログが表示され、検索条件を設定することができます。

	1	2	3	4	5	6	7
項目名	社員番号	社員名	フリガナ	マネージャ番号	給与	部門番号	生年月日
列名	社員番号	社員名	フリガナ	マネージャ番号	給与	部門番号	生年月日
設定		AND	AND	AND	AND	AND	AND
条件1							

項目「社員番号」に検索条件を設定する場合はここをクリックします。

[条件] ダイアログで [演算子] を選択し、[条件の値] を入力して [設定 (S)] ボタンをクリックすると、[条件リスト] に条件が設定されます。同様の操作を繰り返して、複数の条件を設定することができます。対象項目に設定された検索条件は、[条件 1] ~ [条件 8] まで順番に設定ウィンドウに表示されます (検索条件を 8 個以上指定したい場合 : ☞ 3.7.7 検索例)。

[条件] リスト

対象項目 (上の場合は項目「社員番号」) に設定されているすべての検索条件を表示します。検索条件は、1 項目につ

き最大 8 個まで指定でき、それらの条件を「かつ(AND)」あるいは「または (OR)」を使用して結び付けることができます。

[条件] リストからすでに設定した条件を選択すると、その条件は変更・削除が可能となります。

[追加] が選択されている場合 (デフォルト) は、新しい条件を設定することができます。

[かつ (A)] [または (O)] オプションボタン

複数の条件を設定した場合に使用可能となります。[条件] リストで選択した条件と、そのひとつ上の条件を結びつける方法を指定します。先頭の条件が選択されている場合は、使用できません。

[開カッコ ()] コンボボックス

複数の条件を設定した場合で、優先条件をつける場合に使用します。[条件] リストで設定を行う条件を選択し、コンボボックスの▼をクリックして表示される一覧から、'1' ~ '7' を選択します。

'7' は7重まで指定することができます。

例 : 条件 1 <>2

条件 2 AND (<=10 ←条件2に [開カッコ ()] コンボボックスで '1' を設定

条件 3 AND >=0) ←条件3に [閉カッコ ()] コンボボックスで '1' を設定

開カッコと閉カッコの数は、対応させる必要があります。

[演算子] コンボボックス

条件で使用する演算子を、▼をクリックして表示される一覧から選択します。一覧に表示される演算子は以下のとおりです。

演算子	意味	対応するデータ型
=	等しい	文字型 数値型
<>	等しくない	文字型 数値型
>=	以上	文字型 数値型
>	大きい	文字型 数値型
<=	以下	文字型 数値型
<	小さい	文字型
= 空白値	空白	文字型 数値型

<> 空白値	空白以外	文字型 数値型
=%	LIKE (部分一致している)	文字型
<>%	NOT LIKE (〃していない)	文字型
IN	指定した値を含む	文字型 数値型
<>IN	指定した値を含まない	文字型 数値型

[条件の値] コンボボックス

対象項目が日本語型 (マルチバイト型) の場合は、自動的に日本語入力状態になります。数値または文字を直接入力するか、▼をクリックして表示される一覧から、列名を選択します。一覧には、設定ウィンドウに表示されているそれぞれの項目の属する表 (表ウィンドウで表結合されている表も含む) のすべての項目が表示されます。



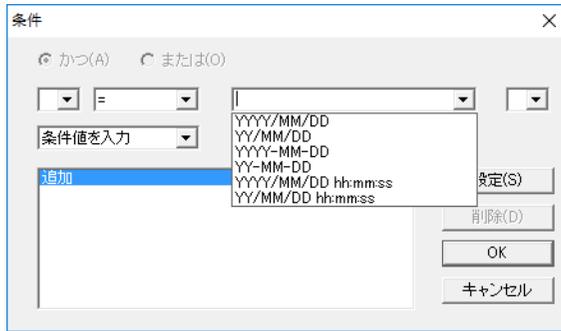
コンボボックスから列を選択し、演算子と値を追加することもできます。

また、部分一致検索では、'%' (複数文字に対応) と '_' (1文字に対応) を対象の文字に指定します。日本語項目 (NEC RDB サーバ対応 DB、富士通 RDA-SV 対応 DB) では全角の '%' および '_' を使用します。

入力例: Sky% %LINK S_yL_nk
 スカイ% %株式会社 第__生命

部分一致検索で可変条件を指定した場合に、検索条件に '%' や '_' が一つもない場合、指定した入力値の前後に自動的に '%' を付加して部分一致検索を行います。

また、コンボボックスよりシステム日付のフォーマットを選択することでシステム日付を条件の値にすることもできます。



例えば [YYYY/MM/DD] を選択すると、エディット部分には [!%Y/%m/%d] と表示されます。以下の予約文字を [!] で囲んで指定します。

- % a 曜日の省略名
- % A 曜日の正式名
- % b 月の省略名
- % B 月の正式名
- % c ロケールに応じた日付と時間の表現
- % d 10 進数で表す月の日付 (01 ~ 31)
- % H 24 時間表記の時間 (00 ~ 23)
- % I 12 時間表記の時間 (01 ~ 12)
- % j 10 進数で表す年頭からの日数 (001 ~ 366)
- % m 10 進数で表す月 (01 ~ 12)
- % M 10 進数で表す分 (00 ~ 59)
- % p 現在のロケールの AM/PM
- % S 10 進数で表す秒 (00 ~ 59)
- % U 10 進数で表す週の通し番号。日曜日を週の最初の日とする (00 ~ 53)。
- % w 10 進数で表す曜日。日曜日を 0 とする (0 ~ 6)。
- % W 10 進数で表す週の通し番号。月曜日を週の最初の日とする (00 ~ 53)。
- % x 現在のロケールの日付表示
- % X 現在のロケールの時刻表示
- % y 10 進数で表す西暦の下 2 桁 (00 ~ 99)
- % Y 10 進数で表す 4 桁の西暦
- % z、% Z 時間帯の名前またはその省略名。時間帯がわからない場合には文字を入れない。
- %% パーセント記号

上記の文字以外を入力した場合は、入力された文字がそのまま表示されます。また、SQL 編集で SQL 文を編集した場合は、可変値条件指定 [#] の中に [! 条件初期値] というよう

に記述してください。

WOW01. 列名 = '[# 列の値 = [! 初期]]' のように指定すると、



このように、表示されます。

検索列が文字形式や日付形式の場合は、上記の様に可変値条件指定 [#] をシングルクォーテーションで囲んでください。

[条件の種類] コンボボックス

をクリックして表示される一覧から、条件の種類を選択します。一覧には、[条件値を入力]、[列参照]、[副問合せ]、[候補検索] が表示されます。

[条件の値] コンボボックスに、演算子で比較する数値や文字列を入力した場合は、[条件値を入力] を選択します。さらに、[演算子] コンボボックス に [= 空白値 <> 空白値] 以外の演算子を選択した場合は、[可変 (V)] チェックボックスが表示されます (デフォルトはチェックなし)。比較する数値や文字列を検索時に入力して設定する場合は、[可変 (V)] チェックボックスをクリックしてチェックをつけます。チェックをした場合は、検索を実行すると [検索条件入力] ダイアログが表示され、値を入力する必要があります (☞ 3.7.5 検索時に条件値を変更する)。「>=3000」という条件に対して「可変」を指定した場合、条件の表示は「>=?3000」となります。また、検索条件入力フォームを編集することができます。

[条件の値] コンボボックスに、ある特定の数値や文字列ではなく列名を入力した場合は、[列参照] を選択します。例えば、条件の演算子が「=」、値が「部署 . 営業」のとき、[列参照] を選択しないと、対象項目の項目データが「部署 . 営業」であるレコードを検索します。[列参照] を選択すると、対象項目の項目データが表「部署」の列「営業」に存在するデータのいずれかと一致するレコードを検索し

ます。

[演算子] コンボボックス に [IN] または [<>IN] 以外の演算子を選択し、[条件の値] コンボボックスに副問合わせの条件を入力した場合は、[副問合せ] を選択します。さらに、[演算子] コンボボックス に [= 空白値] [<> 空白値] 以外の演算子を選択した場合は、[All] または [Some(Any)] オプションボタンが表示されます (デフォルトは [All])。副問合わせの条件をすべて満たす検索を行う場合は、[All] を、一部の条件を満たす検索を行う場合は、[Some(Any)] を選択します。

別のコマンドの検索結果リストから条件を選択する場合は、[候補検索] を選択します。その際、条件値に指定したコマンドの検索結果の先頭列が条件を選ぶコンボボックスに表示され、検索結果の2番目の列が、実際に検索を行う値として指定されます。

例えば社員コードを条件値としたい場合、別のコマンドにて社員名、社員コードの順で「社員リスト」という名前のコマンドを作成しておきます。その後、[候補検索] を指定し [条件値] に「社員リスト」を選択すると、自動的に可変検索となり、検索実行時に「社員名」の一覧が設定されたコンボボックスが表示され、選択した社員の社員コードを条件として検索を行う事が出来ます。

参考

Ver.12までは検索条件フォームを作成すれば実現できましたが、コマンドを作成するだけで同様の検索を行う事が可能となりました。

[閉カッコ] コンボボックス

複数の条件を設定した場合で、優先条件の開カッコをつけた場合に使用します。[条件] リストで設定を行う条件を選択し、 をクリックして表示される一覧から、'1' ~ '7' を選択します。

') ' は7重まで指定することができます。

例 : 条件 1 <>2

条件2 AND (<=10 ←条件2に [開カッコ (] コンボボックスで '1' を設定

条件3 AND >=0) ←条件3に [閉カッコ] コンボボックスで '1' を設定

開カッコと閉カッコの数は、対応させる必要があります。

[設定 (S)] ボタン

[条件リスト] で[追加] が選択されている場合(デフォルト)は、[設定 (S)] ボタンをクリックすると、入力・選択した[演算子]や[条件の値]などを新しい条件を設定し、[条件リスト]に条件を追加することができます。

[条件リスト] で設定済みの条件が選択されている場合は、[設定 (S)] ボタンをクリックすると、入力・選択した[演算子]や[条件の値]などを選択した条件に上書きして変更することができます。

[削除 (D)] ボタン

クリックすると、[条件リスト] で選択した条件を[条件リスト] から削除します。

[OK] ボタン

クリックすると、[条件リスト] に表示された内容で条件を確定し、[条件] ダイアログを閉じます。ダイアログが閉じると、[条件リスト] の内容が、順番に設定ウィンドウの[条件 1] ~ [条件 8] に表示されます。

[キャンセル] ボタン

追加・変更された条件をキャンセルして[条件] ダイアログを閉じます。

3.7.3 ソート・演算・グループなどの設定

設定ウィンドウの[設定] 欄をクリックすると、[設定] ダイアログが表示され、ソート・演算・グループ化などの設定を行うことができます。設定欄に何も設定されていない場合には、「AND」と表示されています。

	1	2	3	4	5	6	7
項目名	社員番号	社員名	フリガナ	マネージャー番号	給与	部門番号	生年月日
列名	社員番号	社員名	フリガナ	マネージャー番号	給与	部門番号	生年月日
設定		AND	AND	AND	AND	AND	AND
条件1							

項目「社員番号」に設定する場合はここをクリックします。

[設定] ダイアログの各タブを切り替えて、対象項目に各種の設定を行います。対象項目に設定されたソート・演算・グループ化などの

設定内容は、設定ウィンドウの[設定] 欄に表示されます。

[全体] タブ



他の項目の条件に対して

[かつ (A)] オプションボタン

[または (O)] オプションボタン

対象項目の検索条件全体と他の項目の検索条件全体を結び付ける際に、「かつ (A)」を使用するか、「または (O)」を使用するかを選択します。つまり、対象項目を基準とした場合、『最も近い左項目の検索条件「かつ／または」対象項目の検索条件』となります。複数の項目に検索条件を指定していない場合や、検索条件を指定する項目のうち一番左に対象項目が位置する場合は、この指定は意味がありません。対象項目が設定ウィンドウの先頭（「1」の列）にある場合、[かつ (A)] [または (O)] のいずれも指定できません（☞ 3.7.7 検索例）。

「かつ」「または」は、設定ウィンドウでは次のように表現されます。

[かつ] AND

[または] OR

ソート

[なし (N)] オプションボタン

[昇順 (S)] オプションボタン

[降順 (D)] オプションボタン

対象項目の値を基準にして、検索レコードを順番に並べることができます。例えば、対象項目が数値項目の場合に [昇順 (S)] を選択するとレコードは「1, 2, 3・・・」のように並び [降順 (D)] を選

択するとレコードは「・・・3, 2, 1」のよう並びます。ひとつのコマンドにソートは 8 個まで指定できます。

参考

ソート指定だけを行う場合、設定ウィンドウの指定したい列番号をクリックすると、昇順、降順、なしとソート指定を変更することができます。

条件全体のカッコ

[左 (L)] コンボボックス

[右 (R)] コンボボックス

対象項目の検索条件と他の項目の検索条件を結び付ける際に、' ('、もしくは')' と条件付ける場合は、コンボボックスの▼をクリックして表示される一覧から、使用するカッコを選択します。' ('、')、は7重まで指定することができます。

[演算 (P)] コンボボックス

[演算する値] コンボボックス

対象項目の値に対して演算を行うことを設定します。▼をクリックして表示される一覧から、演算子を選択します。一覧に表示される演算子は以下のとおりです。

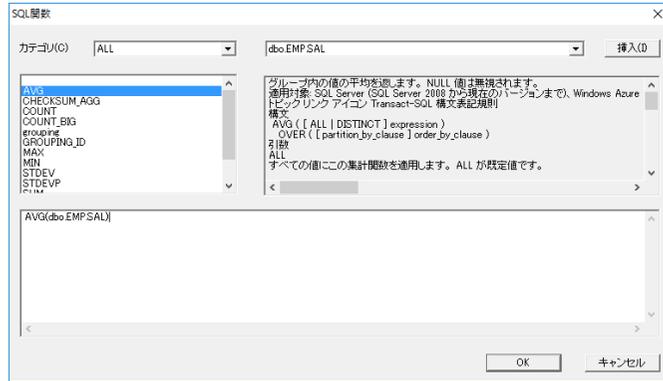
演算子	意味	対応するデータ型
*	乗算	数値型
/	除算	数値型
+	加算	数値型
-	減算	数値型
=	関数	文字型 数値型

[演算する値] コンボボックスは、対象項目が日本語型 (マルチバイト型) の場合は、自動的に日本語入力状態になります。数値または文字を直接入力するか、▼をクリックして表示される一覧から、列名を選択します。[演算する値] コンボボックスは、[条件] ダイアログの [条件の値] コンボボックスと同様に操作することができ (☞ 3.7.2 検索条件の設定)、複数列の演算が可能です。

Oracle の場合には、Oracle 関数をご使用頂けます。

[ズーム (Z)...] ボタンを使用することで [演算する値] コンボボックスへの入力を大きな画面で編集が可能です。また、接続が ODBC/SQL Server の場合は、関数一覧が使用できま

す。



参考

関数一覧に表示される内容は、SkyLink のモジュールがインストールされたフォルダに保管されています。
FunctionUsage_odbc.csv(ODBC 用) /
FunctionUsage_sqlsvr.csv(SQL Server 用)

[列参照として扱う (E)] チェックボックス

[演算する値] コンボボックスに、ある特定の数値や文字列ではなく列名を入力したときにチェックします。

▼をクリックして表示される一覧から列名を選択した場合は、デフォルトでチェックがつきます

[集計 (F)] コンボボックス

対象項目の値に対して集計を行うことを設定します。▼をクリックして表示される一覧から、集計関数を選択します。一覧に表示される集計関数は以下のとおりです。

集計関数	意味	対応するデータ型
平均	平均値	数値型
件数 (*)	検索レコード数	文字型 数値型
件数 (D)	検索レコード数※	文字型 数値型
最大	最大値	文字型 数値型
最小	最小値	文字型 数値型
合計	合計値	数値型

※重複レコードは 1 件と数える

[重複なし (H)] チェックボックス

チェックをつけると、重複したレコードを検索しません。[重複なし (I)] チェックボックスは、対象項目が設定ウィンドウの先頭の項

目の場合のみ、使用可能となります。

[データの抽出は行わない (X)] チェックボックス

チェックをつけると、データの抽出は行いません。設定ウィンドウで項目名を右クリックした場合も同様です。

[LIMIT句を使用する (T)] チェックボックス

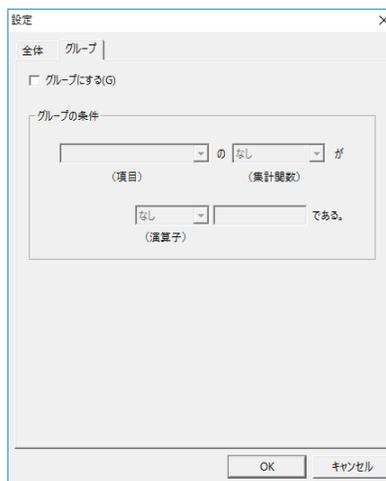
チェックをつけると、LIMIT句を指定する事ができます。

例えば、10番目のレコードから100行出力したい場合は、それぞれ10、100を指定します(接続したデータベースにより、左側の「レコード目」からを指定できない場合があります)。

📖 参考

設定を削除する場合は、[LIMIT句を使用する(T)]チェックボックスのチェックを外すか、設定ウィンドウの項目を全部削除すると、LIMIT句の設定が削除されます。

[グループ] タブ



[グループにする (G)] チェックボックス

対象項目をグループのキーとなる項目に設定することができます。対象項目をグループ化のキー項目としたい場合には、チェックをつけます。

グループの条件

[項目] コンボボックス

[集計関数] コンボボックス

[演算子] コンボボックス

[演算する値] ボックス

グループ化した中から、特定のグループを選びたい場合は [グループの条件] にその条件を指定します (☞ 3.7.7 検索例)。 [グループにする (G)] チェックボックスにチェックをつけると、 [グループの条件] が使用可能となります。

[項目] コンボボックスの ▾ をクリックして表示される一覧から、条件の対象となる列名を選択します。 [項目] コンボボックスは、 [条件] ダイアログの [条件の値] コンボボックスと同様に操作することができます (☞ 3.7.2 検索条件の設定)。

[集計関数] コンボボックスの ▾ をクリックして表示される一覧から、集計関数を選択します。 [集計関数] コンボボックスは、 [全体] タブの [集計 (F)] コンボボックスと同様に操作することができます。

[演算子] コンボボックスの ▾ をクリックして表示される一覧から、演算子を選択します。 [演算子] コンボボックスは、 [条件] ダイアログの [演算子] コンボボックスと同様に操作することができます (☞ 3.7.2 検索条件の設定)。

[演算する値] ボックスに、演算子で比較する数値や文字列を入力します。

[データ規則] タブ

設定

全体 | グループ

他の項目の条件に対して

かつ(A) または(O)

ソート

なし(N) 昇順(S) 降順(D)

条件全体のカッコ

左(L) ▾ 右(R) ▾

演算(P)

なし ▾ ▾

集計(F) 列参照として扱う(E) ズーム(Z)

なし ▾

重複なし(I)

データの抽出は行わない(X)

OK キャンセル

[キー項目にする (キー更新時) (K)] チェックボックス対象項目をキー更新時のキーとなる項目に設定することができます。対象項目をキー更新時のキー項目としたい場合には、チェックをつけます。

[入力条件] グループ

[入力値の種類] コンボボックス

すべての値、整数、小数点数、文字列(長さ指定)、選択リストから選びます。選択した種類によって、下に表示される条件が変わります。

[データ]、[最小値]、[最大値]の指定があります。

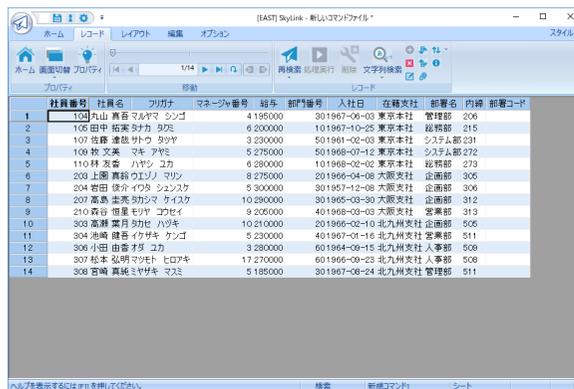
[デフォルト(V)] エディットボックス

データの初期値を指定します。

規則に反したデータが検索された場合、その行の背景の色が変わります。入力時に違反した場合は、メッセージが表示されます。

3.7.4 検索の実行

設定ウィンドウに項目と検索条件などを設定したら、検索実行ボタンまたは SkyLink ボタンから [検索 (S)]-[レコード (S)] をクリックして、データベースからレコードの検索を実行します。出力先をシート画面に設定している場合(☞ 3.9 検索レコードの出力先)は、次のように検索結果が表示されます。検索結果を確認してメイン画面に戻る場合は、ホームボタンをクリックします。レコード画面であるシート画面・フォーム画面の操作については後述します(☞ 3.8 レコード画面)。



社員番号	社員名	フリガナ	マネージ番号	給与	部門番号	入社日	在籍支社	部署名	内勤	部署コード
1	丸山 雅香 マルヤマ ユキコ		4185000	301967-06-03	東京本社	管理部	206			
2	105 田中 拓実 タナカ タツミ		6200000	101967-10-25	東京本社	総務部	215			
3	107 佐藤 達哉 サトウ タツヤ		3230000	501961-02-03	東京本社	システム部	231			
4	109 牧 文美 マキ アサヒ		5275000	501968-07-12	東京本社	システム部	272			
5	110 林 愛香 ハヤシ コウ		6280000	101968-02-02	東京本社	総務部	273			
6	203 上原 真純 ウヘハラ マコト		8275000	201966-04-08	大阪支社	企画部	306			
7	204 若田 隼介 ワカタ シュンスケ		5300000	301957-12-08	大阪支社	企画部	306			
8	207 高島 圭亮 タカシマ ケイスケ		10280000	301965-03-30	大阪支社	企画部	312			
9	210 森谷 悠星 モリヤ ユウセイ		8200000	401968-03-03	大阪支社	営業部	313			
10	303 斎藤 寛晃 サイトウ ヒロキ		10210000	201966-02-10	北九州支社	企画部	506			
11	304 池崎 健吾 イケザキ ケンゴ		5230000	401967-01-16	北九州支社	営業部	511			
12	306 小田 由香 オダ ユカ		3280000	601964-08-15	北九州支社	人事部	509			
13	307 松本 弘明 マツモト ヒロアキ		17270000	601966-08-23	北九州支社	人事部	508			
14	308 吉崎 真純 ヨシザキ マコト		6188000	301967-08-24	北九州支社	管理部	511			

検索されたレコード数は、ツールバーの件数表示フィールドに表示されます。レコード件数の多い場合や、複雑な検索条件を設定

した場合などは、レコード画面が表示されても検索処理中の場合があります。検索処理中は件数表示フィールドがカラーで表示されます(☞ 4.8.3 [オプション] [デザイン] タブ)。

参考

ODBC の場合、データベースからの応答を待つ最大時間を設定することができます(☞ 4.8.6 [ツール (T)] - [オプション (O)] [詳細] タブ)。

検索を中止する

検索処理中に検索実行ボタンをクリックすると、検索処理を中止します。

検索レコード件数のみ表示する

検索の対象となるレコード数のみ知りたい場合は、件数検索ボタンまたはメニューから [検索 (S)] - [レコード件数 (N)] をクリックします。レコード件数のみの検索処理が行われ、出力された件数がツールバーの件数表示フィールドに表示されます。



3.7.5 検索時に条件値を変更する

検索条件を設定する際に条件値を「可変」としておくと(☞ 3.7.2 検索条件の設定)、検索実行時に検索条件の値を変更することができます。例として、設定ウィンドウで次のような検索条件が設定されている場合について説明します。

可変の検索条件はグリーン色で表示される

	1	2	3	4	5
項目名	社員番号	社員名	フリガナ	生年月日	マネージャ番号
列名	社員番号	社員名	フリガナ	生年月日	マネージャ番号
設定		AND	AND	AND	AND
条件1	>=?100	=%'山%'		>=?1960/01/01'	
条件2	AND <=?			AND <=?1970/12/31'	
条件3	OR =9999				

「>=?100」など、? と表示されている検索条件はすべて、条件値の「可変」が指定されています。

検索条件入力

社員番号 >= 100

社員番号 <=

社員名 =% 山%

生年月日 >= 1960/01/01

生年月日 <= 1970/12/31

検索 キャンセル

検索実行ボタンをクリックし検索がスタートすると、[検索条件入力] ダイアログが表示されます。[検索条件入力] ダイアログには、可変に設定した検索条件がすべて表示されます。

社員番号には「>=?100」という条件が設定されているので、社員番号の入力欄には、条件を設定する際に入力されたデフォルトの値「100」が表示されています。特に入力を行わないと、そのまま100 が設定値となります。社員番号に「<=?」という条件が設定され、デフォルト値を入力していない場合は、社員番号の入力欄は空欄となります。この場合は、条件値を入力する必要があります。

[検索] ボタン

[検索条件入力] ダイアログに新規に入力した条件の値または検索条件の設定時に入力したデフォルト値を使用して、検索処理を行います。

[キャンセル] ボタン

検索を中止します。

3.7.6 SQL 編集

データベースに対して何らかの操作を行う場合、SQL と呼ばれる言語を使用します。

通常、ユーザーは SQL を意識することなく、表ウィンドウで表を選択したり設定ウィンドウで項目の設定を行えば検索を行うことができます。これは、SkyLink がユーザーに代わって SQL (SELECT 文) の作成、発行を行っているためです。さらに、SkyLink でサポートしていないタイプの検索処理を行いたい場合は、ユーザーが [SQL] ウィンドウで直接 SQL を編集することができます。SQL ボタンまたは SkyLink ボタン -[検索 (S)]-

[SQL(Q)] をクリックすると、[SQL] ウィンドウが表示されます。

```
SELECT WOW0001."社員番号", WOW0002."出荷先名", WOW0003."得意先コード", WOW0001."フリガナ"  
FROM "dbo"."社員" WOW0001, "dbo"."発注" WOW0002, "dbo"."得意先" WOW0003  
WHERE WOW0003."得意先コード" = WOW0002."得意先コード" AND WOW0002."社員コード" = WOW0001."社員番号"
```

[SQL] ウィンドウには、直前まで表示していた設定ウィンドウの内容が SQL 文で表示されています。

[SQL] ウィンドウは、入力欄のみとなっていますが、[SQL] ウィンドウ上を右クリックして表示されるメニューを選択して、SQL 編集に便利な機能を使用することができます。



[SQL] ウィンドウが表示されている状態で、再度 SQL ボタン  または SkyLink ボタン -[検索 (S)]-[SQL(Q)] をクリックすると、[SQL] ウィンドウが閉じ、設定ウィンドウが表示されます。[SQL] ウィンドウを閉じると、編集した内容は破棄されます。

[SQL] ウィンドウを表示した状態で検索実行ボタン  をクリックすると、[SQL] ウィンドウに入力された SQL 文にしたがって、検索を実行することができます。

[カンマ (O)]

[SQL] ウィンドウ上を右クリックして表示されるメニューから [カンマ (O)] を選択すると、カーレット点滅位置に ‘,’ (カンマ) が入力されます。

[キーワード (K)]

[SQL] ウィンドウ上を右クリックして表示されるメニューから [キーワード (K)] を選択すると、さらにサブメニューが表示されます。サブメニューから各キーワードを選択すると、カーレット点滅位置にキーワードが入力されます。

サブメニューに表示されるキーワードは以下のとおりです。

キーワード	入力される内容
AND(A)	AND

OR(O)	OR
SELECT(S)	SELECT
FROM(F)	FROM
WHERE(W)	WHERE
可変値 (V)	[#] (☞ 3.7.2 検索条件の設定)

[演算子 (R)]

[SQL] ウィンドウ上を右クリックして表示されるメニューから [演算子 (R)] を選択すると、さらにサブメニューが表示されます。サブメニューから各キーワードを選択すると、キャレット点滅位置に演算子が入力されます。

サブメニューに表示される演算子は以下のとおりです。

キーワード	演算子
=	=
<>	<>
>	>
>=	>=
<	<
<=	<=
LIKE	LIKE
BETWEEN	BETWEEN
IN	IN
IS NULL	IS NULL
IS NOT NULL	IS NOT NULL

[元に戻す (U)]

[切り取り (T)]

[コピー (C)]

[貼り付け (P)]

[削除 (D)]

[すべて選択 (A)]

[SQL] ウィンドウ上を右クリックして表示されるメニューから、[元に戻す (U)]、[切り取り (T)]、[コピー (C)]、[貼り付け (P)]、[削除 (D)]、[すべて選択 (A)] を選択すると、通常のエディタと同様の編集機能を使用することができます (☞ 4.5.3 [SQL(Q)])。

[SQL] ウィンドウで編集した内容は、コマンドとして登録することができます (☞ 3.10 コマンド)。

参考

表ウィンドウ、コマンドツリー、または列一覧ツリーから列名を [SQL] ウィンドウにドラッグ・ドロップすると、データベース指定の文字で列名を囲んだ文字列 (例: "WOWO1.社員番号") が、キャレット点滅位置に貼り付けられます。

参考

検索/更新用 SkyLink で挿入モード、削除モード、更新モードを選択している場合の [SQL] ウィンドウについては後述します (☞ 3.12 レコードを挿入する) (☞ 3.13 レコードを削除する) (☞ 3.14 レコードを更新する)。

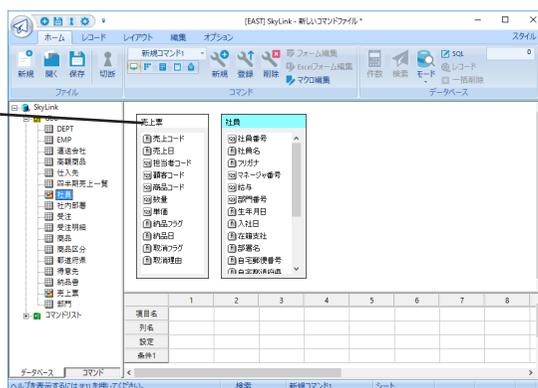
参考

NEC RDB サーバ対応 DB では、サーバ側のバージョンによっては検索実行、およびコマンド登録ができない場合があります。詳しくは、Readme ファイルを参照してください。

3.7.7 検索例

設定ウィンドウにいろいろな設定を行った場合の検索例を挙げます。検索の対象となる表は「社員」で検索結果の出力先はシート画面とします。まず設定ウィンドウに表の項目を設定してください (☞ 3.5 検索の用意)。

後で使用する表も表示しておきます

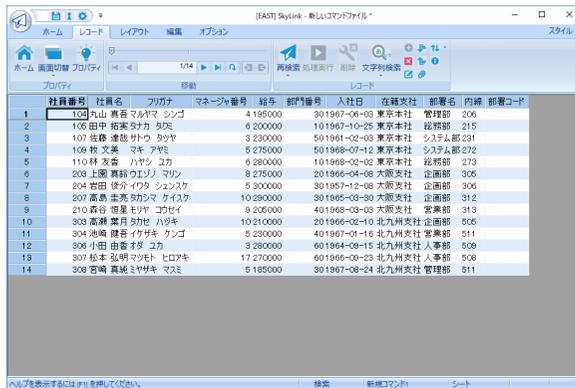


例1 表「社員」のすべてのレコードを検索する

項目名	1	2	3	4	5	6	7
社員番号	社員番号	社員名	フリガナ	マネージャ番号	給与	部門番号	生年月日
列名	社員番号	社員名	フリガナ	マネージャ番号	給与	部門番号	生年月日
設定		AND	AND	AND	AND	AND	AND
条件1							

設定ウィンドウで検索条件を何も指定しなかった場合は、設定ウィンドウに設定されている項目が所属している表のすべてのレコードが検索されます。

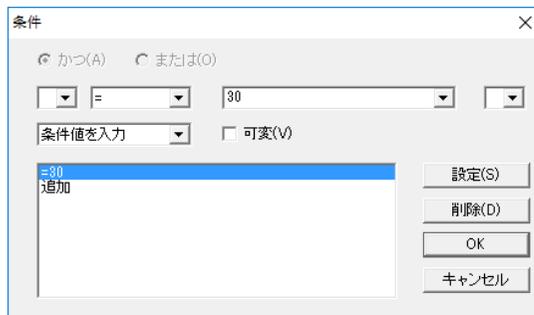
検索結果



例2 表「社員」から「部門番号」が30のレコードを検索する

項目名	1	2	3	4	5	6	7
社員番号	社員番号	社員名	フリガナ	マネージャ番号	給与	部門番号	生年月日
列名	社員番号	社員名	フリガナ	マネージャ番号	給与	部門番号	生年月日
設定		AND	AND	AND	AND	AND	AND
条件1							

ここをクリック



このように入力して [OK] ボタンをクリック

検索結果

社員番号	社員名	フリガナ	マネージャ番号	給与	部門番号	入社日	在籍支社	部署名	内線	部署コード
1	100 丸山 真志 マルヤマ シンゴ		4.186000	301982-04-06 1967-06-03 東京本社	管理部	206				
2	204 岩田 健介 イワタ ケンスケ		5.300000	301980-01-27 1957-12-08 大阪支社	企画部	306				
3	207 高島 広美 高島 カミ		10.290000	301984-08-09 1965-03-30 大阪支社	企画部	312				
4	308 宮崎 真結 ミヤザキ マスミ		5.186000	301980-05-09 1967-08-24 北九州支社	管理部	511				

例3 表「社員」から「給与」が20万以上 30万以下のレコードを検索する

項目名	1	2	3	4	5	6
列名	社員番号	社員名	フリガナ	マネージャ番号	給与	部門番号
設定		AND	AND	AND	AND	AND
条件1						

ここをクリック

条件

かつ(A) または(O)

<= 300000

条件値を入力 可変(V)

>=200000
AND <=300000

設定(S)
削除(D)
OK
キャンセル

このように検索条件をひとつずつ入力して [設定 (S)] ボタンをクリックします (☞ 3.7.2 検索条件の設定)。

検索結果

社員番号	社員名	フリガナ	マネージャ番号	給与	部門番号	入社日	在籍支社	部署名	内線	部署コード
1	100 田中 拓実 タナカ タカ		6.200000	101967-10-25 東京本社	総務部	215				
2	107 佐藤 俊樹 サトウ シゲキ		2.230000	501965-02-05 東京本社	システム部	221				
3	108 佐 文美 サキ アサヒ		5.275000	501968-07-12 東京本社	システム部	272				
4	110 林 友希 ハヤシ ユキ		6.280000	101968-02-02 東京本社	総務部	273				
5	202 上原 真利 ウヘハラ マサキ		8.270000	201969-04-08 大阪支社	企画部	305				
6	204 岩田 健介 イワタ ケンスケ		5.300000	201957-12-08 大阪支社	企画部	306				
7	207 高島 広美 高島 カミ		10.290000	201965-03-30 大阪支社	企画部	312				
8	210 坂谷 信隆 サカヤ ヒロノブ		9.205000	401968-03-05 大阪支社	営業部	313				
9	303 高瀬 真月 高瀬 マサキ		10.210000	201966-02-10 北九州支社	企画部	505				
10	304 池崎 健吾 イケサキ ケンゴ		5.230000	401967-01-16 北九州支社	営業部	511				
11	306 中田 由香 中田 ユカ		2.280000	601964-03-15 北九州支社	人事部	509				
12	307 杉本 弘明 杉本 ヒロアキ		17.270000	601966-09-23 北九州支社	人事部	508				

例4 表「社員」から「給与」が20万以上 30万以下のレコ

ードを検索するが、「給与」の項目データは出力しない

例3と似ていますが、項目「給与」は検索条件として使用するだけで、データの出力は行いません。

例3と同様にして、設定ウィンドウに次のように設定します。

	1	2	3	4	5	6
項目名	社員番号	社員名	フリガナ	マネージャ番号	給与	部門番号
列名	社員番号	社員名	フリガナ	マネージャ番号	給与	部門番号
設定		AND	AND	AND	AND	AND
条件1					>=200000	
条件2					AND <=300000	

ここを右クリック

検索結果

社員番号	社員名	フリガナ	マネージャ番号	部門番号	入社日	在籍支社	部署名	内線	部署コード
1	田中 祐美	タナカ ユミ	6	101987-10-25	東京支社	総務部	215		
2	110 松本 美奈子	マツモト ミナ子	3	201987-02-03	東京支社	システム部	581		
3	108 伊藤 美希	イトウ ミキ	5	501988-07-12	東京支社	システム部	272		
4	110 林 寛香	ハヤシ ユカ	6	101988-02-02	東京支社	総務部	273		
5	201 上野 雅樹	ウエノ マツ	8	201984-04-08	大阪支社	企画部	300		
6	204 曾田 美奈	ソダ ミナ	5	201987-12-08	大阪支社	企画部	300		
7	207 高橋 美奈	タカハシ ミナ	10	201985-02-03	大阪支社	企画部	312		
8	210 森谷 信重	モリヤ ノブヒ	9	401988-02-03	大阪支社	営業部	313		
9	303 高橋 常月	タカハシ ノブ	10	201984-02-10	北九州支社	企画部	505		
10	304 海崎 信重	ウミザキ ノブ	5	401987-02-16	北九州支社	営業部	511		
11	306 小田 由香	オダ ユカ	3	401984-09-15	北九州支社	人事部	500		
12	307 松本 弘明	マツモト ヒロアキ	17	601988-09-23	北九州支社	人事部	508		

例5 表「社員」から「給与」が20万以上30万以下で、かつ「部門番号」が30のレコードを検索する
例2・例3と同様にして、設定ウィンドウに次のように設定します。

項目名	1	2	3	4	5	6
列名	社員番号	社員名	フリガナ	マネージャ番号	給与	部門番号
設定		AND	AND	AND	AND	AND
条件1					>=200000	=30
条件2					AND <=300000	

検索結果

社員番号	社員名	フリガナ	マネージャ番号	給与	部門番号	生年月日	入社日	在籍支社	部署名	自主割当番号	自主割当内線
1	203 森谷 美奈	モリヤ ミナ	10	210000	30	1989-07-04	1986-02-10	北九州支社	企画部	811311	福岡県
2	201 東尾 隆	トウノ リズ	8	270000	30	1989-05-01	1986-04-18	大阪支社	企画部	583640	大阪府
3	204 川口 隆	カガミ リズ	8	300000	30	1989-09-27	1987-12-18	大阪支社	企画部	581887	大阪府

例6 表「社員」から給与が20万以上30万以下、または「部門番号」が30のレコードを検索する
まず例2・例3と同様に、設定ウィンドウに次のように設定してからさらに設定を重ねます。

	1	2	3	4	5	6
項目名	社員番号	社員名	フリガナ	マネージャ番号	給与	部門番号
列名	社員番号	社員名	フリガナ	マネージャ番号	給与	部門番号
設定		AND	AND	AND	AND	AND
条件1					>=200000	=0
条件2					AND <=300000	

ここをクリック

[全体] タブの [他の項目の条件に対して] から [または (O)] を選択

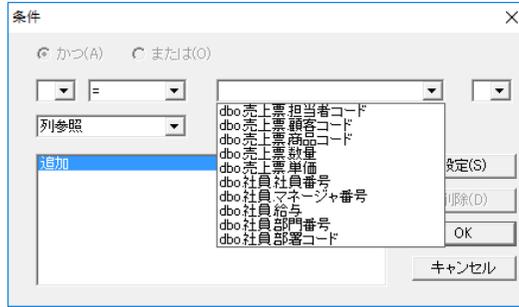
検索結果

社員番号	社員名	フリガナ	マネージャ番号	給与	部門番号	生年月日	入社日	在籍会社	部署名	内線	部署コード
104	丸山 真吾	マルヤマ シンゴ	4185000	301982-04-06 1967-06-03	東京本社	管理部	206				
2	105	田中 裕美	タカハシ	6200000	101980-07-01 1967-10-25	東京本社	総務部	215			
3	107	佐藤 隆哉	サカタ	3230000	501991-09-01 1961-03-03	東京本社	システム部	231			
4	106	牧 文美	カキ アサヒ	5275000	501991-03-28 1968-07-12	東京本社	システム部	272			
5	110	林 友香	ハヤシ ユカ	6280000	101980-02-02 1968-02-02	東京本社	総務部	273			
6	203	上園 真稀	ウエノ マリン	8275000	201989-05-01 1966-04-06	大阪支社	企画部	305			
7	204	岩田 慎介	イワタ シュンスケ	5300000	301980-01-27 1957-12-08	大阪支社	企画部	306			
8	207	高島 圭亮	タカシマ ケイスケ	10280000	301984-08-28 1965-03-30	大阪支社	企画部	312			
9	210	森谷 恒星	モリヤ コウセイ	9205000	401991-06-15 1968-03-03	大阪支社	営業部	313			
10	303	高野 美月	タカノ ミツキ	10210000	201989-07-04 1966-02-10	北九州支社	企画部	505			
11	304	池崎 健吾	イケサキ ケンゴ	5230000	401989-09-10 1967-01-16	北九州支社	営業部	511			
12	306	小田 由香	オダ ユカ	3280000	601987-08-20 1964-08-15	北九州支社	人事部	508			
13	307	松本 弘明	マツモト ヒロアキ	17270000	601989-11-01 1968-09-23	北九州支社	人事部	508			
14	308	宮崎 真純	ミヤザキ マスミ	5185000	301980-05-09 1967-08-24	北九州支社	管理部	511			

例7 表「社員」から「社員番号」が表「売上票」の「担当者コード」と一致するレコードを検索する

	1	2	3	4	5	6	7
項目名	社員番号	社員名	フリガナ	マネージャ番号	給与	部門番号	生年月日
列名	社員番号	社員名	フリガナ	マネージャ番号	給与	部門番号	生年月日
設定		AND	AND	AND	AND	AND	AND
条件1							

表「社員」と表「売上票」を結合しておきます (☞ 3.11 表結合)



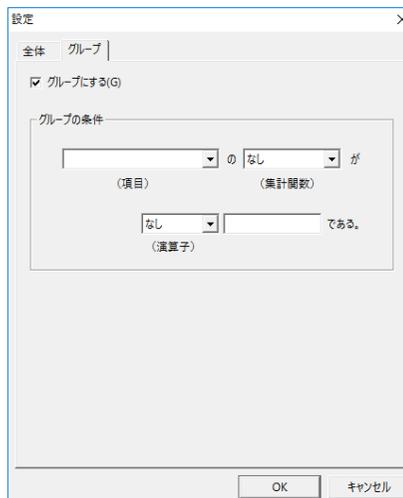
条件の値から表
「売上票」の
「担当者コード」
を選択

検索結果

社員番号	社員名	フリガナ	マネージャ番号	給与	部門番号	入社日	在籍支社	部署名	内編
213	岸谷 恒星	モリヤ コンセイ	9 205000	401986-03-03	大阪支社	営業部	313		
306	小田 由香	オダ ユカ	3 280000	601964-08-15	北九州支社	人事部	508		
304	池崎 健吾	イケザキ ケンゴ	5 230000	401967-01-18	北九州支社	営業部	511		
204	船田 俊介	フナタ シュンスケ	5 300000	301957-12-08	大阪支社	企画部	306		
207	高島 圭亮	タカシマ ケイサク	10 290000	301965-03-30	大阪支社	企画部	312		
307	松本 弘明	マツモト ヒロアキ	17 270000	601966-09-23	北九州支社	人事部	508		
204	船田 俊介	フナタ シュンスケ	5 300000	301957-12-08	大阪支社	企画部	306		
105	田中 拓実	タナカ タカミ	6 200000	101967-10-25	東京本社	総務部	215		
104	丸山 真吾	マルヤマ シンゴ	4 195000	301967-06-03	東京本社	管理部	206		
105	田中 拓実	タナカ タカミ	6 200000	101967-10-25	東京本社	総務部	215		
203	上園 真結	ウエノ マリツ	8 275000	201966-04-06	大阪支社	企画部	305		
106	石橋 伸多	イシハシ シンタ	3 185000	101967-06-27	東京本社	総務部	217		
206	近藤 祐樹	コソウ ユウキ	4 315000	201966-05-19	大阪支社	企画部	317		
110	林 友香	ハヤシ ユカ	6 280000	101968-02-02	東京本社	総務部	273		
208	荒井 宗一郎	アラヰ ソウイチロウ	15 175000	401965-05-05	大阪支社	営業部	303		
106	石橋 伸多	イシハシ シンタ	3 185000	101967-06-27	東京本社	総務部	217		
104	丸山 真吾	マルヤマ シンゴ	4 195000	301967-06-03	東京本社	管理部	206		
106	石橋 伸多	イシハシ シンタ	3 185000	101967-06-27	東京本社	総務部	217		
109	根 文美	ネ アヤミ	5 275000	501968-07-12	東京本社	システム部	272		
308	宮崎 真純	ミヤザキ マコト	5 185000	301967-08-24	北九州支社	管理部	511		
110	林 友香	ハヤシ ユカ	6 280000	101968-02-02	東京本社	総務部	273		

例8 表「社員」から「部門番号」ごとの平均給与を求める
「部門番号」をグループ化のキー項目とし、グループごとに
「給与」の平均を求めます。

	1	2	3	4	5	6	7
項目名	部門番号	給与					
列名	部門番号	給与					
設定		AND					
条件1							



[グループ] タブの
[グループにする
(G)] をチェック

	1	2	3	4	5	6	7
項目名	部門番号	給与					
列名	部門番号	給与					
設定	グ	AND					
条件1							

[全般] タブの[集計(F)]
から「平均」を選択

	1	2	3	4	5	6	7
項目名	部門番号	給与					
列名	部門番号	給与					
設定	グ	平均					
条件1							

検索結果

部門番号	給与
10219500	
20209600	
30241700	
40202000	
50202000	
60219500	

例9 表「社員」から平均給与が27万以上の部門をリストアップし、平均給与も求める

例8と同様、「部門番号」をグループ化のキー項目とし、グループごとに「給与」の平均を求めますが、リストアップするグループを、平均給与が27万以上という条件を与えて絞り込みます

「部門番号」の設定欄以外は、例8と同様に設定します。

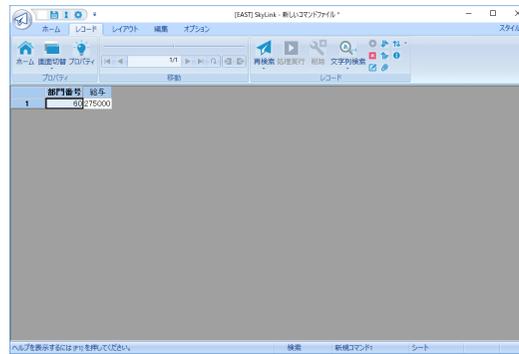
ここをクリック

「部門番号」の設定欄

[グループ] タブの [グループにする (G)] をチェックしてこのように設定

	1	2
項目名	部門番号	給与
列名	部門番号	給与
設定	グ(平均(dbo.社員.給与)>=270000)	平均
条件1		

検索結果



例 10 表「社員」のすべてのレコードを「生年月日」キーにして昇順にソートする

	1	2	3	4	5	6
項目名	社員番号	社員名	フリガナ	生年月日	マネージャ番号	給与
列名	社員番号	社員名	フリガナ	生年月日	マネージャ番号	給与
設定		AND	AND	AND	AND	AND
条件1						

ここをクリック

設定

全体 | グループ |

他の項目の条件に対して

かつ(A) または(O)

ソート

なし(N) 昇順(S) 降順(D)

条件全体のカット

左(L) [▼] 右(R) [▼]

演算(P)

[▼] [▼]

集計(F) 列参照として扱う(E) [スムーズ]

[▼]

重複なし(I)

データの抽出は行わない(X)

OK キャンセル

[全体] タブの [ソート - 昇順 (S)] をチェック

検索結果

社員番号	社員名	フリガナ	マネージャ番号	給与	部門番号	生年月日	入社日	在籍会社	部署名	内線	部署コード
1	300	小田 由希	オダ ユキ	3 280000	601987-08-20	1984-08-15	北九州支社	人事部			508
2	208	荒井 宗一郎	アライ ソウイチロウ	15 175000	401988-04-09	1965-05-05	大隈支社	営業部			309
3	305	常本 信哉	ツネキ 信哉	6 310000	401989-10-25	1966-08-21	北九州支社	営業部			515
4	203	上野 真輝	ウエノ マツキ	8 275000	201989-05-01	1966-04-08	大隈支社	企画部			305
5	303	高瀬 麗月	タカセ ハツキ	10 210000	201989-07-04	1966-02-10	北九州支社	企画部			505
6	304	池崎 健吾	イケサキ カンゴ	5 230000	401989-09-10	1967-01-16	北九州支社	営業部			511
7	307	松本 弘明	マツモト ヒロキ	17 270000	601989-11-01	1966-08-23	北九州支社	人事部			508
8	204	菅田 悠介	イダタ ユウスケ	5 900000	301990-01-27	1967-11-08	大隈支社	企画部			306
9	110	林 友希	ハヤシ ユキ	6 280000	101990-02-02	1968-02-02	東京本社	総務部			273
10	308	宮崎 真純	ミヤザキ マスミ	5 185000	301990-05-09	1967-08-24	北九州支社	管理部			511
11	105	田中 拓実	タナカ タカミ	6 200000	101990-07-01	1967-10-29	東京本社	総務部			215
12	208	種本 由慶	ツネモト ユキ	13 190000	401990-08-16	1967-06-25	大隈支社	営業部			320
13	106	石橋 伸歩	イシハシ シンブ	3 185000	101990-10-08	1967-09-27	東京本社	総務部			217
14	108	牧 文美	マキ フミ	5 275000	501991-03-28	1968-07-12	東京本社	システム部			272
15	206	近藤 祐樹	コンドウ ユウキ	4 315000	201991-05-13	1968-08-13	大隈支社	企画部			317
16	210	森谷 恒星	モリヤ コウセイ	9 205000	401991-06-15	1968-03-08	大隈支社	営業部			313
17	107	佐藤 雄哉	サトウ ユウヤ	3 230000	501991-06-01	1961-02-03	東京本社	システム部			231
18	104	丸山 真吾	マルヤマ シンゴ	4 195000	301992-04-06	1967-06-03	東京本社	管理部			206
19	207	高島 圭亮	タカシマ ケイスケ	10 280000	301994-09-29	1965-03-30	大隈支社	企画部			312

例 11 表「社員」からすべてのレコードを検索し、検索した給与の値に 5000 を加算して出力する

項目名	1	2	3	4	5	6	7
列名	社員番号	社員名	フリガナ	マネージャ番号	給与	部門番号	生年月日
設定		AND	AND	AND	AND	AND	昇
条件1							



[全体] タブの [演算 (P)] を
このように設定

検索結果

例 12 表「社員」の「社員名」に 10 個の検索条件を設定して検索する

表ウインドウから「社員名」を 2 回ドラッグして、検索条件を設定します。

	1	2	3	4	5	6
項目名	社員番号	社員名	社員名	フリガナ	マネージャ番号	給与
列名	社員番号	社員名	社員名	フリガナ	マネージャ番号	給与
設定		AND	OR	AND	AND	AND
条件1		=%'佐%'	=%'伊%'			
条件2		OR =%'渡%'	OR =%'井%'			
条件3		OR =%'木%'				
条件4		OR =%'子%'				
条件5		OR =%'鈴%'				
条件6		OR =%'小%'				
条件7		OR =%'大%'				
条件8		OR =%'相%'				

ここを右クリックすると
2 つ目の「社員名」は出
力しない

例 13 ユニオンクエリーを指定して検索する

複数の検索をまとめた結果を取得したい場合に、ユニオン

を使用します。ここでは、ユーザー登録されているユーザーテーブル、問い合わせがあったユーザーが登録されている問い合わせテーブル、セミナー受講されたユーザーが登録されているセミナーテーブルの3つの表の集合を検索します。

まず3つのコマンドを作成し、それぞれ各表の検索を指定します。その際、取得する列の数、データ型、順番をそれぞれ同じものとしします。

新規コマンドを作成し、表ウィンドウに上記で作成した3つのコマンドを追加します。

その後リボンバーのコマンドメニューより、[ユニオン]ボタンを押して、「ユニオンクエリー」ダイアログを表示します。

演算子の部分はデフォルトでUNIONになっていますが、重複行も出力したい場合は、クリックして”UNION ALL”に書き換えます。また、オラクルに接続している場合は、INTERSECT、MINUSも使用できますので、適宜修正してください(一番下のテーブルの記述は無視されます)。

ソートを指定する場合は、[ORDER BY(O)]欄に、列の順番の番号を 1,3,4などとカンマで区切って指定します。3番目の列を降順に出力したい場合は、1, 3 DESC, 4 とDESC句を指定します(昇順の場合はASCですが、何も指定しない場合はASC指定となります)。

以上の検索例の他にも、各項目と検索条件の組み合わせにより、さまざまな検索を行うことができます。次のようなかなり複雑な検索条件の指定も可能です(☞ 3.7.2 検索条件の設定)(☞ソート・演算・グループ化などの設定)。

複雑な検索条件

	1	2	3	4	5	6	7
項目名	社員番号	社員名	フリガナ	生年月日	マネージャ番号	給与	部門番号
列名	社員番号	社員名	フリガナ	生年月日	マネージャ番号	給与	部門番号
設定		AND	AND	AND	AND	AND	AND
条件1	(>=20	(<>空白値		(<>空白値	=3	(<=500000	
条件2	OR =99)	AND <>不明)		AND <='1970/01/01')		AND >=200000)	
条件3							

3.8

レコード画面

レコードの出力・入力を行う画面の操作方法を説明します。

3.8.1 シート画面とフォーム画面

レコード画面は、検索レコードの出力・編集を行ったり、挿入するコードデータの入力を行う画面です。

検索結果の出力先として SkyLink の画面を指定していることを確認してください（☞ 3.9 検索レコードの出力先）。

出力先として画面を選択している場合、メイン画面で検索実行ボタンをクリックして検索処理を実行すると、レコード画面が表示されます。レコード画面にはシート表示とフォーム表示の2つの種類があります（☞ 3.9 検索レコードの出力先）。いずれの場合もレコード画面には検索されたレコードとレコード件数が表示されます。レコード画面では、検索結果を確認したり、挿入／削除／更新処理のための手続きを行うことができます（☞ 3.12 レコードを挿入する）（☞ 3.13 レコードを削除する）（☞ 3.14 レコードを更新する）。

シート画面

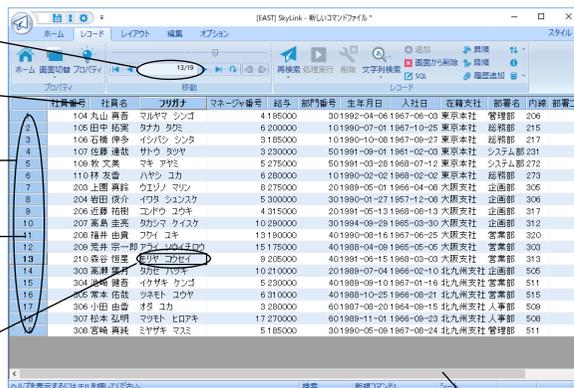
レコード件数

列ヘッダ（列幅調整）

行ヘッダ（行番号）

行

入力フォーカスのあるセル



社員番号	社員名	フリガナ	マネージング番号	給与	部門番号	生年月日	入社日	在籍会社	部署名	内線	部署コード
104	丸山 裕吉	ユキヤマ ユウキ	4185000	301990-04-08	1967-08-03	東京本社	管理部	206			
105	田中 拓実	タナカ タツミ	6200000	101990-07-01	1967-10-25	東京本社	総務部	215			
3	106 石橋 伸彦	イシハシ シンタ	3185000	101990-10-08	1967-09-27	東京本社	総務部	217			
4	107 佐藤 達哉	サトウ タツヤ	3230000	501991-09-01	1991-02-03	東京本社	システム部	231			
5	108 野 文実	ノノ アサヒ	5275000	501991-03-28	1969-07-12	東京本社	システム部	272			
6	110 林 友貴	ハヤシ ユキ	6280000	101990-02-02	1968-02-02	東京本社	総務部	273			
7	203 上園 真経	ウエジノ マサノ	8275000	201989-05-01	1966-04-08	大阪支社	企画部	306			
8	204 新田 透介	ニウタ テウスケ	5300000	301990-01-27	1967-12-08	大阪支社	企画部	306			
9	206 佐藤 裕司	サトウ ユウジ	4315000	201991-05-13	1969-08-13	大阪支社	企画部	317			
10	207 高島 圭実	タカシマ ケイスケ	10280000	301984-09-29	1965-03-30	大阪支社	企画部	312			
11	208 種井 由貴	タネヰ ユキ	13190000	401990-08-16	1967-06-25	大阪支社	営業部	320			
12	209 荒井 宗一郎	アラヰ ムネヱチロウ	15175000	401990-04-09	1965-05-05	大阪支社	営業部	303			
13	210 幸谷 実	ユキヤ マサヒ	9205000	401991-06-15	1969-03-03	大阪支社	営業部	313			
14	303 高野 隆利	タカノ リョウリ	10210000	201989-07-04	1966-02-10	北九州支社	企画部	506			
15	304 藤原 健吾	フジワラ ケンゴ	5230000	401989-09-10	1967-01-16	北九州支社	営業部	511			
16	305 平本 信哉	ヒラモト ノブヤ	6310000	401989-10-25	1966-08-21	北九州支社	営業部	515			
17	306 小田 由貴	オダ ユキ	3200000	601987-08-20	1964-09-15	北九州支社	人事部	508			
18	307 松本 弘明	マツモト ヒロアキ	17270000	601989-11-01	1966-09-23	北九州支社	人事部	500			
19	308 宮崎 義純	ミヤザキ マサヒ	5185000	301990-05-09	1967-08-24	北九州支社	管理部	511			

スクロールバー

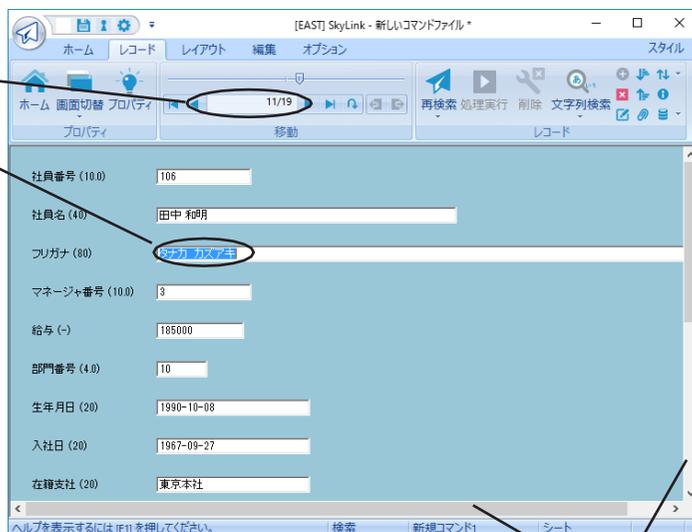
1 行で 1 件のレコードを表示しています。← ↑ → ↓ キー、Tab キー、Enter キーを押して、セルからセルへ移動できます。

フォーム画面

レコード件数

入力フォーカスのある項目

データ型によってマウスポインタが変化



画面全体で 1 件のレコードを表示しています。Tab キー、Enter キーを押して、項目から項目へ移動できます。レコードの最後の項目で Tab キーまたは Enter キーを押すと次のレコードが、レコードの先頭項目で Shift+Tab キーを押すと前のレコードが表示されます。

レコード画面が表示されても検索処理中の場合があります。検索処理中は件数表示フィールドがカラーで表示されます (☞ 4.8.3 [ツール (T)]-[オプション (O)] [デザイン] タブ)。検索中でも、画面に表示されたレコードについては内容の確認、編集作業を行うことができます。

出力先の設定によって、最初にいずれか一方の画面が表示されますが、レコード画面である 2 つの画面の間で自由に表示を切り替えることができます (☞ 3.8.2 ツールバー (レコード画面))。

参考

処理中の検索を中止したい場合は、ホームボタン  をクリック、または、SkyLink ボタンの [ファイル (F)]-[ホーム (H)] をクリックすると、メイン画面に戻ります。

ステータスバー

選択中のモード (検索 / 更新用 SkyLink のみ : ☞ 3.6 Sky-

Link のモード) や、選択しているコマンド名 (☞ 3.10 コマンド) が表示されます。ステータスバーでモードを確認しながら作業を行います。また、ステータスバーにはモードに応じて挿入件数、削除件数、更新件数が表示されます。

ヘルプを表示するには [F1] を押してください。 検索 新規コマンド シート

3.8.2 レコードカテゴリ (レコード画面)

シート画面 / フォーム画面でよく使われるボタン類が配置されています。



[プロパティ] パネル



🏠 ホームボタン

メイン画面に戻ります。検索モード以外のモードを選択している場合で、レコードを編集しておいてまだ処理実行していない場合は、「処理は行われていません。よろしいですか?」と確認のメッセージが表示されます。現在のレコード編集内容でデータベースのレコードに反映する場合はこのメッセージをキャンセルし、処理実行ボタン  をクリックしてください。メイン画面に戻っても次の検索処理を実行するまでは、メイン画面のレコード画面ボタン  または SkyLink ボタンの [検索 (S)] - [レコード画面 (R)] を選択して再びレコード画面を確認することができます。

📄 画面切り替えボタン

シート画面からフォーム画面へ、フォーム画面からシート画面へと画面切り替えボタンをクリックするたびに表示形式が変わります。画面を切り替えても以前の画面で編集されたレコードデータは引き継がれます。ボタンの  をクリックすると表示されるメニューから、[シート (S)] [デフォルトフォーム (F)] [フォーム名] などを選択して画面を切り替えることもできます。ユー

ザーが編集したフォームがある場合は、そのフォーム名も表示されます（☞ 3.15 フォーム編集）。ユーザー編集フォームに切り替えた場合は、キー指定や日本語入力の設定はフォーム編集画面で指定したものとなります。

プロパティボタン

複数項目のプロパティダイアログが表示され、項目ごとの列情報や、日本語入力モードの変更を行う事が出来ます。

[移動] パネル



「現在のレコード」と言うとき、次のことを指します。

シート画面 フォーカス位置のレコード

フォーム画面 画面に表示されているレコード

現在位置表示

現在のレコードが何件目であるかを目盛り上で示します。クリックするとレコードが移動します。

先頭へボタン

シート画面 先頭のレコードにフォーカス位置を移動します。

フォーム画面 先頭のレコードを表示します。

前へボタン

シート画面 フォーカス位置のひとつ上のレコードにフォーカス位置を移動します。

フォーム画面 画面に表示しているレコードのひとつ前のレコードを表示します。

2000/5795 レコード件数表示フィールド

検索されたレコード件数中、現在のレコードが何件目であるかを表示します。

次へボタン

シート画面 フォーカス位置のひとつ下のレコードにフォー

カス位置を移動します。

フォーム画面 画面に表示しているレコードの次のレコードを表示します。

▶ 末尾へボタン

シート画面 最後のレコードにフォーカス位置を移動します。

フォーム画面 最後のレコードを表示します。

検索処理の途中にクリックすると、データベースから取り出されたレコードのうちその時点で最後尾レコードに移動します。

[レコード] パネル



▶ 再検索ボタン

今回行った検索処理を再度実行し、現在表示している画面に出力します。条件に可変値を設定している場合は、再度検索条件入力ダイアログが表示されます。Alt キーを押しながらボタンをクリックした場合は、絞込み検索が行われます。

▶ 処理実行ボタン

このボタンは検索用 SkyLink にはありません。また、検索モードの場合は無効です。挿入／削除／更新モードの場合、レコード画面で行われた手続きに従い、データベースにトランザクションを発行し、レコードを挿入／削除／更新します (☞ 3.12 レコードを挿入する) (☞ 3.13 レコードを削除する) (☞ 3.14 レコードを更新する)。

✂ 削除レコードボタン

このボタンは検索用 SkyLink では使用できません。削除モードまたはキー更新モードの場合に有効です (☞ 3.13 レコードを削除する) (☞ 3.14 レコードを更新する)。

シート画面 フォーカス位置のレコードを削除予約する

フォーム画面 画面に表示されているレコードを削除予約する

🔍 文字列検索ボタン

文字列検索ダイアログが表示され、現在の検索結果レコードか

ら文字列の検索を行います。

文字列置換ボタン

文字列置換ダイアログが表示され、現在の検索結果レコードの文字列置換を行います。

追加ボタン

挿入、キー更新のモードの時有効となり、新規レコードを 1 行、末尾に追加します。実際に処理実行を行わないと、データベースには追加されません。

画面から削除ボタン

現在表示されているレコードを、画面から削除します。データベースからレコードの削除は行いません。

SQL ボタン

[SQL] ダイアログが表示され、今回行った検索処理で使用された SQL を確認することができます。また、[SQL] ダイアログでユーザーが SQL を編集して項目・検索条件を変更し再検索の準備をすることができます。(☞ 3.7.6 SQL 編集)。

昇順ボタン

レコードを昇順に並べ替えます。

降順ボタン

レコードを降順に並べ替えます。

履歴追加ボタン

[履歴の追加] ダイアログが表示され、[コメント (C)] ボックスには今回使用したコマンド名および直前に行った検索の検索条件が自動的に表示されます。



[コメント (C)] ボックスの内容は自由に書き換えることができます。コメントを確定後、[OK] ボタンをクリックすると直前に行った検索処理の内容を履歴として保存することができます。履歴を保存すると、履歴表示ボタンで履歴を表示することができますようになります。

インポート / エクスポートボタン

インポート

挿入モードまたはキー更新モードの場合で使用可能となります。

CSV ファイルまたは XML ファイルからレコードデータを読み込み、レコード画面にレコードを追加します。[インポート] ダイアログが表示されますのでインポートするファイルを選択してください (☞ 3.12.3 インポート・エクスポート)。

エクスポート - アプリケーション

レコード画面で表示されているレコードをアプリケーションに出力します。[アプリケーションへエクスポート] ダイアログが表示されますので、エクスポートするアプリケーションを選択してください (☞ 3.12.3 インポート・エクスポート)。

エクスポート - ファイル

レコード画面で表示されているレコードをファイルに書き込みます。[ファイルへエクスポート] ダイアログが表示されますので、エクスポートするファイルを選択してください (☞ 3.12.3 インポート・エクスポート)。

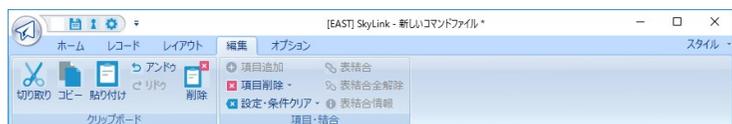
コマンド情報

[コマンド情報] ダイアログが表示されます。[コマンド情報] ダイアログでは、今回行われた検索のコマンド名と、検索された項目名、検索条件、可変条件を確認することができます。また、項目名の前に表示されたアイコンにより、データベース上で定義された項目属性を確認することができます。(☞ 4.10.21 コマンド情報)。

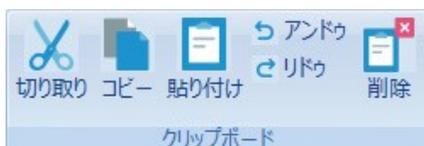
モード

データベースへのアクセスモードを変更します。ご利用のデータベースの種類によって、表示される項目が変わります。(☞ 4.7 モード)。

[編集] カテゴリ



[クリップボード] パネル



切り取りボタン

シート画面 選択している範囲（☞ 3.8.3 レコード画面の操作方法）のデータを切り取り、クリップボードにコピーします。

フォーム画面 選択して反転表示されているデータを切り取り、クリップボードにコピーします。

コピーボタン

シート画面 選択している範囲（☞ 3.8.3 レコード画面の操作方法）のデータを、クリップボードにコピーします。

フォーム画面 選択して反転表示されているデータを、クリップボードにコピーします。

貼り付けボタン

シート画面 フォーカス位置にクリップボードからデータを貼り付けます。

フォーム画面 フォーカス位置にクリップボードからデータを貼り付けます。選択範囲によっては貼り付けできません（☞ 3.8.3 レコード画面の操作方法）。クリップボードが貼り付けられる形式のデータを持っていないときは、このボタンは使用できません。

アンドゥボタン

直前に行った操作をキャンセルして、操作を行う前の状態に戻します。対象となる操作は、挿入予約、削除予約、レコードの画面からの削除、および項目データの編集です。連続してボタンをクリックすると、クリックした回数分の操作を元に戻します。

リドゥボタン

直前に行った「元に戻す」処理でキャンセルされた操作を、再度行います。連続してボタンをクリックすると、クリックした回数分の操作をやり直します。



削除ボタン

現在選択されているセル、または行のデータを削除します。
[Delete] キーを押しても、同様です。

3.8.3 レコード画面の操作方法

ツールバーのボタンをクリックする以外に、次のような操作が行えます。モードによっては行えない操作もあります（☞ 3.6 SkyLink のモード）。

データの入力方法

シート画面

社員番号	社員名	フリガナ	マネージメント番号	経年	部門番号	入社日	在籍支社	部署名	内線	部署コード
1	100 丸山 真希	マルヤマ シンゴ	4 195000		301967-09-03	東京本社	管理部	206		
2	106 田中 拓実	タナカ タツミ	6 200000		101967-10-25	東京本社	総務部	215		
3	109 古橋 伸幸	コハシ シンタ	3 185000		101967-09-27	東京本社	総務部	217		
4	107 佐藤 達哉	サトウ タツヤ	3 230000		501961-02-03	東京本社	システム部	231		
5	109 飯 文美	イヒ デキ	5 275000		501969-07-12	東京本社	システム部	272		
6	110 林 友香	ハヤシ ユカ	6 280000		101969-02-02	東京本社	総務部	273		
7	203 上田 真鈴	ウエダ マリン	8 275000		201966-04-08	大阪支社	企画部	305		
8	204 岩田 俊介	イワタ シュンスケ	5 300000		201957-12-08	大阪支社	企画部	306		
9	206 近藤 祐樹	コドウ ユウキ	4 315000		201968-08-13	大阪支社	企画部	317		
10	207 高島 圭亮	タカシマ ケイスケ	10 290000		201965-03-30	大阪支社	企画部	312		
11	208 福井 由貴	フクイ ユキ	13 180000		401967-09-25	大阪支社	営業部	320		
12	206 荒井 宗一郎	アライ ヌウイチロウ	15 175000		401965-05-05	大阪支社	営業部	303		
13	210 森谷 恒星	モリヤ コウセイ	9 205000		401968-09-03	大阪支社	営業部	313		
14	303 高橋 麗月	タカセ ハツキ	10 210000		201966-02-10	北九州支社	企画部	505		
15	304 池崎 健吾	イケザキ ケンゴ	5 230000		401967-01-16	北九州支社	営業部	511		
16	305 冨本 祐亮	トモキチ ユウヤ	6 310000		401966-08-21	北九州支社	営業部	515		
17	306 小田 由香	オダ ユカ	3 280000		601964-09-15	北九州支社	人事部	509		
18	307 松本 弘明	マツモト ヒロアキ	17 270000		601966-09-23	北九州支社	人事部	508		
19	308 宮崎 真純	ミヤザキ マスミ	5 185000		301967-08-24	北九州支社	管理部	511		

常に 1 つのセルがフォーカスを持っています。フォーカスを持つセル（フォーカスセル）がキーボード入力の対象項目となります。

フォーカスセルの位置は←↑→↓キー、Tab キー、Enter キー、マウスクリックで移動できます。キーボードで入力すると、フォーカスセルの内容が上書きされます。内容の一部を修正する場合は、セルをダブルクリックまたは F2 キーを押して既存のデータにキャレットを表示し、必要な修正入力を行います。いずれの方法で入力した場合でも、Enter キー、Tab キーを押して入力確定してください。入力確定後にフォーカスセルが移動する方向を、設定することができます（☞ 4.8.2 [ツール (T)] - [オプション (O)] [レコード] タブ）。

フォーム画面

常に 1 つの項目がフォーカスを持っています。フォーカスを持つ項目（フォーカス項目）がキーボード入力の対象項目となります。フォーカス項目は Tab キー、Enter キー、マウスクリックで移動できます。

両画面とも、レコードの最後の項目で Tab キーまたは Enter キーを押すと、次のレコードの最初の項目に移ります。レコードの最初の項目で Shift キーを押しながら Tab キーを押すと、ひとつ前のレコードの最後の項目に移ります。

Ctrl キー +Home キーを押すと、最初のレコードに移ります。

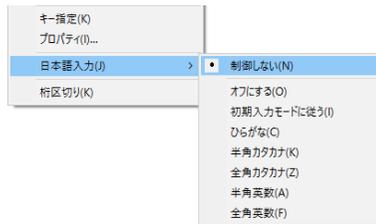
Ctrl キー +End キーを押すと、最後のレコードに移ります。

日本語入力モードの設定

入力フォーカスが項目に移動した際に、特定の日本語入力モードになるように設定することができます。

シート画面 列ヘッダを右クリックしてポップアップメニューから設定を行います。

フォーム画面 項目の見出しを右クリックしてポップアップメニューから設定を行います。



参考

日本語項目（NEC RDB サーバ、富士通 Symfoware）に移動した際に日本語入力モードを ON にする設定をすることもできます（・ 4.8.2 [ツール (T)]-[オプション (O)] [レコード] タブ）。またユーザー編集フォームでは、日本語入力の設定をあらかじめ行えます（☞ 3.15 フォーム編集）。

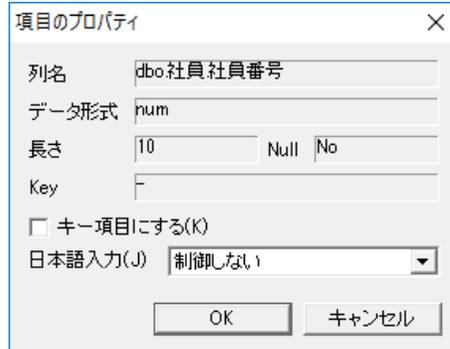
列情報を確認する

項目のデータベースでの定義内容を確認します。

シート画面 列ヘッダを右クリックしてポップアップメニューから [プロパティ (I)] を選択します。

フォーム画面 項目の見出しを右クリックしてポップアップメニューから [プロパティ (I)] を選択します。

次の図は、キー削除、キー更新モード時のダイアログです。

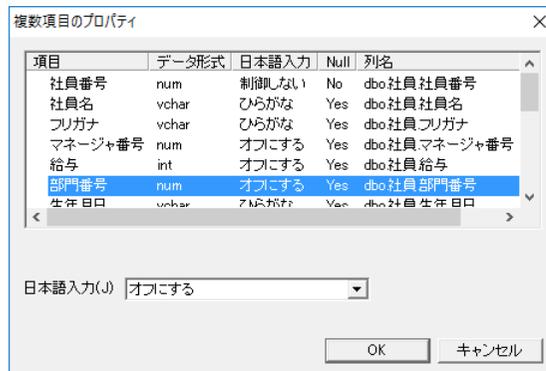


日本語入力の設定およびモードに応じて、キー指定、一括更新値の入力も行えます。

項目情報を設定する

[プロパティ] パネルの [プロパティ] を選択して、[複数項目のプロパティ] ダイアログを表示します。[複数項目のプロパティ] ダイアログでは、検索された項目のリストを確認しながら日本語入力の設定およびモードによりキー指定、一括更新値の入力を行うことができます。シート画面では、複数の列を選択して列ヘッダを右クリックすると表示されるポップアップメニューから [プロパティ (I)] を選択しても同様に、[複数項目のプロパティ] ダイアログを表示することができます。

次の図は、キー削除、キー更新モード時の [複数項目のプロパティ] ダイアログです。

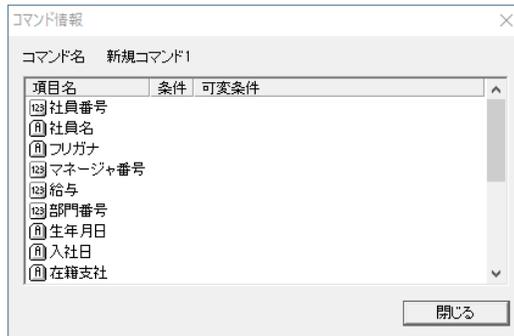


項目	データ形式	日本語入力	Null	列名
社員番号	num	制御しない	No	dbo.社員社員番号
社員名	vchar	ひらがな	Yes	dbo.社員社員名
フリガナ	vchar	ひらがな	Yes	dbo.社員フリガナ
マネージャ番号	num	オフにする	Yes	dbo.社員マネージャ番号
給与	int	オフにする	Yes	dbo.社員給与
部門番号	num	オフにする	Yes	dbo.社員部門番号
生年日付	vchar	ひらがな	Yes	dbo.社員生年日付

リストから設定したい項目を選択して、コンボボックスやボタンをクリックして設定を行います。

コマンド情報を確認する

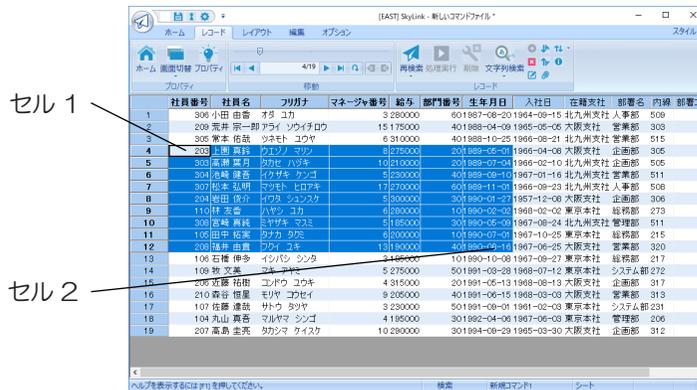
[レコード] パネルの [コマンド情報] を選択して、[コマンド情報] ダイアログを表示します。[コマンド情報] ダイアログでは、今回行われた検索のコマンド名と、検索された項目名、検索条件、可変条件を確認することができます。また、項目名の前に表示されたアイコンにより、データベース上で定義された項目属性を確認することができます。



シート画面でのセル編集

クリックとドラッグ、Shit キーと Ctrl キー押下を組み合わせた編集作業について、一例を挙げます。

セルを範囲選択 (行・列も可能)



または、セル 1 をクリックしてからセル 2 を Shift キーを押しながらクリック

続けてコピー・貼り付けなどの編集作業が行えます。

行を複数選択 (セル・列も可能)

社員番号	社員名	フリガナ	マネージャ番号	給与	部門番号
1	210 成宮 真純	ナルミヤ マキ	5	208000	50
2	303 高橋 良男	タカハシ リョウオ	10	210000	30
3	304 山本 雅治	ヤマモト マサハル	5	280000	40
4	209 平野 彩子	ヒラノ アヤコ	15	175000	40
5	305 吉本 俊之	アオキ トシユキ	6	310000	30

行番号 1 をクリックしてから Ctrl キーを押しながら行番号 3、5 もクリック

いずれの方法でも、選択されているセルのレコードに対して削除指定が行えます。

列ヘッダを複数選択した場合は、日本語入力設定とキー指定を行えます。

シートの列幅の調整

列ヘッダで列の境界線をドラッグして、列幅を変更することができます。列ヘッダの境界線をダブルクリックすると、ダブルクリックした列ヘッダの列に表示されているデータの幅（長さ）に、列幅を自動的に合わせるすることができます。また、[オプション] カテゴリ - [オプション] ボタン  を選択して表示される [オプション] ダイアログの [レコード] タブでも、列幅を設定することができます (☞ 4.8.2 [ツール(T)] - [オプション (O)] [レコード] タブ)。

ここをダブル
クリック

	社員番号	社員名	フリガナ
1	210	成宮 真紀	ナルミヤ マキ
2	303	高橋 良男	タカハシ ヨシオ
3	304	山本 雅治	ヤマモト マサハル
4	209	平野 彩子	ヒラノ アヤコ
5	305	青木 俊之	アオキ トシユキ
6	306	内野 義昭	ウチノ ヨシアキ
7	307	小川 さよ子	オガワ サヨコ

列を固定する

シート画面で表示されているレコードの列を固定したい場合は、列名を右クリックして表示されるポップアップメニューから [列を固定する (X)] を選択するとその列から左側の列は横にスクロールしても固定されます。

桁区切り

	社員番号	社員名	フリガナ	マネージメント番号	給与	部門番号
1	210	成宮	元に戻せません(U)		9 205000	50
2	303	高橋	やり直してできません(R)		10 210000	30
3	304	山本	切り取り(T)		5 230000	40
4	209	千野	コピー(C)		15 175000	40
5	305	橋本	貼り付け(P)		6 310000	30
6	306	内野	クリア(D)		3 280000	60
7	307	小川	列幅を合わせる(F)		17 270000	60
8	308	橋本	列を固定する(X)		5 185000	30
9	104	正門	現在の列幅を保存する(S)		4 195000	30
10	105	森上	列幅保存を解除する(E)		6 200000	10
11	106	田中	プロパティ(O...)		3 185000	10
12	107	葛城	日本語入力(I)	>	3 230000	50
13	109	秋山	桁区切り(K)		5 275000	50
14	110	加藤	フルダブルクォー		6 280000	10
15	203	東海			8 275000	30
16	204	山村			5 300000	30
17	206	古田 英次			4 315000	30

表示する列の型が数値型の場合は、列名を右クリックして表示されるポップアップメニューから [桁区切り (K)] を選択すると、3 桁区切り表示にすることができます。

その他の画面設定

シート画面とフォーム画面についての設定は、[オプション] カテゴリの [オプション] ボタン  を選択して表示される [オプション] ダイアログの [レコード] タブで行うことができます (☞4.8.2 [ツール (T)]-[オプション (O)] [レコード] タブ)。

挿入／削除／更新モード

検索／更新用 SkyLink で挿入／削除／更新処理を行う場合は、各モードで処理手続きの操作が必要となります。

(☞ 3.12 レコードを挿入する) (☞ 3.13 レコードを削除する)

(☞ 3.14 レコードを更新する)

3.9

検索レコードの出力先

検索結果を SkyLink の画面以外にも出力することができます。検索結果の活用範囲が広がります。

3.9.1 レコード出力先の種類

SkyLink は、検索結果を SkyLink の画面以外にも出力することができます。出力先の種類は次の 4 つです。

-  ・画面 (☞ 3.8 レコード画面)
-  ・アプリケーション
-  ・ファイル
-  ・クリップボード

出力先は、出力する前にいつでも変更することができます。コマンドを新規作成して、特に指定しなければ [オプション] カテゴリ [オプション] ボタン  を選択して表示される [オプション] ダイアログ - [出力先] タブ - [出力先 (O)] で設定した出力先に出力が行われます。メイン画面にある出力切替ボタン  または出力先ボタンを使用して、出力先を変更することができます (☞ 4.8.4 [オプション (O)]-[オプション] [出力先] タブ)。

出力切替ボタンの使い方

ボタンに表示されている絵は出力先の種類をあらわしています。

トグルボタンになっていますので、出力先に指定したいボタンをクリックします。現在指定されている出力先は、選択状態の背景色で表示されます。



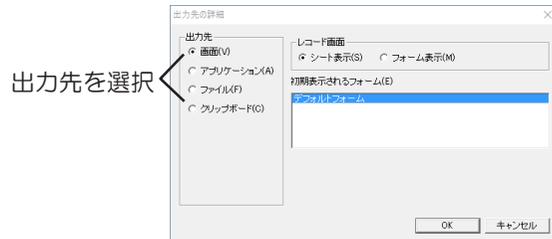
 ボタンをクリックすると、現在指定されている出力先の種類に合わせて詳細設定のダイアログが表示されます。各出力先の詳細設定については後述します。

メニューから出力先を指定する場合は、SkyLink ボタンの [コ

マンド (C)]-[出力先 (O)] が出力切替ボタンに該当し、目的の出力先を選択すると、出力先の種類に合わせて詳細設定のダイアログが表示されます。

参考

出力切替ボタンをクリックすると、[出力先の詳細] ダイアログが表示されます。ここでは出力先の種類の変更、各出力先の詳細設定など、出力先に関するすべての設定を行うことができます。



出力先を記憶させる

コマンドを登録すると、出力先をコマンドごとに記憶させることができます。ひとつのコマンドファイルで、コマンド 1 は画面に出力、コマンド 2 は Excel に出力…と記憶させることができます。出力先の詳細設定の内容も一緒に記憶されます。コマンドに登録される出力先は、デフォルトでは[オプション] カテゴリ[オプション] を選択して表示される [オプション] ダイアログ - [出力先] タブ - [出力先 (O)] で設定した出力先となります。他のパターンで出力する場合は、次のように指定してください。

- 1 出力先の種類を選択する
- 2 出力先の詳細ダイアログを開き、[OK] をクリックする
- 3 コマンドを登録すると出力先種類とその詳細設定が同時に記憶される

コマンドを登録してもコマンドファイルの保存を行うまでは、出力先はコマンドファイルに書き込まれません。

参考

1 回の検索処理で同時に 2 つ以上の出力先に出力することはできません。また、1 つのコマンドに記憶される出力先は 1 つだけです。同じ検索項目で出力先を常に切り替えて検索を行いたい場合は、同じ検索項目で出力先のみ違うコマンドをいくつか登録して

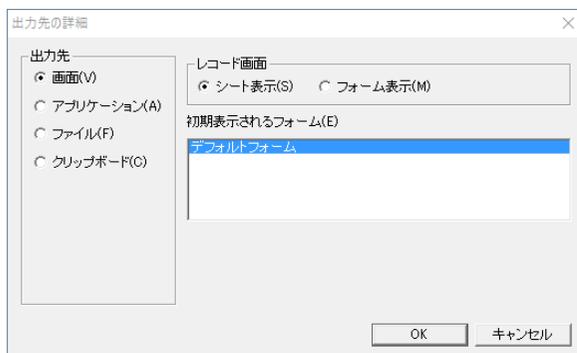
おくと便利です。メインとなる出力先があり、時々出力先を変更したい場合は、メインとなる出力先でコマンドを登録しておきます。[オプション] カテゴリ-[オプション] を選択して表示される [オプション] ダイアログ-[出力先] タブ-[出力先 (O)] を変更しない限り、デフォルトの出力先に関する設定は変更されません。

📖 参考

検索結果を画面に出力した後にファイルに保存したい場合は、[レコード] カテゴリ [エクスポート / インポート]-[アプリケーション]、または [ファイル] を利用すると便利です (☞ 4.10 レコード (R))。

3.9.2 SkyLinkの画面に出力

出力先種類の指定で「画面」を選択している場合に表示される [出力先の詳細] ダイアログについて説明します。



[シート表示 (S)] オプションボタン

選択すると、検索結果を出力した際に、最初にシート画面を表示します。

[フォーム表示 (M)] オプションボタン

選択すると、検索結果を出力した際に、最初にフォーム画面を表示します。記録画面で画面切り替えボタン  をクリックして、シート表示とフォーム表示を切り替えることができます (☞ 3.8 レコード画面)。

[初期表示されるフォーム (E)] リスト

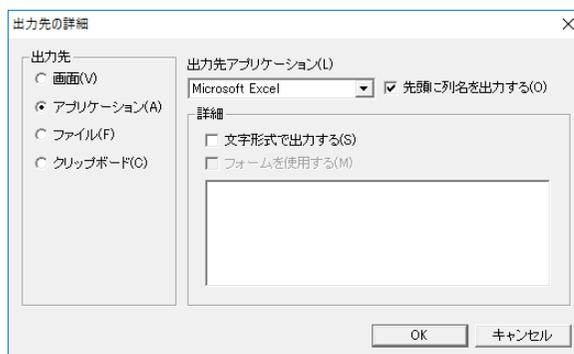
[初期表示されるフォーム (E)] リストに表示されている [デフォルトフォーム] は、標準のフォーム画面です。その他に、選択中のコマンドに対しユーザーが作成したフォーム (☞ 3.15 フォーム編集) があれば、リスト内に表示されます。このリストで選択したフォームが、検索結果がフォームに表示された

際に最初に表示する画面となります。

レコード画面の操作方法などはこちらをご覧ください(☞ 3.8 レコード画面)。

3.9.3 アプリケーションに出力

出力先種類の指定で「アプリケーション」を選択している場合に表示される [出力先の詳細] ダイアログについて説明します。



(Excel を選択した場合のダイアログ画面です。)

[出力先アプリケーション (L)] コンボボックス

▼をクリックして表示される一覧から、検索結果を出力するアプリケーションを選択します。この選択によって、ダイアログの設定項目が変わります。SkyLink が出力できるアプリケーションは次の通りです。

- Microsoft Excel
- Web ブラウザ
- 風神レポート
- 風神レポートルックアップ
- ユーザ定義アプリケーション

[先頭に列名を出力する (O)] チェックボックス

チェックをつけると、項目名がタイトルとして先頭の行に出力されます。

Excel に出力する場合

[文字形式で出力する (S)] チェックボックス

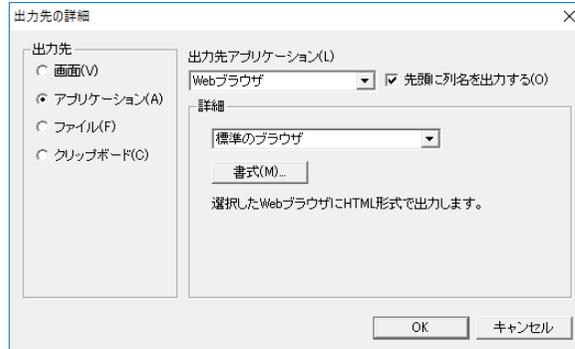
文字項目で出力レコードのデータに 00100 のようなデータが含まれる場合、通常は数値とみなされ 100 として出力されますが、文字とみなして 00100 のまま出力したい場合は、チェックをつけます。

[フォームを使用する(M)] チェックボックス

フォームを使用しない場合は、Excel のワークシートに 1 行 1 レコードずつ、設定ウィンドウの項目順にデータを単純に並べて出力しますが、ユーザーが前もって Excel に出力する項目の配置、書式、集計フィールドなどをコマンドごとにデザインし、SkyLink の Excel フォームとして登録しておくこともできます。ユーザーが作成した Excel フォームを使用して Excel に出力する場合は、チェックをつけ、下部のリストからユーザーフォーム名を選択します。

検索を実行すると、Excel を起動していない場合は、SkyLink によって起動されます。Excel フォームを使用しない場合は、最初にブックが新規作成されて先頭シート (Sheet1) に出力します。2 度目以降の出力では、同じブックに新規にシート (Sheet2・Sheet3・・・) が作成されます。いずれのシートも 1 行目の1列目のセルからデータが出力されます。Excel フォームを使用する場合は、出力するブック名、シート名、出力データの書き出し位置のセルを指定することができます (☞ 3.16 Excel フォーム編集)。

Web ブラウザに出力する場合



[Web ブラウザ名] コンボボックス

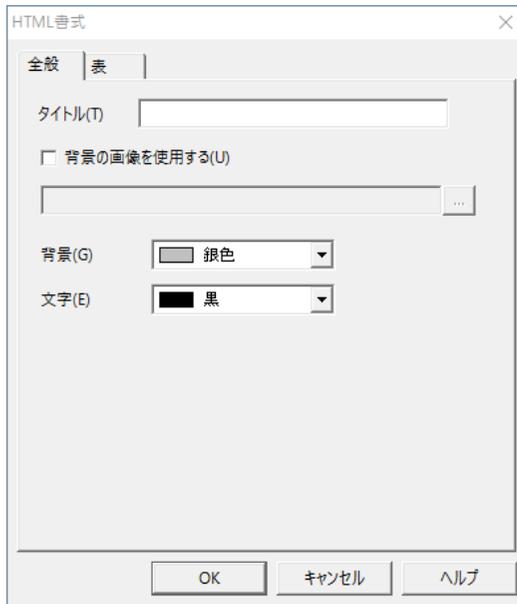
▼をクリックして表示される一覧から、出力する Web ブラウザ製品名を選択します。「標準のブラウザ」が選択される場合は、ファイルタイプ「HTML」に関連付けされたアプリケーションが対象ブラウザとなります。検索を実行すると、選択された

Web ブラウザが新規に起動され、HTML 形式で Web ブラウザの画面に検索結果を出力します。

[書式 (M)] ボタン

出力するデータは HTML 形式に変換されます。[書式 (M)] ボタンをクリックすると表示される [HTML 書式] ダイアログの [全般] タブと [表] タブで書式を設定することができます。

[全般] タブ



[タイトル (T)] ボックス

ブラウザのタイトルバーに表示されるタイトルを入力します。

[背景の画像を使用する (U)] チェックボックス

[背景の画像を使用する (U)] チェックボックスは、デフォルトでチェックがついています。ブラウザ画面の背景に画像を使用しない場合は、クリックしてチェックをはずします。ブラウザ画面の背景に画像を使用する場合は、チェックボックス下部のボックスで使用する画像ファイルを指定します。[...] ボタンをクリックすると、ファイルを参照することができます。

[背景 (G)] コンボボックス

▼をクリックして表示される一覧から、ブラウザ画面の背景色を選択します。

[文字 (E)] コンボボックス

▼をクリックして表示される一覧から、検索結果を表示する文字色を選択します。

[表] タブ

検索結果を表示する表 (フレーム) の書式を設定します。



[タイトル (T)] ボックス

検索結果を表示する表 (フレーム) のタイトルを入力します。

[配置 (A)] コンボボックス

▼をクリックして表示される一覧から、表の配置を選択します。

[外枠のサイズ (B)] ボックス

⇅をクリックして、表に対する外枠のサイズを指定します。

[セル内のスペース (P)] ボックス

⇅をクリックして、セル内のスペースを指定します。

[セル間のスペース (S)] ボックス

⇅をクリックして、セル間のスペースを指定します。

[背景の画像を使用する (U)] チェックボックス

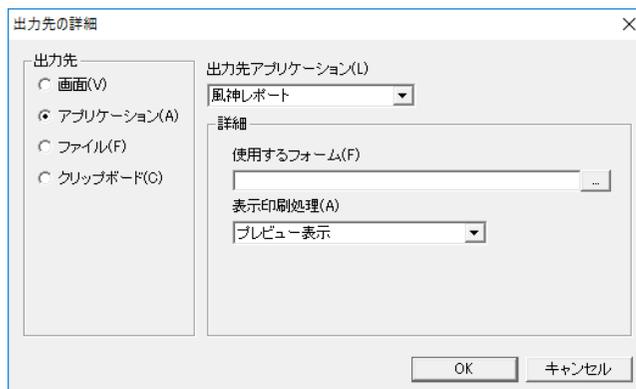
表の背景に画像を使用する場合はチェックをつけ、チェックボックス下部のボックスで使用する画像ファイルを指定します。

[...] ボタンをクリックすると、ファイルを参照することができます。

[背景 (G)] コンボボックス

▼をクリックして表示される一覧から、ブラウザ画面の背景色を選択します。

風神レポートに出力する場合



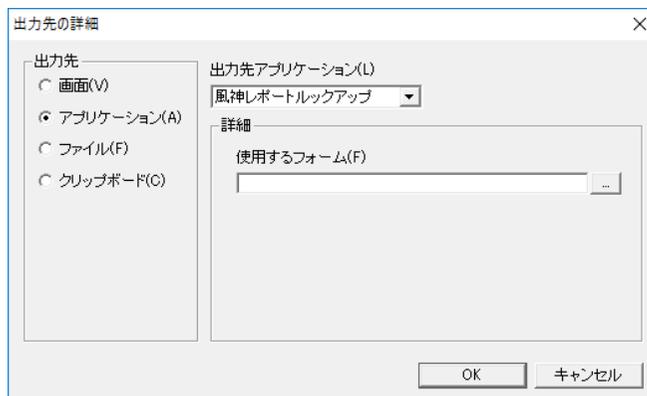
[使用するフォーム (F)] ボックス

検索結果を出力する風神レポートで作成した帳票のフォームを指定します。

[表示印刷処理 (A)] コンボボックス

検索実行後の処理を“プレビュー表示”、“印刷ダイアログを表示する”、“通常使うプリンタで印刷する”から選択します。

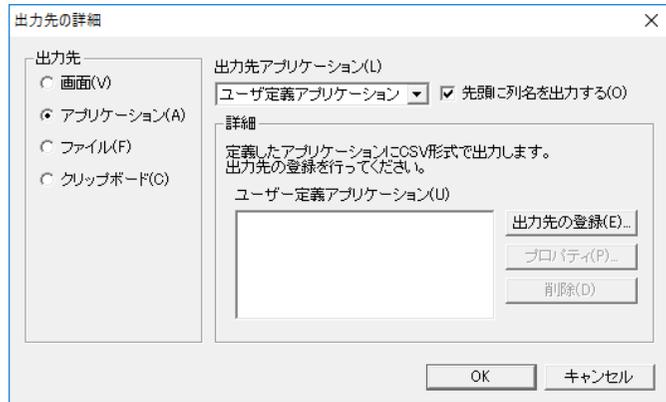
風神レポートロックアップに出力する場合



[使用するフォーム (F)] ボックス

検索結果を出力する風神レポートで作成した帳票のフォームを指定します。

ユーザー定義アプリケーションに出力する場合

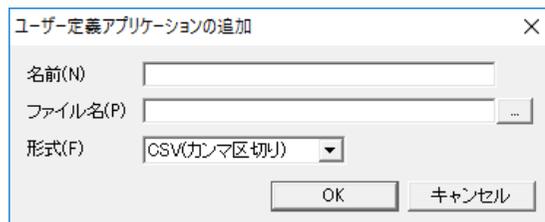


[ユーザー定義アプリケーション (U)] リスト

[ユーザー定義アプリケーション (U)] リストから、出力するアプリケーション名を選択します。リストに目的のアプリケーション名が表示されていない場合は、[出力先の登録 (E)] ボタンをクリックして、アプリケーション名を登録します。

[出力先の登録 (E)] ボタン

クリックすると、[ユーザー定義アプリケーションの追加] ダイアログが表示されます。[ユーザー定義アプリケーションの追加] ダイアログでは、ユーザー定義アプリケーションを登録することができます。登録できるアプリケーションは、CSV 形式に対応しているアプリケーションのみとなります。



[名前 (N)] ボックス

登録するアプリケーション名を入力します。任意の名前を付けて入力することができます。

[ファイル名 (P)] ボックス

アプリケーションの実行ファイル名を指定します。[...] ボタンをクリックすると、ファイルを参照することができます。

[形式 (F)] コンボボックス

▼をクリックして表示される一覧から、出力の際に検索レコードデータが変換される CSV 形式を選択します (☞ 3.9.4 ファイルに出力)。

[プロパティ (P)] ボタン

クリックすると、[ユーザー定義アプリケーション (U)] リストで選択したユーザーアプリケーションのファイル名、CSV 形式を表示します。

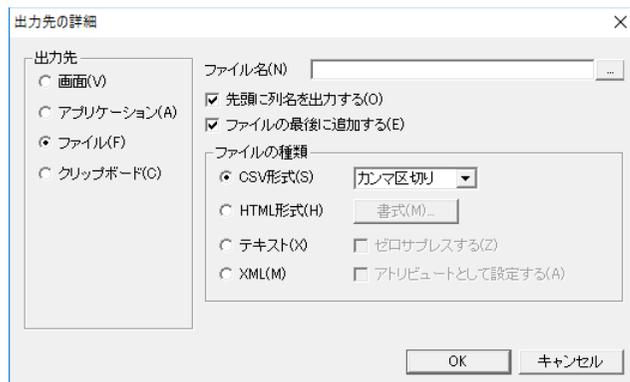
[削除 (D)] ボタン

クリックすると、[ユーザー定義アプリケーション (U)] リストで選択したユーザーアプリケーション登録を削除します。

検索を実行すると、CSV 形式でアプリケーションの画面に検索結果を出力します。

3.9.4 ファイルに出力

出力先種類の指定で [ファイル] を選択している場合に表示される [出力先の詳細] ダイアログについて説明します。



[ファイル名 (N)] ボックス

検索結果を出力するファイル名を指定します。[...] ボタンをクリックして、ファイルを参照することができます。新規ファイル名を入力した場合、出力時にファイルが作成されます。

ファイル名に [!] で囲んだ予約文字の指定を行うことでシステム日付等の情報を付けることができます。

例えば、OutputFileName-[!Y%m%d] を指定することで出力ファイル名は実行時の日付を使用して

「OutputFileName-20160531」というようになります。

予約文字の種類は、「検索条件の設定」で使用できるものと同じです。(☞3.7.2 検索条件の設定)

[先頭に列名を出力する (O)] チェックボックス

チェックをつけると、項目名がタイトルとして先頭の行に出力されます。

[ファイルの最後に追加する (E)] チェックボックス

[ファイル名 (N)] ボックスで指定したファイルの元のデータは残し、元のデータの末尾以降から出力レコードを書き足します。

[UTF-8で出力する (U)] チェックボックス

チェックをつけると、出力する際の文字コードをUTF-8形式 (BOM付き) にします。チェックを外すと、Shift_JIS形式となります。

(ファイルの種類は問いません)

ファイルの種類

[CSV 形式 (S)] オプションボタン

[HTML 形式 (H)] オプションボタン

[テキスト (X)] オプションボタン

[XML(M)] オプションボタン

[ファイル名 (N)] で指定したファイルの形式を指定します。
[CSV 形式 (S)]、[HTML 形式 (H)]、[テキスト (X)]、[XML(M)] の各オプションボタンのうちいずれかを選択します。
[CSV 形式 (S)] オプションボタンを選択した場合は、▼をクリックして表示される一覧から、CSV の形式を選択します。Sky-Link で扱える CSV の形式種類は次の通りです。

CSV 形式 形式の内容

カンマ区切り 項目データと項目データをカンマ (,) で区切ります。

" 文字データ " 項目データをダブルクォーテーション (") で囲みます。

' 文字データ 項目データにシングルクォーテーション (') を付けます。

= " 文字データ " 項目データをダブルクォーテーション (") で囲みイコール (=) を付けます。(Excel 用)

タブ区切り 項目データと項目データをタブ文字で区切ります。

文字データにクォーテーションを付ける形式は、数値データを文字列として扱いたい項目がある場合 (☞ 3.9.3 アプリケーションに出力 Excel の [文字形式で出力する (S)])、ファイル出力後に、他のアプリケーションでそのファイルを開いたときに有効です。「= " 文字データ "」は、Excel の場合、囲み文

字が取れて文字データのみ Excel 画面に出力されます。CSV のいずれの形式種類も、レコードとレコードは改行で区切られ、レコードデータは区切り文字なしで出力されます。

参考

インポート (☞ 4.10 レコード (R)) は CSV 形式カンマ区切りとタブ区切りのみに対応しています。

[HTML 形式 (H)] オプションボタンを選択した場合は、必要に応じて [書式 (M)] ボタンをクリックして表示される [HTML 書式] ダイアログで、書式の詳細を設定します。[HTML 書式] ダイアログでの操作は、Web ブラウザに出力する場合の [書式 (M)] ボタンをクリックして表示されるダイアログと同様となります (☞ 3.9.3 アプリケーションに出力)。

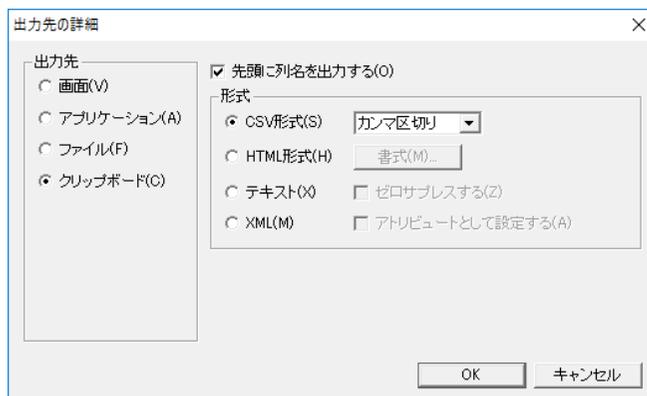
[テキスト (X)] オプションボタンを選択した場合で、値のうち「0」を「空白」にしてエクスポートする場合は、[ゼロサプレスする (Z)] チェックボックスをクリックしてチェックをつけます。

[XML(M)] オプションボタンを選択した場合で、データタイプなどの属性を値とともにエクスポートする場合は、[アトリビュートとして設定する (A)] チェックボックスをクリックしてチェックをつけます。

検索を実行すると指定されたファイルに出力されます。このとき出力されたファイルは開かれません。そのファイルを SkyLink や他のアプリケーションで開いて、データを活用することもできます。

3.9.5 クリップボードに出力

出力先種類の指定で「クリップボード」を選択している場合に表示される [出力先の詳細] ダイアログについて説明します。



[先頭に列名を出力する (O)] チェックボックス

チェックをつけると、項目名がタイトルとして先頭の行に出力されます。

形式

[CSV 形式 (S)] オプションボタン

[HTML 形式 (H)] オプションボタン

[テキスト (X)] オプションボタン

[XML (M)] オプションボタン

検索結果をクリップボードに出力する際のデータ形式を選択します。[CSV 形式 (S)]、[HTML 形式 (H)]、[テキスト (X)]、[XML (M)] の各オプションボタンのうちいずれかを選択します。

[CSV 形式 (S)] オプションボタンを選択した場合は をクリックして表示される一覧から、CSV の形式を選択します (☞ 3.9.4 ファイルに出力)。

[HTML 形式 (H)] オプションボタンを選択した場合は、必要に応じて [書式 (M)] ボタンをクリックして表示される [HTML 書式] ダイアログで、書式の詳細を設定します (☞ 3.9.3 アプリケーションに出力)。

[テキスト (X)] オプションボタンを選択した場合で、値のうち「0」を「空白」にしてエクスポートする場合は、[ゼロサプレスする (Z)] チェックボックスをクリックしてチェックをつけます。

[XML (M)] オプションボタンを選択した場合で、データタイプなどの属性を値とともにエクスポートする場合は、[アトリビュートとして設定する (A)] チェックボックスをクリックしてチェックをつけます。

検索を実行するとクリップボードに出力されます。出力されたデータを貼りつけて、データ編集を行うことができます。

3.10

SkyLinkの起動と終了

「コマンド」機能を利用して効率的な検索作業が行えます。

3.10.1 コマンドとは

SkyLink のコマンドとは、検索のために表ウィンドウや設定ウィンドウ（☞ 3.5 検索の用意）に設定した項目や条件を記憶したものです。よく行う検索処理をコマンドとして登録しておく、再び同じ検索を行う際に、その都度設定を行わなくても、コマンドを呼び出すことで簡単に検索処理を行うことができます。登録したコマンドは、SkyLink を終了するまで記憶されます。また、SkyLink を再起動してもコマンドを使用できるように、複数の登録済みコマンドをコマンドファイルとして保存しておくこともできます。

このように、コマンドを使用すると、同じ検索処理を頻繁に行う業務、検索条件を少しだけ変えて実行するなどの場合に大変便利です。SkyLink で行う検索処理はすべて、コマンドとして登録することができます。

3.10.2 コマンドの作成

コマンドの作成は容易で、特別な作業を必要としません。SkyLink を起動し、データベースに接続した段階で、接続方法の種類にかかわらず、コマンドを保存するファイル（コマンドファイル）の編集がスタートします。ひとつのコマンドファイルにつき、最大 100 個のコマンドを保存することができます。

コマンドの作成に関するメニュー項目は、以下のとおりです。

新規ボタン  または SkyLink ボタン [ファイル (F)]-[新規作成 (N)]

接続ボタン  または SkyLink ボタン [ファイル (F)]-[接続 (T)]

新規コマンドファイルの編集をスタートし、以降の操作をコマンドファイルとして保存することができますようになります。画面のタイトルに、コマンドファイルの保存が行われるまでの一時的なコマンドファイル名として、「新しいコマンドファイル」と表示されます。一度ファイルに保存した後は、画面のタイトルには、コマンドファイル名が表示されます。

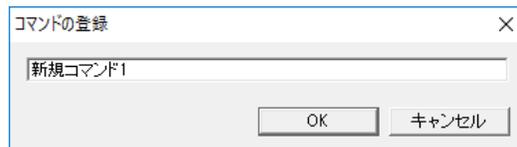
コマンド新規ボタン  または SkyLink ボタン [コマンド (C)]-[新規 (N)]

新規コマンドの編集をスタートし、以降の操作をコマンドとして登録することができますようになります。[コマンド一覧] コンボボックスに、コマンドの登録操作が行われるまでの一時的なコマンド名として「新規コマンド + 番号」と表示されます。

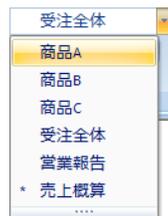
3.10.3 コマンドの登録

コマンドを使用するために、コマンドを登録する必要があります。

コマンドの登録は、[コマンド] パネル [登録] ボタン  をクリックして表示される [コマンド登録] ダイアログで行います。



[コマンドの登録] ダイアログにコマンドの名称を入力し、[OK] をクリックすると、コマンドが登録され、[コマンド一覧] コンボボックスに登録したコマンド名が表示されます。



参考

コマンドは検索する表や項目だけでなく、検索結果の出力先とユーザーの作成したフォームや Excel フォームも記憶します (☞ 3.9 検索レコードの出力先) (☞ 3.15 フォーム編集) (☞ 3.16 Excel フォーム編集)。

参考

登録をまだしていないコマンドでも検索の実行やフォーム、Excel フォームの作成は行えますが、登録をしない

とこれらの設定内容は記憶されません (☞ 3.15 フォーム編集) (☞ 3.16 Excel フォーム編集)。

☞ 参考

検索モードでユーザーが編集した SQL (☞ 3.7.6 SQL 編集) は、同様の操作方法でコマンドに登録することができます。ただし、登録する SQL は必ず SELECT 文とします。また、検索モード以外のモードのときは編集した SQL の登録は行えません。なお、NEC RDB サーバでは、サーバのバージョンにより登録できない場合がありますので、Readme ファイルを参照してください。

☞ 参考

SQL を編集したコマンドは、ユーザー定義のフォーム (☞ 3.15 フォーム編集)、Excel フォーム (☞ 3.16 Excel フォーム編集) を持つことができません。

3.10.4 コマンドの選択と検索実行

コマンドの作成と登録を繰り返して、複数のコマンドを順次登録することができます。登録されたコマンドは、登録順にすべて [コマンド一覧] コンボボックスで確認することができます。



☞ 参考

検索モードでユーザーが編集した SQL を登録したコマンドは、コマンド一覧ボックスの中でコマンド名の左隣に*が表示されます。

[コマンド一覧] コンボボックスからコマンドを選択するたびに、ステータスバーにコマンド名が表示され、表ウィンドウと設定ウィンドウの設定がコマンドで登録した通りに再現されます。コマンドに関するメニューやツールバーのボタンは現在選択されているコマンドを対象としているので、操作の前に選択中のコマンドを確認するようにしてください。

☞ 参考

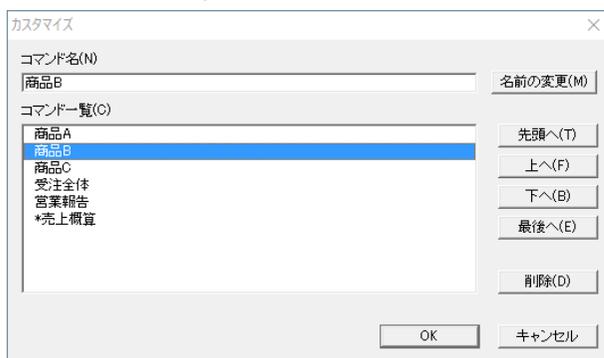
コマンドの設定内容を変更したい場合は、コマンドを選択して設定内容を編集後、登録ボタン  をクリックして再登録を行ってください。

コマンドを選択すると、検索ボタンをクリックするだけで、検索処理が実行できます。

また、コマンドの順番は変更することができます（[3.10.5 コマンドのカスタマイズ](#)）。

3.10.5 コマンドのカスタマイズ

登録されているコマンドの順番の入れ替え、コマンドの名前の変更、コマンドの削除などは、[オプション] カテゴリ [コマンド] パネルの、[カスタマイズ] ボタンを選択して表示される[カスタマイズ] ダイアログで行います。



[カスタマイズ] ダイアログでコマンドの設定を変更し、[OK] をクリックすると変更が有効となります。

[コマンド名 (N)] ボックス

[コマンド一覧 (C)] リストで選択されているコマンドの名前を表示します。

[名前の変更 (M)] ボタン

[コマンド一覧 (C)] リストで名前を変更するコマンドを選択し、[コマンド名 (N)] ボックスに変更する名前を入力後、[名前の変更 (M)] ボタンをクリックすると、コマンド名を変更することができます。

[コマンド一覧 (C)] リスト

登録されているコマンドの一覧が表示されます。[コマンド一覧 (C)] リストでは、操作対象となるコマンドを選択します。また、一覧内でコマンドをドラッグして、登録順序を変更することもできます。

[先頭へ (T)] ボタン

クリックして、[コマンド一覧 (C)] リストで選択したコマンドの登録順序を先頭へ移動します。

[上へ (F)] ボタン

クリックして、[コマンド一覧 (C)] リストで選択したコマンドの登録順序を現在より1つ上へ移動します。

[下へ (B)] ボタン

クリックして、[コマンド一覧 (C)] リストで選択したコマンドの登録順序を現在より1つ下へ移動します。

[最後へ (E)] ボタン

クリックして、[コマンド一覧 (C)] リストで選択したコマンドの登録順序を最後へ移動します。

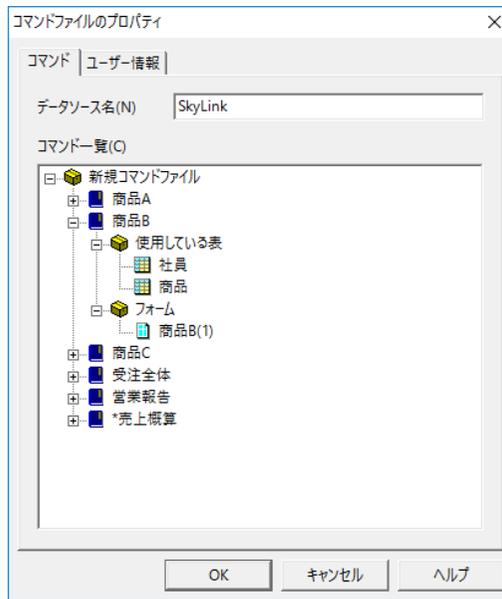
[削除 (D)]

[コマンド一覧 (C)] リストで削除するコマンドを選択し、[削除 (D)] ボタンをクリックすると、コマンド名を削除することができます。メイン画面の [コマンド一覧] コンボボックスでコマンドを選択し、ツールバーの削除ボタン  をクリックしても、コマンドの削除が行えます。また、登録されているすべてのコマンドを削除したい場合は、[オプション] カテゴリ [コマンド] パネル [全削除] ボタンを押します。

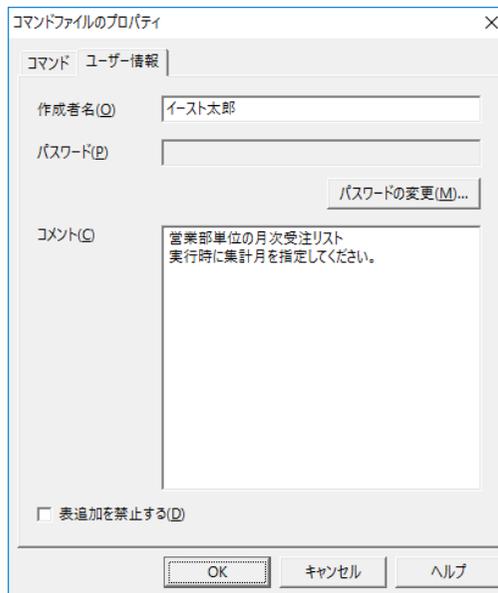
3.10.6 コマンドファイルのプロパティ

コマンドファイルにパスワードを設定したり、コマンドで使用している表以外の表を使用禁止にしたり、作成者名やコメントを付記することができます。このような操作は、SkyLink ボタンの [ファイル (F)] - [ファイルのプロパティ (R)] を選択して表示される [コマンドファイルのプロパティ] ダイアログの [ユーザー情報] タブで行います。また、[コマンドファイルのプロパティ] ダイアログの [コマンド] タブでは、接続するデータソース名、コマンドファイル名、登録されているコマンド、作成したフォームの一覧を確認することができます。

[コマンド] タブ



[ユーザー情報] タブ



[作成者名 (O)] ボックス

コマンドファイルの作成者名を入力します。

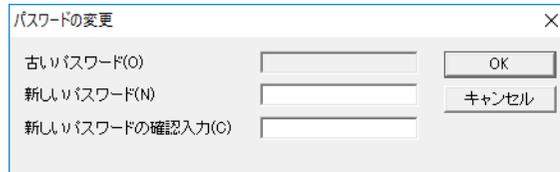
[パスワード (P)] ボックス

コマンドファイルにパスワードが設定されていない場合は、何も表示されず、このボックスは使用できません。

コマンドファイルにパスワードが設定されている場合は、アスタリスクで「***」と表示されます。

[パスワードの変更 (M)] ボタン

パスワードを新規に設定する場合、またはパスワードを変更する場合に[パスワードの変更(M)] ボタンをクリックすると、[パスワードの変更] ダイアログが表示されます。パスワードを設定後、[OK] ボタンをクリックすると、パスワードが設定されます。



[古いパスワード (O)] ボックス

現在のパスワードを入力します。初めてパスワードを設定する場合は、このボックスは使用できません。

[新しいパスワード (N)] ボックス

これから設定するパスワードを入力します。

[新しいパスワードの確認入力 (C)] ボックス

[新しいパスワード (N)] の入力と同じものの確認のために再度入力します。

[コメント (C)] ボックス

覚え書きなど、コメントを入力します。

[表追加を禁止する (D)] チェックボックス

チェックをつけると、コマンドファイルを使用中にデータベースツリーが表示されず、表ウィンドウや設定ウィンドウにこれまで使用していない表を追加する(☞ 3.5 検索の用意)ことができなくなります。この設定は、コマンドファイルを次に開いたときに有効となります。

コマンドファイルの使用者が閲覧・操作する表を、コマンドで登録されている表に限定しない場合は、チェックをつける必要はありません。

3.10.7 コマンドの保存と呼出

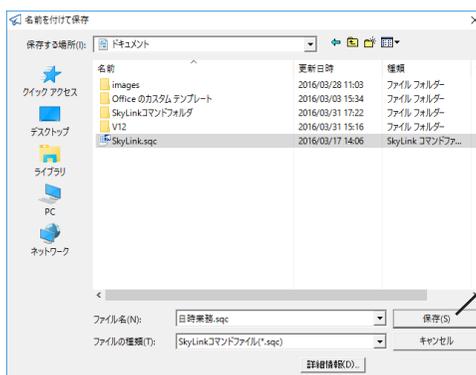
コマンドを登録しても、SkyLink を終了すると消えてしまいます。登録したコマンドを次回も利用する場合は、次の方法で必ず「コマンドファイル」に保存してください。

新規にコマンドファイルに保存する場合

(画面のタイトルは「新しいコマンドファイル」)

保存ボタンをクリック
またはSkyLink ボタン[ファイル (F)]-[上書き保存 (S)]
またはSkyLink ボタン[ファイル (F)]-[名前を付けて保
存 (A)]

[名前を付けて保存]ダイアログが表示されます。



[保存 (S)] ボタン
をクリック

保存するドライブ名やフォルダ名を選択してから、ファイル名を指定します。拡張子のデフォルトは「SQC」です。

現在開かれているコマンドファイルを名前を変えて保存する場合

SkyLink ボタン [ファイル (F)]-[名前を付けて保存 (A)]
前記と同様に、[名前を付けて保存]ダイアログが表示されます。保存するドライブ名やフォルダ名を選択してから、ファイル名を指定します。拡張子のデフォルトは「SQC」です。

現在開かれているコマンドファイルに上書きして保存する場合

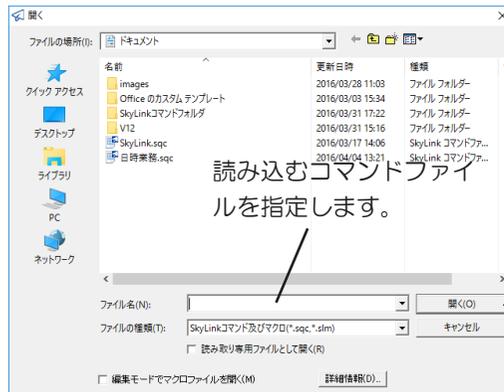
保存ボタンをクリック
または [ファイル (F)]-[上書き保存 (S)]
直ちに上書き保存されます。

ファイルに保存すると、登録されたコマンドがファイルに書きこまれ、いったん SkyLink を終了した後も、以下の方法でコマンドを再利用することができます。

コマンドの呼び出し

開くボタンをクリック

または [ファイル (F)]-[開く (O)]
[開く] ダイアログが表示されます。



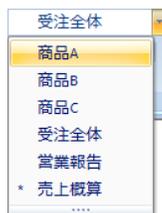
保存しているドライブ名やフォルダ名を選択してから、開くファイル名を指定します。開いたコマンドファイルにコマンドを追加・変更して、保存し直すこともできます。

参考

[読み取り専用ファイルとして開く (R)] にチェックを付けると、コマンドファイルにコマンドを追加・変更して、上書き保存することはできません。[詳細情報 (D)] ボタンをクリックして [コマンドファイルの詳細情報] ダイアログを表示し、コマンドファイルの詳細情報を確認することができます (☞ 4.1.2 [ファイル (F)]-[開く (O)])。

コマンドを選択する

[コマンド一覧] コンボボックスから目的のコマンドを選択し、コマンドの編集、検索実行などを行います。コマンドファイルを開いた時点では、[コマンド一覧] コンボボックスには先頭のコマンドが選択されています。



参考

検索モードでユーザーが編集した SQL を登録したコマンドは、コマンド一覧ボックスの中でコマンド名の左隣に*が表示されます。

参考

SkyLink Ver.13 で作成したコマンドファイルは、Ver.13 より前のバージョンでは開くことはできません。

3.10.8 コマンドのインポート

他のコマンドファイルから、選択したコマンドを現在使用しているコマンドファイルにインポートすることができます。

コマンドのインポートは、以下の方法で行います。

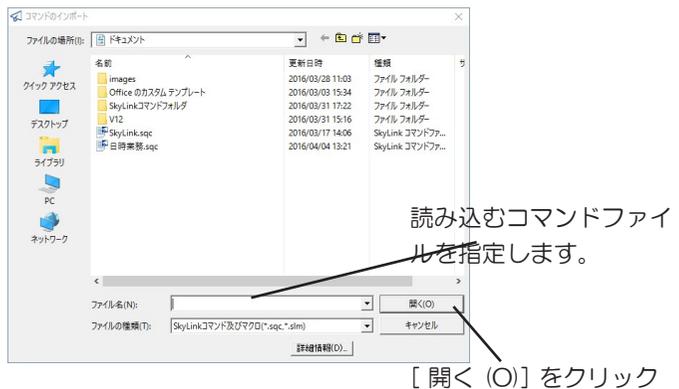
[オプション] カテゴリの [コマンド] パネル - [インポート] ボタン

↓ を押します。

コマンドファイルの選択

[コマンド (C)]-[インポート (I)]

[コマンドのインポート] ダイアログが表示されます。

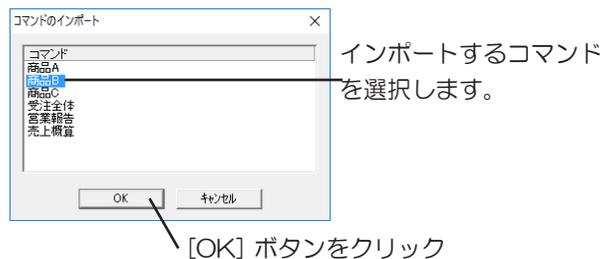


[開く (O)] をクリック

保存しているドライブ名やフォルダ名を選択してから、インポートするコマンドが保存されているファイル名を指定します。

コマンドの選択

[コマンドのインポート] ダイアログ [開く (O)] ボタンをクリックすると、[コマンドのインポート] ダイアログが表示されます。



[OK] ボタンをクリック

インポートするコマンドを一覧から選択します。

[OK] ボタンをクリックすると、コマンドのインポートが実行され、

インポートしたコマンドが、[コマンド一覧] コンボボックスの  をクリックして表示される一覧の最後に表示されます。

3.10.9 コマンドファイルからSkyLinkを起動

コマンドファイルを保存しておく、コマンドファイルからSkyLink を起動することができます。

コマンドファイル名をダブルクリックして起動

エクスプローラなどでコマンドファイルをダブルクリックまたは選択して Enter キーを押すと、SkyLink が起動します。

コマンドファイルのアイコンをダブルクリックして起動

コマンドファイルのアイコンをデスクトップに置いておき、アイコンをダブルクリックまたは選択して Enter キーを押すとSkyLink が起動します。

上記の操作はいずれも、SkyLink を通常通り起動してからコマンドファイルを開いた場合と同じ結果になります (☞ 3.4 データベース接続)。

参考

SkyLink は全てのデータベースで、コマンドファイルの拡張子として「SQC」を使用しています。複数のデータベースをお使いの場合もコマンドファイルから自動判別しますので、データベースの種類を気にせずにそのままご使用になれます。

3.11

表を結合して検索

表結合を指定して行う検索について説明します。

3.11.1 表結合とは

2 つ以上の表で互いの表の項目をキーとした場合は、1 つの表として扱うことができます。

この状態を表結合といい、キーとなる項目は結合項目といいます。最大 15 個の表に対して最大 14 種類の結合を設定できます。

参考

多くの結合を設定すると、サーバの種類、処理能力によってはタイムアウトで終了してしまうことがあります。その場合は、ODBC ではタイムアウトの時間を増やしてください (☞ 4.8.7 [ツール (T)]-[オプション (O)] [詳細] タブ)。

参考

結合した表に対しては、検索のみを行うことができます。挿入、削除、更新処理は行うことができません。

3.11.2 表結合を指定して検索する

表「部門」と表「社員」で項目「部門番号」をキーとして結合する場合を例に取り、説明します。

2 表を結合せずにそれぞれ検索した場合は、次のような結果が得られるものとします。

表「部門」

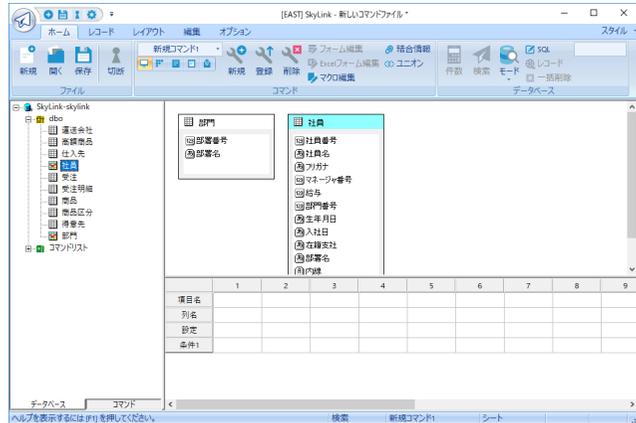
部門番号	部署名	社員数
1	総務部	20
2	営業部	35
3	開発部	40
4	人事部	15
5	経理部	25
6	製造部	100

表「社員」

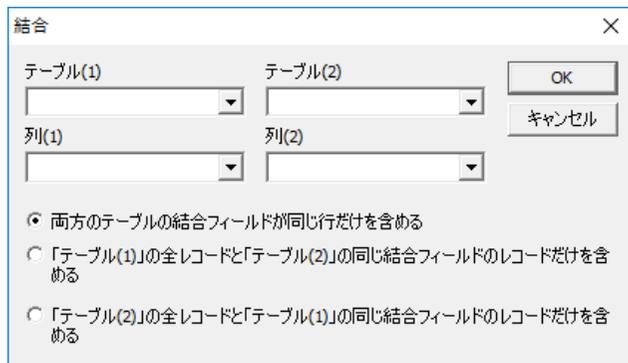
社員番号	社員名	部署番号	職名	年齢	性別	部署名	内線	部署コード
1	山田 太郎	1	経理	28	男	総務部	100	001
2	佐藤 花子	2	営業	25	女	営業部	200	002
3	鈴木 一郎	3	開発	30	男	開発部	300	003
4	田中 美咲	4	人事	22	女	人事部	400	004
5	高橋 健太	5	経理	27	男	経理部	500	005
6	渡辺 真由	6	製造	35	女	製造部	600	006
7	石川 大輔	6	製造	28	男	製造部	600	007
8	森田 由香	6	製造	32	女	製造部	600	008
9	松本 隆夫	6	製造	40	男	製造部	600	009
10	山崎 浩二	6	製造	38	男	製造部	600	010
11	佐々木 美穂	6	製造	25	女	製造部	600	011
12	高木 誠一	6	製造	30	男	製造部	600	012
13	山本 健太	6	製造	27	男	製造部	600	013
14	佐藤 真由	6	製造	33	女	製造部	600	014
15	鈴木 大輔	6	製造	29	男	製造部	600	015
16	田中 美咲	6	製造	24	女	製造部	600	016
17	高橋 健太	6	製造	31	男	製造部	600	017
18	渡辺 真由	6	製造	26	女	製造部	600	018
19	石川 大輔	6	製造	34	男	製造部	600	019
20	森田 由香	6	製造	29	女	製造部	600	020

標準モードの場合

- 1 表ウィンドウに表を追加しておく
(☞ 3.5 検索の用意)



- 2 [表結合] ボタンをクリックする
[編集] カテゴリ [項目・結合] パネル [表結合] ボタン  をクリックすると [結合] ダイアログが表示されます。
- 3 [結合] ダイアログで結合する表とその項目を選択する
[結合] ダイアログで結合する表とその項目を [テーブル (1)] コンボボックス、[列 (1)] コンボボックスと [テーブル (2)] コンボボックス、[列(2)] コンボボックスで選択し [OK] ボタンをクリックすると結合されます。

The '結合' (Join) dialog box has a title bar with a close button (X). It contains four dropdown menus: 'テーブル(1)' (Table 1), 'テーブル(2)' (Table 2), '列(1)' (Column 1), and '列(2)' (Column 2). There are 'OK' and 'キャンセル' (Cancel) buttons. Below the dropdowns are three radio button options:

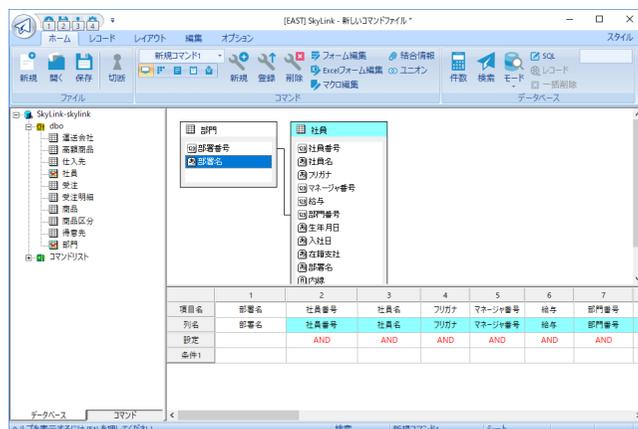
- 両方のテーブルの結合フィールドが同じ行だけを含める
- 「テーブル(1)」の全レコードと「テーブル(2)」の同じ結合フィールドのレコードだけを含める
- 「テーブル(2)」の全レコードと「テーブル(1)」の同じ結合フィールドのレコードだけを含める

参考

表ウィンドウに追加した一方の表の項目を選択し、もう一方の表の項目へドラッグアンドドロップすることでも結合されます。

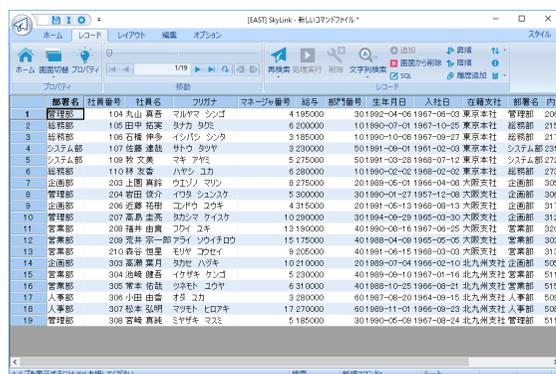
4 設定ウィンドウに追加する

表「社員」のすべての項目と表「部門」の項目「部門名」を設定ウィンドウにドラッグします。



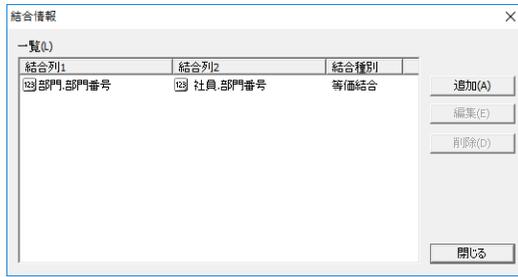
5 検索ボタン をクリックして検索を実行する

検索結果は次のように表示されます（出力先がシート画面の場合）（☞ 3.9 検索レコードの出力先）。項目「部門番号」を表「部門」と表「社員」の結合項目としたので、2つの表は1つの表のように検索されます（2表の間で同じ「部門番号」のレコードが連結します）。



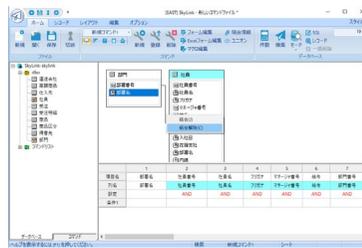
結合を解除する

リボンバーの[コマンドグループ]-[結合情報]、または表ウィンドウで右クリックして表示されるポップアップメニューから[結合情報 (I)]を選択すると表示される[結合情報]ダイアログの[一覧 (L)]で表結合を解除したい結合を選択して[削除]ボタンをクリックする。また表ウィンドウに設定しているすべての表結合を解除する場合は、[編集] カテゴリ [項目・結合]-[表結合全解除]ボタンを選択します。



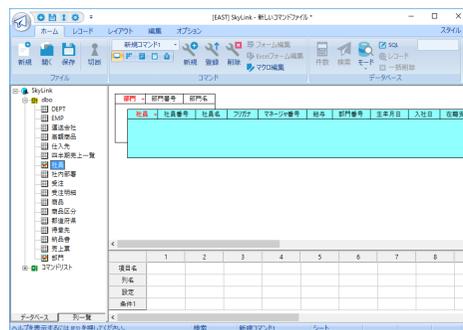
参考

項目を結合している線の上で右クリックして表示されるポップアップメニューから [結合解除 (C)] を選択することでも結合は解除されます。



クラシックモードの場合

- 1 表ウィンドウに表を追加しておく
(☞ 3.5 検索の用意)



- 2 表ウィンドウで結合項目を選択する

どちらかの表の項目「部門番号」をクリックして選択し、もう一方の項目「部門番号」を Ctrl キーを押しながらクリックします (☞ 3.5.4 表ウィンドウ)。

部門	部門番号	部門名					
社員	社員番号	社員名	フリガナ	マネージャ番号	給与	部門番号	生年月日

3 選択した項目に表結合の指定をする

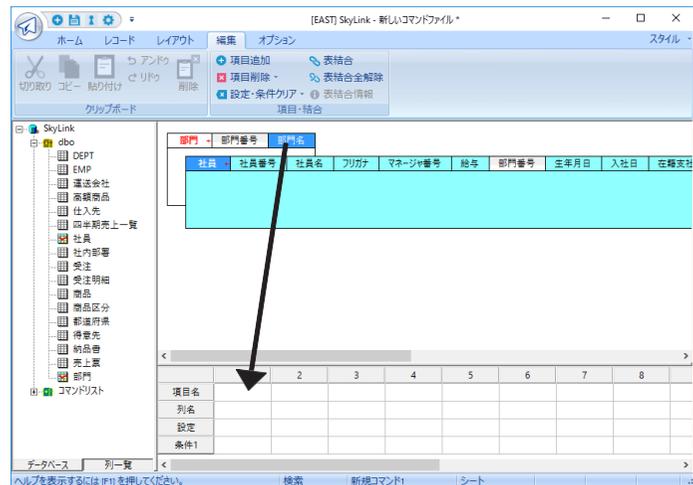
項目を選択したまま、表結合ボタン  をクリックします。または、選択した項目のいずれかを右クリックして表示されるポップアップメニューから [表結合 (J)] を選択し、さらに表示されるサブメニューから表結合記号の色を選択します。

部門	部門番号	部門名					
社員	社員番号	社員名	フリガナ	マネージャ番号	給与	部門番号	生年月日

結合項目に同じ色のマークが付いたのを確認してください。

4 設定ウィンドウに追加する

表「社員」のすべての項目と表「部門」の項目「部門名」を、設定ウィンドウにドラッグします。



5 検索ボタン をクリックして検索を実行する

検索結果は次のように表示されます（出力先がシート画面の場合）（[3.9 検索レコードの出力先](#)）。項目「部門番号」を表「部門」と表「社員」の結合項目としたので、2つの表は1つの表のように検索されます（2表の間で同じ「部門番号」のレコードが連結します）。

部署名	社員番号	社員名	フリガナ	マネージング番号	給与	部門番号	生年月日	入社日	在籍支社	部署名	内務
1	管理	104 丸山 真香	マロヤマ マコカ	4 185000		301992-04-06 1967-06-00	東京本社	管理	206		
2	経理	106 田中 拓実	タナカ タカミ	6 200000		101990-01-01 1967-10-25	東京本社	経理	215		
3	経理	106 石橋 伸希	イシハシ シンカ	3 185000		101990-10-08 1967-09-27	東京本社	経理	217		
4	システム	107 佐藤 達哉	サトウ タツヤ	3 230000		501991-08-01 1961-02-03	東京本社	システム	231		
5	システム	109 牧 文美	カキ アサヒ	5 275000		501991-09-09 1968-07-12	東京本社	システム	272		
6	経理	112 村上 実希	ムラカミ マコキ	6 230000		101990-02-02 1968-02-02	東京本社	経理	273		
7	企画	203 上野 真樹	ウエノ マツキ	8 275000		201989-06-01 1966-04-08	大阪支社	企画	305		
8	管理	204 岩田 隼介	イワタ シュンスケ	5 300000		301990-01-27 1957-12-08	大阪支社	企画	306		
9	企画	206 佐藤 裕樹	サトウ ユキ	4 215000		201991-05-13 1969-08-13	大阪支社	企画	317		
10	管理	207 高島 圭美	タカシマ ケイスケ	10 290000		301994-09-29 1965-03-30	大阪支社	企画	312		
11	営業	208 福井 由貴	フクイ ユキ	13 190000		401990-06-16 1967-06-25	大阪支社	営業	320		
12	営業	208 荒井 邦一郎	アラヰ ヒロキチロウ	15 175000		401989-04-08 1965-05-06	大阪支社	営業	303		
13	営業	210 倉田 恒基	クラダ コノエ	9 205000		401991-06-15 1968-03-00	大阪支社	営業	313		
14	企画	303 高瀬 葉月	タカセ ハツキ	10 21 0000		201989-07-04 1966-02-10	北九州支社	企画	505		
15	営業	304 池崎 健吾	イケサキ ケンゴ	5 230000		401989-08-10 1967-01-16	北九州支社	営業	511		
16	営業	305 宮本 祐哉	ミヤモト ユキヤ	6 21 0000		401989-10-25 1969-08-21	北九州支社	営業	515		
17	人事	309 小田 由香	オダ ユカ	3 280000		601987-06-20 1964-09-15	北九州支社	人事	509		
18	人事	307 松本 弘明	マツモト ヒロアキ	17 270000		601989-11-01 1966-09-23	北九州支社	人事	508		
19	管理	308 宮崎 真純	ミヤザキ マスミ	5 185000		301990-05-08 1967-09-24	北九州支社	管理	511		

結合を解除する

リボンバーの[コマンドグループ]-[結合情報]、または[編集]カテゴリ [項目・結合]-[表結合情報] ボタンを押して結合情報ダイアログを表示し、該当の結合情報を選択して、[削除(D)] ボタンを押すと、結合は解除されます。また、表ウィンドウに設定しているすべての表結合を解除する場合は、結合情報ダイアログの[結合全解除]ボタンを押すか、表ウィンドウを右クリックして表示されるポップアップメニューから[結合全解除(C)] または[編集]カテゴリ [項目・結合]-[表結合全解除] ボタンを選択します。

3.11.3 表結合（複合）

前の例では 2 つの表を 1 種類の結合項目で結合しましたが、5 つの表を 4 種類の結合項目で結合する例を説明します。

標準モードの場合

1 表ウィンドウに使用する表を追加しておく

(☞ 3.5 検索の用意)

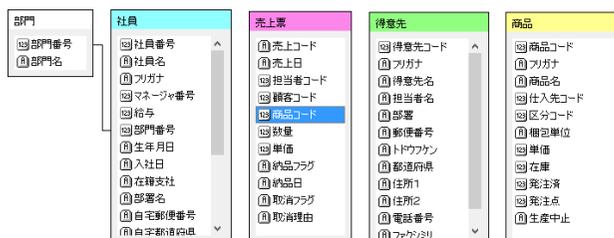
部門	社員	売上票	得意先	商品
<input type="checkbox"/> 部門番号 <input type="checkbox"/> 部門名	<input type="checkbox"/> 社員番号 <input type="checkbox"/> 社員名 <input type="checkbox"/> フリガナ <input type="checkbox"/> マネージャ番号 <input type="checkbox"/> 給与 <input type="checkbox"/> 部門番号 <input type="checkbox"/> 生年月日 <input type="checkbox"/> 入社日 <input type="checkbox"/> 在籍支社 <input type="checkbox"/> 部署名 <input type="checkbox"/> 自宅郵便番号 <input type="checkbox"/> 自宅郵便局	<input type="checkbox"/> 売上コード <input type="checkbox"/> 売上日 <input type="checkbox"/> 担当者コード <input type="checkbox"/> 顧客コード <input type="checkbox"/> 数量 <input type="checkbox"/> 単価 <input type="checkbox"/> 納品フラグ <input type="checkbox"/> 納品日 <input type="checkbox"/> 取消フラグ <input type="checkbox"/> 取消理由	<input type="checkbox"/> 得意先コード <input type="checkbox"/> フリガナ <input type="checkbox"/> 得意先名 <input type="checkbox"/> 担当者名 <input type="checkbox"/> 部署 <input type="checkbox"/> 郵便番号 <input type="checkbox"/> トクワケン <input type="checkbox"/> 都道府県 <input type="checkbox"/> 住所1 <input type="checkbox"/> 住所2 <input type="checkbox"/> 電話番号 <input type="checkbox"/> ファックス	<input type="checkbox"/> 商品コード <input type="checkbox"/> フリガナ <input type="checkbox"/> 商品名 <input type="checkbox"/> 仕入先コード <input type="checkbox"/> 区分コード <input type="checkbox"/> 梱包単位 <input type="checkbox"/> 単価 <input type="checkbox"/> 在庫 <input type="checkbox"/> 発注済 <input type="checkbox"/> 発注点 <input type="checkbox"/> 生産中止

2 [表結合] ボタンをクリックする

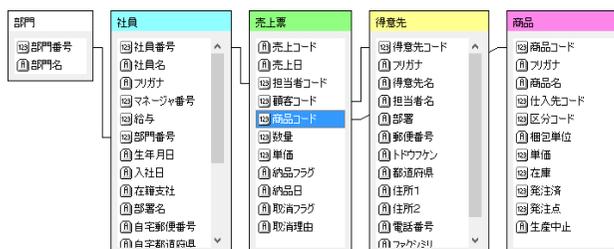
[表結合] ボタンをクリックすると[結合]ダイアログが表示されます。

- 3 [結合]ダイアログで結合する表とその項目を選択する
- a 表「部門」の「部門番号」と表「社員」の「部門番号」
 - b 表「社員」の「社員番号」と表「売上票」の「担当者コード」
 - c 表「商品」の「商品コード」と表「売上票」の「商品コード」
 - d 表「得意先」の「得意先コード」と表「売上票」の「顧客コード」

このように複合項目を指定します。指定の順序は問いません。ここではまず前の例と同様にして、aの指定を行います。



同様に指定を繰り返すと、表ウィンドウは次のようになります。



4 設定ウィンドウに追加する

検索する項目を設定ウィンドウにドラッグします。

項目名	1	2	3	4	5	6	7	8
列名	売上コード	売上日	担当者コード	社員名	得意先コード	商品コード	商品名	数量
設定								
条件1		AND	AND	AND	AND	AND	AND	AND

5 検索ボタンをクリックして検索を実行する

検索結果は次のように表示されます（出力先がシート画面の場合）（☞ 3.9 検索レコードの出力先）。

売上コード	売上日	担当コード	社員名	得意先コード	得意先名	商品名	数量	出荷先名
1	1001 2019-01-10	210	森住 悠里	28	小料理の	ピザデリバリアソース	30	小料理の
2	1001 2019-01-10	210	森住 悠里	28	小料理の	だしんぷ	50	小料理の
3	1001 2019-01-10	210	森住 悠里	28	小料理の	ひげ肉のしほ	20	小料理の
4	1001 2019-01-10	210	森住 悠里	28	小料理の	なまめぼし	40	小料理の
5	1001 2019-01-10	210	森住 悠里	28	小料理の	なまからし	40	小料理の
6	1001 2019-01-10	210	森住 悠里	28	小料理の	なまからし	40	小料理の
7	1002 2019-01-08	306	小田 由香	22	東所あんどう	特製和風醤油	30	東所あんどう
8	1002 2019-01-08	306	小田 由香	22	東所あんどう	チーズあんぱん	40	東所あんどう
9	1002 2019-01-08	306	小田 由香	22	東所あんどう	コロッケのり	50	東所あんどう
10	1002 2019-01-08	306	小田 由香	22	東所あんどう	生あん	30	東所あんどう
11	1002 2019-01-08	306	小田 由香	22	東所あんどう	生そば	30	東所あんどう
12	1002 2019-01-08	306	小田 由香	22	東所あんどう	やまどろ	30	東所あんどう
13	1003 2019-01-12	304	海崎 健吾	50	高保亭	ピレウフォームアイス	5	高保亭
14	1003 2019-01-12	304	海崎 健吾	50	高保亭	ストロベリーヨーグルト	50	高保亭
15	1003 2019-01-12	304	海崎 健吾	50	高保亭	ブルーベリーヨーグルト	50	高保亭
16	1003 2019-01-12	304	海崎 健吾	50	高保亭	青森アップル	50	高保亭
17	1003 2019-01-12	304	海崎 健吾	50	高保亭	マイドカレー	40	高保亭
18	1003 2019-01-12	304	海崎 健吾	50	高保亭	特製果汁	50	高保亭
19	1004 2019-01-21	204	若田 謙介	28	料理の	しょうゆ・生油	5	料理の
20	1004 2019-01-21	204	若田 謙介	28	料理の	しょうゆ・もろみだる料上	20	料理の
21	1004 2019-01-21	204	若田 謙介	28	料理の	しょうゆ・本ごろ料上	10	料理の
22	1004 2019-01-21	204	若田 謙介	28	料理の	しょうゆ・まそば	50	料理の
23	1004 2019-01-21	204	若田 謙介	28	料理の	しょうゆ・めんつゆ	50	料理の

クラシックモードの場合

1 表ウィンドウに使用する表を追加しておく (☞ 3.5 検索の用意)

部門	部門番号	部門名						
社員	社員番号	社員名	フリガナ	マネージャ番号	給与	部門番号	生年月日	
商品	商品コード	商品名	フリガナ	商品名	仕入先コード	区分コード	梱包単位	単価
得意先	得意先コード	フリガナ	得意先名	担当者名	部署	郵便番号	ト	
売上票	売上コード	売上日	担当者コード	顧客コード	商品コード	数量		

2 表ウィンドウで結合項目を指定する

- a 表「部門」の「部門番号」と表「社員」の「部門番号」
- b 表「社員」の「社員番号」と表「売上票」の「担当者コード」
- c 表「商品」の「商品コード」と表「売上票」の「商品コード」
- d 表「得意先」の「得意先コード」と表「売上票」の「顧客コード」

このように複合項目を指定します。指定の順序は問いません。

ここではまず前の例と同様にして、a の指定を行います。

部門	部門番号	部門名						
社員	社員番号	社員名	フリガナ	マネージャ番号	給与	部門番号	生年月日	
商品	商品コード	商品名	フリガナ	商品名	仕入先コード	区分コード	梱包単位	単価
得意先	得意先コード	フリガナ	得意先名	担当者名	部署	郵便番号	ト	
売上票	売上コード	売上日	担当者コード	顧客コード	商品コード	数量		

Ctrl キーを押しながら結合したい 2 つの列をクリックし、そのままマウスを右クリックして表示されるメニュー [表結合 (J)] をクリックして表示されるメニューから未使用の色を選択した後に、b の指定を行います。

部門	社員番号	社員名	フリガナ	マネージャ番号	給与	部門番号	生年月日
商品	商品コード	商品名	仕入先コード	区分コード	梱包単位	単価	
得意先	得意先コード	フリガナ	得意先名	担当名	部署	郵便番号	ト
売上票	売上コード	売上日	担当コード	顧客コード	商品コード	数量	

同様に指定を繰り返すと、表ウィンドウは次のようになります。

部門	部門番号	部門名
社員	社員番号	社員名
商品	商品コード	商品名
得意先	得意先コード	フリガナ
売上票	売上コード	売上日

3 設定ウィンドウに追加する

検索する項目を設定ウィンドウにドラッグします。



4 検索ボタン をクリックして検索を実行する

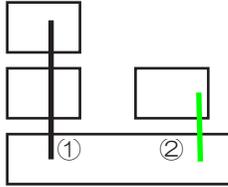
検索結果は次のように表示されます（出力先がシート画面の場合）（☞ 3.9 検索レコードの出力先）。

売上コード	売上日	担当コード	社員名	得意先コード	得意先名	商品名	数量	出荷先名
1	1001	2019-01-10	210 森谷 恒重	20 小料理屋	ピザアタックソース	30 小料理屋		
2	1001	2019-01-10	210 森谷 恒重	26 小料理屋	ピザアタックソース	50 小料理屋		
3	1001	2019-01-10	210 森谷 恒重	26 小料理屋	ピザアタックソース	20 小料理屋		
4	1001	2019-01-10	210 森谷 恒重	26 小料理屋	ピザアタックソース	40 小料理屋		
5	1001	2019-01-10	210 森谷 恒重	26 小料理屋	ピザアタックソース	40 小料理屋		
6	1001	2019-01-10	210 森谷 恒重	26 小料理屋	ピザアタックソース	40 小料理屋		
7	1002	2019-01-08	306 小田 由香	22 資材屋	生乳	30 資材屋		
8	1002	2019-01-08	306 小田 由香	22 資材屋	生乳	40 資材屋		
9	1002	2019-01-08	306 小田 由香	22 資材屋	生乳	50 資材屋		
10	1002	2019-01-08	306 小田 由香	22 資材屋	生乳	30 資材屋		
11	1002	2019-01-08	306 小田 由香	22 資材屋	生乳	30 資材屋		
12	1002	2019-01-08	306 小田 由香	22 資材屋	生乳	30 資材屋		
13	1003	2019-01-12	304 池崎 健吾	50 高専	パンケーキ	5 高専		
14	1003	2019-01-12	304 池崎 健吾	50 高専	パンケーキ	50 高専		
15	1003	2019-01-12	304 池崎 健吾	50 高専	パンケーキ	30 高専		
16	1003	2019-01-12	304 池崎 健吾	50 高専	パンケーキ	50 高専		
17	1003	2019-01-12	304 池崎 健吾	50 高専	パンケーキ	40 高専		
18	1003	2019-01-12	304 池崎 健吾	50 高専	パンケーキ	50 高専		
19	1004	2019-01-21	204 新田 琢介	28 料亭	生乳	5 料亭		
20	1004	2019-01-21	204 新田 琢介	28 料亭	生乳	20 料亭		
21	1004	2019-01-21	204 新田 琢介	28 料亭	生乳	10 料亭		
22	1004	2019-01-21	204 新田 琢介	28 料亭	生乳	50 料亭		
23	1004	2019-01-21	204 新田 琢介	28 料亭	生乳	60 料亭		

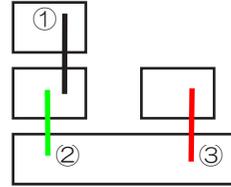
表結合（複合）の例

次のような表結合も可能です。

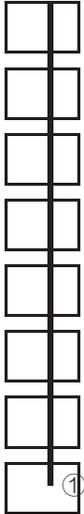
4表に2種類の表結合を指定



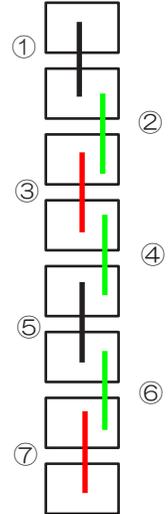
4表に3種類の表結合を指定



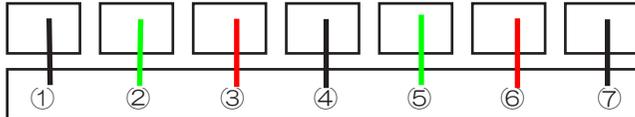
8表に1種類の表結合を指定



8表に7種類の表結合を指定



8表に7種類の表結合を指定



3.11.4 外部結合とは

Oracle、富士通 Symfoware、IBM DB2、ODBC 接続、SQL Server(ADO.NET 接続)の場合、外部結合の指定を行うことができます。

外部結合とは、キー結合に関連するキーを持たないレコードも含める結合です。

標準モードの場合

[表結合] ボタンをクリックして表示される [結合] ダイアログに [「テーブル (1)」 の全レコードと 「テーブル (2)」 の同じ結合フィールドのレコードだけを含める] ラジオボタンと [「テーブル (2)」 の全レコードと 「テーブル (1)」 の同じ結合フィールドのレコードだけを含める] ラジオボタンがあります。

[「テーブル (1)」 の全レコードと 「テーブル (2)」 の同じ結合フィールドのレコードだけを含める] ラジオボタンを選択した場合、左外部結合となります。

[「テーブル (2)」 の全レコードと 「テーブル (1)」 の同じ結合フィールドのレコードだけを含める] ラジオボタンを選択した場合、右外部結合となります。

結合

テーブル(1)	テーブル(2)	OK
部門	社員	キャンセル
列(1)	列(2)	
部門番号	部門番号	

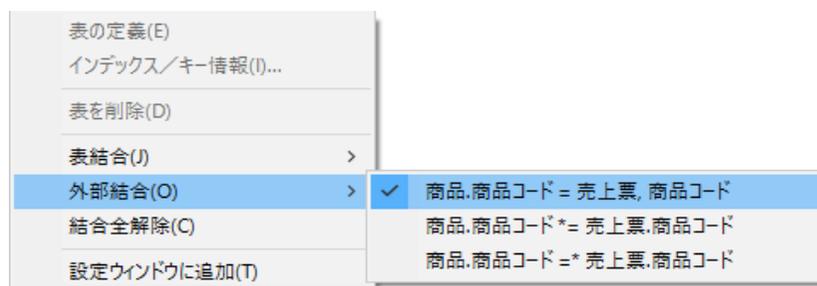
両方のテーブルの結合フィールドが同じ行だけを含める
 「部門」の全レコードと「社員」の同じ結合フィールドのレコードだけを含める
 「社員」の全レコードと「部門」の同じ結合フィールドのレコードだけを含める

結合の種別は表ウィンドウで右クリックすると表示されるポップアップメニューから [結合情報 (I)] を選択すると [結合情報] ダイアログが表示され、[一覧 (L)] リストの [結合種別] に表示されます。



クラシックモードの場合

表結合している 2 つの結合項目を選択状態にして右クリックすると表示されるポップアップメニューから、[外部結合 (O)] を選択します。



3.12

レコードを挿入する

データベースにレコードを挿入する方法について説明します。

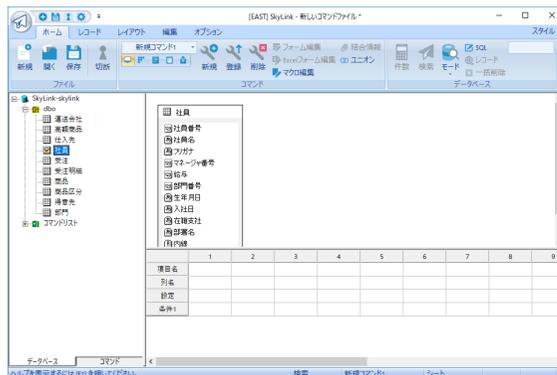
3.12.1 レコードを挿入する

レコードの挿入は検索／更新用 SkyLink のみで行うことができます。

レコードの挿入を行う手順は次の通りです。

1 レコードを挿入する表および列を選択する

レコードを挿入したい表と項目を、設定ウィンドウに設定します (☞ 3.5.5 設定ウィンドウ)。



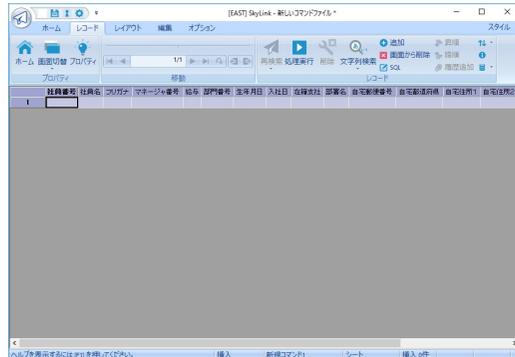
一度の挿入処理で、複数の表に対してレコードを挿入することはできません。また、設定ウィンドウに設定されている項目にはデータを挿入しますが、設定されていない項目にはデータを挿入しません。

参考

挿入したレコードの設定ウィンドウにない項目には、データは挿入されません。(項目に対してデフォルトの値が定義されている場合は、デフォルト値となります。デフォルト値の機能の有無などは、各データベースのマニュアルをご覧ください)。

2 挿入モードにする

[ホーム] カテゴリから [データベース] パネル [モード] [挿入] ボタンを選択すると挿入モードになり、レコード画面であるフォーム (レコード) 画面が表示されます。



ステータスバーのモード表示フィールドに「挿入」と表示される

参考

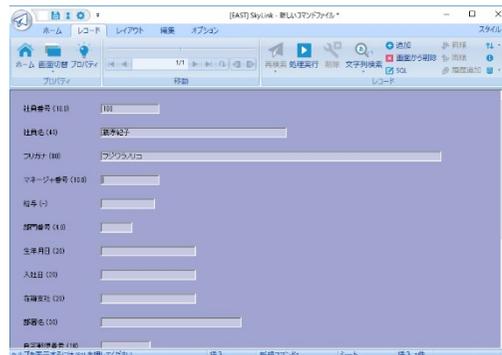
レコードを挿入する表に現在どんなレコードが入っているのかを知りたい場合は、まず検索を実行して検索結果を確認してからモードを切り替えてください。

3 データを入力する

フォーム画面でもシート画面でも行えます。両画面での基本操作についてはこちらをご覧ください (☞ 3.8 レコード画面) (☞ 3.8.3 レコード画面の操作方法)。

フォーム画面のとき

最初に 1 件のレコードが画面に表示されています。

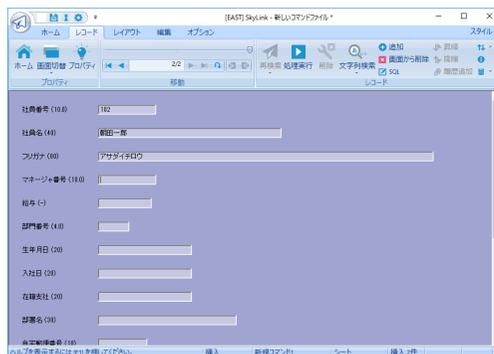


それぞれの項目にデータをキーボードから入力します。

レコード件数表示フィールドが 1/1

Tab キーまたは Enter キーを押すと項目のフォーカス位置が移動します。

レコード内の最後の項目を入力し Tab キー / Enter キーを押すと、もう 1 件レコードが追加されて表示されます。[レコード] カテゴリ [レコード]-[追加] を選択しても同様となります。



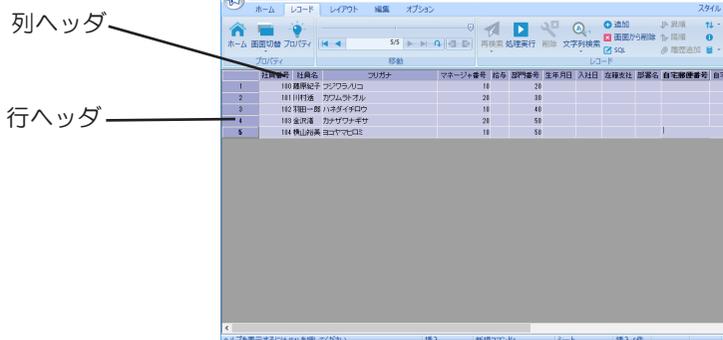
同様の操作を繰り返して、連続してデータを入力することができます。入力したレコードの件数は、[件数表示] フィールドや、ステータスバーの挿入件数表示フィールドで確認できます。

入力項目を右クリックすると表示されるメニューから「元に戻す(U)」を選択すると、項目内容が元に戻ります。



シート画面のとき

画面切り替えボタン  をクリックしてフォーム画面からシート画面に切り替えられます。



シート画面では、レコードを複数選択して右クリックすると表示されるメニューから [レコード挿入 (I)] を選択すると、選択したレコード数分のレコード行を現在のレコード位置の前に挿入することができます。

セルを選択してデータを入力し、Enter キーを押して確定します (☞ 3.8.3 レコード画面の操作方法)。

📖 参考

[レコード] パネル-[追加] を選択すると、最後のレコードの後にレコードを追加します。レコード画面を右クリックすると表示されるメニューから [レコード挿入 (I)] を選択すると、フォーカス位置のレコードの前にレコード行を挿入します。

📖 参考

レコードを追加する際、追加するレコードの項目に現在の最後のレコードの項目データをコピーすることができます (☞ 4.8.2 [ツール]-[オプション (O)] [レコード] タブ)。この設定をしておくと、似通ったデータ内容のレコードを挿入する場合に、入力が素早く行えます。

4 挿入を実行する

挿入するレコードを入力後、[レコード] パネル [処理実行] ボタン  をクリックします。

次のような確認メッセージが順に表示されます。

「n件のデータを挿入します。よろしいですか？」

「n件のデータを挿入しました。処理を確定しますか？」両方のメッセージで [はい (Y)] ボタンをクリックすると、挿入が確定します。

正常に挿入が確定すると、画面はメイン画面に戻り、検索モードになります。

 参考

挿入モード以外に、キー更新モードでもレコードの挿入を行うことができます (☞ 3.14 レコードを更新する)。

 参考

レコードがデータベースへ挿入される位置は、サーバ/データベース側のプログラム、アルゴリズムに従います。

不要なレコードを削除する

入力したレコードの中で間違って入力したレコードがあれば、そのレコードを削除することができます。[レコード] カテゴリ[レコード]-[画面から削除]を選択すると、シート画面では選択されている行のレコード、フォーム画面では表示されているレコードが画面から削除され、挿入対象から外れます。必要なレコードを誤って削除してしまった場合、すみやかにマウス右クリックで表示される [レコード削除を元に戻す (U)] を選択してください。

挿入モードのキャンセル

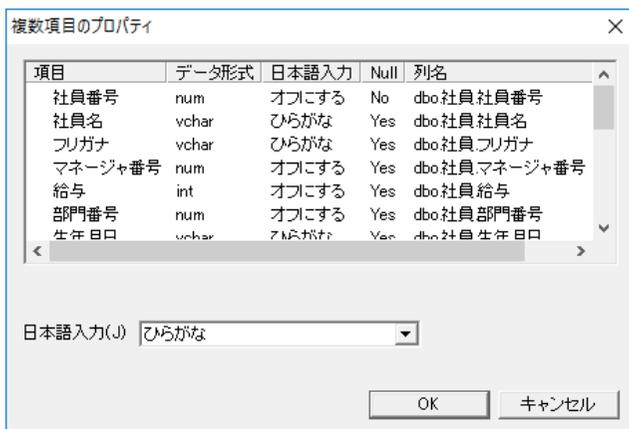
挿入を実行しないで挿入モードを終了する場合は、ホームボタン  または SkyLink ボタンの [ファイル (F)]-[ホーム (H)] を選択して、メイン画面に戻ります。

3.12.2 データ入力時の注意点

データを入力する際には、データベースに定義されている項目のデータの属性に留意する必要があります。データの入力に関係のある項目の属性は、項目のデータ形式、長さ、Null です。その他、データを入力する際の日本語入力モードを項目ごとに設定することもできます。項目の属性の確認や、日本語入力モードについての設定は、[複数項目のプロパティ] ダイアログ (すべての項目を一覧で確認する場合) または [項目のプロパティ] ダイアログ (個別の項目を確認する場合) で行います。

[複数項目のプロパティ] ダイアログで確認・設定する

[レコード] カテゴリ [プロパティ] パネル [プロパティ] を選択すると、次のダイアログが表示されます。



[項目] リスト

項目名や属性を表示します。

[日本語入力 (J)] コンボボックス

▼をクリックして表示される一覧から、日本語入力についての設定条件を選択します。ここでは、項目のデータを入力する際に日本語入力を使用するかどうか、使用する場合はその入力モードを設定することができます。日本語型の項目で常に日本語入力を起動する場合は、[オプション] カテゴリ・[オプション] を選択すると表示される [オプション] ダイアログ - [レコード] タブで設定を行います (☞ 4.8.2 [ツール (T)]-[オプション (O)] [レコード] タブ)。

[項目のプロパティ] ダイアログで確認・設定する

シート画面

列ヘッダを右クリックすると表示されるメニューから [プロパティ (I)] を選択すると、[項目のプロパティ] ダイアログが表示されます。

フォーム画面

項目の見出しを右クリックすると表示されるメニューから [プロパティ (I)] を選択すると、[項目のプロパティ] ダイアログが表示されます。

[列名] ボックス

「オーナー／スキーマ名 (ある場合のみ) . 表名 . 列名」の形式で表示します。

[データ形式] ボックス

列のデータ形式 (型) を表示します。

[長さ] ボックス

列の長さを表示します。データの最大桁数を示します。

[Null] ボックス

列の値として空白値 (Null 値) を許す場合は「Yes」、許さない場合は「No」、と表示します。「No」の場合は、この項目データの入力を省略することはできません。

[Key] ボックス

この項目に定義されている主キー、一意キー、外部キーなどを表示します。

[日本語入力 (J)] コンボボックス

▼をクリックして表示される一覧から、日本語入力についての設定条件を選択します。操作方法は、[複数項目のプロパティ] ダイアログの [日本語入力 (J)] コンボボックスと同様となります。

📖 参考

[項目のプロパティ] ダイアログの内容は、現在選択しているモードによって、異なります。キー削除モード、キー更新モードの場合は [キー項目にする (K)] (☞ 3.13 レコードを削除する) (☞ 3.14 レコードを更新する)、一括更新モードの場合は [一括更新する値 (V)] (☞ 3.14 レコードを更新する) が表示されます。

3.12.3 インポート/エクスポート

レコード画面に CSV ファイルからレコードデータを読み込んで表

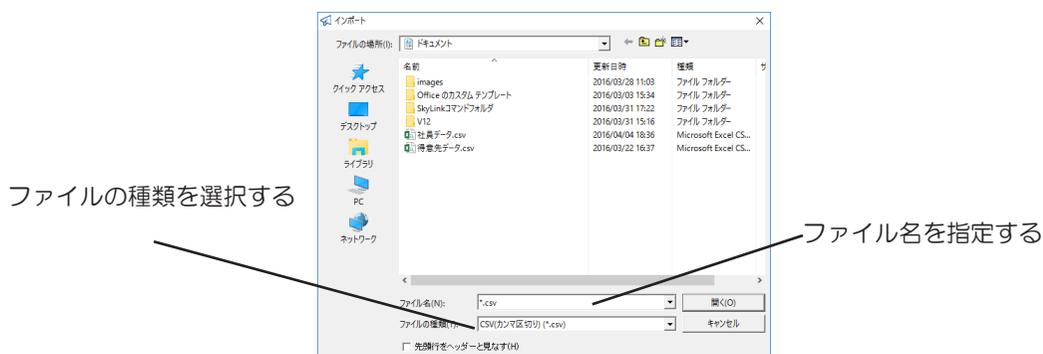
示することを「インポート」、レコード画面からアプリケーションやファイルにレコードデータを出力することを「エクスポート」と呼びます。

インポート

既存のデータを活用してレコードを挿入する場合に使用します。インポートできるのは、カンマ区切り / タブ区切りの CSV ファイルまたは XML ファイルです。

CSV ファイルのインポート

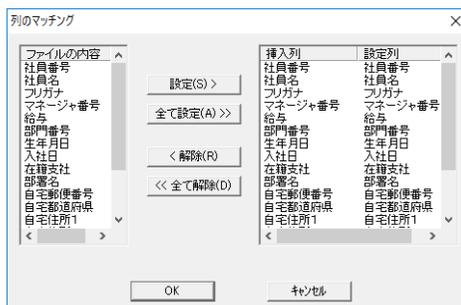
- 1 [レコード] カテゴリ [レコード]-[インポート / エクスポート]-[CSV からインポート] を選択する
[インポート] ダイアログが表示されます。



[先頭行をヘッダーとして見なす (H)] チェックボックス
チェックをつけると、CSV ファイルの先頭行が項目名として認識され、データとしては2行目からがインポートされます。

- 2 [開く (O)] ボタンをクリックする
[列のマッチング] ダイアログが表示されます。

- 3 列のマッチングを設定する



[ファイルの内容] リスト

開いた CSV ファイルの先頭行の内容がリスト内に表示されま
す。先頭行に項目名が入力されている場合は項目名が、先
頭行からデータが入力されている場合は先頭データが、入力
順に上から表示されます。

[インポート対象列] リスト

現在操作対象となっている列名が [挿入列] に、列名に対
応させる CSV ファイルの項目名 / 列データが [設定例] に
表示されます。

デフォルトでは CSV ファイルの項目名 / 列データを表示順に、
現在操作対象となっている列名に対応させる内容となってい
ます。

[設定 (S)] ボタン

クリックすると、[ファイルの内容] リストで選択した項目名 / 列
データを、[インポート対象列] リストの [挿入列] で選択した
列に対応させることができます。

[全て設定 (A)] ボタン

クリックすると、[ファイルの内容] リストの項目名 / 列データを
表示順に現在操作対象となっている列名に対応させることが
できます。

[解除 (R)] ボタン

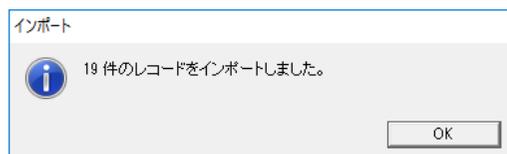
クリックすると、[インポート対象列] リストの [挿入列] で選択し
た列に対応させた項目名 / 列データを、解除することができます。

[<< すべて解除 (D)] ボタン

ボタンをクリックすると、[インポート対象列] リストの [挿入列]
のすべての列に対応させた項目名 / 列データを、すべて解
除することができます。

4 [OK] ボタンをクリックする

指定した CSV ファイルからデータが読み込まれ、インポート
の完了を示すメッセージが表示されます。



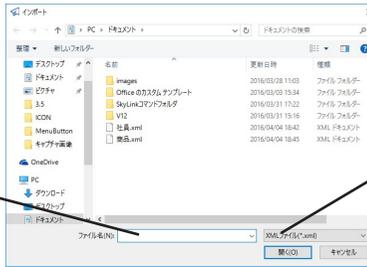
5 [OK] ボタンをクリックする

XML ファイルのインポート

1 [レコード] リボンバー [レコード]-[インポート / エクス

ポート]-[XML からインポート] を選択する
[ファイルを開く] ダイアログが表示されます。

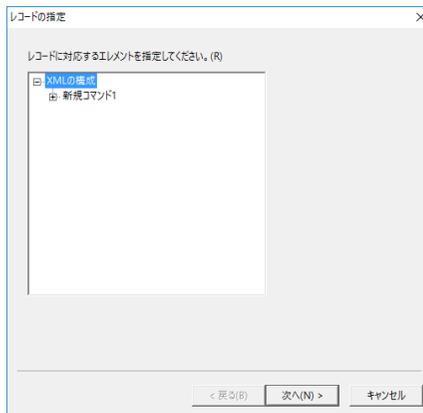
ファイル名を指定する



ファイルの種類を選択する

2 [開く (O)] ボタンをクリックする

[レコードの指定] ダイアログが表示されます。

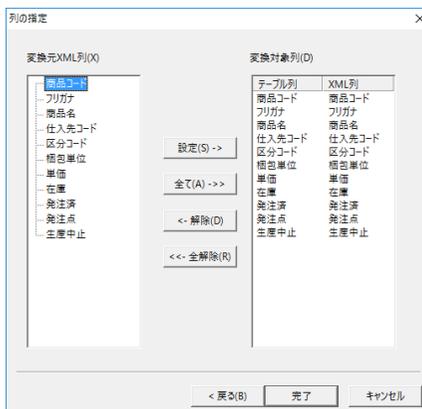


3 レコードに対応するエレメントを選択する

リストにツリー表示された XML の構成から、レコードに対応するエレメントを選択します。

4 [次へ (N)] をクリックする

[列の指定] ダイアログが表示されます。



5 列を指定する

[変換元 XML 列 (X)] リスト

開いた XML ファイルの内容がリスト内に表示されます。

[変換対象列 (D)] リスト

現在操作対象となっている列名が [テーブル列] に、列名に対応させる XML 列が [XML 列] に表示されます。

デフォルトでは選択したエレメント内の XML 列を表示順に、現在操作対象となっている列名に対応させる内容となっています。

[設定 (S)->] ボタン

クリックすると、[変換元 XML 列 (X)] リストで選択した XML 列を、[テーブル列] リストで選択した列に対応させることができます。

[全て (A)->>] ボタン

クリックすると、[変換元 XML 列 (X)] リストの XML 列を表示順に現在操作対象となっている列名に対応させることができます。

[<- 解除 (R)] ボタン

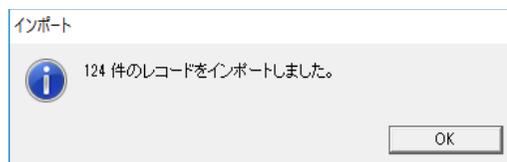
[変換対象列 (D)] リストの [テーブル列] で選択した列に対応させた XML 列を、解除することができます。

[<<- 全て解除 (D)] ボタン

[変換対象列 (D)] リストの [テーブル列] のすべての列に対応させた XML 列を、すべて解除することができます。

6 [完了] ボタンをクリックする

指定した XML ファイルからデータが読み込まれ、インポートの完了を示すメッセージが表示されます。



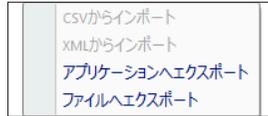
7 [OK] ボタンをクリックする

エクスポート

入力したレコードデータをアプリケーションまたはファイルへ出力します。入力したレコードデータを CSV ファイルや XML ファイルにエクスポートしておけば、何らかのエラーが発生したり挿入処理をキャンセルしても、後で同じ CSV ファイルや XML

ファイルをインポートして画面に読み込み、あらためて挿入処理を実行することが可能です。

[レコード]リボンバー [レコード]-[インポート / エクスポート]をクリックすると次のように表示されますので、どちらかを選択します。



エクスポートできるアプリケーションは Excel、Web ブラウザ、風神レポートなどです。ファイルは、CSV 形式、HTML 形式、テキスト形式、XML 形式です

(☞ 3.9.3 アプリケーションに出力) (☞ 3.9.4 ファイルに出力)

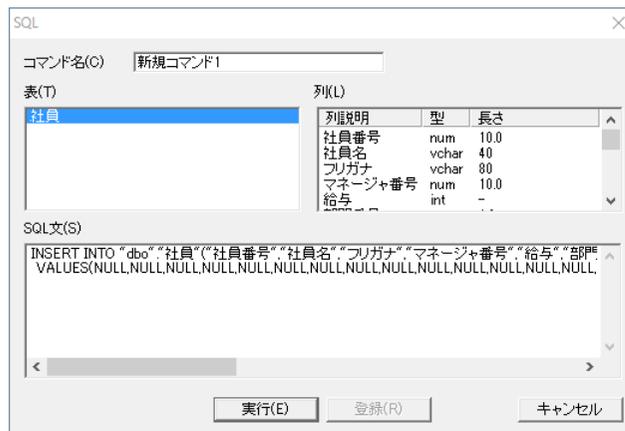
(☞ 4.10.17 [レコード (R)]-[エクスポート (S)]-[アプリケーション (A)])

(☞ 4.10.18 [レコード (R)]-[エクスポート (S)]-[ファイル (F)])。

3.12.4 SQL編集 (挿入)

挿入モードでは SkyLink によって SQL (INSERT 文) が作成されます。

SQL ボタン  またはメニューから [レコード (R)][SQL(Q)] をクリックすると、[SQL] ダイアログが表示されます。



[コマンド名 (C)] ボックス

現在選択されているコマンド名が表示されます。

[表 (T)] リスト

表ウィンドウに表示されている表の一覧です。表名をダブルクリックすると、[SQL 文 (S)] フィールドのキャレット点滅位置に表名を貼り付けることができます。

[列 (L)] リスト

[表 (T)] リストボックスで選択した表の列の一覧です。列名をダブルクリックすると、[SQL 文 (S)] フィールドのキャレット点滅位置に列名を貼り付けることができます。

[SQL 文 (S)] ボックス

設定ウィンドウに現在設定されている内容を SkyLink が SQL に生成したものが表示されます。[コマンド一覧] コンボボックスで登録済みのコマンドが選択されている場合は、そのコマンドが記憶する SQL 文が表示されます。キーボード入力により編集することができます。

[実行 (E)] ボタン

クリックすると、[SQL 文 (S)] をデータベースに発行して挿入を実行します。指定されている出力先に挿入結果が出力されます。

[登録 (R)] ボタン

挿入モードでは [登録 (R)] ボタンは使用できません。

コマンドの登録

INSERT 文は登録できないため、挿入モードでは編集した SQL 文をコマンドとして登録することはできません。

📖 参考

データベースが NEC RDB サーバ、IBM DB2、ODBC の場合、[列 (L)] リストから列名をダブルクリックすると、データベース指定の文字で列名を囲んだ文字列（例：“社員番号”）が貼り付けられます。

📖 参考

検索/更新用 SkyLink の場合、挿入モード、削除モード、更新モードを選択すると（☞ 3.6 SkyLink のモード）、それぞれのモードに対応した SQL を編集できるようになります。ただしコマンドの登録は検索モードで検索 SQL を登録する以外には行えません。

フォーム画面の場合は表示されているレコード、シート画面の場合はフォーカスセルのあるレコード用に自動生成された SQL を確認することができます。

ここで SQL を編集することもできます（☞ 3.7.6 SQL 編集）。[実行 (E)] ボタンをクリックすると、1 件のレコードの挿入が実行されます。

3.13

レコードを削除する

データベースからレコードを削除する方法について説明します。

3.13.1 レコードの削除について

レコードの削除は検索／更新用 SkyLink のみ行えます。データベースのロックについてはこちらをご覧ください（☞ 3.6 SkyLink のモード）。

削除を行うには「キー削除」と「一括削除」の2つの方法があります。

キー削除

削除を前提に検索したレコードから、実際に削除するレコードをキーでさらに絞り込み、削除を行います。

一括削除

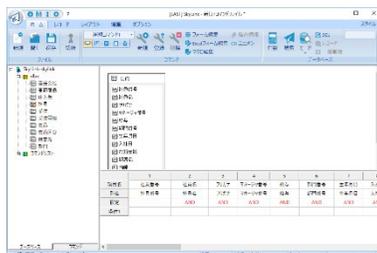
検索されたレコードをすべて削除します。

3.13.2 キー削除

レコードのキー削除を行う手順は次のとおりです。キー削除の場合、削除するためのレコードを必ず検索してから、レコード画面でさらに削除するレコードを絞り込みます。

1 レコードを削除する表を選択し、削除するレコードの条件を設定する

レコードを削除したい表を、設定ウィンドウに設定します（☞ 3.5.5 設定ウィンドウ）。



一度の削除処理で複数の表のレコードを削除することはできません。また、レコード単位の削除ですので設定ウィンドウに設定しない項目のデータも削除されます。

2 出力先を「画面」にする

[ホーム]カテゴリ[コマンド]パネル[画面]ボタンをクリックして出力先を[画面]に指定します。

ステータスバーの出力先表示フィールドに「シート」、「デフォルトフォーム」または「フォーム名」と表示されている場合は、すでに[画面]が選択されています。

参考

出力先が画面以外では、レコードを削除することはできません。

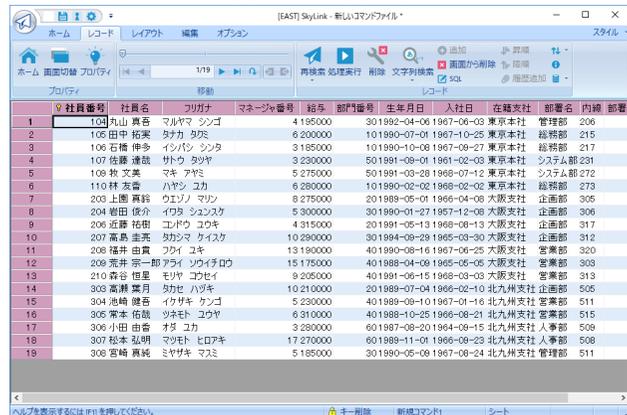
3 キー削除モードにする

[データベース]パネル[モード]-[削除]-[キー(K)]を選択し、キー削除モードにします。

   
ステータスバーのモード表示フィールドに「キー削除」と表示されます。

4 検索を実行する

[データベース]パネル[検索]ボタンをクリックすると、検索結果がレコード画面に出力されます。ここからの手順はシート画面でもフォーム画面でも行えます。両画面での基本操作についてはこちらをご覧ください(☞ 3.8 レコード画面)(☞ 3.8.3 レコード画面の操作方法)。



スクリーンショットは、データベースのレコード一覧画面を示しています。表には社員番号、社員名、フリガナ、マネージャ番号、給与、部門番号、生年月日、入社日、在籍支社、部署名、内線番号の列があります。検索結果として、丸山 真吾、田中 拓実、石橋 伸幸、佐藤 達郎、秋 文美、林 友富、上園 真経、岩田 琢介、近藤 花樹、高島 法英、福井 由貴、荒井 宗一郎、森谷 恒星、高橋 菜月、池崎 健吾、宮本 信雄、小田 由香、松本 弘明、宮崎 真純のレコードが表示されています。

5 項目に削除キーを設定する

削除キーの指定についての注意点は次をご覧ください(☞ 3.13.4 削除キーの設定について)。

ここでは、社員コードを削除キーに設定します。削除キーに

指定された項目は、キーの  マークが付きます。

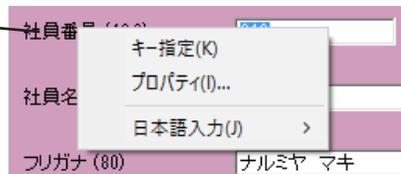
シート画面のとき

削除キーに指定する項目の列
ヘッダを右クリックして表示
されるメニューから、[キー
指定 (K)] を選択



フォーム画面のとき

削除キーに指定する項目名
を右クリックして表示され
るメニューから、[キー指
定 (K)] を選択

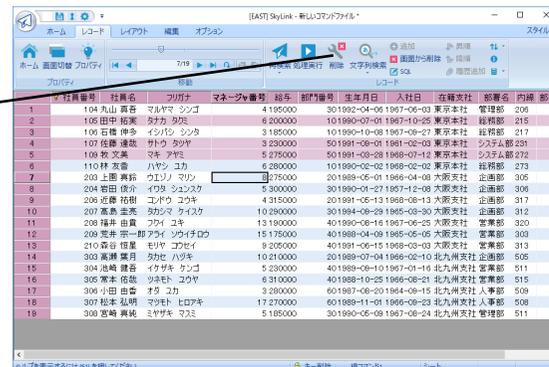


6 削除レコードに指定する

削除するレコードに対し、削除の指定を行います。これは削除する予約であり、データベースからすぐに削除するわけではありません。

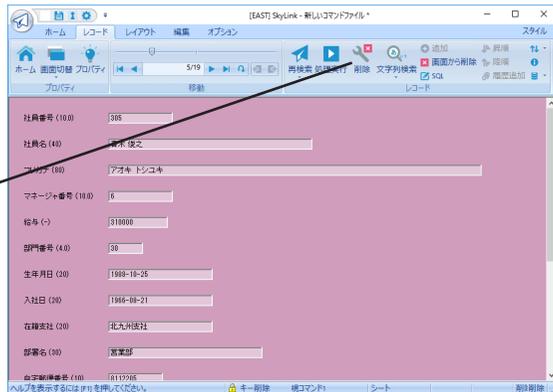
シート画面のとき

削除するレコードを選択
して、[レコード]-[削除]
ボタン  をクリック



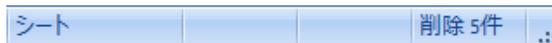
フォーム画面のとき

削除するレコードを表示して、[レコード]-[削除]ボタンをクリック



削除指定されたレコードには色が付きます。この色は変更できます (☞ 4.8.3 [ツール (T)]-[オプション (O)] [デザイン] タブ)。

同様の操作を繰り返して、連続して削除指定を行うことができます。削除指定したレコードの件数は、ステータスバーの削除件数表示フィールドで確認できます。



削除の指定を取り消す場合は、再度削除指定を行います。これにより、削除対象から除外されます。

7 キー削除を実行する

処理実行ボタン  または SkyLink ボタンの [レコード (R)]-[処理実行 (X)] をクリックして、キー削除処理を実行します。

次のような確認メッセージが順に表示されます。

「n件のデータを削除します。よろしいですか？」

「n件のデータを削除しました。処理を確定しますか？」

両方のメッセージで [はい (Y)] ボタンをクリックすると、削除が確定します。

正常に削除が確定すると、画面はメイン画面に戻り、検索モードになります。

参考

検索モードで検索を実行してからモードの変更を行って

も構いません。一括削除モードの場合も同様です。ただし Oracle の場合ではモード変更のタイミングでロックの有無が変わります (☞ 3.6 SkyLink のモード)。

削除モードのキャンセル

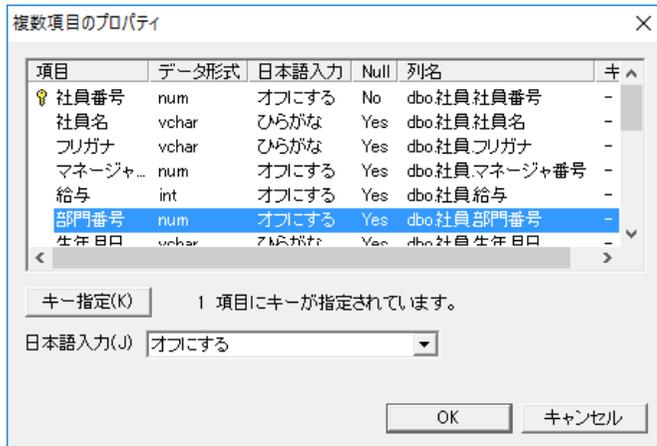
削除を実行しないで削除モードを終了する場合は、ホームボタン  または SkyLink ボタンの [ファイル (F)]-[ホーム (H)] を選択して、メイン画面に戻ります。

参考

キー削除モード以外に、キー更新モードでもレコードの削除指定を行うことができます (☞ 3.14 レコードを更新する)。

項目のリストから選択して削除キーを指定する

[プロパティ] パネル [プロパティ] を選択すると、[複数項目のプロパティ] ダイアログが表示されます (☞ 3.8.3 レコード画面の操作方法)。



[項目] リスト

項目名や属性を表示します。

[キー指定 (K)] / [キー解除 (K)] ボタン

クリックすると、[項目] リスト で選択した項目 (複数選択可) に対して削除キーの指定 / 解除を行うことができます。

[日本語入力 (J)] コンボボックス

 をクリックして表示される一覧から、日本語入力についての設定条件を選択します。操作方法は、「3.12.2 データ入力時の注意点」と同様となります。

個別の項目のプロパティを確認して削除キーを指定する

シート画面

列ヘッダを右クリックすると表示されるメニューから[プロパティ (I)]を選択すると、[項目のプロパティ]ダイアログが表示されます。

フォーム画面

項目の見出しを右クリックすると表示されるメニューから [プロパティ (I)] を選択すると、[項目のプロパティ] ダイアログが表示されます。

列名	dbo.社員社員番号		
データ形式	num		
長さ	10	Null	No
Key			
<input type="checkbox"/> キー項目にする(K)			
日本語入力(J)	オフにする		
OK		キャンセル	

[列名] ボックス

[データ形式] ボックス

[長さ] ボックス

[Null] ボックス

[Key] ボックス

項目名や属性を表示します (☞ 3.12.2 データ入力時の注意点)。

[キー項目にする (K)] チェックボックス

チェックをつけると、この項目をキー項目に設定することができます。

[日本語入力 (J)] コンボボックス

▼をクリックして表示される一覧から、日本語入力についての設定条件を選択します。操作方法は、「3.12.2 データ入力時の注意点」と同様となります。

参考

[項目のプロパティ] ダイアログの内容は、現在選択しているモードによって、異なります。挿入モード、一括削除モードおよび一括更新モードでは [キー項目にする

(K) は表示されません (☞ 3.12 レコードを挿入する)
 (☞ 3.14 レコードを更新する)。また、一括更新モード
 の場合は [一括更新する値 (V)] (☞ 3.14 レコードを更
 新する) が表示されます。

3.13.3 一括削除

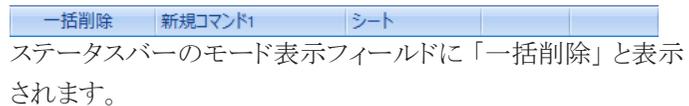
レコードの一括削除を行う手順は次のとおりです。削除するレコー
 ドを検索して内容を確認してから削除したい場合は以下の手順3
 の検索を実行しますが、そうでない場合は手順3はスキップして手
 順4へ進みます (手順4の処理実行を、メイン画面を表示したまま
 で操作を行います)。

1 レコードを削除する表を選択し、削除するレコードの条件 を設定する

(☞ 3.13.2 キー削除)

2 一括削除モードにする

[ホーム] カテゴリ[データベース]-[モード]-[削除]-[一括]を
 選択し、一括削除モードにします。



3 検索を実行して、検索レコードを確認する

[データベース] パネル [検索] ボタン  をクリックすると表
 示される検索結果を確認します。

ここでは、出力先がシート画面と指定されていました。他の出
 力先を指定していた場合も、それぞれの方法で確認します。

The screenshot shows a data table with the following columns: 社員番号 (Employee No.), 社員名 (Employee Name), フリガナ (Kana), マネージ番号 (Manager No.), 給与 (Salary), 部門番号 (Department No.), 生年月日 (Date of Birth), 入社日 (Start Date), 在籍支社 (Affiliated Company), 部署名 (Department Name), 内情 (Details), 部署番 (Department No.). The table contains 19 rows of data, with the first row highlighted in blue.

社員番号	社員名	フリガナ	マネージ番号	給与	部門番号	生年月日	入社日	在籍支社	部署名	内情	部署番
1	山口 真吾	マコトマコ	4185000	301982-04-08 1987-06-03	東京本社	管理部	206				
2	104 田中 拓実	タチカ タクミ	4200000	101980-07-04 1987-10-25	東京本社	総務部	215				
3	106 石橋 伸多	イシハシ シンタ	3185000	101980-10-08 1987-09-27	東京本社	総務部	217				
4	107 佐藤 達哉	サトウ タツヤ	3230000	501981-08-01 1981-02-03	東京本社	システム部	231				
5	108 坂 文美	マキ アヤミ	5275000	501981-03-28 1988-07-12	東京本社	システム部	272				
6	110 林 友希	ハヤシ ユキ	6280000	101980-02-02 1988-02-02	東京本社	総務部	278				
7	200 上野 真結	ウエノ マリツ	8275000	201988-05-01 1988-04-08	大原支社	企画部	305				
8	204 岩田 俊介	イワタ シュンスケ	5300000	301980-01-27 1987-12-08	大原支社	企画部	306				
9	206 近藤 祐樹	コドウ ヨウキ	4315000	201981-05-13 1988-08-13	大原支社	企画部	317				
10	207 高島 圭亮	タカシマ ケイスケ	10290000	301984-08-29 1985-03-30	大原支社	企画部	312				
11	208 福井 由貴	フクイ ユキ	13190000	401980-08-18 1987-06-25	大原支社	営業部	320				
12	208 荒井 新一郎	アライ ソウイチロウ	15175000	401988-04-09 1985-05-05	大原支社	営業部	303				
13	210 森谷 悟星	モリヤ コウセイ	9205000	401981-06-15 1988-03-03	大原支社	営業部	313				
14	303 高瀬 慶月	タカセ ハジキ	10210000	201988-07-04 1986-02-10	北九州支社	企画部	505				
15	304 池崎 健吾	イケザキ ケンゴ	5230000	401988-09-10 1987-01-16	北九州支社	営業部	511				
16	305 常本 佑哉	ツネモト ヨウヤ	16310000	401988-10-25 1986-08-21	北九州支社	営業部	515				
17	306 小田 由香	オダ ユカ	3280000	601987-08-20 1984-09-15	北九州支社	人事部	508				
18	307 松本 弘明	マツモト ヒロアキ	17270000	601988-11-01 1986-09-23	北九州支社	人事部	508				
19	308 宮崎 真純	ミヤザキ マスミ	51850000	301980-05-09 1987-08-24	北九州支社	管理部	511				

4 一括削除を実行する

[レコード] カテゴリ [レコード] パネル [処理実行] ボタン
 をクリックして一括削除処理を実行します (☞ 3.13.2 キー削除 手順7)。

参考

レコードを削除する表に対して手順1で検索条件を指定しなかった場合は、表のレコードがすべて削除されるため「検索条件が設定されていないので、表のすべてのデータを削除します。」とメッセージが表示されます。

3.13.4 削除キーの設定について

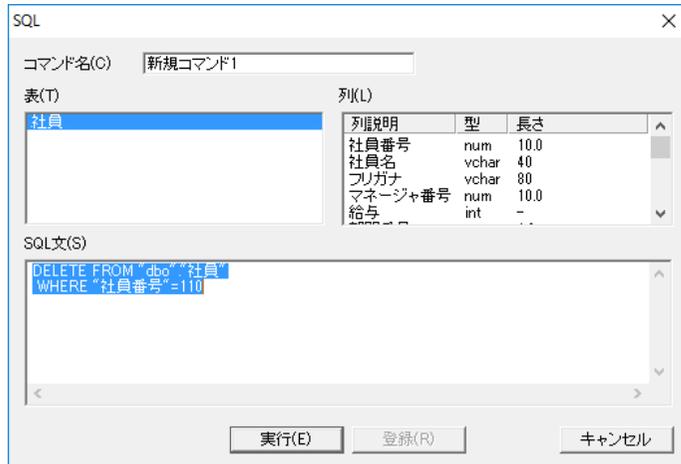
キー削除は、1つ以上の項目に削除キーを指定しないと行えません。削除キーの指定は、意図せぬレコードまで削除してしまわないように、十分注意して行ってください。削除キーは、デフォルトはデータベースに定義されている表の主キー、一意キーを持つ項目、それらがいない場合のデフォルトは検索条件が設定されている項目に指定されていますが、他の項目に変更することもできます。また、ユーザーにより作成されたフォームに出力している場合、あらかじめ [フォーム編集] 画面で項目に対しキーが指定してある場合もあります。

削除キーは、通常、表のすべてのレコードが一意になる項目に対して指定します。一意項目についての留意事項は、更新キーと同様です (☞ 3.14.5 更新キーの設定について)。

3.13.5 SQL編集 (削除)

削除モードでは SkyLink によって SQL (DELETE 文) が作成されます。

SQL ボタン  または SkyLink ボタンから [レコード (R)]-[SQL(Q)] をクリックすると、[SQL] ダイアログが表示されます。



[コマンド名 (C)] ボックス

[表 (T)] リスト

[列 (L)] リスト

[SQL 文 (S)] ボックス

コマンド名、表名、列名を表示します (☞ 3.12.4 SQL 編集(挿入))。

[実行 (E)] ボタン

クリックすると、[SQL 文 (S)] をデータベースに発行して削除を実行します。指定されている出力先に削除結果が出力されます。

[登録 (R)] ボタン

削除モードでは [登録 (R)] ボタンは使用できません。

キー削除モードのフォーム画面の場合は表示されているレコード、シート画面の場合はフォーカスセルのあるレコード用に自動生成された SQL を確認することができます。

一括削除モードの場合は検索されたレコードを一括削除する SQL を、確認することができます。

ここで SQL を編集することもできます (☞ 3.7.6 SQL 編集)。[実行 (E)] ボタンをクリックすると、レコードの削除が実行されます。

3.14

レコードを更新する

データベースのレコードを更新する方法について説明します。

3.14.1 レコードの更新について

レコードの更新は検索／更新用 SkyLink のみ行えます。
データベースのロックについてはこちらをご覧ください (☞ 3.6 SkyLink のモード)。

更新を行うには「キー更新」と「一括更新」の2つの方法があります。

キー更新

更新を前提に検索したレコードから、実際に更新するレコードをキーで絞り込み、レコードの項目データを更新します。レコードの挿入およびキーによるレコードの削除も同時に行うことができます。

番号	名前	年齢	部署
5	山下	45	人事
6	佐藤	20	経理
7	後藤	25	庶務

ここを企画に変更する

ここを 30 に変更する

→

番号	名前	年齢	部署
5	山下	45	企画
6	佐藤	30	経理
7	後藤	25	庶務

一括更新

検索したすべてのレコードの指定項目について、すべて指定した同一の値で更新を行います。

番号	名前	年齢	部署
5	山下	45	人事
6	佐藤	20	経理
7	後藤	25	庶務

ここを総務に変更する

→

番号	名前	年齢	部署
5	山下	45	総務
6	佐藤	20	総務
7	後藤	25	総務

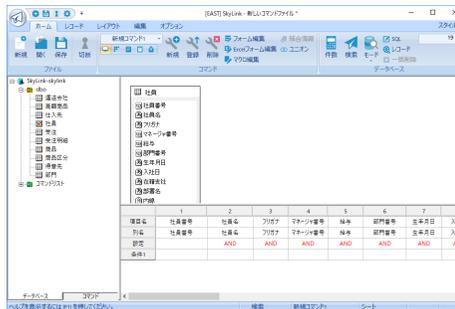
更新処理の場合は、更新するレコードを検索した後に、レコード画面で更新するデータを入力します。

3.14.2 キー更新

表「社員」を次のように更新する場合を例に取り、手順を説明します。

「社員番号」12 のレコードの「給与」を 245000 に更新する
「社員番号」5 のレコードの「部門番号」を 30 に更新する

1 レコードを更新する表を選択し、更新するレコードの条件を設定する



レコードを更新する表を設定ウィンドウに設定します (☞ 3.5.5 設定ウィンドウ)。

一度の更新処理で複数の表のレコードを更新することはできません。また、設定ウィンドウに設定しなかった項目のデータは、以降の手続きを行っても更新できません。

2 出力先を「画面」にする

[ホーム] カテゴリ [コマンド]-[画面] ボタン  をクリックして出力先を画面に指定します。

ステータスバーの出力先表示フィールドに「シート」、「デフォルトフォーム」または「フォーム名」と表示されている場合は、すでに [画面] が選択されています。

参考

出力先が画面以外では、レコードを更新する手続きが取れません。

3 キー更新モードにする

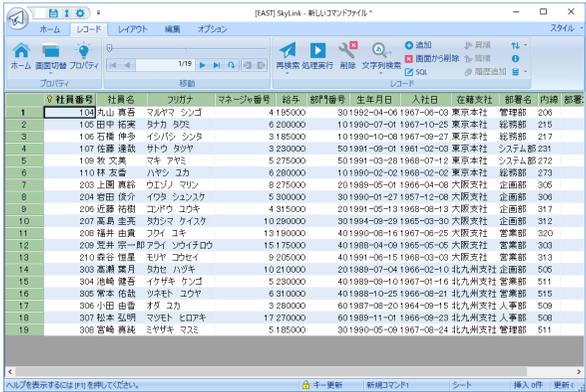
[ホーム] カテゴリ [データベース]-[モード]-[更新]-[キー(K)] を選択し、キー更新モードにします。

キー更新 新規コマンド シート 挿入 0件 更新 0件 削除 0件

ステータスバーのモード表示フィールドに「キー更新」と表示されます。

4 検索を実行する

[ホーム]カテゴリ[データベース]-[検索]ボタンをクリックすると、検索結果がレコード画面に出力されます。ここからの手順はシート画面でもフォーム画面でも行えます。両画面での基本操作についてはこちらをご覧ください(☞ 3.8 レコード画面)(☞ 3.8.3 レコード画面の操作方法)。



社員番号	社員名	フリガナ	マネージャ番号	総務	部門番号	生年月日	入社日	在籍先社	部署名	内勤	部署
1	丸山 真吾	マルヤマ マコト		4195000		301992-04-08	1967-06-08	東京本社	管理部		200
2	108 田中 隆夫	タナカ リウオウ		6200000		101990-09-01	1967-10-28	東京本社	総務部		215
3	106 石橋 伸歩	イシハシ シンタ		3185000		101990-10-08	1967-09-27	東京本社	総務部		217
4	107 佐藤 達哉	サトウ タツヤ		3230000		501991-08-01	1961-02-08	東京本社	システム部		231
5	108 牧 文美	マキ アサヒ		5275000		501991-03-28	1968-07-12	東京本社	システム部		272
6	110 祥 実希	サキツ ユキ		6280000		101990-02-02	1968-02-02	東京本社	総務部		273
7	203 上岡 真祐	ウエノ マリン		8275000		201989-06-01	1966-04-08	大阪支社	企画部		305
8	204 若田 慎介	ワケタ シュンスケ		5300000		301990-01-27	1957-12-08	大阪支社	企画部		306
9	206 近藤 祐樹	コンドウ ユウキ		4315000		201991-05-13	1968-08-13	大阪支社	企画部		317
10	207 高島 圭亮	タカシマ ケイスケ		10280000		301994-09-29	1965-03-29	大阪支社	企画部		318
11	208 福井 由貴	フクイ ユキ		19190000		401990-08-16	1967-06-25	大阪支社	営業部		320
12	208 荒井 崇一	アラヰ ソウイチロウ		15175000		401988-04-08	1965-05-05	大阪支社	営業部		303
13	210 森谷 健星	モリヤ ケンセイ		9205000		401991-06-15	1968-03-08	大阪支社	営業部		319
14	303 高橋 隆夫	タカハシ リウオウ		10210000		201990-02-04	1966-02-16	北九州支社	企画部		506
15	304 池崎 隆希	イケサキ リュウキ		5230000		401989-09-10	1967-01-16	北九州支社	営業部		511
16	305 常本 佑哉	ツネモト ユウヤ		6310000		401988-10-25	1966-08-21	北九州支社	営業部		515
17	306 小田 由希	オダ ユキ		3280000		601987-08-20	1964-09-15	北九州支社	人事部		509
18	307 松本 弘明	マツモト ヒロアキ		17270000		601989-11-01	1968-09-28	北九州支社	人事部		508
19	308 宮崎 真純	ミヤザキ マコト		5185000		301990-05-08	1967-08-24	北九州支社	管理部		511

5 項目に更新キーを設定する

更新キーの指定についての注意点は次をご覧ください(☞ 3.14.5 更新キーの設定について)。

ここでは、社員番号を更新キーに設定します。更新キーに指定された項目はキーのマークが付きます。

シート画面のとき



更新キーに指定する項目の列ヘッダを右クリックして表示されるメニューから、[キー指定 (K)]を選択

フォーム画面のとき



更新キーに指定する項目を右クリックして表示されるメニューから、[キー指定 (K)]を選択

6 データを入力する

更新したいデータを入力します。更新キーが指定された項目にはデータを入力することはできません。

キーボードから入力するほか、コピー・ペーストを利用してデータを編集することもできます。両画面での基本操作について

はこちらをご覧ください(☞ 3.8 レコード画面)(☞ 3.8.3 レコード画面の操作方法)。入力するデータについてはこちらをご覧ください(☞ 3.12.2 データ入力時の注意点)。

シート画面のとき

社員番号	社員名	フリガナ	マネージャ番号	給与	部門番号	生年月日	入社日	在籍会社	部署名
1	104 丸山 典吉	マルヤマ シノブ	4 195000		301992-04-06 1967-06-03	東京本社	管理部		
2	106 田中 拓実	タナカ タツ	6 200000		101990-07-01 1967-10-25	東京本社	経務部		
3	106 石橋 伸多	イシハシ シンタ	3 185000		101990-10-08 1967-09-27	東京本社	経務部		
4	107 佐藤 達哉	サトウ タツヤ	3 230000		501991-09-01 1961-02-03	東京本社	システム部		
5	109 林 文美	ハキ アヤミ	6 275000		501991-03-28 1968-07-12	東京本社	システム部		
6	110 杉 友香	ハヤシ ユカ	6 280000		101990-02-02 1968-02-02	東京本社	経務部		
7	208 上園 真絵	ウエノ マリン	10 275000		201989-05-01 1966-04-08	大原支社	企画部		
8	204 岩田 俊介	イワタ シュウスケ	5 300000		301990-01-27 1957-12-06	大原支社	企画部		
9	206 近藤 祐樹	コドウ ユウキ	4 315000		201991-05-13 1968-08-13	大原支社	企画部		
10	207 高島 圭亮	タカシマ ケイスケ	10 280000		301994-08-29 1965-03-30	大原支社	企画部		
11	208 福井 由貴	フカイ ユキ	13 190000		401990-08-18 1967-06-25	大原支社	営業部		
12	208 荒井 宗一郎	アラヰ シンイチロウ	15 175000		401989-04-09 1965-05-05	大原支社	営業部		
13	210 森谷 理恵	モリヤ コウセイ	9 205000		401991-06-15 1968-03-03	大原支社	営業部		
14	309 高瀬 潔月	タカセ ハツキ	10 210000		201989-07-04 1966-02-10	北九州支社	企画部		
15	304 池崎 健吾	イケザキ ケンゴ	5 230000		401989-09-10 1967-01-16	北九州支社	営業部		

フォーム画面のとき

社員番号 (10.0)	305
社員名 (40)	香木 俊之
フリガナ (80)	アオキ トシユキ
マネージャ番号 (10.0)	6
給与 (-)	310009
部門番号 (4.0)	30

データが編集されたレコードには色が付きます。この色は変更できます(☞ 4.8.3 [ツール (T)]-[オプション (O)] [デザイン] タブ)。

同様の操作を繰り返して、更新するデータの入力を行います。データが編集されたレコードの件数は、ステータスバーの更新件数表示フィールドで確認できます。

シート 挿入 0件 更新 2件 削除 0件 ...

7 キー更新を実行する

[レコード]-[処理実行] ボタン  をクリックしてキー更新処理を実行します。

次のような確認メッセージが順に表示されます。

「n件のデータを更新します。よろしいですか？」

「n件のデータを更新しました。処理を確定しますか？」

両方のメッセージで [はい (Y)] ボタンをクリックすると、更新が確定します。

正常に更新が確定すると、画面はメイン画面に戻り、検索モー

ドになります。

更新の結果を確認するためには、検索を実行してください。

参考

検索モードで検索を実行してからモードの変更を行っても構いません。一括更新モードの場合も同様です。ただし Oracle の場合ではモード変更のタイミングでロックの有無が変わります (☞ 3.6 SkyLink のモード)。

不要なレコードを削除する

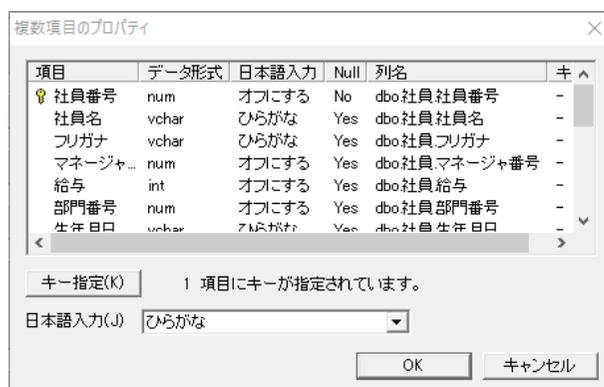
レコードを検索したもののデータの更新を行わないレコードが画面に多く表示されている場合など、不要なレコードを画面から削除することができます。[レコード]-[画面から削除]ボタン  を選択すると、シート画面では選択されている行のレコード、フォーム画面では表示されているレコードが編集対象から外れます。必要なレコードを誤って削除してしまった場合、すみやかに右クリックして表示されるメニューから、[レコード削除を元に戻す(U)]を選択してください。

更新モードのキャンセル

更新を実行しないで更新モードを終了する場合は、ホームボタン  を選択してメイン画面に戻ります。

項目のリストから選択して更新キーを指定する

[レコード]カテゴリの [プロパティ] を選択すると、次のダイアログが表示されます (☞ 3.8.3 レコード画面操作方法)。



項目	データ形式	日本語入力	Null	列名	キ
社員番号	num	オフにする	No	dbo.社員社員番号	-
社員名	vchar	ひらがな	Yes	dbo.社員社員名	-
フリガナ	vchar	ひらがな	Yes	dbo.社員フリガナ	-
マネージャ...	num	オフにする	Yes	dbo.社員マネージャ番号	-
給与	int	オフにする	Yes	dbo.社員給与	-
部門番号	num	オフにする	Yes	dbo.社員部門番号	-
生年月日	vchar	ひらがな	Yes	dbo.社員生年月日	-

キー指定(K) 1 項目にキーが指定されています。

日本語入力(J) ひらがな

OK キャンセル

項目名や属性を表示します。

[キー指定 (K)] / [キー解除 (K)] ボタン

クリックすると、[項目] リスト で選択した項目 (複数選択可) に対して更新キーの指定 / 解除を行うことができます。

[日本語入力 (J)] コンボボックス

▼をクリックして表示される一覧から、日本語入力についての設定条件を選択します。操作方法は、「3.12.2データ入力時の注意点」と同様となります。

個別の項目のプロパティを確認して更新キーを指定する

シート画面

列ヘッダを右クリックすると表示されるメニューから [プロパティ (I)] を選択すると、[項目のプロパティ] ダイアログが表示されます。

フォーム画面

項目の見出しを右クリックすると表示されるメニューから [プロパティ (I)] を選択すると、[項目のプロパティ] ダイアログが表示されます。

列名	dbo.社員社員番号		
データ形式	num		
長さ	10	Null	No
Key	-		
<input checked="" type="checkbox"/> キー項目にする(K)			
日本語入力(J)	オフにする		

[列名] ボックス

[データ形式] ボックス

[長さ] ボックス

[Null] ボックス

[Key] ボックス

項目名や属性を表示します (☞ 3.12.2 データ入力時の注意点)。

[キー項目にする (K)] チェックボックス

チェックをつけると、この項目をキー項目に設定することができます。

[日本語入力 (J)] コンボボックス

▼をクリックして表示される一覧から、日本語入力についての設定条件を選択します。操作方法は、「3.12.2データ入力時の注意点」と同様となります。

☞ 参考

[項目のプロパティ] ダイアログの内容は、現在選択しているモードによって、異なります。挿入モード、一括削除モードおよび一括更新モードでは [キー項目にする (K)] は表示されません (☞ 3.12 レコードを挿入する) (☞ 3.14 レコードを更新する)。また、一括更新モードの場合は [一括更新する値 (V)] (☞ 3.14 レコードを更新する) が表示されます。

3.14.3 一括更新

キー更新は検索レコードのデータを個別に更新しましたが、一括更新は検索レコードすべての指定項目を、すべて指定した同一の値で更新を行います。表「社員」の「給与」を8% UPすることを例に取り、手順を説明します。

- 1 レコードを更新する表を選択し、更新するレコードの条件を設定する

(☞ 3.14.2 キー更新)

- 2 出力先を「画面」にする

(☞ 3.14.2 キー更新)

- 3 一括更新モードにする

[ホーム] カテゴリ [データベース]-[モード]-[更新]-[一括 (L)]を選択し、一括更新モードにします。



ステータスバーのモード表示フィールドに「一括更新」と表示されます。

- 4 検索を実行する

社員番号	社員名	フリガナ	マネージャ番号	給与	部門番号	生年月日	入社日	在籍会社	部署名	内線	部署コード
1	104 丸山 真吾	マルヤマ シンゴ	4185000	301802-04-06	1967-06-03	東京本社	電機部	206			
2	105 田中 拓実	タナカ タツ実	6230000	101800-07-08	1967-10-25	東京本社	総務部	215			
3	106 石橋 伸多	イシハシ シンタ	3185000	101800-10-08	1967-08-27	東京本社	総務部	217			
4	107 佐藤 達哉	サトウ タツヤ	3230000	001801-08-01	1961-02-03	東京本社	システム部	231			
5	108 牧 文美	カキ アヤミ	5275000	001801-02-08	1969-07-12	東京本社	システム部	272			
6	110 林 実香	ハヤシ マチ	6280000	101800-02-05	1968-02-02	東京本社	総務部	273			
7	203 上園 真鈴	ウエノ マリン	8275000	201808-05-01	1966-04-06	大阪支社	企画部	305			
8	204 岩田 俊介	イワタ シュンスケ	8300000	301800-01-27	1967-12-06	大阪支社	企画部	306			
9	206 近藤 祐樹	コソドウ ユウキ	4181000	201801-05-13	1968-08-13	大阪支社	企画部	317			
10	207 高島 圭亮	タカシマ ケイスケ	10280000	301804-08-29	1965-08-30	大阪支社	企画部	312			
11	208 福井 由貴	フクイ ユキ	13180000	401800-08-16	1967-06-25	大阪支社	営業部	320			
12	208 荒井 宗一郎	アラヰ ユウイチロウ	15175000	401808-04-08	1965-05-25	大阪支社	営業部	303			
13	210 森谷 恒星	モリヤ コウセイ	8206000	401801-06-15	1968-02-03	大阪支社	営業部	313			
14	303 高瀬 葉月	タカセ ハツキ	10210000	201808-07-04	1966-02-10	北九州支社	企画部	506			
15	304 池崎 健吾	イケザキ ケンゴ	5230000	401808-08-10	1967-07-10	北九州支社	営業部	511			
16	305 冨永 佑哉	トネネト ユウヤ	6310000	401808-10-25	1966-08-21	北九州支社	営業部	515			
17	306 小田 由香	オダ ユカ	3280000	601807-08-20	1964-08-19	北九州支社	人事部	500			
18	307 松本 弘明	マツモト ヒロアキ	17270000	601808-11-01	1966-08-25	北九州支社	人事部	508			
19	308 宮崎 貴純	ミヤザキ タカズミ	5185000	301800-05-09	1967-08-24	北九州支社	管理部	511			

検索ボタンをクリックすると、検索結果がレコード画面に出力されます。ここからの手順はシート画面でもフォーム画面でも行えます。両画面での基本操作についてはこちらをご覧ください(☞ 3.8 レコード画面) (☞ 3.8.3 レコード画面の操作方法)。

5 一括更新する項目と値を指定する

一括更新する項目「給与」を選択し、8% UP の指定を行います。

シート画面のとき

更新する項目の列ヘッダを右クリックして表示されるメニューから、**[プロパティ (I)]** を選択します。

社員番号	社員名	フリガナ	マネージャ番号	給与	部門番号	生年月日	社員
1	104 丸山 真吾	マルヤマ シンゴ	4185	4185			元に戻せません(I)
2	105 田中 拓実	タナカ タツ実	6200	6200			やり直してきません(R)
3	106 石橋 伸多	イシハシ シンタ	3185	3185			切り取り(T)
4	107 佐藤 達哉	サトウ タツヤ	3200	3200			コピー(C)
5	108 牧 文美	カキ アヤミ	5275	5275			貼り付け(P)
6	110 林 実香	ハヤシ マチ	6280	6280			クリア(D)
7	203 上園 真鈴	ウエノ マリン	8275	8275			列幅を合わせ(F)
8	204 岩田 俊介	イワタ シュンスケ	8300	8300			列を固定する(F)
9	206 近藤 祐樹	コソドウ ユウキ	4181	4181			現在の列を保存する(S)
10	207 高島 圭亮	タカシマ ケイスケ	10280	10280			列幅保存を解除する(E)
11	208 福井 由貴	フクイ ユキ	13180	13180			プロパティ(I)...
12	208 荒井 宗一郎	アラヰ ユウイチロウ	15175	15175			日本語入力(K)
13	210 森谷 恒星	モリヤ コウセイ	8206	8206			桁区切り(O)
14	303 高瀬 葉月	タカセ ハツキ	10210	10210			
15	304 池崎 健吾	イケザキ ケンゴ	5230	5230			
16	305 冨永 佑哉	トネネト ユウヤ	6310	6310			
17	306 小田 由香	オダ ユカ	32800	32800			

更新する項目を右クリックして表示されるメニューから、**[プロパティ (I)]** を選択します。

フォーム画面のとき

社員名 (40) 成宮 真紀

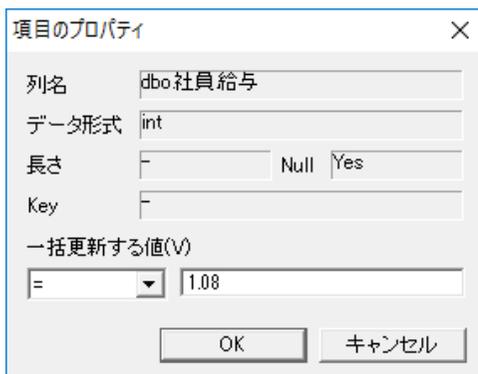
フリガナ (80) ナルミヤ マキ

マネージャ番号 (10.0) 9

給与 ()

部門番 日本語入力(K) >

[項目のプロパティ] ダイアログが表示されます。



[列名] ボックス

[データ形式] ボックス

[長さ] ボックス

[Null] ボックス

[Key] ボックス

項目名や属性を表示します (☞ 3.12.2 データ入力時の注意
点)。

[一括更新する値 (V)]

コンボボックスとエディットボックスを使用して、現在の項目のデータをどう更新するのかを指定します。

左側の [演算子] コンボボックスの ▾ をクリックして表示される一覧から、演算子を選択します。一覧に表示される演算子は次のとおりです。

空欄	項目のデータを更新しない
=	項目のデータを [値] に等しくする
*	※ 現在のデータに [値] を掛ける
/	※ 現在のデータを [値] で割る
+	※ 現在のデータに [値] を足す
-	※ 現在のデータから [値] を引く
空白値	現在のデータを空白値にする

(※は数値項目のみ)

右側の [値] ボックスに、演算子に対して使用する数値や文字列を入力します。

複数の項目を一括更新する場合は、同様にして一括更新値

の指定を繰り返します。または、後述する [複数項目のプロパティ] ダイアログを使用して複数の一括更新値の指定を行います。

項目に指定した一括更新をキャンセルする場合は、再度ダイアログを開き、[演算子] コンボボックスを空欄にします。[演算子] コンボボックスが空欄の場合は、その項目に対して一括更新処理は実行されません。

一括更新値に指定された項目は鉛筆のマーク  が付きます。

6 一括更新を実行する

[レコード]-[処理実行] ボタン  をクリックして一括更新処理を実行します (☞ 3.14.2 キー更新 手順7)。

参考

レコードを更新する表に対して手順1で検索条件を指定しなかった場合は、表のレコードがすべて更新されるため「検索条件が設定されていないので、表のすべてのデータを更新します。」とメッセージが表示されます。

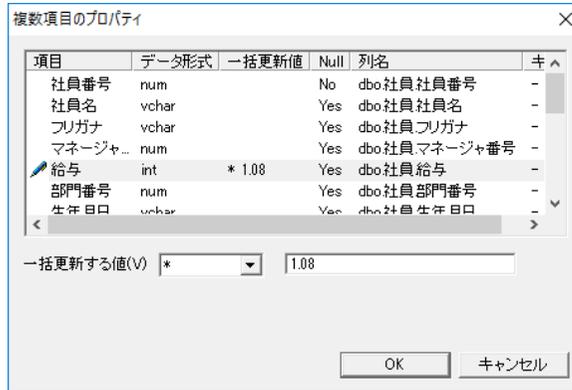
参考

更新値は、設定したレコードだけでなくすべての検索レコードに反映されます。更新値を設定しない項目に関してはなんら変化はありません。

項目のリストから選択して一括更新値を指定する

[プロパティ] ボタン  を選択すると、次のダイアログが表示されます (☞ 3.8.3 レコード画面の操作方法)。

[項目] リスト



項目名や属性を表示します。

[一括更新する値 (V)]

[項目] リストで選択した項目 (複数選択可) に対して一括更新値の指定/解除を行うことができます。[演算子] コンボボックスと [値] エディットボックスの操作内容は、「3.14.3 一括更新手順5」と同様となります。

一括更新結果のシミュレーション

一括更新を行う前に検索モードで演算を行い、演算結果を確認した上で一括更新を実行することもできます。上の例の場合、次のように設定ウィンドウに設定して検索実行ボタン  をクリックします。

	1	2	3	4	5	6
項目名	社員番号	社員名	フリガナ	マネージャ番号	給与	部門番号
列名	社員番号	社員名	フリガナ	マネージャ番号	給与	部門番号
設定		AND	AND	AND	*1.08	AND
条件1						

演算結果

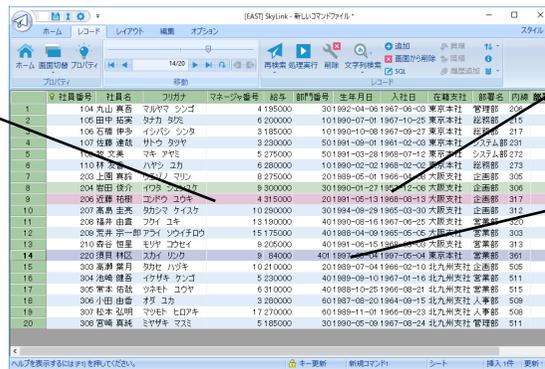
社員番号	社員名	フリガナ	マネージャ番号	給与	部門番号	生年月日	入社日	在籍会社	部署名	内勤	部署
1	104 丸山 真吾	マルヤマ シンゴ	4	81,000.00	301992-04-09	1967-06-09	09-25	東京本社	管理部	206	
2	105 田中 拓実	タナカ タツミ	6	61,000.00	101890-07-09	1967-10-25	09-25	東京本社	経理部	215	
3	108 石塚 幸伸	イシヅカ シュンタ	5	53,000.00	101890-10-08	1967-09-07	09-27	東京本社	経理部	217	
4	107 佐藤 謙哉	サトウ タツヤ	3	3,484.00	501891-08-09	1961-02-05	09-25	東京本社	システム部	231	
5	109 仲 文美	ナカ フミ	5	5,370.00	501891-03-28	1968-07-12	09-25	東京本社	システム部	272	
6	110 村 高志	ムラタキ タカシ	6	6,324.00	401890-02-02	1969-02-02	09-25	東京本社	経理部	279	
7	203 上野 典幹	ウエノ ノリノ	8	8,970.00	201898-05-01	1966-04-06	09-30	大阪支社	企画部	305	
8	204 野田 佳介	ノダ ケイスケ	5	5,324.00	301890-01-27	1957-12-08	09-25	大阪支社	企画部	306	
9	205 栗原 尚樹	ノグリ タツキ	4	4,302.00	201891-05-13	1969-08-13	09-30	大阪支社	企画部	317	
10	207 高橋 進英	タカハシ シンヤ	10	10,132.00	301894-09-29	1965-08-30	09-30	大阪支社	企画部	312	
11	208 榎井 由貴	エノヰ ユキ	13	13,562.00	401890-08-18	1967-08-25	09-25	大阪支社	営業部	320	
12	209 栗井 新一郎	ノグリ シンイチロウ	15	15,000.00	401898-04-09	1965-05-05	09-25	大阪支社	営業部	303	
13	210 奥谷 恒康	オクニ ヨシノブ	9	9,214.00	401891-06-15	1969-03-03	09-30	大阪支社	営業部	313	
14	303 高橋 聖月	タカハシ ヒロキ	10	10,269.00	201898-07-04	1965-02-10	09-30	北九州支社	企画部	505	
15	304 金堀 健吾	カナホリ ケンゴ	6	6,345.00	401898-09-10	1967-01-16	09-30	北九州支社	営業部	511	
16	305 栗原 尚樹	ノグリ タツキ	6	6,324.00	401898-10-28	1969-02-02	09-30	北九州支社	営業部	515	
17	306 小田 由香	オダ ユカ	3	3,024.00	601897-08-20	1964-08-15	09-30	北九州支社	人事部	509	
18	307 松本 弘明	マツモト ヒロアキ	17	17,831.00	601898-11-01	1968-08-23	09-30	北九州支社	人事部	508	
19	308 岩崎 真珠	イワサキ マチ	5	5,324.00	301890-05-09	1967-08-24	09-24	北九州支社	管理部	511	

演算結果を確認後、設定ウィンドウに設定された演算を消去し、一括更新モードにしてから処理を開始します。

3.14.4 キー更新モードでのレコードの挿入と削除

キー更新モードでも、レコードの挿入と削除を行うことができます。レコードの追加とレコードの削除指定は、更新のためのデータの編集作業と並行して行います。最後に処理実行ボタン  をクリックすると追加されたレコードは挿入され、削除指定されたレコードは削除され、データが更新されたレコードはキーに基づき更新されます。(☞ 3.12 レコードを挿入する) (☞ 3.13 レコードを削除する)。

[レコード]-[削除]を選択



更新行

右クリックして表示されるメニューから、[レコードの挿入 (I)]を選択

インポート機能を利用してレコードの挿入を行うこともできます (☞ インポート・エクスポート)。

ステータスバーで挿入件数、更新件数、削除件数を確認できます。



3.14.5 更新キーの設定について

キー更新は、1つ以上の項目に更新キーを指定しないと行えません。更新キーの指定は、意図せぬレコードまで更新してしまわないように、十分注意して行ってください。更新キーは、デフォルトはデータベースに定義されている表の主キー、一意キーを持つ項目、それがない場合のデフォルトは検索条件が設定されている項目に指定されていますが、他の項目に変更することもできます。また、ユーザーにより作成されたフォームに出力している場合、あらかじめ [フォーム編集] 画面で項目に対しキーが指定してある場合もあります。

更新キーは、通常、表のすべてのレコードが一意になる項目に対して指定します。例えば次の表「会社 A」の場合、会社コードが

表の主キーであるため一意項目となり（検索されなかったレコードに対しても一意）、項目データを編集して更新マーク、削除指定マーク、挿入マークされたレコードだけが確実に更新されます。

表「会社 A」	表「会社 B」
 会社コード 主キー	 グループコード 主キー
会社名	 グループ会社コード 主キー
代表者	会社名
電話番号	代表者
住所	電話番号
従業員数	住所
資本金	

一意項目は表「会社 B」のように複数で構成されていても構いません。

参考

一意であるかどうかは人の判断だけでは不完全なことがあります。確実なキー更新を行うためには、データベースで表に主キーまたは一意キーを定義し、その項目に更新キーを指定することをおすすめします。

問題が起こりやすいのは、一意でない項目に更新キーを指定した場合です。

表「会社 A」
 会社コード 主キー
会社名
代表者
電話番号
住所
従業員数
資本金

電話番号 03-1111-2222 のレコードデータを編集し、キー更新する場合

このような場合は、電話番号が一意項目ではないため、ユーザーが更新するつもりレコードのみが正しく更新される保証はありません。検索結果として抽出されていなくても電話番号 03-1111-2222 のレコードが同じ表にあれば更新されます。

ただし、場合によっては意図的に一意でない項目にキーを指定し

ます。

表「売上票」で、特定の会社コードのレコードをすべて更新したい例

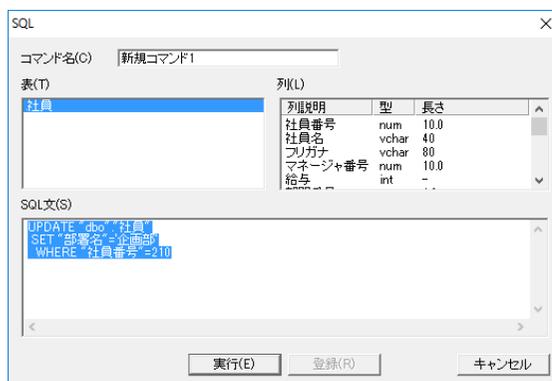
表「売上票」	
売上コード	主キー
商品コード	
 会社コード	
顧客コード	
売上日	
単価	
数量	

会社コードに更新キーを指定し、会社コード 1000 を 9999 に変更した場合、検索条件の有無にかかわらず、表「売上票」のすべてのレコードのうち、他の会社コード 1000 となっているすべてのレコードも 9999 に一括更新されます。

3.14.6 SQL 編集 (更新)

更新モードでは SkyLink によって SQL (UPDATE 文) が作成されます。

SQL ボタン  をクリックすると、[SQL] ダイアログが表示されます。



[コマンド名 (C)] ボックス

[表 (T)] リスト

[列 (L)] リスト

[SQL 文 (S)] ボックス

コマンド名、表名、列名を表示します (☞ 3.12.4 SQL 編集 (挿入))。

[実行 (E)] ボタン

クリックすると、[SQL 文 (S)] をデータベースに発行して更新を実行します。指定されている出力先に更新結果が出力され

ます。

[登録 (R)] ボタン

更新モードでは [登録 (R)] ボタンは使用できません。

キー更新モードのフォーム画面の場合は表示されているレコード、シート画面の場合はフォーカスセルのあるレコード用に自動生成された SQL を確認することができます。

一括更新モードの場合は検索されたレコードを一括更新するSQLを、確認することができます。

ここで SQL を編集することもできます (☞ 3.7.6 SQL 編集)。[実行 (E)] ボタンをクリックすると、レコードの更新が実行されます。

3.15

フォーム編集

検索結果をユーザー独自のフォーム画面に出力することもできます。

3.15.1 フォームとは

フォームとは、各項目が配置された用紙や画面のことをいいます。SkyLink でフォームとは、「レコードフォーム」と「検索条件入力フォーム」の二つを意味します。

「レコードフォーム」は、検索レコードを出力したり、検索／更新用 SkyLink の場合は挿入するレコードや更新するレコードを編集したりするために、項目、見出しなどが配置された画面のことをいいます。

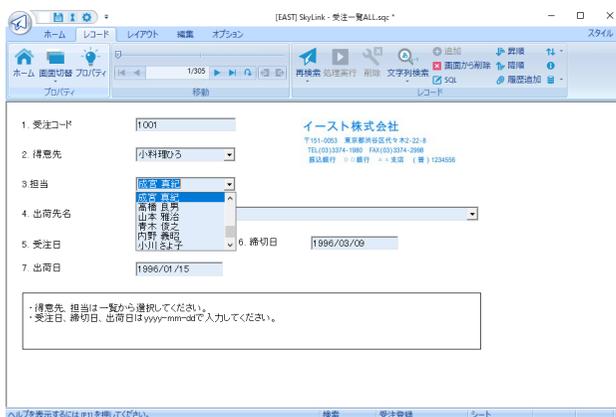
「検索条件入力フォーム」は、検索条件が設定されているコマンドを検索した際に表示する[検索条件入力]ダイアログを編集する画面のことをいいます。

SkyLink のもうひとつのフォームである「Excel フォーム」とは区別しています（☞ 3.16 Excel フォームの編集）。

3.15.2 デフォルトフォームとユーザーフォーム

SkyLink はデフォルトフォームと呼ばれるフォームを持ち、レコードを表示したり入力するために、通常使用されます（☞ 3.8 レコード画面）（☞ 3.9 検索レコードの出力先）。デフォルトフォームは項目と見出しを単純にレイアウトしたものですが、ユーザーが新たにフォームをデザインし、使用することができます（ユーザーフォーム）。

ユーザーは[フォーム編集]画面でコマンドごとにフォームを登録することができ、項目や項目タイトルなどを効果的にレイアウトしたり、題字、罫線、画像、書式などを含めてデザインすることができます。



参考

1つのコマンドに対して、レコードの表示用/入力用など用途に合わせて複数のフォームを登録しておき、使い分けることもできます。

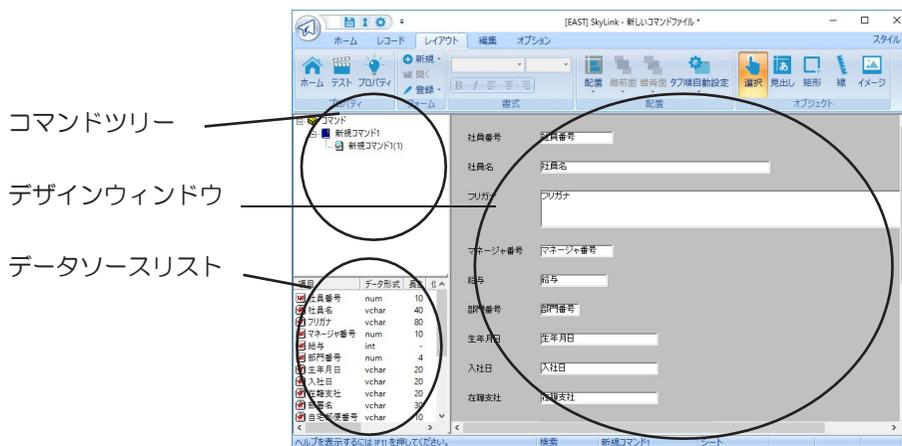
参考

登録されたフォームは、コマンドファイルの保存を行うとコマンドとともにファイルに書きこまれます。

3.15.3 フォーム編集画面

フォーム編集画面は、メイン画面で[コマンド]-[フォーム編集]ボタンを選択すると表示されます。

フォームの作成方法については後述しますので、まず各ウィンドウについて解説します。



コマンドツリー

メイン画面で使用中的コマンドファイルに登録されているコマンドと、それぞれのコマンドごとに登録されているフォームを

確認することができるウィンドウです。コマンドツリーからコマンド名やフォーム名をデザインウィンドウにドラッグ・ドロップすることで、フォームの新規作成や編集を開始することができます。

データソースリスト

デザインウィンドウでフォームを編集中の場合に使用することができます。編集中のフォームが属しているコマンドの項目のリストを表示します。リストから項目をデザインウィンドウにドラッグ・ドロップして、フォーム上に配置することができます。

デザインウィンドウ

フォームのデザイン作業を行います。

オブジェクト

デザインウィンドウに配置されている項目（エディット、リストボックス、コンボボックス、チェックボックス）、見出し、矩形、線、イメージのことをいいます。

3.15.4 レイアウトカテゴリ（フォーム編集画面）

フォーム編集画面でよく使われるメニュー項目に対応するボタン類が配置されています。



[プロパティ] パネル



ホームボタン

メイン画面に戻ります。

テストボタン

編集しているフォームをテストモードで実行し、実際の動作を確認します。

プロパティボタン

選択されている項目の詳細な設定を行う、プロパティダイアログを表示します。

[フォーム] パネル



新規ボタン

新規にレコードフォーム / 検索条件フォームを作成します。

開くボタン

既存のフォームを編集モードで開きます。

登録ボタン

編集中のフォームを、登録、または名前を付けて登録します。

[書式] パネル



見出しオブジェクトまたは項目オブジェクトを選択して書式を設定します。

フォント名

選択しているオブジェクトのフォント名を指定します。

フォントサイズ

選択しているオブジェクトのフォントサイズを指定します。

太字

選択しているオブジェクトのフォントを太字にします。

斜体

選択しているオブジェクトのフォントを斜体にします。

左寄せ

選択しているオブジェクトのテキストを左寄せにします。

中央寄せ

選択しているオブジェクトのテキストを中央寄せにします。

右寄せ

選択しているオブジェクトのテキストを右寄せにします。

[配置] パネル



選択しているオブジェクトの位置やサイズを設定します (☞ 4.11 [レイアウト (L)])。

-  左揃えボタン
-  左右中央ボタン
-  右揃えボタン
-  上揃えボタン
-  上下中央ボタン
-  下揃えボタン
-  最前面ボタン
-  前面ボタン
-  最背面ボタン
-  背面ボタン
-  タブ順自動設定ボタン

[オブジェクト] パネル



選択ボタン以外をクリックするとマウスカーソルの形状が変わり、フォーム上をクリックしてオブジェクトを作成できる状態になります。選択ボタンを再度クリックすると、このオブジェクト作成待ち状態をキャンセルします。

-  **選択ボタン**
フォーム上のオブジェクトを選択できる状態にします。デフォルトではこの状態です。
-  **見出しボタン**

見出しオブジェクトを作成できる状態にします。



矩形ボタン

矩形オブジェクトを作成できる状態にします。



線ボタン

線オブジェクトを作成できる状態にします。



イメージボタン

イメージ（画像）オブジェクトを作成できる状態にします。

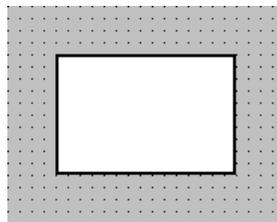
3.15.5 オブジェクトの基本操作

フォーム上に配置される項目や見出し、矩形、線、イメージのことをオブジェクトと呼びます。フォームを作成中に必要なオブジェクトの基本操作について説明します（☞ 3.15.8 フォームを作成する（レコードフォーム編））（☞ 3.15.9 フォームを作成する（検索条件入力フォーム編））。オブジェクトをクリックして選択すると、ツールバーのボタンやメニューの操作対象オブジェクトとなります。

オブジェクトの追加

項目と見出しに関してはフォームに自動的に追加する方法もあります（☞ 3.15.8 フォームを作成する（レコードフォーム編））（☞ 3.15.9 フォームを作成する（検索条件入力フォーム編））。見出し、矩形、線、イメージの各オブジェクトは、ツールバーにある目的のオブジェクトのボタンをクリックし、フォーム上の配置したい位置で再度クリックして、オブジェクトを追加します。

矩形ボタン  をクリック



配置したい位置でクリック
またはドラッグ

オブジェクトの選択

オブジェクトをクリックするとハンドル ■ または □ が表示され、選択状態となります。

オブジェクトを右クリックして表示されるメニューから [オブジェクト切り替え (X)] を選択すると、サブメニューからオブジェクトの種類を選択することができます。

[エディット]

項目を入力することができます。



[リストボックス]

リストからひとつの項目を選択できます。入力ではできません。



[コンボボックス]

▼をクリックして表示される一覧から、ひとつの項目を選択できます。[オブジェクトのプロパティ] ダイアログ [スタイル] タブの [コンボボックスのスタイル (S)] を「ドロップダウン」に設定していると、エディットのように入力することができます。



[チェックボックス]

項目が二つしかない場合などに使用します。



リストボックスとコンボボックスに項目リストを追加することができます。項目リストの追加は、[選択] ダイアログまたは [オブジェクトのプロパティ] ダイアログ [選択] タブで [追加 (A)] ボタンをクリックして表示される [選択肢の追加] ダイアログで行います ([選択] ダイアログは、データソースリストで目的の項目を右クリックして表示されるメニューから [選択リストの編集 (L)] を選択して表示します。また、[オブジェクトのプロパティ] ダイアログは、デザインウィンドウ上の目的のオブジェクトを右クリックして表示されるメニューから [プロパティ (I)] を選択して表示します)。

また、[変更 (M)] ボタンをクリックすると [選択肢の変更] ダイアログが表示されます。

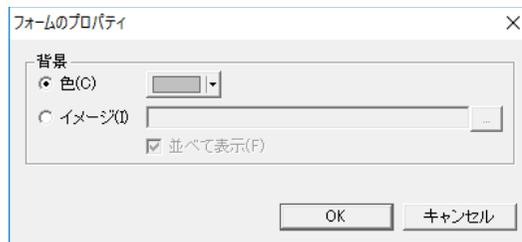
チェックボックスの場合は、同様に[選択] ダイアログまたは[オブジェクトのプロパティ] ダイアログの [選択] タブで追加したリストの一番上にある項目がチェックされている状態となり、二番目の項目がチェックされていない状態となります。それ以降の項目については無効となります (☞ 3.15.6 フォームとオブジェクトのプロパティ)。

3.15.6 フォームとオブジェクトのプロパティ

フォームおよび選択しているオブジェクトに対して、各種の設定を行うことができます。

フォームのプロパティ

フォームを右クリックすると表示されるメニューから[プロパティ (I)] を選択するか、[プロパティ] パネル [プロパティ] ボタン  を選択すると、[フォームのプロパティ] ダイアログが表示されます。



フォームの背景を単一の色で表示するかあるいはイメージを表示するかをオプションボタンをクリックして選択します。

[色 (C)] オプションボタン

オプションボタンを選択後、カラーボタンをクリックしてフォームの背景に表示する色を指定することができます。(☞ 4.8.3 [ツール (T)]-[オプション (O)] [デザイン] タブ)。

[イメージ (I)] オプションボタン

オプションボタンを選択後、イメージファイル名を指定してフォームの背景に表示するイメージを指定することができます。[...] ボタンをクリックするとファイル名を参照できます。指定できるイメージファイル形式は、ビットマップ(*.bmp, *.dib) と JPEG (*.jpg, *.jpeg) です。

[並べて表示 (F)] チェックボックス

チェックをつけると、フォームのサイズよりイメージのサイズが小さい場合は、フォームにイメージをタイルのように並べて表

示することができます。[イメージ (I)] オプションボタンが選択されていない場合は、使用できません。

📖 参考

イメージを表示するにはイメージファイルが必要です。フォームを登録した後、イメージファイルを削除または移動すると、イメージファイルの再指定が必要となります。移動したり他のフォルダにコピーされたコマンドファイルを開く場合も、イメージファイルのフォルダを考慮してください。イメージオブジェクトのイメージファイルに関しても同様です。

オブジェクトのプロパティ

オブジェクトを右クリックすると表示されるメニューから [プロパティ (I)] を選択すると、次のダイアログが表示されます。選択されているオブジェクトの種類によってダイアログの項目が変わります。複数のオブジェクトを選択して同時に設定を行うこともできます (複数オブジェクトのプロパティ)。

[位置] タブ

すべてのオブジェクトで表示されるタブです。



[X 座標 (X)] ボックス

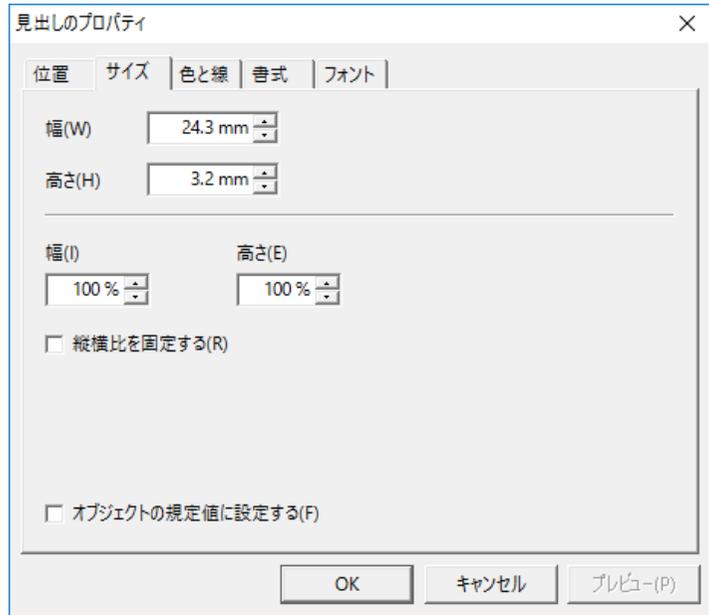
オブジェクトの X 位置を指定します。

[Y 座標 (Y)] ボックス

オブジェクトの Y 位置を指定します。

[サイズ] タブ

すべてのオブジェクトで表示されるタブです。



[幅 (W)] ボックス

オブジェクトの幅を指定します。

[高さ (H)] ボックス

オブジェクトの高さを指定します。

[幅 (I)] ボックス

オブジェクトの幅の比率を指定します。

[高さ (E)] ボックス

オブジェクトの高さの比率を指定します。

[縦横比を固定する (R)] チェックボックス

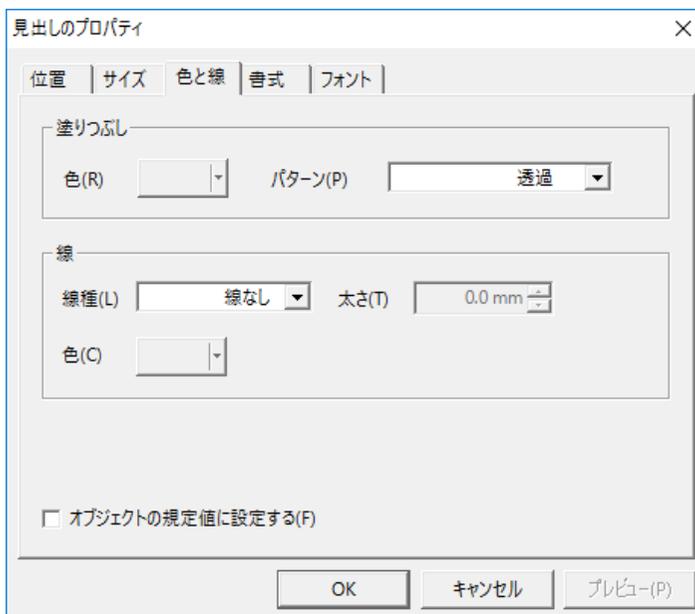
チェックをつけると、オブジェクトの幅と高さの比率を、現在の [幅 (I)] と [高さ (E)] の内容で固定します。

[オブジェクトの規定値に設定する (F)] チェックボックス

チェックをつけると、現在の設定を、オブジェクトの規定値とします。

[色と線] タブ

見出し、矩形、線オブジェクトの場合に表示されるタブです。



塗りつぶし

[色 (R)] ボタン

[パターン (P)] コンボボックス

[色 (R)] ボタンをクリックして見出し、矩形オブジェクトの背景の色を指定することができます。

[パターン (P)] コンボボックスの▼をクリックして表示される一覧から、見出し、矩形オブジェクトの背景のパターンを指定することができます。「透過」を選択した場合、[色 (R)] ボタンは使用できません。

また、いずれも線オブジェクトでは使用できません。

線

[線種 (L)] コンボボックス

[太さ (T)] コンボボックス

[色 (C)] ボタン

[線種 (L)] コンボボックスの▼をクリックして表示される一覧から、線の種類（線の場合）・オブジェクトの境界線の種類（見出し、矩形オブジェクトの場合）を指定することができます。

[太さ (T)] コンボボックスの▼をクリックして表示される一覧から、線の幅を指定します。

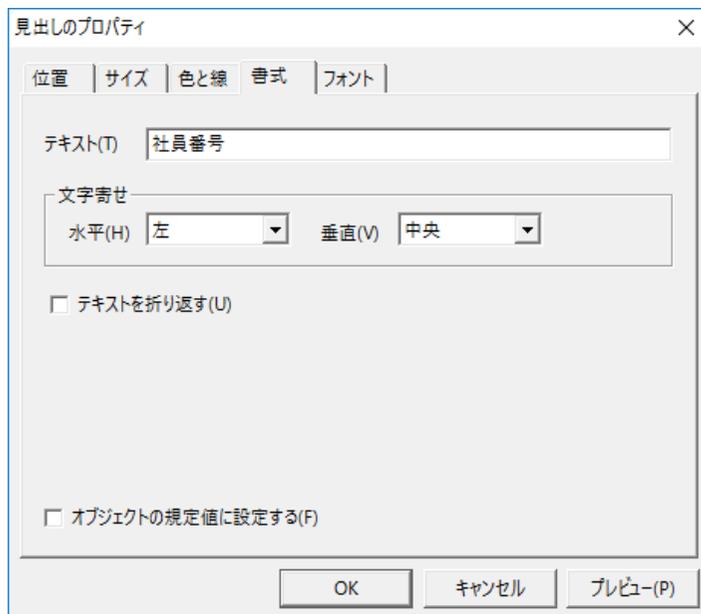
[色 (R)] ボタンをクリックして線の色を指定することができます。

[オブジェクトの規定値に設定する (F)] チェックボックス

チェックをつけると、現在の設定を、オブジェクトの規定値とします。

[書式] タブ

見出しオブジェクトの場合に表示されるタブです。



[テキスト (T)] ボックス

見出しオブジェクトに表示するテキストを入力します。

[水平 (H)] コンボボックス

▼をクリックして表示される一覧から、見出しオブジェクトに表示する文字の水平方向の寄せを選択することができます。

[垂直 (V)] コンボボックス

▼をクリックして表示される一覧から、見出しオブジェクトに表示する文字の垂直方向の寄せを選択することができます。

[テキストを折り返す (U)] チェックボックス

チェックをつけると、テキストが長い場合でも折り返して全体を表示することができます。

[オブジェクトの規定値に設定する (F)] チェックボックス
チェックをつけると、現在の設定を、オブジェクトの規定値とします。

[スタイル] タブ

項目オブジェクトの場合に表示されるタブです。

エディットのプロパティ

位置 | サイズ | スタイル | フォント | 選択 | データソース

複数行(M)

改行許可(E)

水平スクロールバー(H)

垂直スクロールバー(V)

文字寄せ

水平(H) 左

日本語入力(J) 制御しない

オブジェクトの規定値に設定する(F)

OK キャンセル プレビュー(P)

[複数行 (M)] チェックボックス

チェックをつけると、項目データを複数行にわたって表示／入力できます。

[改行許可 (E)] チェックボックス

チェックをつけると、項目データに改行を含めることができます。[複数行 (M)] チェックボックスにチェックがついていない場合は、使用できません。

[水平スクロールバー (H)] チェックボックス

チェックをつけると、項目オブジェクトに水平スクロールバーを付けることができます。

[複数行 (M)] チェックボックスにチェックがついていない場合は、使用できません。

[垂直スクロールバー (V)] チェックボックス

チェックをつけると、項目オブジェクトに垂直スクロールバーを付けることができます。

[複数行 (M)] チェックボックスにチェックがついていない場合は、使用できません。

[高さ自由 (H)] チェックボックス

チェックをつけると、項目を表示するボックスの高さを自由に設定できるようになります。リスト、コンボボックスの場合のみ使用できます。

[水平 (H)] コンボボックス

をクリックして表示される一覧から、見出しオブジェクトに表示する文字の水平方向の寄せを選択することができます。

[コンボボックスのスタイル (S)] コンボボックス

をクリックして表示される一覧から、コンボボックスのスタイルを選択します。コンボボックスの場合のみ使用できます。

[日本語入力 (J)] コンボボックス

をクリックして表示される一覧から、日本語入力についての設定条件を選択します。操作方法は、「3.12.2データ入力時の注意点」と同様となります。

[オブジェクトの規定値に設定する (F)] チェックボックス
チェックをつけると、現在の設定を、オブジェクトの規定値とします。

[ボタン] タブ

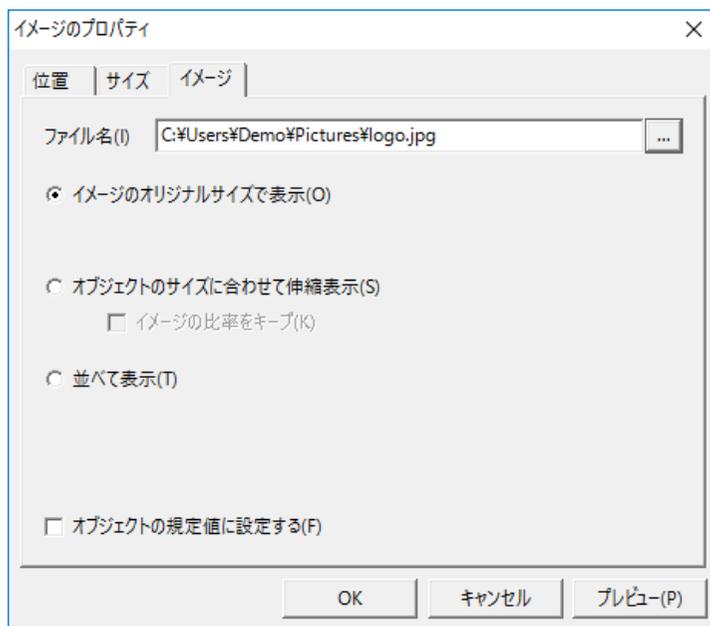
検索条件入力フォームのボタンオブジェクトの場合に表示されるタブです。

[ボタンを押されたときの動作 (A)] コンボボックス

をクリックして表示される一覧から、ボタンを押されたときに、「検索」と「キャンセル」のどちらの動作をさせるのかを選択します。

[イメージ] タブ

イメージオブジェクトの場合に表示されるタブです。



[ファイル名 (I)] ボックス

イメージファイル名を指定してイメージオブジェクトに表示するイメージを指定することができます。[...] ボタンをクリックするとファイル名を参照できます。

[イメージのオリジナルサイズで表示 (O)] オプションボタン

オプションボタンを選択すると、イメージをそのままのサイズで表示することができます。

[オブジェクトのサイズに合わせて伸縮表示 (S)] オプションボタン

オプションボタンを選択すると、イメージサイズをイメージオブジェクトのサイズに合わせて表示することができます。

[イメージの比率をキープ (K)] チェックボックス

チェックをつけると、イメージのオリジナルの縦横比を維持して伸縮します。[オブジェクトのサイズに合わせて伸縮表示(S)] が選択されているときに使用できます。

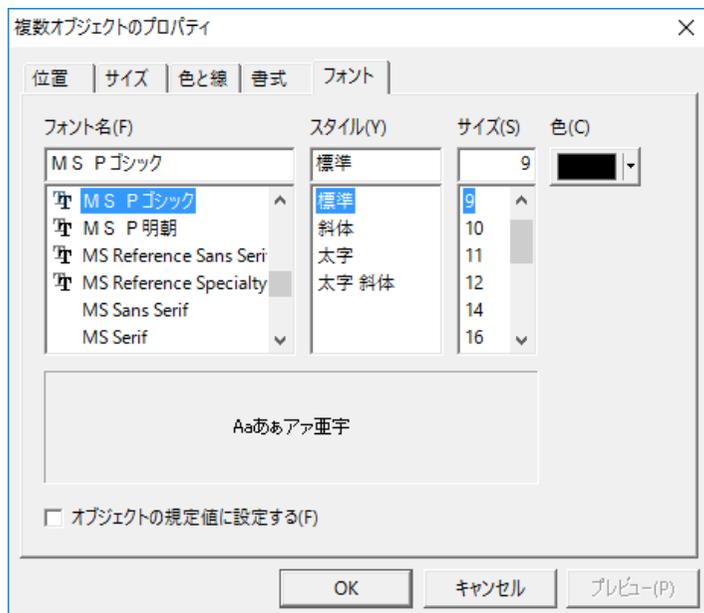
[並べて表示 (T)] オプションボタン

オプションボタンを選択すると、イメージオブジェクトのサイズよりイメージサイズが小さい場合は、オブジェクトの範囲にイメージをタイルのように並べて表示します。

[オブジェクトの規定値に設定する (F)] チェックボックス
チェックをつけると、現在の設定を、オブジェクトの規定値とします。

[フォント] タブ

見出し、項目オブジェクトの場合に表示されるタブです。



[フォント名 (F)] ボックス

下部のリストから、オブジェクトに表示する文字のフォントを選択することができます。

[スタイル (Y)] ボックス

下部のリストから、太字 (Bold)、斜体 (Italic) などのフォントスタイルを選択することができます。

[サイズ (S)] ボックス

下部のリストから、フォントの高さを指定することができます (単位 : ポイント)。

[色 (C)] ボタン

クリックして、オブジェクトに表示する文字の色を指定することができます。

[オブジェクトの規定値に設定する (F)] チェックボックス
チェックをつけると、現在の設定を、オブジェクトの規定値とします。

[選択] タブ

項目オブジェクトのタブです。

リストボックス、コンボボックスのみ使用可能となります。



[追加 (A)] ボタン

クリックして表示される [選択肢の追加] ダイアログで、リスト項目を追加することができます。

[変更 (M)] ボタン

リストで選択した項目を、[変更 (M)] ボタンをクリックして表示

される [選択肢の追加] ダイアログで、変更することができます。

[削除 (R)] ボタン

リストで選択した項目を、[削除 (R)] ボタンをクリックして削除することができます。

[先頭へ (H)] ボタン・[上へ移動 (U)] ボタン・[下へ移動 (D)] ボタン・[最後へ (T)] ボタン

リストで選択した項目の順序を、これらのボタンをクリックして移動することができます。

[インポート (I)] ボタン

クリックして表示されるサブメニューから、CSV ファイルまたはコマンドを選択します。

[CSV ファイル (C)]

[インポート] ダイアログを表示し、インポートするファイルを選択することができます。

[コマンド (M)]

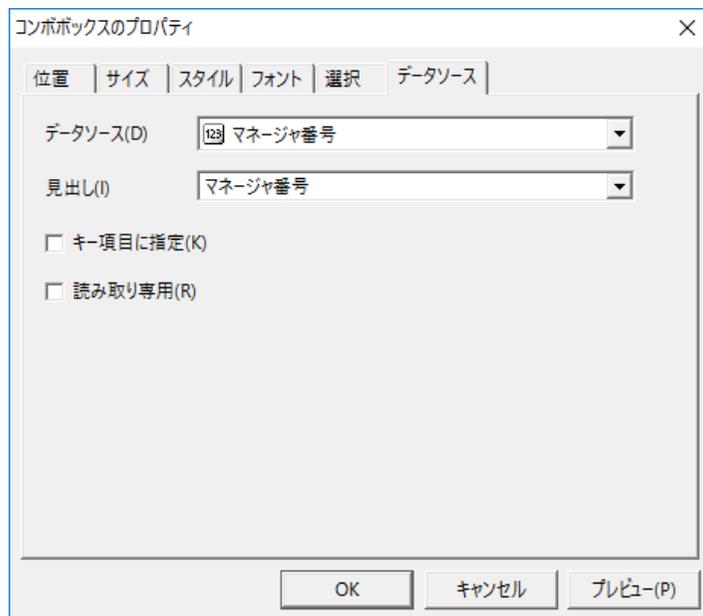
[コマンドからインポート] ダイアログを表示し、インポートするコマンドを選択することができます。

[インポートの上限 (X)] ボックス

インポートする項目数の上限を指定します。ただし、動的にコマンドからインポートする場合は無視されます。

[データソース] タブ

項目オブジェクトの場合に表示されるタブです。



[データソース (D)] コンボボックス

をクリックして表示される一覧から、項目オブジェクトに関連付けるコマンドの項目を選択することができます。

[見出し (I)] コンボボックス

をクリックして表示される一覧から、項目オブジェクトに関連付ける項目のタイトルとしての見出しオブジェクトを選択することができます。

[キー項目に指定 (K)] チェックボックス

チェックをつけると、項目オブジェクトに関連付けたコマンドの項目を削除キー／更新キーに指定することができます (☞ 3.13 レコードを削除する) (☞ 3.14 レコードを更新する)。

[読み取り専用 (R)] チェックボックス

チェックをつけると、項目オブジェクトに関連付けたコマンドの項目を読み取り専用指定することができます。

[検索条件] タブ

検索条件入力フォームの項目オブジェクトの場合に表示されるタブです。

[検索条件 (V)] コンボボックス

をクリックして表示される一覧から、項目オブジェクトに関連付ける検索条件の項目を選択することができます。

[見出し (I)] コンボボックス

をクリックして表示される一覧から、項目オブジェクトに関連付ける項目のタイトルとしての見出しを選択することができます。

3.15.7 フォーム作成ウィザード

フォーム作成ウィザードを使用すると、簡単にフォームを作成することができます。

コマンドツリーのコマンド名を右クリックして表示されるメニューから、[新規作成 (N)]-[レコードフォーム (R)] を選択すると、フォーム作成ウィザードが表示されます。

[フォーム名とレイアウトの設定]

フォーム名とレイアウトの設定を行います。

フォーム作成ウィザード - フォーム名とレイアウトの設定

フォーム名(A)
部門名

標準的なレイアウト(S) 横に並べるレイアウト(U)

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

[フォーム名 (A)] ボックス

フォーム名を入力します。

[標準的なレイアウト (S)] オプションボタン

クリックすると、標準的なオブジェクトの配置を選択することができます。

[横に並べるレイアウト (U)] オプションボタン

クリックすると、横に並べるようなオブジェクトの配置を選択することができます。

[フォームのスタイル]

フォームのスタイルの設定を行います。

右のフィールドにプレビューが表示されます。

[グリッド (G)] ボックス

フォームのグリッドを指定します。余白・間隔はこのグリッドを単位とします。

[左右 (X)] ボックス

先頭のオブジェクトを配置するX 位置を指定します。

[上下 (Y)] ボックス

先頭のオブジェクトを配置するY 位置を指定します。

[見出しの後 (T)] ボックス

見出しオブジェクトと項目オブジェクトの間隔を指定します。



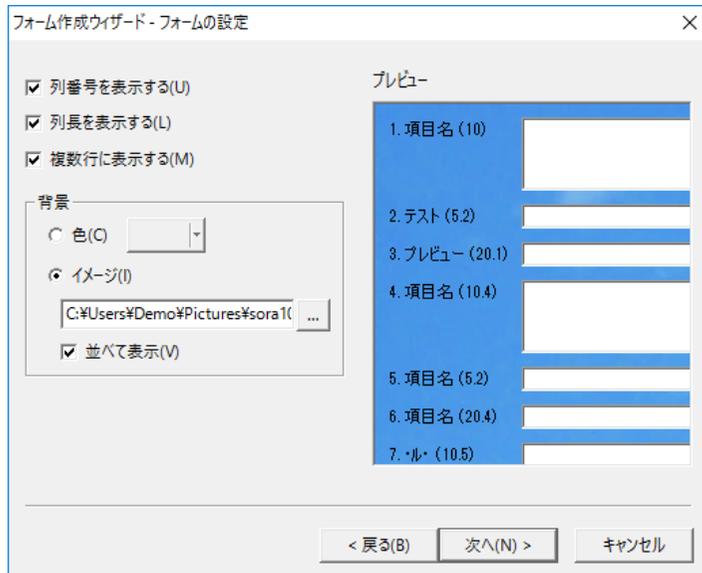
[行間 (P)] ボックス

オブジェクトとオブジェクトの行間の間隔を指定します。

[フォームの設定]

フォームの詳細な設定を行います。

右のフィールドにプレビューが表示されます。



[列番号を表示する (U)] チェックボックス

チェックをつけると、見出しオブジェクトにコマンドの項目順の番号をふって表示することができます。

[列長を表示する (L)] チェックボックス

チェックをつけると、見出しオブジェクトにコマンドの項目のサ

イズを表示することができます。

[複数行に表示する (M)] チェックボックス

チェックをつけると、コマンドの項目のサイズが大きい場合、項目オブジェクトを複数行にわたって表示・入力できるように設定することができます。

[色 (C)] オプションボタン・[イメージ (I)] オプションボタン・[並べて表示 (M)] チェックボックス

操作内容は、[フォームのプロパティ] ダイアログと同様となります (☞ 3.15.6 フォームとオブジェクトのプロパティ)。

[フォント設定]

オブジェクトのフォント設定を行います。

下のフィールドにオブジェクトのサンプルが表示されます。

フォーム作成ウザード - フォント設定

見出し

フォント名(F) スタイル(Y) サイズ(S) 色(C)

MS Pゴシック 標準 9 黒

コントロール

フォント名(A) スタイル(L) サイズ(I) 色(O)

MS Pゴシック 標準 9 黒

見出し コントロール

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

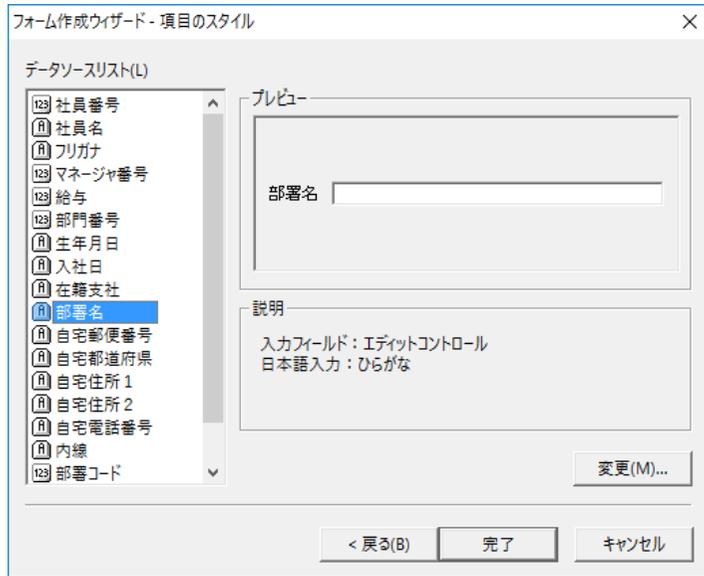
[見出し]・[コントロール]

操作内容は、[オブジェクトのプロパティ] ダイアログ [フォント] タブと同様となります (☞ 3.15.6 フォームとオブジェクトのプロパティ)。

[項目のスタイル]

項目のスタイルの設定を行います。

右のフィールドにプレビューと説明が表示されます。

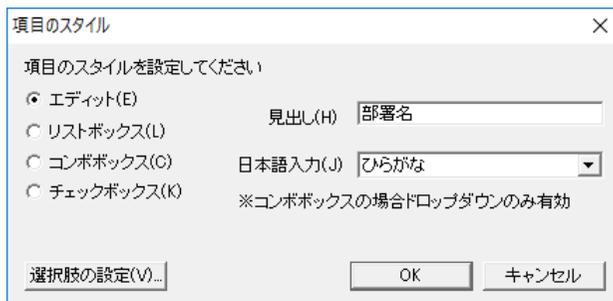


[データソースリスト (L)]

コマンドの項目のリストが表示されます。

[変更 (M)] ボタン

[データソースリスト (L)] で選択して [変更 (M)] ボタンをクリックすると、[項目のスタイル] ダイアログが表示されます。[項目のスタイル] ダイアログでは、選択した項目のスタイルを変更することができます。



[エディット (E)] オプションボタン・[リストボックス (L)] オプションボタン・[コンボボックス (C)] オプションボタン・[チェックボックス (K)] オプションボタンいずれかのオプションボタンを選択して、選択した項目オブジェクトをスタイルとして設定します。

[見出し (H)] ボックス

項目オブジェクトに関連付ける項目のタイトルを入力します。

[日本語入力 (J)] コンボボックス

▼をクリックして表示される一覧から、日本語入力についての設定条件を選択します。操作方法は、「3.12.2 データ入力時の注意点」と同様となります。

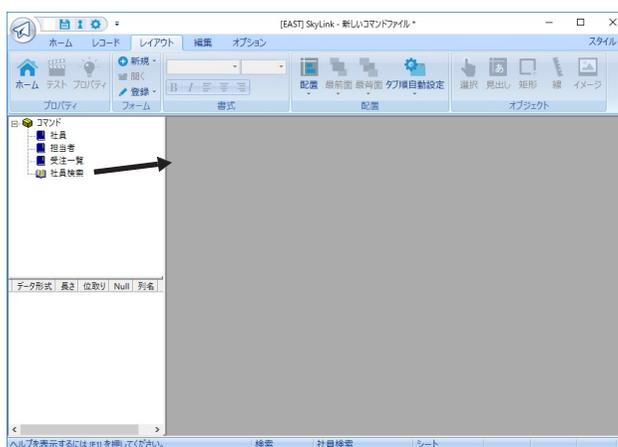
[選択肢の設定 (M)] ボタン

クリックすると [選択] ダイアログが表示されます。操作内容は、[オブジェクトのプロパティ] ダイアログ [選択] タブと同じです (☞ 3.15.6 フォームとオブジェクトのプロパティ)。

3.15.8 フォームを作成する (レコードフォーム偏)

基本的なレコードフォームを作成する手順を説明します。

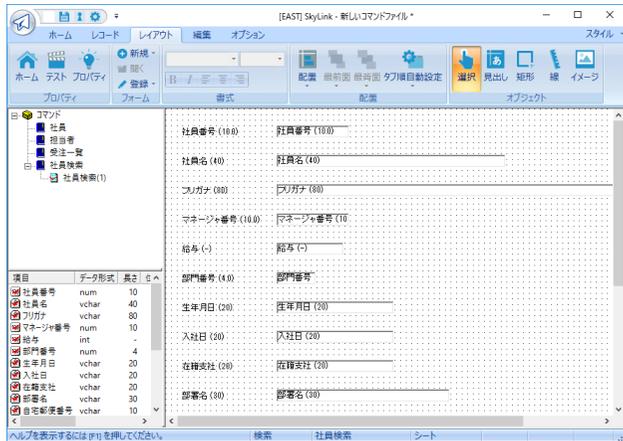
1 コマンド名をドラッグしてフォームデザインウィンドウにドロップ



2 オブジェクトが配置され、フォームが作成されます

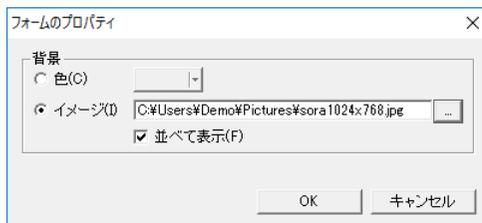
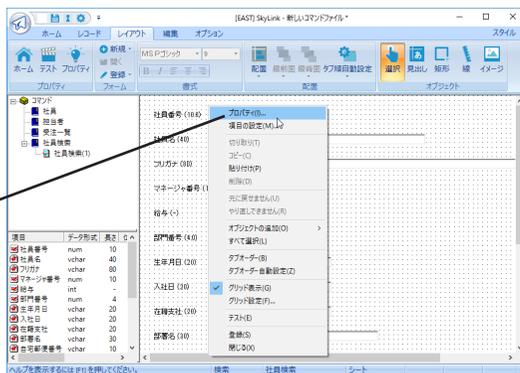
デフォルトフォームと同様にレイアウトされます。

項目オブジェクトのサイズはコマンド項目の長によって決まります (サイズ変更も可)。



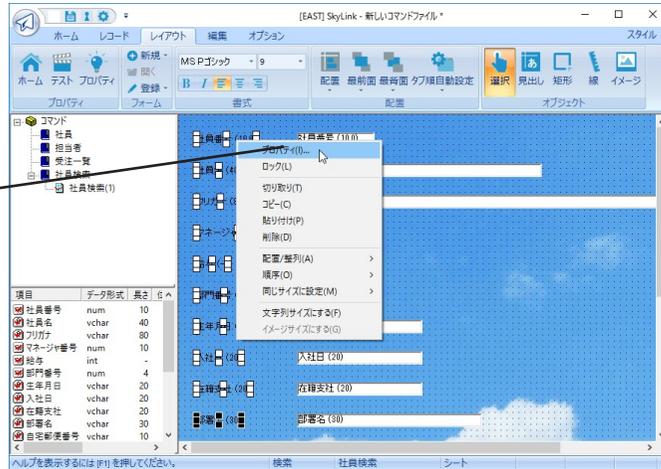
3 フォームの背景にイメージを表示してみます

フォームを右クリックして
表示されるメニューから
[プロパティ (I)] を選択

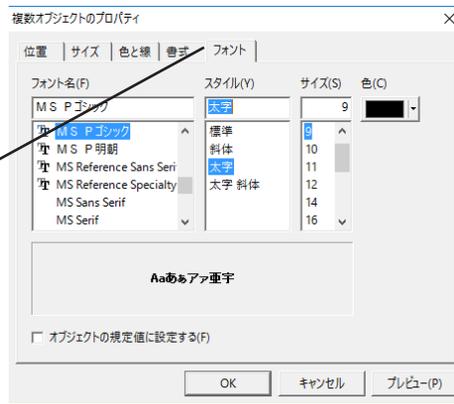


4 項目タイトルのフォントを変更してみます

項目タイトルを右クリックして表示されるメニューから [プロパティ (I)] を選択

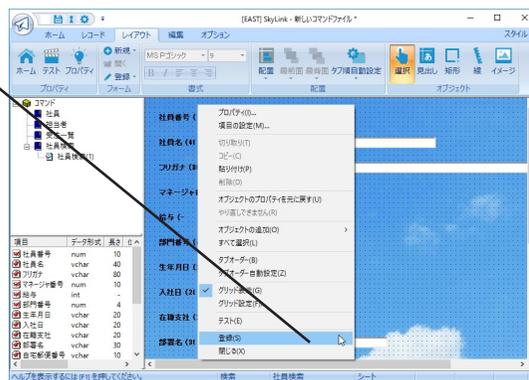


ここをクリックしてフォントタブに切り替える



作成したフォームの登録

フォームを右クリックして表示されるメニューから [登録 (S)] を選択



コマンドファイルに書きこむ場合は、保存ボタン  をクリックします。

キーの指定

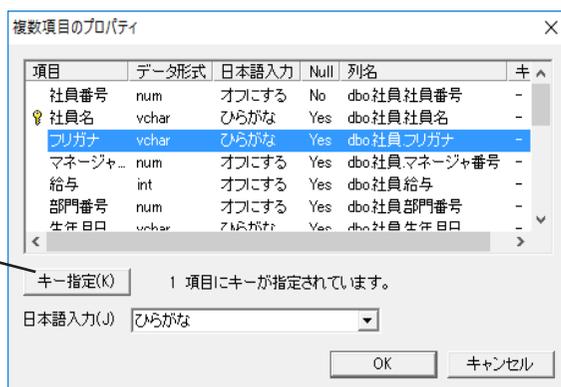
フォーム画面を利用して削除／更新を行う場合は、フォーム作成時に削除キー／更新キーを指定することができます。コマンドで使用している表に主キー、一意キーが定義されている場合は、デフォルトではその項目がキー項目となります。表に主キー、一意キーのどちらも定義されていない場合は、コマンドで検索条件を設定した項目がキー項目となります。いずれの場合でも、キー項目の指定／指定解除を行うことができます。削除キー／更新キーは、検索／更新用 SkyLink でキー削除モード、キー更新モードの場合に使用します (☞ 3.6 SkyLink のモード)。



項目を右クリックして表示されるメニューから [キー指定 (K)] を選択します。

またはフォームのポップアップメニューで [項目の設定(M)] を選択します。

項目を選択して、[キー指定 (K)] ボタンをクリック



複数の項目を選択してキーに指定することができます。日本語入力設定も同時に行えます。

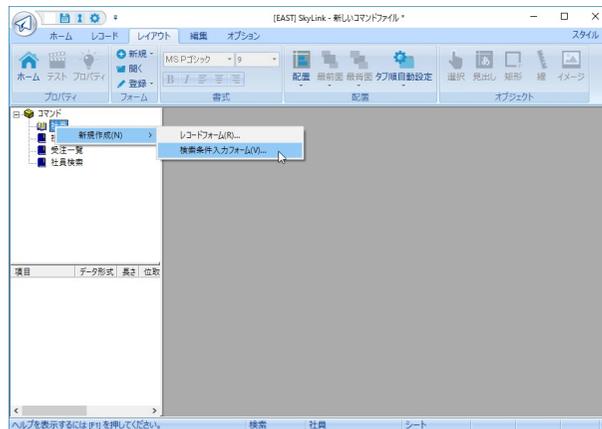
参考

レコード画面でシートまたはフォームを表示してキーの指定、日本語入力の設定を行っても、それらは登録されているフォームには影響しません。

3.15.9 フォームを作成する（検索条件入力フォーム編）

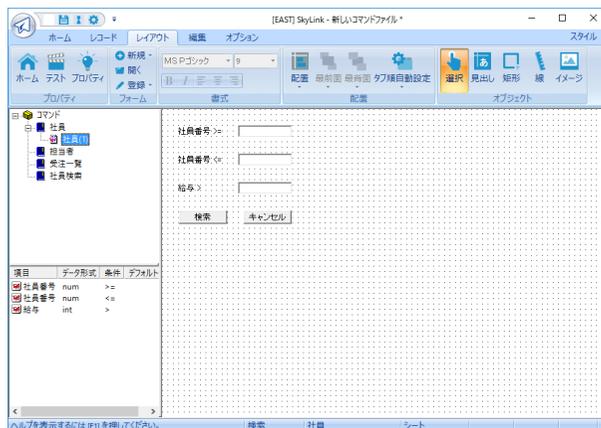
基本的な検索条件入力フォームを作成する手順を説明します。

- 1 コマンド名を右クリックして [新規作成 (N)]-[検索条件入力フォーム (V)] を選択します



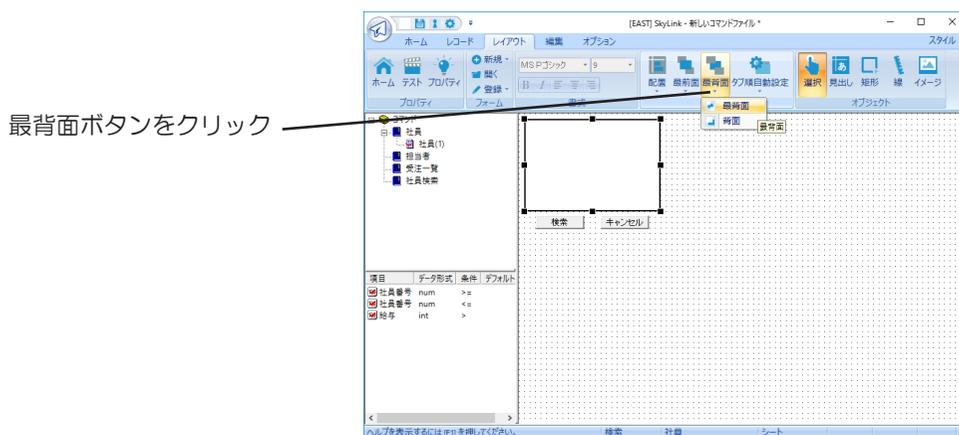
メニューの [新規作成 (N)]-[検索条件入力フォーム (V)] を選択して検索条件入力フォームを作成する手順についてはこちらをご覧ください (☞ 3.15.7 フォーム作成ウィザード)。

- 2 オブジェクトが配置され、フォームが作成されます



3 矩形を最背面に配置してみます

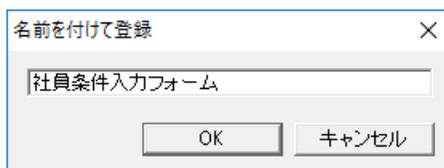
矩形ボタン  をクリックしてから、矩形を配置したい位置で再度クリックします。続いて、最背面ボタン  をクリックして、矩形をいちばん奥に移動します。



4 作成したフォームの登録

[レイアウト] カテゴリ [フォーム] パネル [登録] ボタン

 を選択して、[名前を付けて登録] ダイアログを表示します。



5 登録したフォームを使用する

ボタンまたは SkyLink ボタンの [ファイル (F)]-[ホーム] [フォーム編集] 画面が表示されている場合は、ホーム (H)  を選択してメイン画面に戻ります。

検索実行ボタン  または SkyLink ボタンから [検索 (S)]-[レコード (S)] を選択すると、作成した [検索条件入力] ダイアログが表示されます。

検索条件入力

社員番号 >= 100

社員番号 <= 200

給与 > 200000

検索 キャンセル

[検索] ボタンをクリックすると、その条件をもとに検索を実行することができます。

社員番号	社員名	フリガナ	マネージャ番号	給与	部門番号	生年月日	入社日	左様会社	部署名	自宅郵便番号	自宅郵便町名
1	107 藤城 孝成	カシラギ コウシ	3	230000	50	1981-09-01	1981-02-03	東京本社	システム部	1530064	東京都
2	109 秋山 秀樹	アキヤマ ヒデキ	5	275000	50	1981-03-28	1988-07-12	東京本社	システム部	1530081	東京都
3	110 丸橋 典江	フカウ 典江	6	280000	10	1990-02-02	1988-02-02	東京本社	総務部	1520021	東京都

3.15.10 登録したフォームを使用する

登録したフォームを検索結果の出力に使用する手順を説明します。

[フォーム編集] 画面が表示されている場合は、ホームボタンを  選択してメイン画面に戻ります。

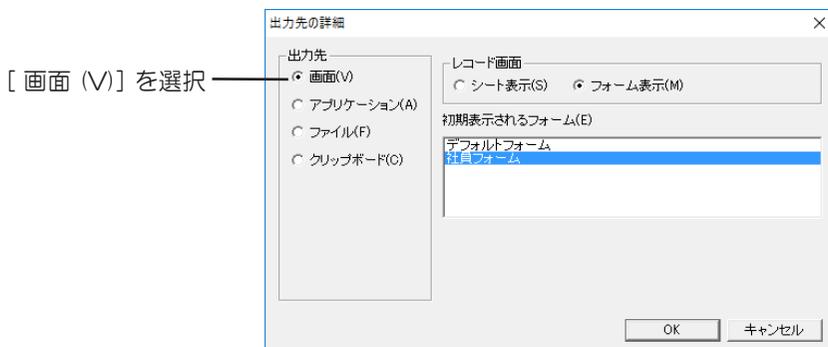
- 1 コマンドが選択されているかどうかを確認します
ステータスバーの [コマンド名表示] フィールドに、これから検索を行うコマンドが表示されていれば OK です。選択されていない場合は、[コマンド一覧] コンボボックスからコマンドを選択します。

ヘルプを表示するには F1 を押してください。 検索 社員フォーム 社員フォーム

2 出力先ボタン  をクリックして [出力先の詳細] ダイアログで設定します

(☞ 3.9 検索レコードの出力先)

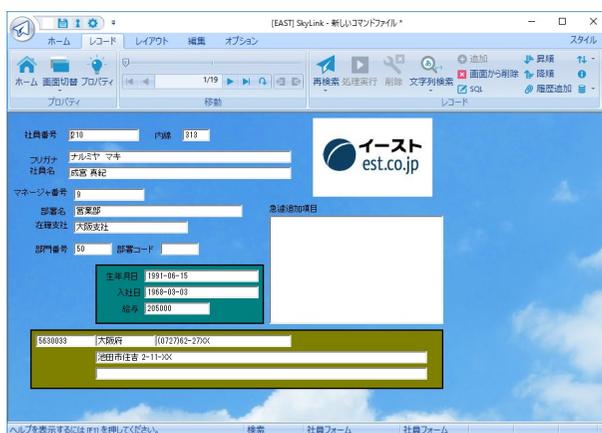
[フォーム表示(M)] オプションボタンをクリックして選択します。
[初期表示されるフォーム (E)] のリストには、デフォルトフォームとユーザーが登録したフォーム名が表示されているので、検索結果を最初に表示したいフォームを選択します。



3 検索ボタン  を選択します

4 レコード画面が表示されます

手順 2 で選択したフォームに、検索結果が表示されます (☞ 3.8 レコード画面)。



5 他のフォームまたはシートに表示を切り替えてみます

画面切り替えボタン  の下 ▼ をクリックすると、切り替えられるシートとフォームのリストが表示されるので、切り替えたいフォームまたはシートを選択します。

📖 参考

手順2を行わない場合、目的のフォームが最初にレコード画面に表示されないことがあります。手順5のようにしてフォーム名を選択すれば、目的のフォームを表示することができます。

3.16

Excelフォーム編集

検索結果を Excel に出力する際、各種の設定を Excel に与えることができます。

3.16.1 Excelフォームとは

検索結果を Excel に出力した後、Excel 上で項目の書式設定や集計などの作業を行い、出力されたデータを加工する場合や、効果的なレイアウトに整形して印刷しようとする場合があります。このような場合は、SkyLink の「Excel フォーム」を使用すると、出力のたびにユーザーに代わってこれらの作業が実行できるので大変便利です。

検索結果を Excel に出力する際、Excel フォームを使用した場合と、Excel フォームを使用しない場合の違いは、下の表のとおりです。

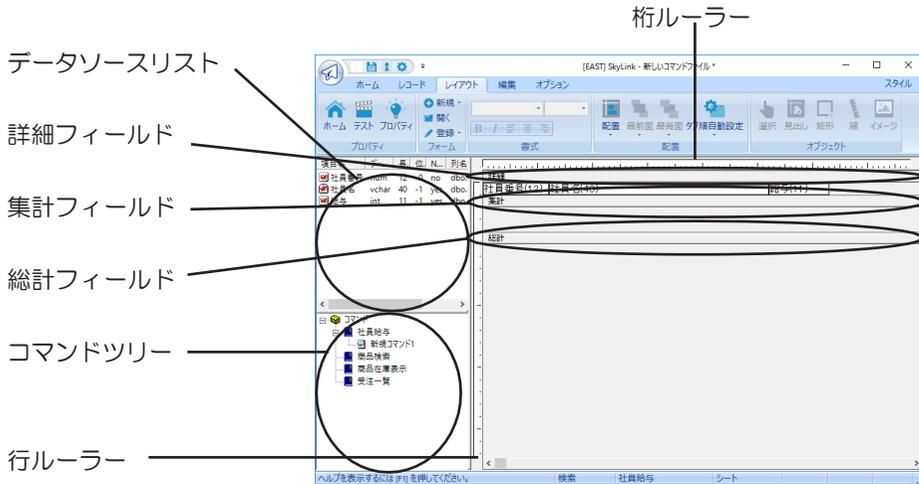
	Excel フォームを使用した出力	使用しない場合の出力
出力対象	指定のブック、シート、セル位置に出力	新規シートの 1 行 1 列目のセルから出力
書式	ブック、セルの書式設定が行える	Excel のデフォルトの書式となる
集計	集計を出力と同時に実行できる	出力後に Excel 上で集計設定を要する
レコード	1 レコードを 2 行以上にわたって表示できる	1 レコードを 1 行に表示する
項目の配置	コマンドの項目の表示順序や配置を変更できる	コマンドの項目の順序で連続して表示する
印刷	出力後のシートの印刷までサポート可能	表示までで印刷は行わない
ラベル	レコードを横方向に繰り返し出力可能	1 レコードを 1 行に表示する

ユーザーは Excel フォーム編集画面を使用して、コマンドごとに Excel フォームを登録することができます。Excel フォームは、項目の書式やレイアウト、Excel に対するアクションを記憶することができます。

3.16.2 Excelフォーム編集画面

Excel フォーム編集画面は、[コマンド] パネルの[Excel フォーム編集] ボタン  を選択すると表示されます。

Excel フォームの作成方法については後述しますので、まず各ウィンドウについて解説します。



コマンドツリー

メイン画面で使用中のコマンドファイルに登録されているコマンドと、それぞれのコマンドごとに登録されているExcel フォームを確認することができるウィンドウです。コマンドツリーからコマンド名やフォーム名をデザインウィンドウにドラッグ・ドロップすることで、Excel フォームの新規作成や編集を開始することができます。

データソースリスト

デザインウィンドウで Excel フォームを編集中の場合に表示することができます。編集中の Excel フォームが属しているコマンドの項目のリストを表示します。リストから項目をデザインウィンドウにドラッグ・ドロップして、Excel フォーム上に配置することができます。

デザインウィンドウ

Excel フォームの編集中は、3 つのフィールドが表示されます。フィールドに付いているバーをドラッグすると、フィールドの高さ(行)を変更できます。

詳細フィールド

詳細フィールドでは 1 レコードに表示する項目をレイアウトし、書式設定を行うことができます。すべてのレコード項目を設定できるように、このフィールドに 1 つのレコードを展開しています。

集計フィールド

詳細フィールドで項目に対して集計の指定を行うと、指定された項目の集計項目が、このフィールドに追加されます。集

計フィールドでは集計項目のレイアウトを変更することができます。

総計フィールド

他のフィールドで項目に対して総計の指定を行うと、指定された項目の総計項目がこのフィールドに追加されます。総計項目のレイアウトは集計フィールドと同じレイアウトになります。

桁ルラー

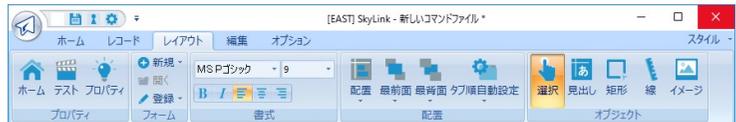
文字桁位置を示します。

行ルラー

出力する行位置を示します。

3.16.3 レイアウトカテゴリ（Excelフォーム編集画面）

Excel フォーム編集画面でよく使われるメニュー項目に対応するボタン類が配置されています。



[プロパティ] パネル



ホームボタン

メイン画面に戻ります。

テストボタン

編集しているフォームをテストモードで実行し、実際の動作を確認します。

プロパティボタン

選択されている項目の詳細な設定を行う、プロパティダイアログを表示します。

[フォーム] パネル



 **新規ボタン**
新規にレコードフォーム / 検索条件フォームを作成します。

 **開くボタン**
既存のフォームを編集モードで開きます。

 **登録ボタン**
編集中のフォームを、登録、または名前を付けて登録します。

[配置] パネル



選択しているオブジェクトの位置やサイズを設定します (☞
4.11 [レイアウト (L)])。

 **左揃えボタン**

 **右揃えボタン**

 **上揃えボタン**

 **下揃えボタン**

3.16.4 オブジェクトの基本操作

Excel フォーム上に配置される項目のことをオブジェクトと呼びます。Excel フォームを作成中に必要なオブジェクトの基本操作を説明します (☞ 3.16.6 Excel フォームを作成する (レイアウト編))。オブジェクトをクリックして選択すると、ツールバーのボタンやメニューの操作対象オブジェクトとなります。

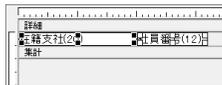
オブジェクトの追加

Excel フォームに自動的にオブジェクトを追加する方法もあります (☞ 3.16.6 Excel フォームを作成する (レイアウト編))。データソースリストから項目をドラッグし、デザインウィンドウの詳細フィールドにドロップすると、項目を追加することができます。

項目名	デー...	長	位	N...	列
社員番号	num	12	0	no	d
フリガナ	vchar	80	-1	yes	d
社員名	vchar	40	-1	yes	d
在籍支社	vchar	20	-1	yes	d
部署名	vchar	30	-1	yes	d
給与	int	11	-1	yes	d
入社日	vchar	20	-1	yes	d
生年月日	vchar	20	-1	yes	d
自宅郵便番号	vchar	10	-1	yes	d

オブジェクトの選択

オブジェクトをクリックするとハンドル■が表示され、選択状態となります。



選択したオブジェクト以外をクリックすると選択が解除されます。Ctrl キーまたはShift キーを押しながら複数の項目をクリックして、複数選択を行うことができます。

Shift キーを押しながらもう一度クリックすると選択が解除されます。

オブジェクトの移動

オブジェクトを選択してドラッグすると、移動できます。

オブジェクトのサイズ変更

オブジェクトを選択してハンドル■をドラッグすると、サイズが変わります。ドラッグ中はマウスポインタの近くに(桁数, 行数)が表示されます。

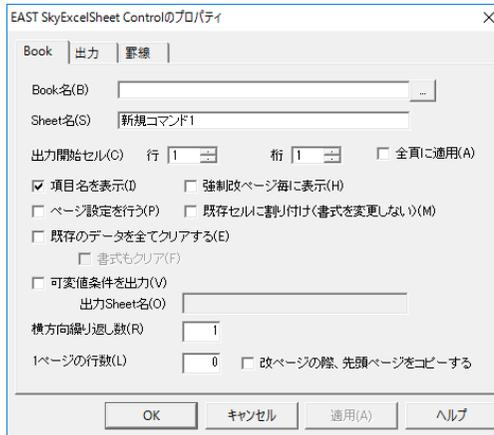
3.16.5 Excelフォームとオブジェクトのプロパティ

Excel フォームおよび選択しているオブジェクトに対して、各種の設定を行うことができます。

Excel フォームのプロパティ

Excel フォームを右クリックすると表示されるメニューから [プロパティ (I)] を選択するか、[プロパティ] パネル [プロパティ]  を選択すると、[SkyExcelSheet Control のプロパティ] ダイアログが表示されます。

[Book] タブ



[Book 名 (B)] ボックス

検索結果を出力する Excel のブック名（ファイル名）を指定します。[...] ボタンをクリックするとファイルを参照できます。必要に応じてブック名を指定せずに空欄にします（☞

3.16.10 ブック名・シート名と Excel 出力の関係）。

ファイル名に [!] で囲んだ予約文字の指定を行うことでシステム日付等の情報を付けることができます。

例えば、OutputFileName-[!%Y%m%d] を指定することで出力ファイル名は実行時の日付を使用して

「OutputFileName-20190531」というようになります。

予約文字の種類は、「検索条件の設定」で使用できるものと同じです。（☞3.7.2 検索条件の設定）

[Sheet 名 (S)] ボックス

検索結果を出力する Excel のシート名を指定します。シート名を指定しない場合、新規シート「Sheet*」がブックに追加され、出力されます。デフォルトでは、コマンド名が表示されません。

シート名を指定した場合は、シートの追加となる為、既存シートへの割り付け出力は出来ません。

シート名に [!] で囲んだ予約文字の指定を行うことでシステム日付等の情報を付けることができます。

例えば、SheetName-[!%Y%m%d] を指定することで出力ファイル名は実行時の日付を使用して「SheetName-20190531」というようになります。

予約文字の種類は、「検索条件の設定」で使用できるものと同じです。（☞3.7.2 検索条件の設定）

[出力開始セル (C)] ボックス

出力データ書き出し位置のセルの行番号を左のボックスに、列番号を右のボックスに指定します。

[全頁に適用 (A)] チェックボックス

出力開始セルの行列番号を、すべてのページに対して適用します。ただし、[出力] タブの [n件単位に改ページを挿入] にチェックが付いている場合のみ設定が有効となります。

[項目名を表示 (I)] チェックボックス

チェックをつけると、項目名をタイトルとして先頭行に出力します。

[強制改ページ毎に表示 (H)] チェックボックス

チェックをつけると、各ページの先頭に項目名タイトルを付けて出力します。[項目名を表示 (I)] チェックボックスと[出力] タブの [n 件単位に改ページを挿入 (B)] チェックボックスの両方にチェックをつけた場合に使用可能となります。

[ページ設定を行う (P)] チェックボックス

チェックをつけると、出力の際、Excel に対してページ書式の設定をいつも行います。チェックをつけない場合の方が、速く出力できます。

[既存セルに割り付け（書式を変更しない）(M)] チェックボックス

Excel に出力する際に、Excel フォームで指定されている幅を指定しません。Excel の列表示位置に対応して出力されます。書式が設定された既存の Excel ファイルをご利用の場合等に指定してください。

[既存のデータをすべてクリアする (E)] チェックボックス

チェックをつけると、指定したブック・シート・セル内の既存データをすべて削除してから出力を行います。

[書式もクリア (F)] チェックボックス

チェックをつけると、指定したブック・シート・セル内の書式データをすべて削除してから出力を行います。[既存のデータをすべてクリアする (E)] チェックボックスにチェックをつけた場合に使用可能となります。

[可変値条件を出力 (V)] チェックボックス

検索実行をした際の、可変値条件をシートに出力します。出力シート名が空白の場合は、データを出力するシートの先頭 A1 のセルから出力されますので、適宜、出力開始セルを調整してください。出力シート名が指定されている場合は、該当のシートの A1 セルから出力されます。

[出力 Sheet 名 (C)] ボックス

可変条件を出力するシート名を指定します。

[横方向繰り返し数 (R)] ボックス

データを横方向へ繰り返し出力します。これによりタックシールなどへの出力へも対応します。

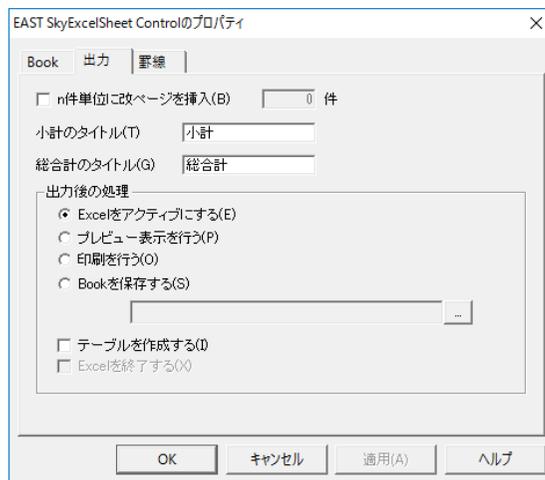
[1 ページの行数 (L)] ボックス

0の場合は、強制改ページが挿入されます。0以外の場合は、行数の単位で行送りされます。

[改ページの際、先頭ページをコピーする] チェックボックス

テンプレートを使った出力時にヘッダー部分を [1 ページの行数 (L)] で指定された行数分行送りした後にコピーして出力します。

[出力] タブ



[n 件単位に改ページを挿入 (B)] チェックボックス

チェックをつけると、指定されたレコード件数ごとにページを区切って出力します。

[小計のタイトル (T)] ボックス

集計項目のある場合、出力時に小計の値につけるタイトルを指定します。

[総合計のタイトル (G)] ボックス

総計項目のある場合、出力時に総合計の値につけるタイトルを指定します。

[Excel をアクティブにする (E)] オプションボタン

オプションボタンを選択すると、Excel に出力後に出力したシートを表示します。

[プレビュー表示を行う (P)] オプションボタン

オプションボタンを選択すると、Excel に出力後に出力したシートのプレビュー画面を表示します。

[印刷を行う (O)] オプションボタン

オプションボタンを選択すると、Excel に出力後に出力したシートを印刷します。

[Book を保存する (S)] オプションボタン

オプションボタンを選択すると、Excel に出力後に出力したシートを保存します。

ブック名ボックス

[Book] タブ内のブック名ボックスに入力されたファイルをテンプレートファイルとすることで、ここに入力した別名ファイルとしてファイルを出力することができます。

ファイル名に [!] で囲んだ予約文字の指定を行うことでシステム日付等の情報を付けることができます。

例えば、OutputFileName-[!%Y%m%d] を指定することで出力ファイル名は実行時の日付を使用して

「OutputFileName-20190531」というようになります。

予約文字の種類は、「検索条件の設定」で使用できるものと同じです。(☞3.7.2 検索条件の設定)

書式を設定したテンプレートファイルと予約文字を使用することで出力毎に定型化されたファイルを保存することができます。指定しない場合は、[Book] タブで指定されているファイル名で上書きされます。

[テーブルを作成する (I)] オプションボタン

オプションボタンを選択すると、Excel に出力後に出力データを元に Excel のテーブルを作成します。

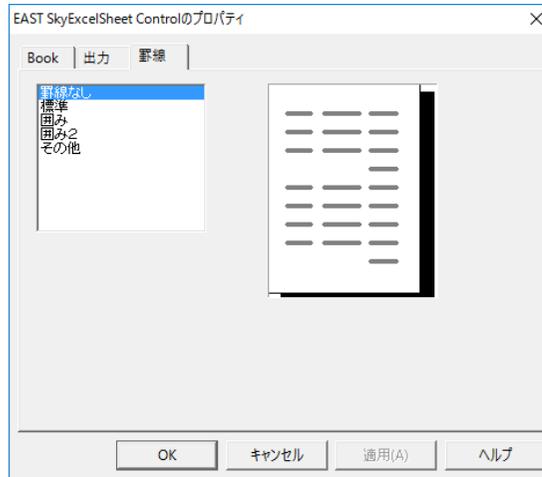
[Excel を終了する (X)] チェックボックス

チェックをつけると、Excel に出力後に Excel を終了します。

[Book を保存する (S)] オプションボタンを選択した場合に使用可能となります。

[罫線] タブ

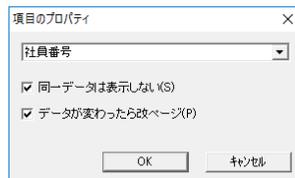
[罫線のスタイル] リスト



リストから、出力シートに設定する罫線のスタイルを選択します。スタイルを選択すると、右のフィールドにサンプルが表示されます。

項目のプロパティ

詳細フィールドの項目を右クリックすると表示されるメニューから [項目のプロパティ (I)] を選択すると、[項目のプロパティ] ダイアログが表示されます。右クリックした項目が、設定の対象項目となります。複数の項目を選択して同時にプロパティを設定することはできません。



[同一データは表示しない (S)] チェックボックス

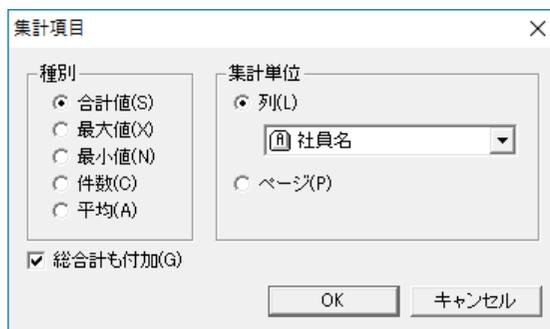
チェックをつけると、項目データが同一である間はシートに表示しません。検索結果を先頭のレコードから順に出力していく過程で、これから出力しようとするレコードの対象項目のデータが引き続き同一である限り表示されず、異なるデータがめぐってきたときに表示を再開します (☞ 3.16.6 Excel フォームを作成する (レイアウト編))。

[データが変わったら改ページ (P)] チェックボックス

チェックをつけると、項目データが変わるたびにページを改めます (☞ 3.16.6 Excel フォームを作成する (レイアウト編))。検索結果を先頭のレコードから順に出力していく過程で、対象項目のデータに着目して処理が行われます。

集計項目ダイアログ

集計フィールドの項目を右クリックして表示されるメニューから [項目のプロパティ (I)] を選択すると、[集計項目] ダイアログが表示されます。右クリックした項目が設定の対象項目となります。複数の項目を選択して同時にプロパティを設定することはできません。



[合計値 (S)] オプションボタン・[最大値 (X)] オプションボタン・[最小値 (N)] オプションボタン・[件数 (C)] オプションボタン・[平均 (A)] オプションボタン

いずれかのオプションボタンを選択して、対象項目のデータに対して行う集計の種類を設定します。

[列 (L)] オプションボタン

オプションボタンを選択後、▼をクリックして表示されるコマンドの項目の一覧から、集計単位となる項目を選択することができます。

集計はレコードの集合ごとに行われますが、特定の項目の値に従ってレコードの集合を作る場合、その項目を「集計単位」として指定します。検索結果を先頭のレコードから順に出力していく過程で、指定された項目のデータが変わるたびにレコードの集合が生成されます。

[ページ (P)] オプションボタン

オプションボタンを選択すると、ページごとに集計を行うことができます。

[総合計も付加 (G)] チェックボックス

チェックをつけると、出力の最後にすべてのレコードに対する集計結果を追加することができます。

Excel のページ設定

Excel のページの書式設定を Excel フォーム編集画面で前もって行うことができます。

Excel フォーム上を右クリックして表示されるメニューから [ページ設定 (F)] を選択して設定を行います。このメニューが使用できない場合は、画面を右クリックして表示されるメニュー [プロパティ (I)] を選択して [SkyExcelSheet Control プロパティ] ダイアログで [ページ設定を行う (P)] チェックボックスにチェックをつけてから再度 [ページ設定 (F)] を選択してください。

お使いの Excel のバージョンによって表示されるダイアログの項目は多少異なります。詳細は Excel のマニュアルやヘルプをご覧ください。

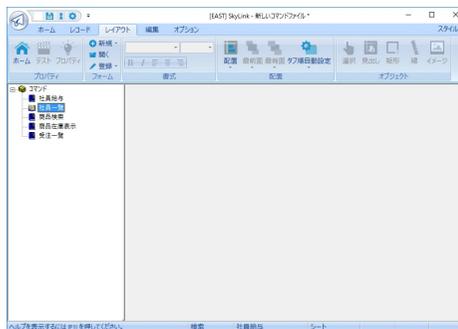
参考

[ページ設定 (F)] を選択すると、Excel が起動していない場合は、Excel が起動され、[ページ設定] ダイアログが表示されます。ユーザーが「XLStart」フォルダ内に起動時に自動実行するためのマクロを保存している場合でも、それらのマクロは起動されません。

3.16.6 Excelフォームを作成する（レイアウト偏）

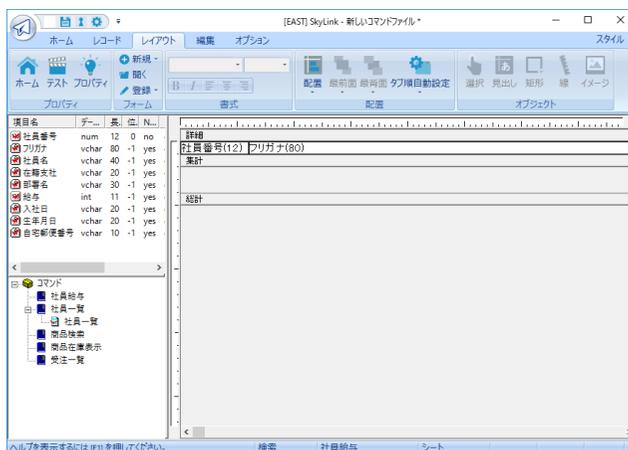
Excel フォームを作成し、項目のレイアウトと書式設定を行う手順を説明します。フォームを編集する際に Excel が起動していない場合は、書式設定に関する情報を Excel から取得するため、Excel が起動されます。

1 コマンド名をドラッグしてデザインウィンドウにドロップ



2 項目のオブジェクトが配置され、Excel フォームが作成されます

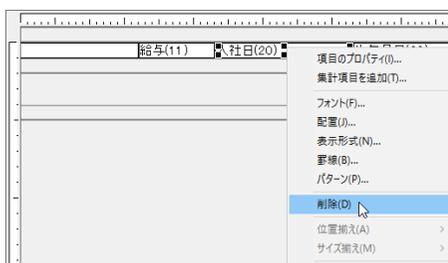
データソースリストが
上に表示されます



作成されたフォームは、Excel フォームを使用しないで出力する場合と同様にレイアウトされます。

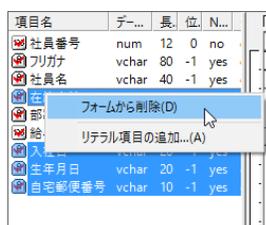
オブジェクトのサイズはコマンドの項目の列長によって決まります (サイズ変更も可)。

コマンドの項目すべてが配置されますが、不要な項目は削除します。



削除する項目を詳細フィールドから選択して Delete キーを押すか、項目を右クリックして表示されるメニューから [削除 (D)] を選択

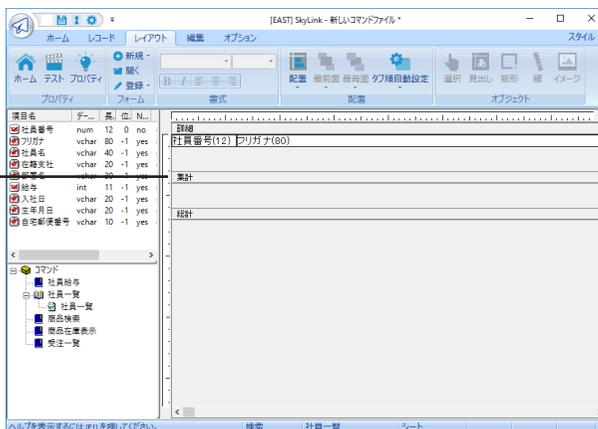
または、データソースリストで項目を右クリックして表示されるメニュー [フォームから削除(D)] を選択しても同様です。



3 1 レコードを 3 行にわたって表示してみます

集計フィールドのバーをドラッグして、詳細フィールドを 3 行分に広げます。

行ルーラーをチ
ェック



オブジェクトを移動します (オブジェクト間のスペースは Excel シートでは空白セルとなります)。

詳細			
社員番号(12)	フリガナ(20)	社員名(40)	
在籍支社(20)	自宅電話番号(24)		
集計			

2 行に表示するようにサイズ変更

番号(12)	フリガナ(20)	自宅郵便番号(20)	自宅住所1(30)
	社員名(20)	自宅都道府県(20)	
支社(20)	自宅電話番号(24)		

ずれたら位置を合わせる項目を選択して左揃えボタン  をクリック

番号(12)	フリガナ(20)	自宅郵便番号(20)	自宅住所1(30)
	社員名(20)	自宅都道府県(20)	
支社(20)	自宅電話番号(24)	自宅住所2(30)	

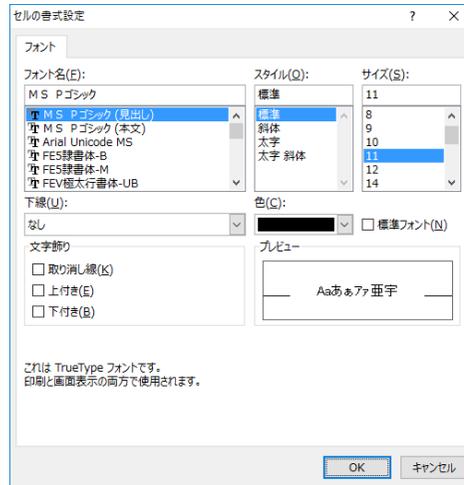
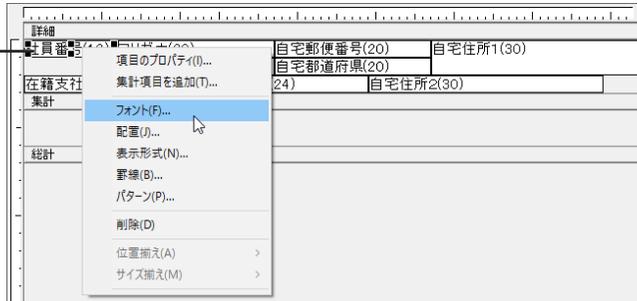
自宅住所 1 を基準に左揃えされました

番号(12)	フリガナ(20)	自宅郵便番号(20)	自宅住所1(30)
	社員名(20)	自宅都道府県(20)	
支社(20)	自宅電話番号(24)	自宅住所2(30)	

4 フォントを変更してみます

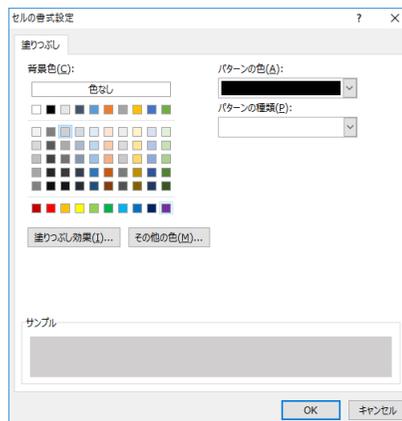
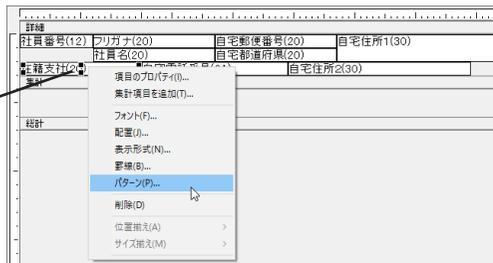
フォントを変更する
項目を選択

選択した項目を右クリック
して表示されるメニュー
から[フォント(F)]を選択



5 項目の背景に色をつけます

ここを右クリックして
[パターン (P)] を選択



6 出力する Excel ブック名、シート名、ページについて指定します

(☞ 3.16.9 ブック名・シート名と Excel 出力の関係)
ポップアップメニューから[プロパティ (I)] を選択します。

ブック名・シート名を指定する

Book名(B) C:\Users\Demo#Documents#社員名簿.xlsx ...

Sheet名(S) 社員一覧

出力開始セル(C) 行 1 桁 1 全頁に適用(A)

項目名を表示(D) 強制改ページ毎に表示(H)

ページ設定を行う(P) 既存セルに覆り字は(書式を変更しない)(M)

既存のデータを全てクリアする(E)

書式もクリア(F)

可変値条件を出力(V)

出力Sheet名(O)

横方向繰り返し数(R) 1

1ページの行数(L) 0 改ページの際、先頭ページをコピーする

OK キャンセル 適用(A) ヘルプ

ここをクリック

[出力] タブをクリック

n件単位に改ページを挿入(B) 10 件

小計のタイトル(T) 小計

総合計のタイトル(G) 総合計

出力後の処理

Excelをアクティブにする(E)

プレビュー表示を行う(P)

印刷を行う(O)

Bookを保存する(S)

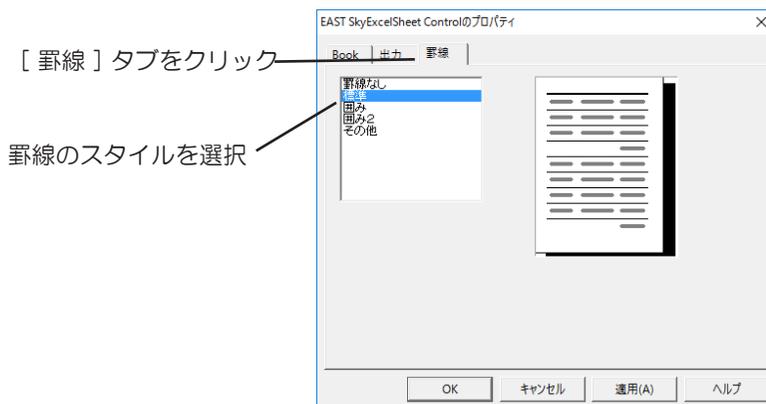
テーブルを作成する(D)

Excelを終了する(O)

OK キャンセル 適用(A) ヘルプ

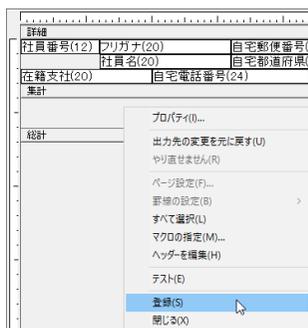
件数を指定

7 Excel フォーム全体に罫線を指定します



8 作成した Excel フォームの登録

フォームを右クリックして
表示されるメニューから
[登録 (S)] を選択



コマンドファイルに書きこむ場合は、保存ボタン  をクリックします。

Excel フォーム出カテスト

テストボタン  をクリックすると、編集集中の Excel フォームを使用して、実際に検索処理が行われるので、レイアウトや書式などを Excel 画面で確認することができます。

社員番号	フリガナ	社員名	自宅郵便番号	自宅郵便所	自宅住所
210	ナルメヤ マチ		5830033		
	成者 真紀	大原府			池田市住吉 2-11-XX
308	アヲハシ マチダ				
	高橋 良男	福岡県	8111311		福岡市南区鏡手 3-4-XX
304	ヤマト マチハル		8160089		福岡市博多区板付 7-6-XX
	山本 雅治	福岡県			
208	ヒコシ アサヒ		5850875		秋田市青山台 1-X
	平野 彩子	大原府			
306	アオキ トシユキ		8112205		和歌都志免町大字別府 844-XX
	青木 俊之	福岡県			
306	ウチノ ヲツキ		8120000		福岡市博多区大字金隈 911-XX
	内野 義昭	福岡県			

手順6で [Book] タブの [強制改ページ毎に表示(H)] チェックボックスと、[出力] タブの [n 件単位に改ページを挿入 (B)] チェックボックスにチェックをつけたので、Excel の印刷プレビューボタンまたは [ファイル (F)] - [印刷プレビュー (V)] を選択すると、次のように表示されます。

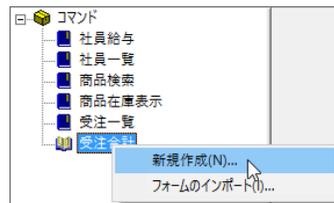


3.16.7 Excelフォームを作成する（集計偏）

Excel フォームを作成し、集計の設定を行う手順を説明します。例として、表「売上票」の項目「売上」と「単価 * 数量」を出力するように、設定ウィンドウを次のように設定します。

	1	2	3	4	5	6
項目名	社員名	受注コード	商品名	単価	数量	売上
列名	社員名	受注コード	商品名	単価	数量	単価
設定	昇	昇	昇	AND	AND	*dbo.受注明細.数量
条件1						

1 コマンド名を右クリックして [新規作成 (N)] を選択



このチェックを外して
[OK] ボタンをクリック

[フォーム名 (N)] ボックス

新規作成するフォームの名前を付けます。

[雛型を作成する (T)] チェックボックス

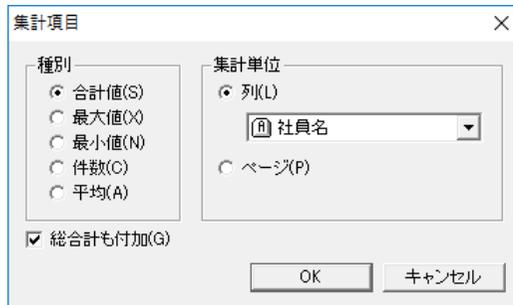
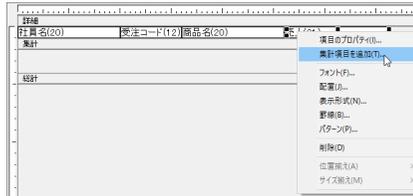
チェックボックスをクリックしてチェックをつけると、コマンドの項目すべてをデザインウィンドウに配置します。

2 データソースリストから項目をドラッグ・ドロップ



3 集計項目を追加します

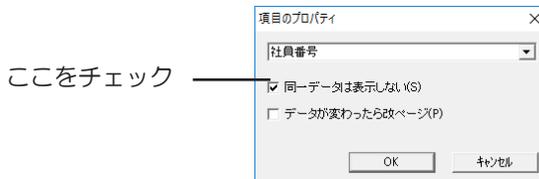
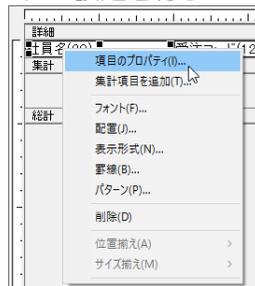
フォームを右クリックして表示されるメニューから [集計項目を追加 (T)] を選択



(☞ 3.16.5 Excel フォームとオブジェクトのプロパティ)

4 出カデータの設定を行う

選択した項目を右クリックして表示されるメニューから [項目のプロパティ (I)] を選択



5 フォーム名を変更してみます

ここをクリックして
フォーム名を入力後
Enter キーで確定



6 出力する Excel ブック名、シート名を指定します

(☞ 3.16.6 Excel フォームを作成する (レイアウト編) 手順6)

7 Excel フォーム全体に罫線を指定します

(☞ 3.16.6 Excel フォームを作成する (レイアウト編) 手順7)

8 作成したフォームの登録

(☞ 3.16.6 Excel フォームを作成する (レイアウト編) 手順8)

テスト

テストボタン  をクリックします。

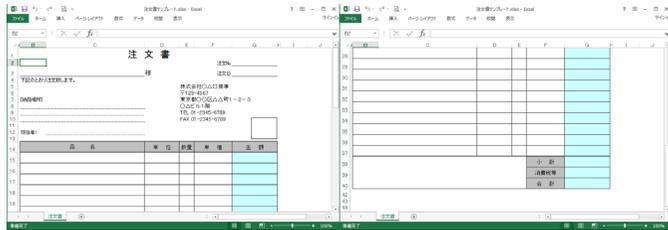
ここが小計

322		3037 ころもはんぺん	4800	
323		3039 食卓わかめ	10000	
324	小計		342800	
325				
326	内野 義昭	1002 やきどろふ	3600	
327		1044 魚肉ソーセージ	10500	
328		1076 特選さきえ	15000	
329		2020 特選さきえ	15000	
330		2102 橋上ハム	5000	
331		3064 特選にぼし	15000	
332	小計		64100	
333				
334	平野 彩子	1015 ボトルウイスキー	45000	
335		1059 ボトルウイスキー	45000	
336		1112 ボトルウイスキー	45000	
337		2017 林檎果汁	3000	
338		2061 ボトルウイスキー	45000	
339		2073 林檎果汁	5000	
340		2101 ボトルウイスキー	15000	
341		3003 食卓わかめ	5000	
342		3017 ふりかけ 鞋風味	13000	
343	小計		221000	
344				
345	総合計		5361300	
346				

ここが総合計

[同一データは表示しない (S)] のチェックをとるとこうなります

322	東海 益	3037 ころもはんぺん	4800	
323	東海 益	3039 食卓わかめ	10000	
324	小計		342800	
325				
326	内野 義昭	1002 やきどろふ	3600	
327	内野 義昭	1044 魚肉ソーセージ	10500	
328	内野 義昭	1076 特選さきえ	15000	
329	内野 義昭	2020 特選さきえ	15000	
330	内野 義昭	2102 橋上ハム	5000	
331	内野 義昭	3064 特選にぼし	15000	
332	小計		64100	
333				
334	平野 彩子	1015 ボトルウイスキー	45000	
335	平野 彩子	1059 ボトルウイスキー	45000	
336	平野 彩子	1112 ボトルウイスキー	45000	
337	平野 彩子	2017 林檎果汁	3000	
338	平野 彩子	2061 ボトルウイスキー	45000	
339	平野 彩子	2073 林檎果汁	5000	
340	平野 彩子	2101 ボトルウイスキー	15000	
341	平野 彩子	3003 食卓わかめ	5000	
342	平野 彩子	3017 ふりかけ 鞋風味	13000	
343	小計		221000	
344				
345	総合計		5361300	
346				

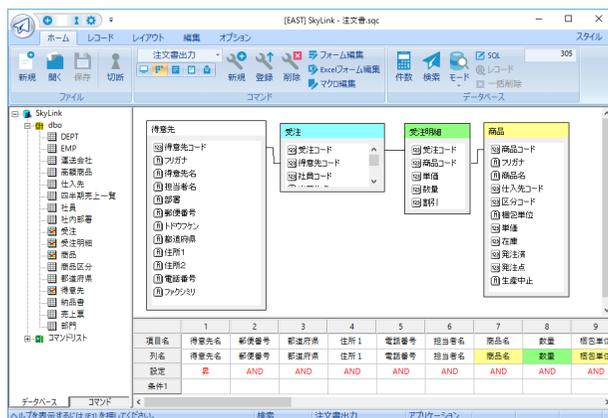


テンプレートに出力する際の Excel の列とカラムを確認しておきます。

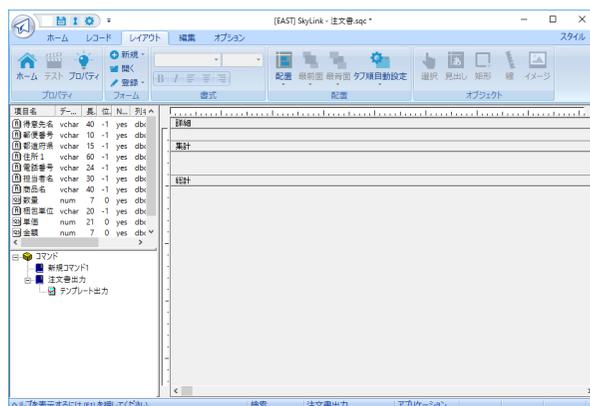
例の場合は、得意先名を2行目B列、郵便番号を8行目B列、住所を9行目B列、電話番号を、10行目B列、担当者名を12行目C列に指定して、注文の明細を15行目のB列から開始しています。

1ページに必要な行数を確認しておきます（改ページまでの行数、例では43行です）

2 SkyLink で出力に必要な項目を設定します。得意先は昇順に指定します

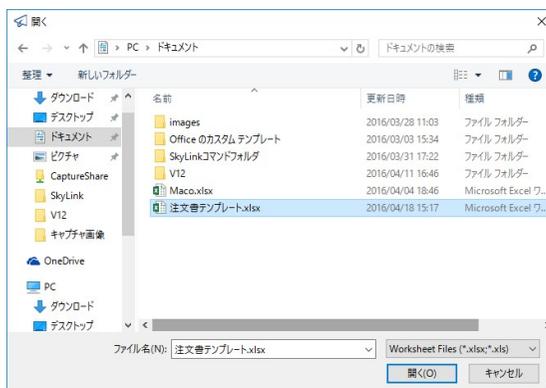


3 Excel フォーム編集モードに切り替えます



4 シートのプロパティを表示してテンプレートへの出力に必要な設定を行います

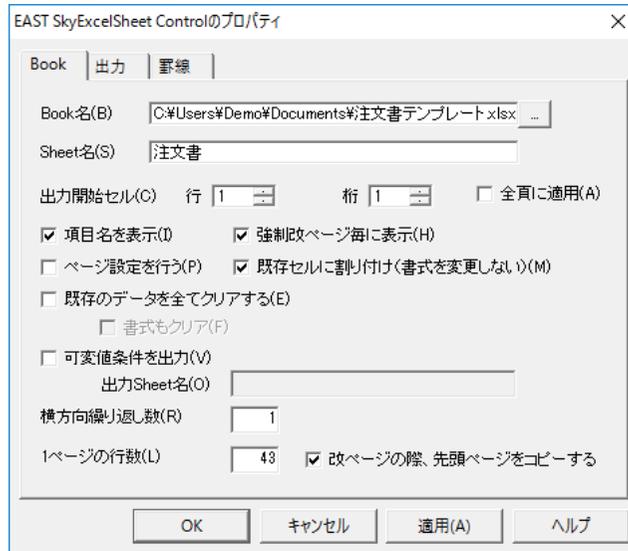
[Book] タブの [Book 名] にテンプレートとなる Excel ファイルを指定します。[Sheet 名] ボックスの入力もテンプレートに合わせます。



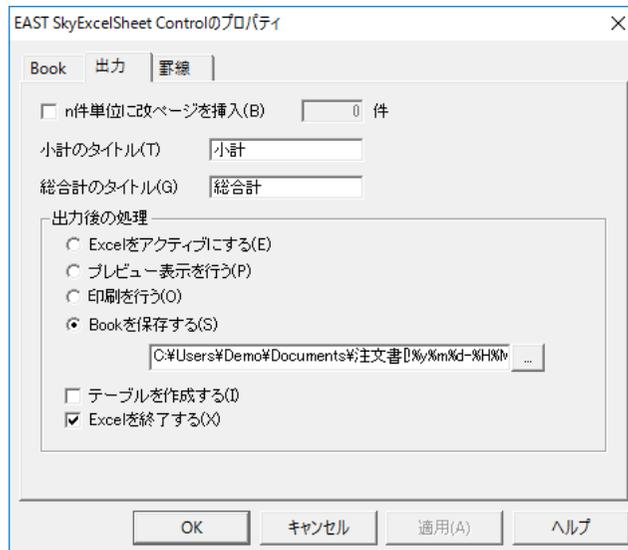
ヘッダーを出力する為に [項目名を表示] チェックボックスにチェックを付け、[強制改ページ毎に表示] のチェックボックスもチェックを付けます。

Excel の列行の形式にする為に [セル幅の変更を行わない] チェックボックスをチェックします。

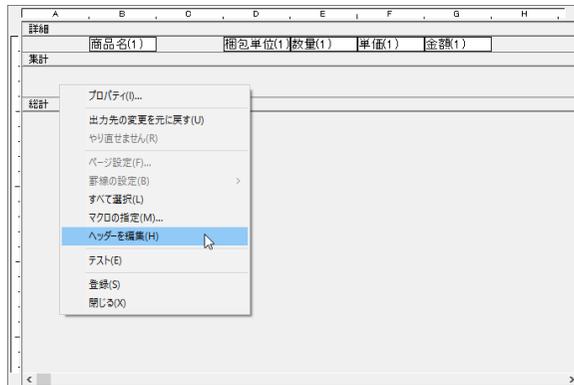
[1ページの行数 (L)] を指定して、[改ページの際、先頭ページをコピーする] チェックボックスにチェックをします。



[出力]タブの[出力後の処理]グループの中から[Bookを保存する]を選択して、別名として保存する為にファイル名ボックスにファイル名を入力します。出力に予約文字として日時を指定することで出力毎に異なるファイルとして保存することが出来ます。



5 [ヘッダーを編集(H)]を選択して編集位置を表示します

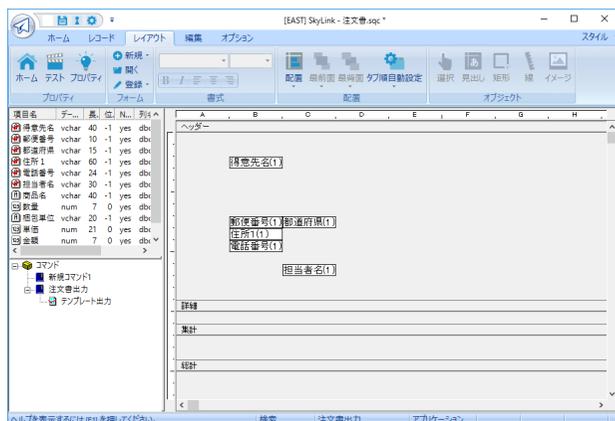


- 6 ヘッダーの行幅を広げて「得意先」の固有情報を配置できるようにして、必要な項目を配置します（例の場合は14行分広げます）

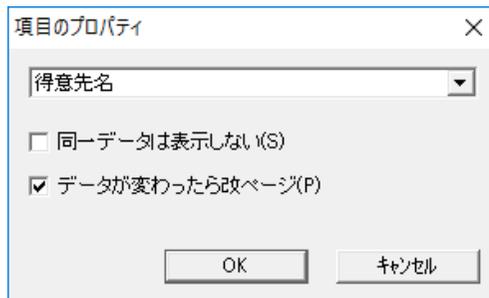
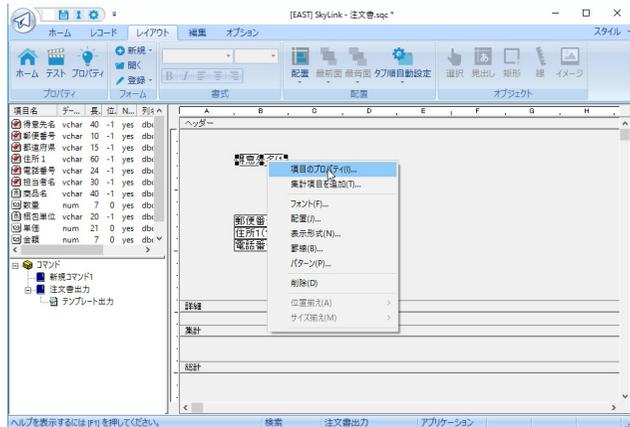
この部分がヘッダーとなる14行分



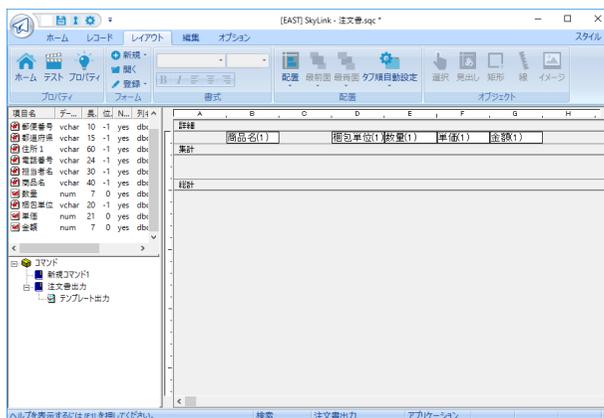
Excel の出力したいセル位置に配置します



- 7 データ出力の基準となる項目の項目プロパティを設定します。例では、[得意先名] になります。[データが変わったら改ページ] チェックボックスにチェックします



- 8 [ヘッダー編集を終了 (H)] してヘッダー領域を非表示に

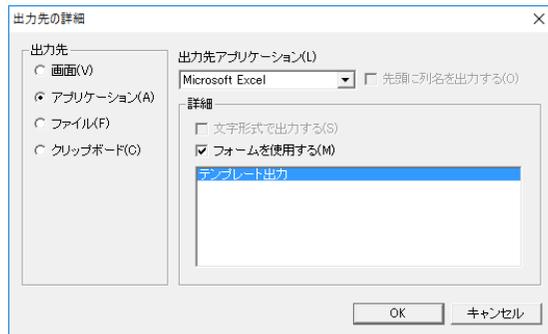


します

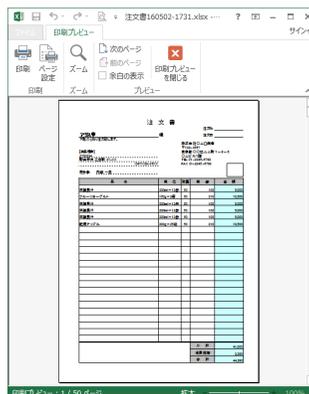
9 一覧表示項目を [詳細] 領域に配置します



- 10 編集した Excel フォームを登録して、検索結果出力先を Excel に変更します
[フォームを使用する (M)] チェックボックスをチェックして登録した Excel 編集フォームを選択します。



- 11 検索を実行するとテンプレートに設定した形式でデータ出力された Excel ファイルが出力されます



3.16.9 Excelフォームを作成する（ラベル印刷偏）

検索結果データを Excel 出力する際に [横方向繰り返し数] を指定することで定型形式のラベル用紙に印刷するタックシール印刷が行えます。A4判宛名用12面形式のラベル用紙に宛名印刷する例を示します。

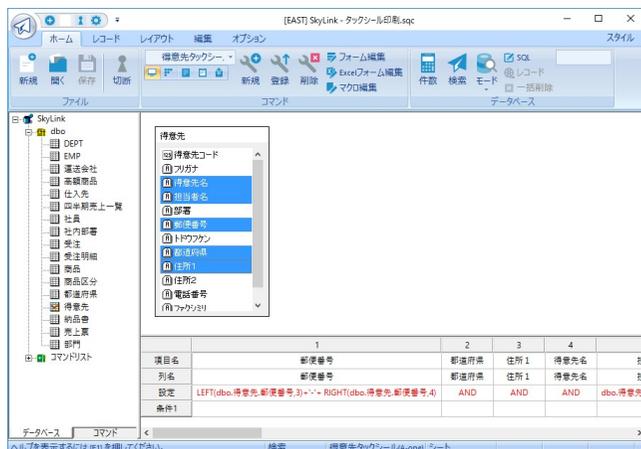
〒 580-0203 奈良県 奈良市長瀬町 2-2-20 喫茶丸いほまじん 林 千春 様	〒 560-0071 大阪府 東淀川区野田 1-21-200 小料理なんごく 河本 なみ 様
〒 510-0208 富山県 富山市朝日町 2-2-20 吉原ふじい 山久 良美 様	〒 514-0112 三重県 津市一身田中野 12-2 海鮮料理しら 和辺 義隆 様
〒 680-0208 京都府 京都市西京区山田平野町 73-2 居酒屋ななべえ 渡川 秀人 様	〒 770-0204 徳島県 板野郡板野町住吉 3-2-2000 酒時でん 小田 勝也 様
〒 460-0212 愛知県 大田区大森家 1-3-20 寿オア 池林 裕香 様	〒 370-1000 群馬県 吾妻郡草津町 462-200 温泉レストラン 池山 剛司 様
〒 381-0202 茨城県 茨城市大豆島 1798-20 大和マーカー 木山 勇 様	〒 270-0009 千葉県 習志野市深田道 2-4-200 東海道スーパー 鈴鹿 哲也 様
〒 017-0212 秋田県 大館市東海戸字館 30-200 小町オア 佐本 久明 様	〒 080-0205 北海道 札幌市中央区北条西 12-2-19-2000 北冷マート 坂田 由利 様

1 ラベル用紙を確認する

A4版サイズ： 210mm × 297mm
 一片サイズ： 86.4mm × 42.3mm
 上余白： 21.2mm
 左余白： 18.6mm

2 ラベルに印刷する項目を設定します

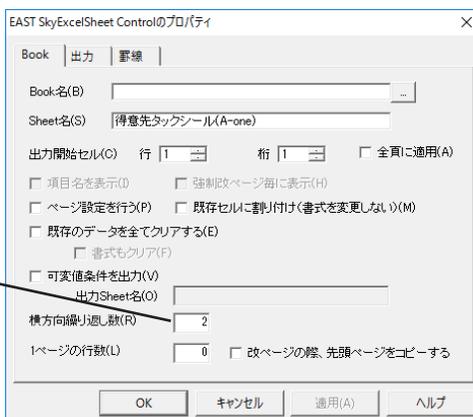
「得意先」を選択してラベルに印刷する項目を設定ウィンドウに設定します。「郵便番号」「都道府県」「住所1」「得意先名」「担当者名」を使用します。「担当者名」には '様' を付加しておくことで出力後の編集作業は必要なくなります。



3 シートのプロパティを設定します

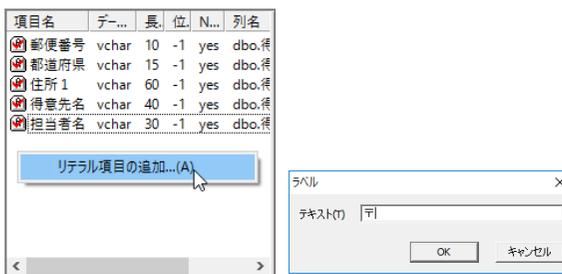
[Book] タブの [横方向繰り返し数 (R)] に「2」を指定します。

データを横に繰り返したい数を指定



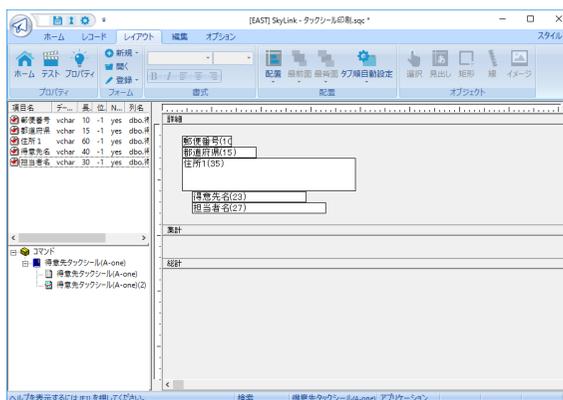
4 ラベル印刷位置に合わせて項目を配置する

項目一覧リスト内で右クリックして表示されるポップアップメニューから [リテラル項目の追加 ... (A)] を選択してラベルを作成します。[テキスト] 項目に「〒」を入力します。



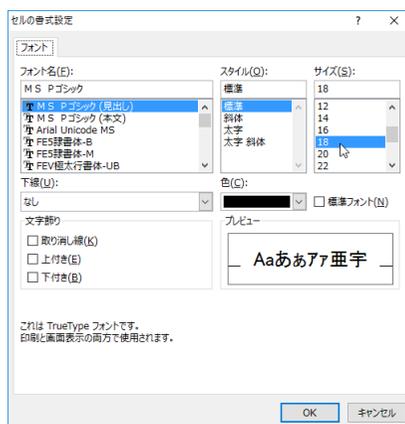
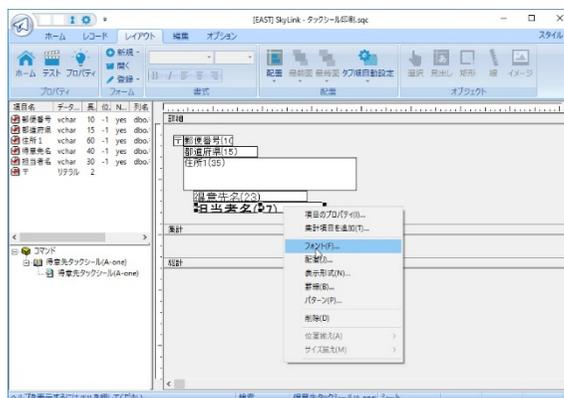
5 ラベル印刷位置に合わせて項目を配置する

項目一覧リストから項目を指定してラベル印刷時に出力される位置へ配置します。



6 項目のフォントサイズを調整します

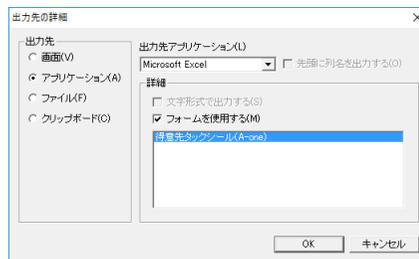
印刷時にラベル内に収まるように項目のフォントサイズを指定して調整します。



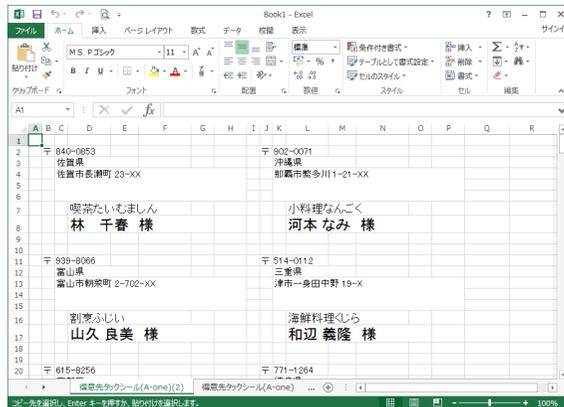
「郵便番号」「都道府県」「住所1」に使用したフォントは「MS Pゴシック サイズ 11」、「得意先名」は「MS Pゴシック サイズ 14」、「担当者名」は「MS Pゴシック サイズ 18」といように各項目のサイズを個別に指定します。

7 フォーム編集を終了して登録して出力先を変更します

Excel フォーム編集モードを終了して、検索結果の出力先を [アプリケーション(A)] に切り替えます。[出力先アプリケーション(L)] が「Microsoft Excel」になっていることを確認し、[フォームを使用する(M)] チェックボックスをチェックして、登録した Excel フォームを指定します。



8 検索実行します



参考

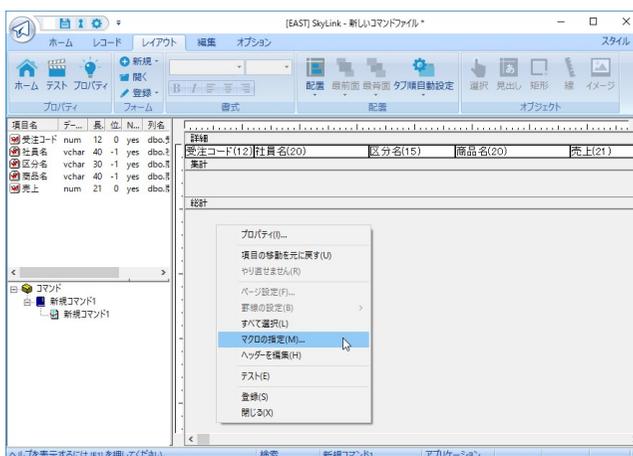
用紙の余白の大きさはプリンターの用紙設定等で調整してください。2 枚目以降の複数に跨った印刷を行う際の印刷開始位置が正しくなるように調整することも忘れないようにします。使用済のラベル用紙で途中から使用したい場合にはシートプロパティの [出力開始セル (C)] を調整します。

3.16.10 Excelフォームを作成する（マクロの指定偏）

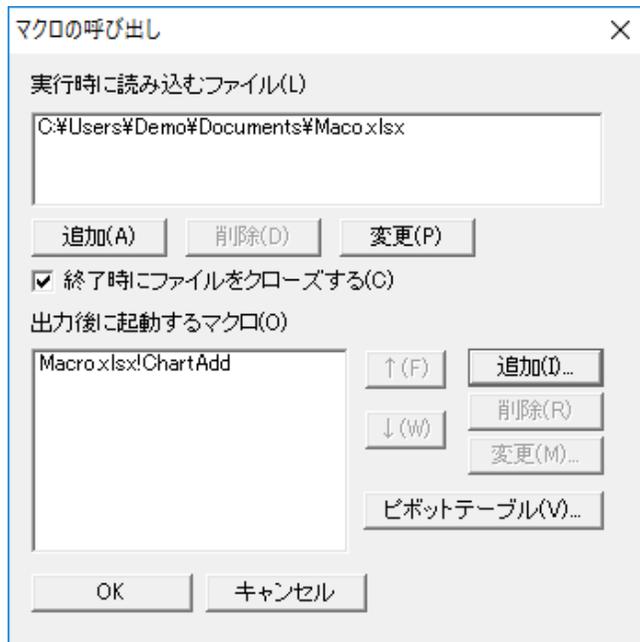
Excel で作成したマクロファイルを実行時に読み込ませ、Excelフォームに利用することができます。また、クロス集計やピボットグラフを作成する場合もこちらから行います。

1 Excel マクロの呼び出し

デザインウィンドウの背景部分を右クリックして表示されるメニューから [クロス集計/マクロ(M)] を選択します。



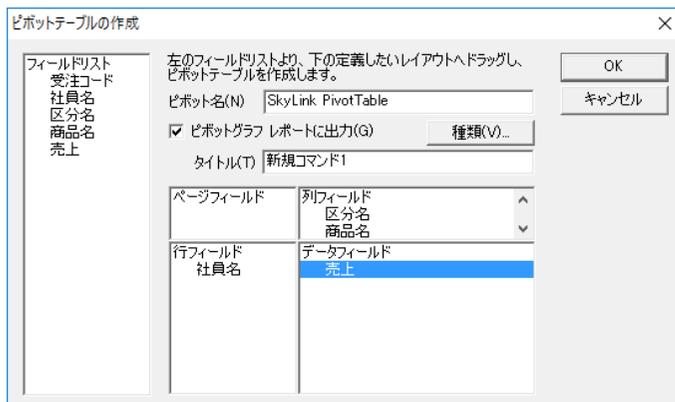
[クロス集計/マクロ] ダイアログが表示されますので、[追加 (A)] ボタンをクリックします。表示される [ファイルを開く] ダイアログで利用したいマクロファイルを指定し、次に [追加 (I)] ボタンをクリックします。表示される [マクロの変更] ダイアログで “Book 名！マクロ名” を指定すると [出力後に起動するマクロ (O)] に指定したマクロが表示されます。



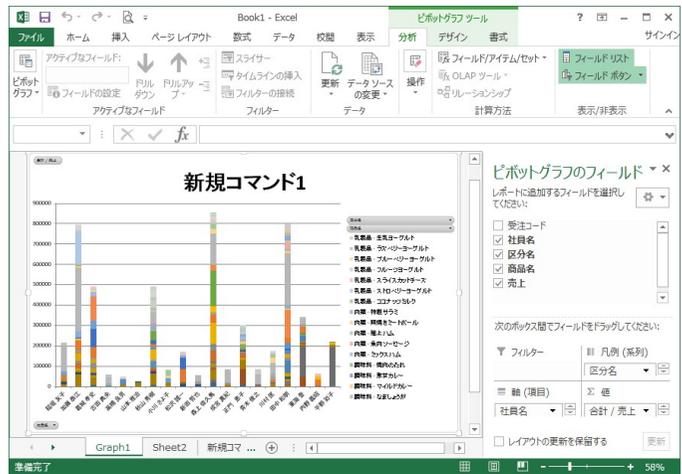
クロス集計とグラフの指定方法

クロス集計とグラフのマクロの指定は、項目を指定するだけで行うことができます。グラフのみの指定はできません。

[マクロの呼び出し] ダイアログにある [クロス集計 (V)] ボタンをクリックして表示される [クロス集計] ダイアログでページフィールド、列フィールド、行フィールド、データフィールドに表示する項目をフィールドリストからドラッグ・アンド・ドロップして設定します。



グラフ



3.16.11 登録したExcelフォームを使用する

検索実行で登録したExcel フォームに出力する手順を説明します。
[Excel フォーム編集] 画面が表示されている場合は、ホームボタン  または SkyLink ボタンから [ファイル (F)]-[ホーム (H)] を選択してメイン画面に戻ります。

1 コマンドが選択されているかを確認します

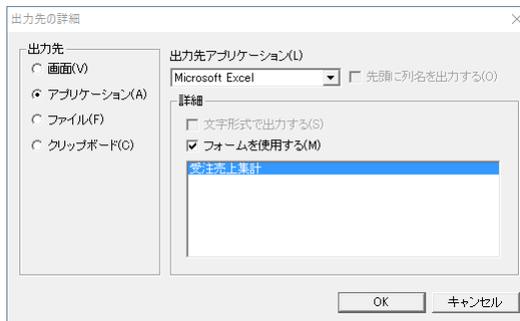
ステータスバーの [コマンド名表示] フィールドに、これから検索を行うコマンド名が表示されていれば OK です。選択されていない場合は、[コマンド一覧] コンボボックスからコマンドを選択します。

ヘルプを表示するには F11 を押してください。 検索 受注売上金額集計 アプリケーション

2 出力先ボタン をクリックして [出力先の詳細] ダイアログで設定します

(☞ 3.9 検索レコードの出力先)

[出力先アプリケーション (L)] コンボボックスから「Microsoft Excel」を選択し、[フォームを使用する (M)] をチェックします。リストから登録済みの Excel フォームを選択します。



- 3 検索ボタン  または SkyLink ボタン [検索 (S)]-[レコード (S)] を選択します
- 4 Excel の画面が表示されます
手順2で選択した Excel フォームの設定に従って、検索結果が Excel に表示されます。

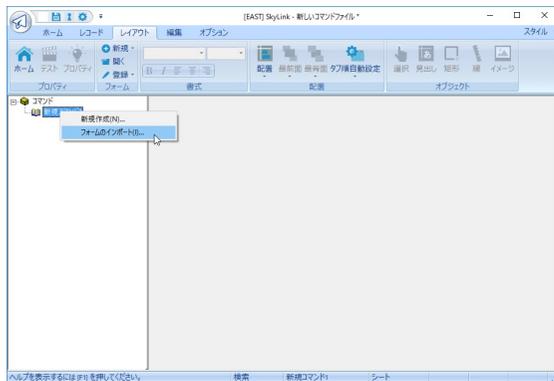
参考

Excel フォームを使用して出力する際に、出力時間が長く感じられる場合があります。これは Excel フォームを受けて Excel が書式設定や集計などを行うためです。項目数の多いコマンドや検索レコード件数の多い場合はその分時間がかかることもあります。しかし、Excel フォームを使用すれば、Excel に出力してから書式設定などを行う手間と時間がかからないというメリットがあります。

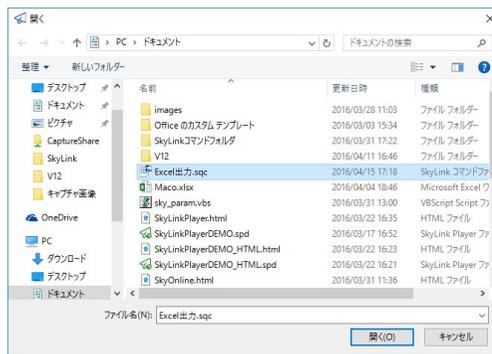
3.16.12 Excelフォームのインポート

既に作成済の Excel フォームを取り込んで流用することができます。

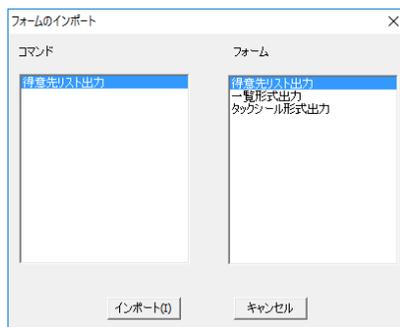
- 1 Excel フォーム編集から [フォームのインポート (I)...] を選択します
フォームを取り込みたいコマンドを選択して右クリックで表示されるポップアップメニューから [フォームのインポート (I)] を選択します。



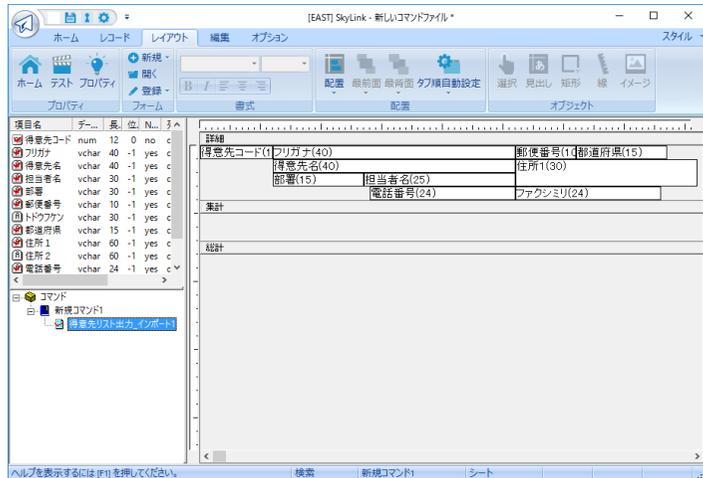
- 2 作成済のフォームの登録されたコマンドを選択します
流用したい Excel フォームを使用しているコマンドファイルを選択します。



- 3 インポートするフォームを選択します
コマンドに登録された Excel フォームを選択します。

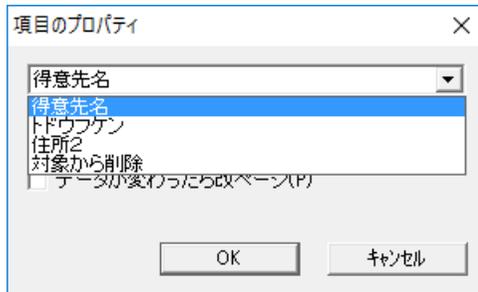


- 4 フォームが読み込まれます
選択したコマンドのフォームが取り込まれます。



インポートファイルで使用しているコマンドの項目毎に設定する列を変更して調整します。

設定する項目を選択し右クリックして [項目のプロパティ] ダイアログを表示して [項目名] を設定します。



3.16.13 ブック名・シート名とExcel出力の関係

Excel フォームのプロパティ (☞ 3.16.5 Excel フォームとオブジェクトのプロパティ) での指定内容 ([Book 名 (B)]・[Sheet 名 (S)]) と、出力時の Excel の状態によって、出力対象のブックとシートが次のように決まります。ご参照の上、効率的な作業につなげてください。

出力対象ブック

[Book 名] 指定あり	[Book 名] のファイルが存在する① [Book 名] のファイルが存在しない②	[Book 名] のブック 新規ブック ※ 1
[Book 名] 指定なし		新規ブック ※ 1

※ 1 起動中の Excel に一度も保存していない新規ブックがある場合は、そのブックが対象となります（新規ブックが複数ある場合は先頭のブック）。

出力対象シート

[Sheet 名] 指定あり	[Sheet 名] のシートが存在する ①	シートに上書き ※2
	[Sheet 名] のシートが存在する ②	+ 番号で新規シート ※3
	[Sheet 名] のシートが存在しない	[Sheet 名] で新規シート
[Sheet 名] 指定なし	シートに上書き ※2	新規シート「Sheet*」

※ 2 上書きの際、シートのデータの削除は行いません。出力開始セルの指定が変わったり、検索件数が変わったり、違うコマンドを同じシートに出力した場合は、以前のデータを表示するセルが残っている場合があります。

※ 3 [Book 名] 指定なしの場合は、出力対象は常に新規シートです。

3.17

マクロ編集

「マクロ機能」を利用してコマンドの自動実行が可能になります。

3.17.1 マクロ編集とは

SkyLink でいうマクロ編集とは、マクロを実行するための設定を編集することをいいます。

マクロ機能を使えば、コマンドファイルのコマンドの自動実行が可能となります。また、検索条件を使用したコマンドを利用すれば、検索結果を元に絞り込み検索を行うことも可能になります。つまり、パソコンのデスクトップから直接検索結果をフォームで表示したり、SkyLink のコマンドをバッチ形式でスケジューラから起動することも、自由に行えます。

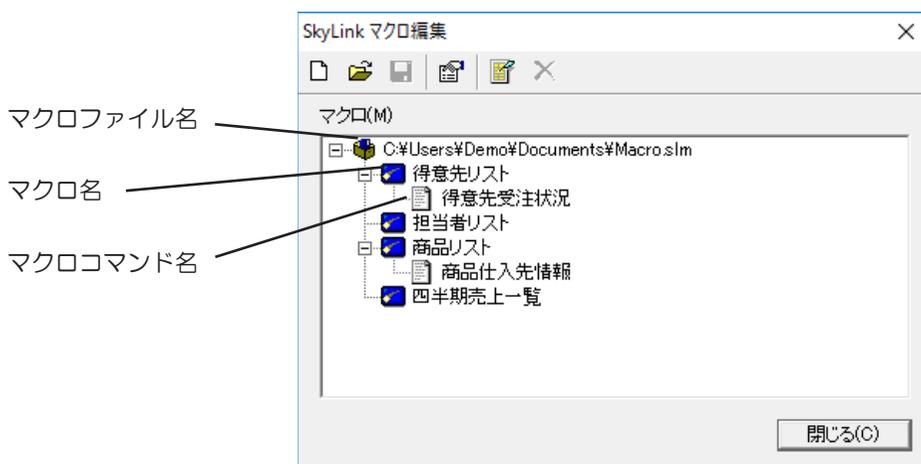
3.17.2 マクロ編集画面

マクロ編集画面は、メイン画面で[コマンド]パネル[マクロ編集]



を選択すると表示されます。

マクロの作成方法については後述しますので、まず各ウィンドウについて解説します。



マクロファイル名

マクロファイル名が表示されます。マクロファイルを新規に作

成した場合は、「新しいマクロファイル」と表示されます。

マクロ名

実行するコマンドファイルのコマンドを指定しているマクロ名が表示されます。

マクロコマンド名

検索条件が含まれるコマンドを指定しているマクロコマンド名が表示されます。

3.17.3 ツールバー（マクロ編集画面）

マクロ編集画面には、マクロ編集に使用するボタン類が配置されています。

新規作成ボタン

マクロファイルを新規に作成します。現在、登録・削除・変更されたマクロがある場合は、「マクロファイルは変更されています。ファイルに保存しますか？」とメッセージが表示されます。必要に応じてマクロファイルの保存を行ってください。

開くボタン

マクロファイルを開き、ファイルから読み込んだマクロ名やマクロコマンド名を画面に表示します。すでに接続されているデータベースとコマンドファイルが違う場合は開くことができません。現在、登録・削除・変更されたマクロがある場合は新規作成ボタンの場合と同様になります。

保存ボタン

登録されているマクロと設定を、マクロファイルに保存します。マクロファイルの新規作成または開いてから何も変更されていない場合は、このボタンは使用できません。マクロファイルを新規作成してから初めて保存する場合は、[ファイル名を付けて保存]ダイアログが表示されます。その他の場合は現在開かれているマクロファイルに上書き保存します。マクロファイルへの保存を行わないと、マクロの登録または削除、変更が失われますのでご注意ください。

プロパティボタン

マクロファイル名を選択した状態でこのボタンをクリックすると、[マクロファイルのプロパティ]ダイアログが表示されます。[マクロファイルのプロパティ]ダイアログでは、動作・接続情報やデザインを設定することができます。また、マクロ名またはマクロコマンド名を選択した状態でこのボタンをクリックすると、

[マクロのプロパティ]ダイアログが表示されます。[マクロのプロパティ]ダイアログでは、マクロ名や処理モードを設定することができます。

追加ボタン

マクロファイル名を選択した状態でこのボタンをクリックすると、[マクロの追加]ダイアログが表示されます。[マクロの追加]ダイアログでは、実行するコマンドのマクロを追加します。マクロは複数追加することができます。また、マクロ名またはマクロコマンド名を選択した状態でこのボタンをクリックすると、[コマンドの追加]ダイアログが表示されます。[コマンドの追加]ダイアログでは、絞り込み検索を行う検索条件が設定されているコマンドのみ追加することができます。

削除ボタン

選択されているマクロおよびマクロコマンドを削除します。

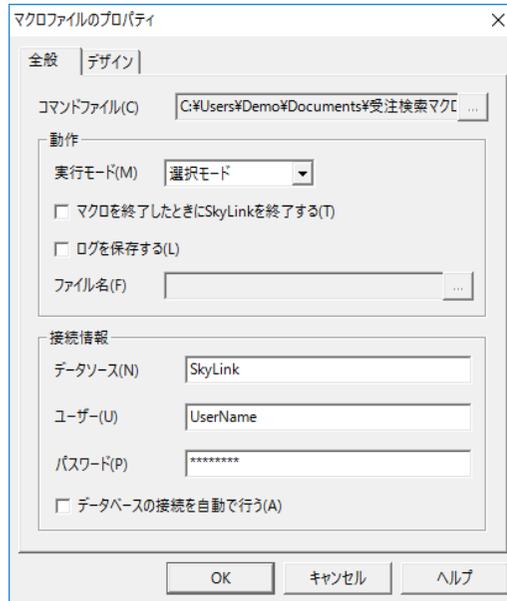
3.17.4 マクロファイルのプロパティとマクロ/コマンドの追加

マクロファイルのプロパティの設定とマクロ/コマンドの追加について説明します。

マクロファイルのプロパティ

マクロファイル名を右クリックして表示されるメニューから[プロパティ(R)]を選択またはプロパティボタン  をクリックすると、[マクロファイルのプロパティ]ダイアログが表示されます。[マクロファイルのプロパティ]ダイアログでは、現在開いているマクロファイルのファイル情報、マクロの動作、デザインなどを設定することができます。ここで設定された情報はマクロファイルの保存を行う際にファイルに書き込まれます。

[全般] タブ



[コマンドファイル (C)] ボックス

マクロを実行するコマンドファイルが表示されます。[...] ボタンをクリックすると、ファイルを参照できます。

[実行モード (M)] コンボボックス

▼をクリックして表示される一覧から、選択モードとサイレントモードのどちらかを選択します (☞ 3.17.5 選択モードとサイレントモード) (☞ 3.17.6 マクロ実行の選択画面)。

[マクロを終了したときに SkyLink を終了する (T)] チェックボックス

チェックをつけると、マクロの実行が終了したときに、SkyLinkを終了します。

[ログを保存する (L)] チェックボックス

チェックをつけると、実行したマクロのログを指定したファイルに保存します。

[ファイル名 (F)] ボックス

ログを保存するファイル名を指定します。[...] ボタンをクリックすると、ファイルを参照できます。

[データベース (N)] ボックス・[ステーション (N)] ボックス・[サーバ (N)] ボックス・[データソース (N)] ボックス

接続するデータベース/ステーション/サーバ/データソースを指定します。

[ユーザー (U)]・[利用者 ID(U)] ボックス

データベースに登録済みのユーザー／利用者ID を指定します。

[パスワード (P)] ボックス

データベースに登録済みのパスワードを指定します。

[データベースの接続を自動で行う (A)] チェックボックス

チェックをつけると、データベースへの接続を自動で行い、マクロの実行時に[接続] ダイアログは表示されません。

[デザイン] タブ



[タイトル (C)] ボックス

マクロ実行の選択画面のタイトルを指定します。

[タイプ (T)] コンボボックス

▼をクリックして表示される一覧から、マクロ実行の選択画面に配置するボタンなどのタイプを選択します。

[縦 (H)] ボックス

マクロ実行の選択画面に配置するボタンの縦の個数を指定します。

[横 (V)] ボックス

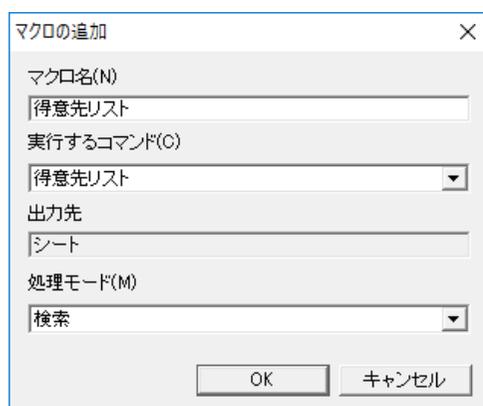
マクロ実行の選択画面に配置するボタンの横の個数を指定します。

[配置する方向 (F)] コンボボックス

マクロ実行の選択画面に配置するボタンの方向、順番をリストから選択します。

マクロの追加

マクロファイル名を右クリックして表示されるメニューから [マクロの追加 (C)] を選択または追加ボタン  をクリックすると、[マクロの追加] ダイアログが表示されます。[マクロの追加] ダイアログでは、マクロ名、実行するコマンドを設定することができます。ここで設定された情報はマクロファイルの保存を行う際にファイルに書き込まれます。



マクロの追加

マクロ名(N)
得意先リスト

実行するコマンド(C)
得意先リスト

出力先
シート

処理モード(M)
検索

OK キャンセル

[マクロ名 (N)] ボックス

実行するマクロ名を指定します。

[実行するコマンド (C)] コンボボックス

 をクリックして表示される一覧から、実行するコマンドファイルのコマンドを選択します。

[出力先] ボックス

コマンドに登録されている出力先が表示されます。

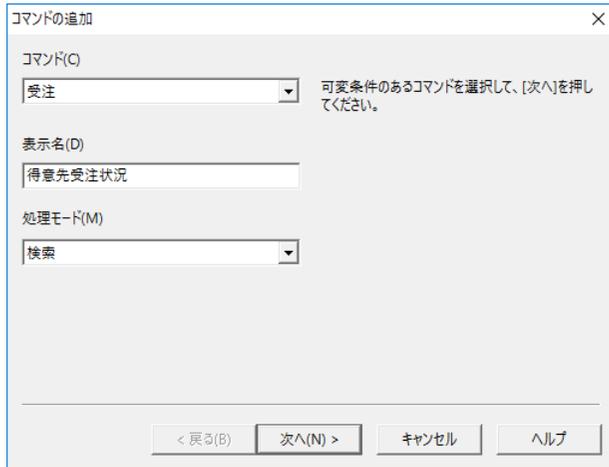
[処理モード (M)] コンボボックス

 をクリックして表示される一覧から、実行するコマンドの処理モードを選択します。

コマンドの追加

マクロ名を右クリックして表示されるメニューから [コマンドの追加 (A)] を選択または追加ボタン  をクリックすると、[コマンドの追加] / [条件の設定] ダイアログが表示されます。[コマンドの追加] / [条件の設定] ダイアログでは、マクロコマンド名や条件を設定することができます。ここで設定された情報はマクロファイルの保存を行う際にファイルに書き込まれます。

[コマンドの追加] ダイアログ



[コマンド (C)] コンボボックス

▼をクリックして表示される一覧から、実行するコマンドファイルの検索条件が指定されているコマンドを選択します。

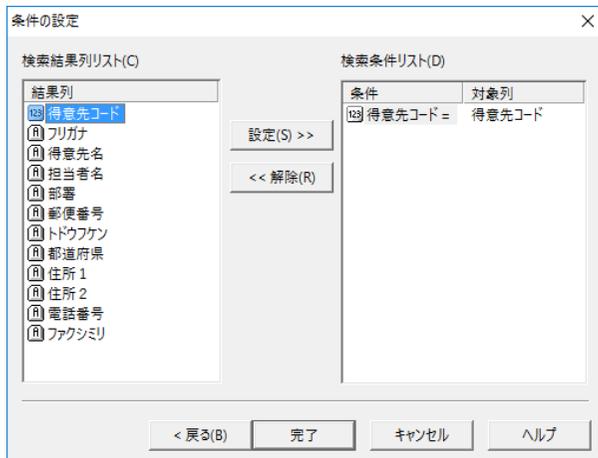
[表示名 (D)] ボックス

実行するマクロコマンド名を指定します。

[処理モード (M)] コンボボックス

▼をクリックして表示される一覧から、実行するコマンドの処理モードを選択します。

[条件の設定] ダイアログ



[検索結果列リスト (C)]

実行するマクロの検索結果列が表示されます。

[検索条件リスト (D)]

マクロコマンドで指定されている条件が[条件]に、対応させる実行するマクロの検索結果列が[対象列]に表示されます。デフォルトでは、[対象列]には何も表示されていません。

[設定 (S)>>] ボタン

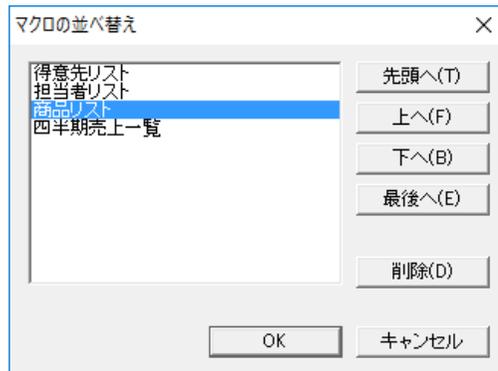
[設定 (S)>>] ボタンをクリックすると、[検索結果列リスト (C)]で選択した検索結果列を、[検索条件リスト (D)]で選択した条件に対応させることができます。

[<< 解除 (R)] ボタン

[<< 解除 (R)] ボタンをクリックすると、[検索条件リスト (D)]の[条件]で選択した条件に対応させた検索結果列を、解除することができます。

マクロの並べ替え

マクロファイル名を右クリックして表示されるメニューから [並べ替え (R)] を選択すると、[マクロの並べ替え] ダイアログが表示されます。[マクロの並べ替え] ダイアログでは、実行するマクロの順序を設定することができます。ここで設定された情報はマクロファイルの保存を行う際にファイルに書き込まれます。



[マクロ] リスト

実行されるマクロの一覧が表示されます。

[先頭へ (T)] ボタン・[上へ (F)] ボタン・[下へ (B)] ボタン・[最後へ (E)] ボタン

[マクロ] リストで選択したマクロの順序を並べ替えます。

[削除 (D)] ボタン

[マクロ] リストで選択したマクロを削除します。

3.17.5 選択モードとサイレントモード

[マクロファイルのプロパティ] ダイアログの [全般] タブ [実行モード (M)] で選択される「選択モード」と「サイレントモード」について

説明します。

選択モード

「選択モード」を選択すると、マクロが複数存在する場合は実行する前に選択画面が表示されます。マクロが1つの場合はすぐに実行します (☞ 3.17.6 マクロ実行の選択画面)。

サイレントモード

「サイレントモード」を選択すると、データベースに自動接続してマクロを自動実行し、マクロが終了した段階で SkyLink を終了します。この場合は、出力先を SkyLink の画面に設定することはできません。

すべてを自動で行えるので、定期的に行う一連の操作をマクロとしてファイルに保存し、これをスケジューラで夜間などに自動実行させることができます。

マクロの自動実行

Windows8.1 の「タスク」によるマクロの自動実行の例について説明します。

- 1 自動実行するマクロファイルをマイドキュメントにフォルダを作成して保存します
「PC> ドキュメント > SkyLink」(C:¥Users¥ ユーザー名 ¥Documents¥SkyLink) にファイル (Macro.slm) を保存します。
- 2 [管理ツール] から [タスクスケジューラ] を実行します
[タスクスケジューラ] ダイアログが表示されます。
- 3 [基本タスクの作成] を選択します。
[基本タスクの作成ウィザード] が表示されます。
- 4 任意の[名前]と[説明]を入力し[次へ (N)] を選択します。
- 5 [トリガー] で実行したいタイミングを選択します。
[操作] で [プログラムの開始 (T)] を選択し [次へ (N)] を選択します。
- 6 [プログラム / スクリプト (P)] 横の [参照 (R)] ボタンをクリックして、[C:¥Program

Files¥SkyLink¥SkyLink.exe] を指定します。

[引数の追加 (オプション)(A)] 欄に [C:¥Users¥ ユーザー一名 ¥Documents¥SkyLink¥Macro.slm] を入力し [次へ (N)>] を選択します。

7 [完了 (F)] します。

参考

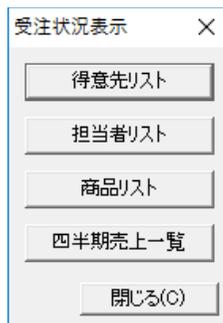
すぐにテストを行う場合は、設定したタスクを右クリックして表示されるメニューから [実行する (R)] を選択します。ファイルに保存されたマクロが実行されます。

3.17.6 マクロ実行の選択画面

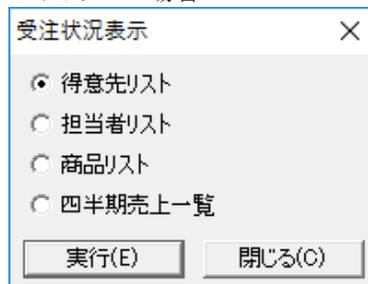
マクロが複数存在する場合は、実行する前に選択画面が表示されます。ただし、検索結果が表示された後にメイン画面に戻ると、マクロが1つの場合でも選択画面が表示されます。選択画面で実行したいマクロを選択すると、検索結果が表示されます。

選択画面に表示するボタンなどの配置、種類を自由に変更することができます (☞ 3.17.4 マクロファイルのプロパティとマクロ / コマンドの追加)。

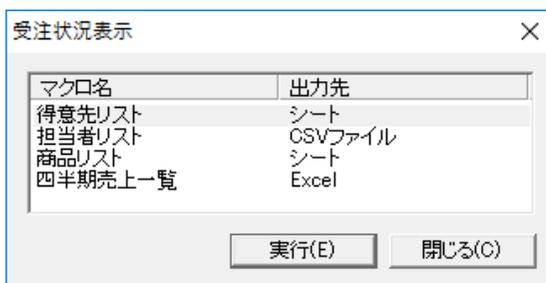
ボタンの場合



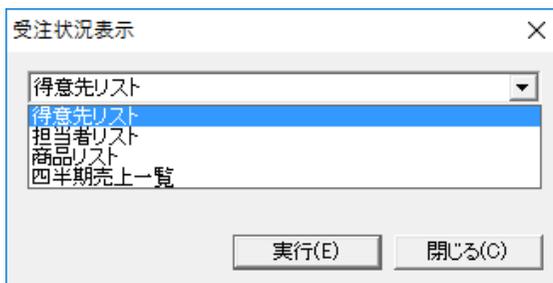
ラジオボタンの場合



リストボックスの場合



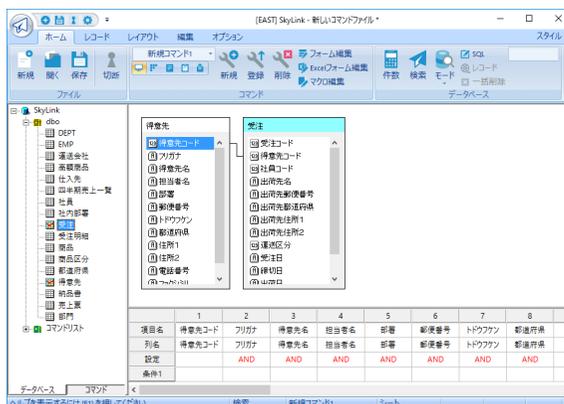
コンボボックスの場合



3.17.7 マクロを作成する

基本的なマクロを作成する手順を説明します。

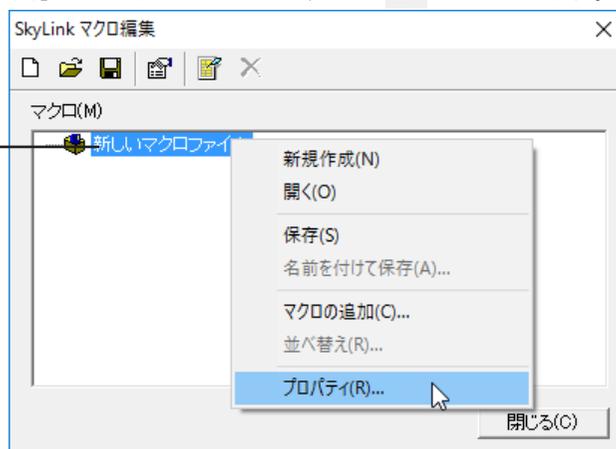
- 1 すでに作成してあるコマンドファイルを開きます
 例として、コマンドファイルには表「得意先」を全件検索する「得意先コマンド」と、得意先コードを条件にして表「受注」を検索する「受注コマンド」が保存されています。



2 マクロ編集を実行します

[コマンド] パネル [マクロ編集] を選択すると、[マクロ編集] 画面が表示されます。「新しいマクロファイル」と表示されている部分を右クリックして表示されるメニューから [プロパティ (R)] を選択またはプロパティボタン  をクリックします。

ここを右クリックして表示されるメニューから [プロパティ (R)] を選択

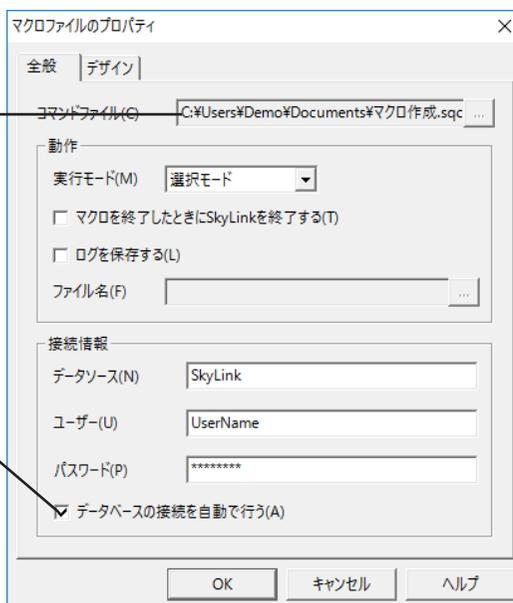


3 マクロファイルのプロパティを設定します

[マクロファイルのプロパティ] ダイアログが表示されるので、以下のように設定します。

現在開いているコマンドファイルが表示されています

ここでは、[データベースの接続を自動で行う (A)] にチェックします



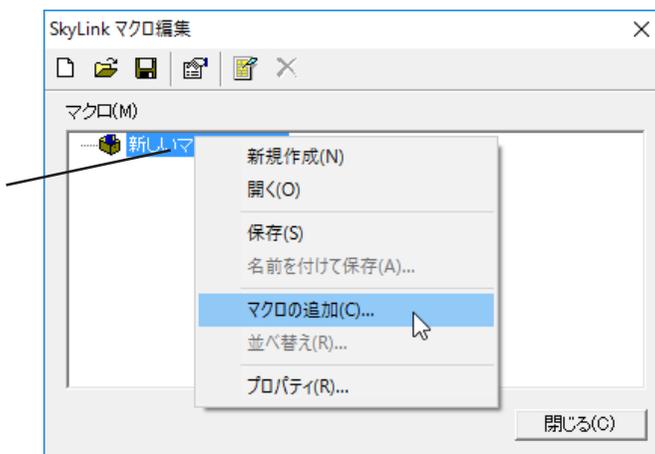
マクロが複数存在する場合に表示される選択画面の設定です
ここでは、デフォルトのままにします



4 マクロを追加します

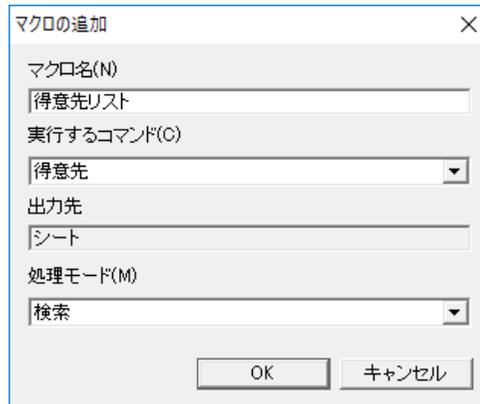
「新しいマクロファイル」と表示されている部分を右クリックして表示されるメニューから [マクロの追加(C)] を選択、または追加ボタン  をクリックします。

ここを右クリックして表示されるメニューから [マクロの追加 (C)] を選択



[マクロの追加] ダイアログが表示されるので、以下のよう

に設定します。

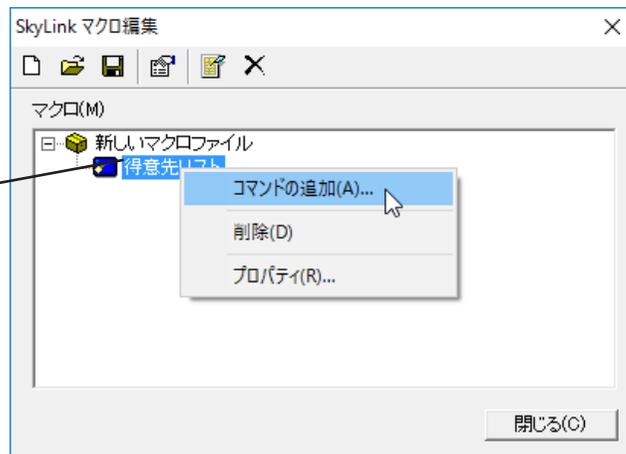


5 マクロコマンドを追加します

作成した「得意先リスト」というマクロに、検索条件が設定されたコマンド「受注」を追加し、得意先の受注状況を調べてみます。

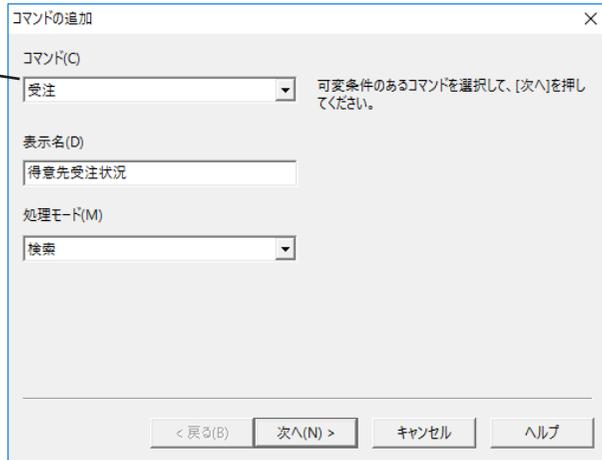
マクロ名「得意先リスト」を右クリックして表示されるメニューから [コマンドの追加 (A)] を選択または追加ボタン  をクリックします。

ここを右クリックして表示されるメニューから [コマンドの追加 (A)] を選択



[コマンドの追加] ダイアログが表示されるので、以下のように設定します。

検索条件が設定された
コマンドを選択



コマンドの追加

コマンド(C)
受注

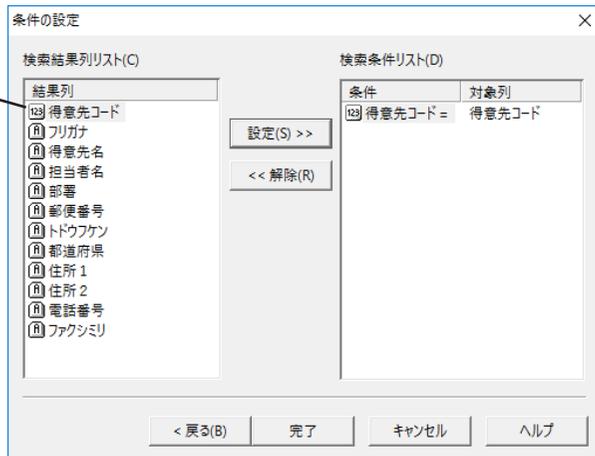
表示名(D)
得意先受注状況

処理モード(M)
検索

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル ヘルプ

可変条件のあるコマンドを選択して、[次へ]を押してください。

対象列に「得意先コード」を設定



条件の設定

検索結果リスト(C)

検索条件リスト(D)

結果列	条件	対象列
<input checked="" type="checkbox"/> 得意先コード	<input checked="" type="checkbox"/> 得意先コード =	得意先コード
<input type="checkbox"/> フリガナ		
<input type="checkbox"/> 得意先名		
<input type="checkbox"/> 担当者名		
<input type="checkbox"/> 部署		
<input type="checkbox"/> 郵便番号		
<input type="checkbox"/> トドフケン		
<input type="checkbox"/> 都道府県		
<input type="checkbox"/> 住所 1		
<input type="checkbox"/> 住所 2		
<input type="checkbox"/> 電話番号		
<input type="checkbox"/> ファクシミリ		

設定(S) >> << 解除(R)

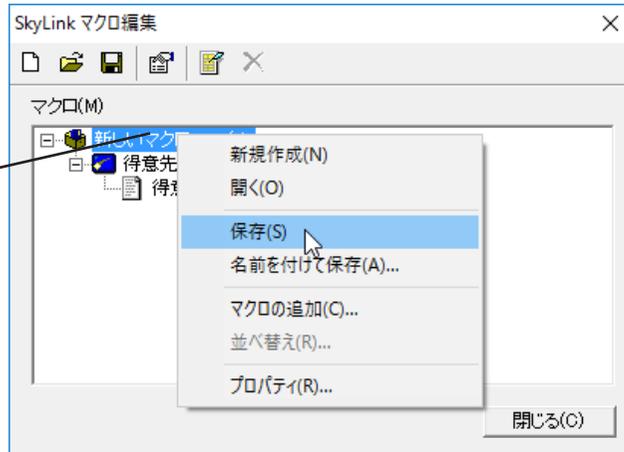
< 戻る(B) 完了 キャンセル ヘルプ

ここでは、受注コマンドを実行するとき、「得意先リスト」検索結果のどの列を検索条件とするかを設定します。

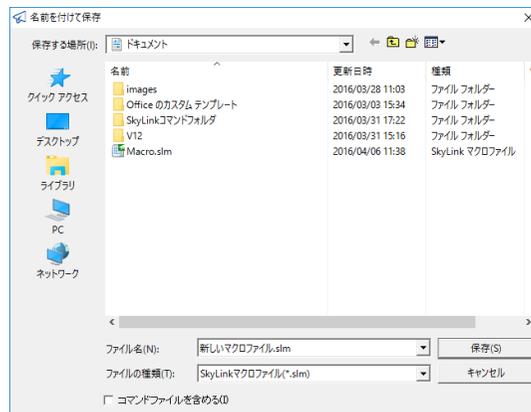
6 マクロファイルを名前を付けて保存します

「新しいマクロファイル」と表示されている部分を右クリックして表示されるメニューの [名前を付けて保存 (A)] を選択します。上書き保存をする場合は、[保存 (S)] を選択または保存ボタン  をクリックします。

ここを右クリックして表示されるメニューから [保存 (S)] を選択



ここでは、[コマンドファイルを含める (I)] チェックボックスにチェックをつけ、マクロファイルにコマンドファイルを含めて保存します。



7 マクロを実行します

保存したマクロファイルを開くと、自動的に指定したマクロが実行され、検索結果が表示されます。

絞り込み検索を行いたいレコードを選択

得意先コード	フリガナ	得意先名	担当名	部署	郵便番号	〒コード	配達地域	住所
1	88 オオヤマユニオン	大宮ユニオン	野村 長紀	営業部	8480017	サイマケン	埼玉県	東久留米市 1-4-X
2	84 シェンボストア	シェンボストア	上川 晶典	店長	2860088	チリケン	千葉県	成田市加茂部 6-6-X
3	4 カイセイヨウリククラブ	海群利理心ろ	阿部 麗枝	科理長	5140112	ミヅケン	三重県	津市一舟田中野 19-X
4	11 コウサカタ	小野ストア	佐々木 久美	店長	8170012	アホケン	秋田県	大館市東地中野 30-X
5	101 ムネコシアター	ムネコシアター	沼田 裕香	店長	1430015	アホケン	秋田県	大田区大宮 1-35-X
6	9 ヤマトマーケット	大野マーケット	木山 勇	店長	8810022	オガケン	長野県	長野市大宮 1780-X
7	18 ハウスワン	東海ふん	大田 浩江	科理長	5650063	オガケン	大宮市	秋田市竹野台 2-X
8	48 ヒロコー・レレション	ヒロコー・レレション	小嶋 一之	営業部	2410061	カガケン	神奈川県	横浜市旭区大倉山 1-1
9	471 マルシェン	マルシェン	吉村 広志	店長	2850080	カガケン	神奈川県	茅ヶ崎市大久保 19-1
10	17 カノカブシカイシヤ	月野株式会社	武島 美子	営業部	9930222	ミヤケン	宮城県	仙台市大宮区人妻田 4
11	20 ショウケンゼンシヤウ	商店せんよう	田山 健一	店長	6640027	ヒョウケン	兵庫県	伊丹市池尻 5-0-X
12	22 ショクゴロアランドウ	食研あんどう	水原 晃一	科理長	8112208	フウケン	福岡県	粕屋郡志免町御手洗 1
13	16 シヤカシヤカイシヤ	高橋株式会社	高野 海美子	営業部	9830006	ミヤケン	宮城県	仙台市青葉区吉倉 4
14	36 ショウケンアキア	洋敷がき	渡 浩志	科理長	4370055	アイケン	愛知県	名古屋市瑞穂区中津川 4
15	39 アリスチ	アリスチ	内藤 一忠	科理長	2700234	チリケン	千葉県	野田市日之出 27-0-X
16	3 カッポフソウ	割取ふん	山沢 典美	科理長	9398066	トヤマケン	富山県	富山県朝日町 2-782-X
17	14 ユキノガーデン	雪花ガーデン	田本 千賀	営業部	6820021	ホウケン	北海道	札幌市豊平区中の島 1
18	15 シロヒコカシヤカイシヤ	高尾株式会社	山本 守成	営業部	9830001	ミヤケン	宮城県	仙台市青葉区 2-2-X
19	48 ショウケンリク	あふんリク	藤 祐介	科理長	1650015	トウケン	東京都	杉山区西武池袋 5-25-X
20	27 ショクウワイガワイエクス	洋菓屋高尾トラスクス	西野 勇久	科理長	9300074	カゴケン	鹿児島県	鹿児島市宇野町 205-0
21	37 イルカランド	イルカランド	高村 雄子	営業部	1440047	トウケン	東京都	大田区新中 2-4-X

8 絞り込み検索を行います

「得意先コード」が「7」のレコードを選択します。

進むボタン をクリックします。

受注コード	得意先コード	社員コード	出荷先名	出荷先郵便番号	出荷先郵便区分	出荷先住所	出荷先住所区分	発注日	納期
1	1032	7	189 舞ストアー	1430012	東京都	大田区大宮	1-35-X	2015-07-27	2015-08
2	1100	7	189 舞ストアー	1430012	東京都	大田区大宮	1-35-X	2015-11-24	2015-08
3	2007	7	189 舞ストアー	1430012	東京都	大田区大宮	1-35-X	2015-01-25	2015-08
4	2097	7	189 舞ストアー	1430012	東京都	大田区大宮	1-35-X	2015-10-19	2015-08
5	3000	7	189 舞ストアー	1430012	東京都	大田区大宮	1-35-X	2014-03-31	2014-06
6	3053	7	189 舞ストアー	1430012	東京都	大田区大宮	1-35-X	2014-04-25	2014-06
7	9052	7	189 舞ストアー	1430012	東京都	大田区大宮	1-35-X	2014-06-17	2014-06
8	1032	7	189 舞ストアー	1430012	東京都	大田区大宮	1-35-X	2015-04-02	2015-06

得意先コード「7」に絞った受注状況の検索結果が表示されます。



4. メニューリファレンス

SkyLink ボタン  で開く各メニューについて説明します。
リボンバーについては、

- 3.5.2 ホームカテゴリ（メイン画面）
- 3.8.2 レコードカテゴリ（レコード画面）
- 3.15.4 レイアウトカテゴリ（フォーム編集画面）
- 3.16.3 レイアウトカテゴリ（Excel フォーム編集画面）

を、ご覧ください。

4.1

ファイル(F)

データベース接続やファイル関連のメニューです。

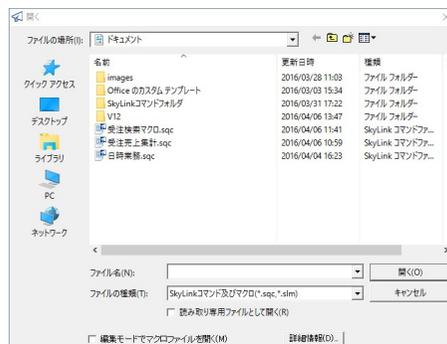


4.1.1 [新規作成 (N)] Ctrl+N

データベースに接続し、コマンドファイルを新規に作成します (☞ 3.4 データベース接続)。

4.1.2 [開く (O)] Ctrl+O

[開く] ダイアログを表示します。コマンドファイル、マクロファイルを選択して開くことができます。コマンドファイルを開いた場合は、コマンドファイルに保存された内容で、データベースとの接続、表の取得などを行います (☞ 3.10 コマンド)。マクロファイルを開いた場合は、マクロファイルに保存された内容で、データベースとの接続、マクロの実行、検索結果の表示などを行います。



同様のダイアログが SkyLink を操作する上でよく表示されます。操作の詳細は Windows のヘルプまたはマニュアルをご覧ください。

[ファイルの場所 (I)] コンボボックス

をクリックして表示される一覧から、開きたいコマンドファイル、マクロファイルのあるフォルダ名を選択します。

[ファイル名 (N)] コンボボックス

開きたいコマンドファイル名、マクロファイル名を指定します。

[ファイルの種類 (T)] コンボボックス

をクリックして表示される一覧から、コマンドファイル、マクロファイルのファイル種類である、「SkyLink コマンド及びマクロ (*.sqc,*.slm)」を選択します。その他に、コマンドファイルのみを選択する「SkyLink コマンドファイル (*.sqc)」、マクロファイルのみを選択する「SkyLink マクロファイル (*.slm)」などがあります。

[読み取り専用ファイルとして開く (R)] チェックボックス

チェックをつけると、ファイルを編集しても上書き保存できない様にしてファイルを開きます。

[編集モードでマクロファイルを開く (M)] チェックボックス

チェックをつけると、コマンドファイルを含む形で保存されたマクロファイルのコマンドファイルを編集することが可能となります。マクロ編集画面の保存ボタンを使用してコマンドファイルを含む形で保存されたマクロファイルを選択している場合に、使用可能となります。

[開く (O)] ボタン

クリックすると、[ファイル名 (N)] で指定したコマンドファイル、マクロファイルを開きます。

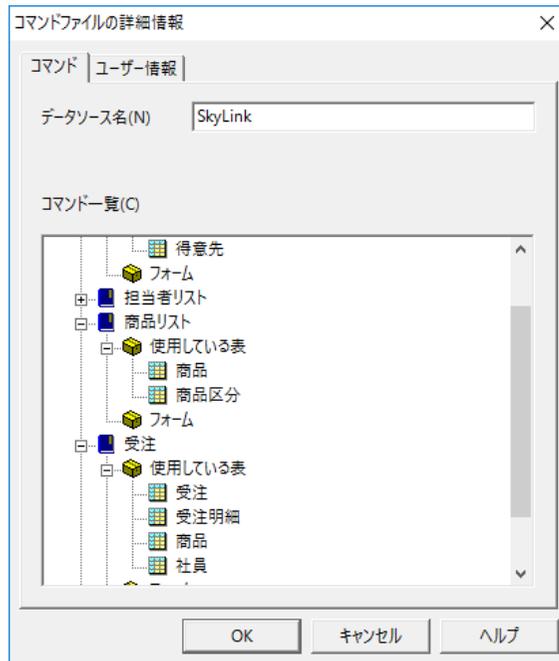
[キャンセル] ボタン

クリックすると、コマンドファイル、マクロファイルを開かないでダイアログを閉じます。

[詳細情報 (D)] ボタン

[ファイル名 (N)] でコマンドファイルを指定した場合は、[詳細情報 (D)] ボタンをクリックすると、[コマンドファイルの詳細情報] ダイアログを表示します。[ファイル名 (N)] でマクロファイルを指定した場合は、[詳細情報 (D)] ボタンをクリックすると、[マクロファイルの詳細情報] ダイアログを表示します。各ダイアログには、ファイルに保存されている情報が表示され、ここでデータベース名の変更を行ってからコマンドファイル、マクロファイルを開くこともできます。

[コマンドファイルの詳細情報] ダイアログ
[コマンド] タブ



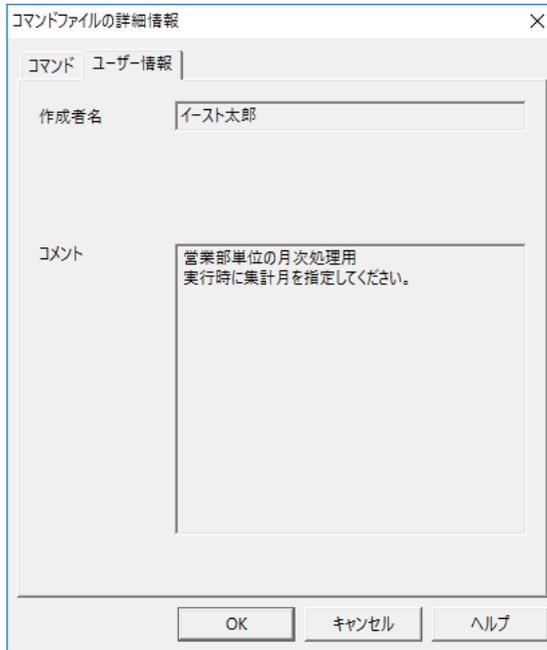
[データベース名 (N)] ボックス・[ステーション名 (N)]
ボックス・[サーバ名 (N)] ボックス・[データソース名
(N)] ボックス

接続するデータベース名/ステーション名/サーバ名/ デ
ータソース名が表示されます。他のデータベース名を入力し
て、コマンドファイルを開いたときに接続するデータベースを
変更することもできます。

[コマンド一覧 (C)] リスト

コマンド名とコマンドで使用している表がツリー表示されます。

[ユーザー情報] タブ



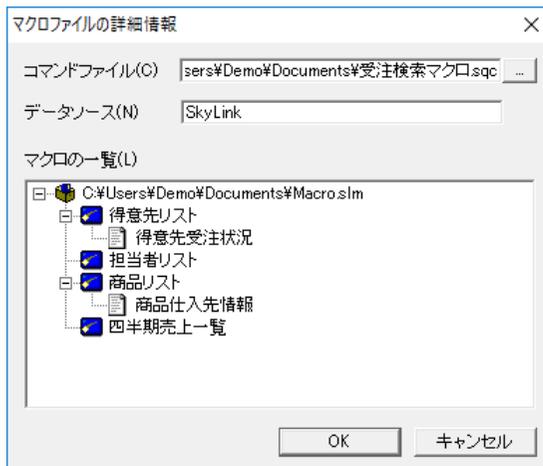
[作成者名] ボックス

作成者名をファイルに保存していた場合は、作成者名を表示します。

[コメント] ボックス

コメントをファイルに保存していた場合は、コメントを表示します。

[マクロファイルの詳細情報] ダイアログ



[コマンドファイル (C)]

マクロを実行するコマンドファイルが表示されます。[...] ボタンをクリックすると、ファイルを参照できます。コマンドファイルを含む形で保存されたマクロファイルを選択している場合は、何も表示されません。

[データベース (N)] ボックス・[ステーション (N)] ボックス・[サーバ (N)] ボックス・[データソース (N)] ボックス

接続するデータベース名/ステーション名/サーバ名/データソース名が表示されます。他のデータベース名を入力して、コマンドファイルを開いたときに接続するデータベースを変更することもできます。

[マクロの一覧 (L)] リスト

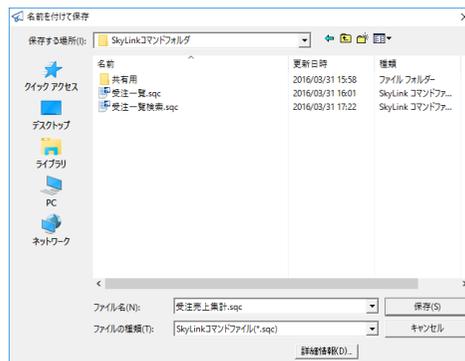
マクロの構成がツリー表示されます。

4.1.3 [上書き保存(S)] Ctrl+S

現在開いているコマンドファイルに、今回、登録/更新したコマンド内容で上書きして保存します。

4.1.4 [名前を付けて保存(A)]

[名前を付けて保存] ダイアログを表示します。コマンドファイルの名前を付けて現在登録しているコマンド内容を保存することができます。



ファイル名は任意ですが、デフォルトの拡張子は「sqc」です。

[保存する場所 (I)] コンボボックス

▼をクリックして表示される一覧から、コマンドファイルを保存したいフォルダ名を選択します。

[ファイル名 (N)] コンボボックス

保存するコマンドファイルの名前を指定します。

[ファイルの種類 (T)] コンボボックス

▼をクリックして表示される一覧から、保存するファイルの種類を選択します。デフォルトは、コマンドファイルのファイル種類である、「SkyLink コマンドファイル (*.sqc)」です。

[保存 (S)] ボタン

[ファイル名 (N)] で指定した名前でコマンドファイルを保存します。

[キャンセル] ボタン

コマンドファイルを保存しないでダイアログを閉じます。

[詳細情報 (D)] ボタン

(☞ 4.1.2 [開く] ダイアログ [詳細情報 (D)])

4.1.5 [接続 (T)]

データベースに接続し、コマンドファイルを新規に作成します。すでにデータベースに接続されている場合は、このメニュー項目は使用できません (☞ 3.4 データベース接続)。

4.1.6 [記憶した設定で接続 (M)]

以前の接続時に記憶させた設定でデータベースに接続し、コマンドファイルを新規に作成します。表ウィンドウには、以前の接続の最後に設定していた表が表示されます。すでにデータベースに接続されている場合は、このメニュー項目は使用できません (☞ 3.4 データベース接続)。

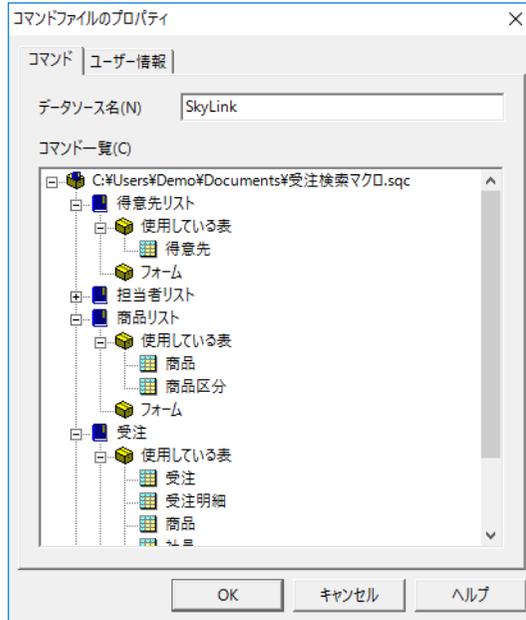
4.1.7 [切断 (D)]

現在接続しているデータベースとの接続を切ります。現在データベースに接続されていない場合は、このメニュー項目は使用できません (☞ 3.4 データベース接続)。

4.1.8 [ファイルのプロパティ (R)]

[コマンドファイルのプロパティ] ダイアログを表示します。[コマンドファイルのプロパティ] ダイアログには、現在開いているコマンドファイルのファイル情報、ユーザー情報、内部に含まれるコマンド一覧などが表示されます。ここで入力されたユーザー情報は、コマンドファイルの保存を行う際にファイルに書き込まれます。

[コマンド] タブ



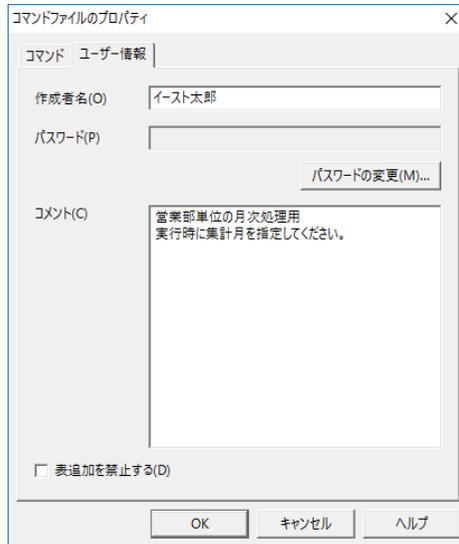
[データベース名 (N)] ボックス・[ステーション名 (N)] ボックス・[サーバー名 (N)] ボックス・[データソース名 (N)] ボックス

接続するデータベース名/ステーション名/サーバ名/データソース名が表示されます。他のデータベース名を入力して、接続するデータベースを変更することもできます。

[コマンド一覧 (C)] リスト

コマンド名とコマンドで使用している表がツリー表示されます。

[ユーザー情報] タブ



[作成者名 (O)] ボックス

コマンドファイルの作成者名を表示／入力します。

[パスワード (P)] ボックス

コマンドファイルにパスワードが設定されていない場合は、何も表示されず、このボックスは使用できません。

コマンドファイルにパスワードが設定されている場合は、アスタリスクで「***」と表示されます。

[パスワードの変更 (M)] ボタン

パスワードを新規に設定する場合、またはパスワードを変更する場合に[パスワードの変更(M)] ボタンをクリックすると、[パスワードの変更] ダイアログが表示されます。パスワードを設定後、[OK] ボタンをクリックすると、パスワードが設定されます。



[古いパスワード (O)] ボックス

現在のパスワードを入力します。初めてパスワードを設定する場合は、このボックスは使用できません。

[新しいパスワード (N)] ボックス

これから設定するパスワードを入力します。

[新しいパスワードの確認入力 (C)] ボックス

[新しいパスワード (N)] の入力と同じものを確認のために再度入力します。

[コメント (C)]

覚え書きなど、コメントを表示／入力します。

[表追加を禁止する (D)] チェックボックス

チェックをつけると、コマンドファイルを使用中にデータベースツリーが表示されず、表ウィンドウや設定ウィンドウにこれまで使用していない表を追加する (☞ 3.5 検索の用意) ことができなくなります。この設定は、コマンドファイルを次に開いたときに有効となります。

コマンドファイルの使用者が閲覧・操作する表を、コマンドで登録されている表に限定しない場合は、チェックをつける必要はありません。

4.1.9 [最近使ったコマンドファイル(C)]-[No ファイル名]

最近使用したコマンドファイルを表示します。選択するとコマンドファイルが開きます。表示するファイル数は[ツール(T)]-[オプション(O)]-[全般] タブで設定することができます (☞ 4.8.1 [オプション(O)] [全般] タブ)。

4.1.10 [最近使ったマクロファイル(C)]-[No ファイル名]

最近使用したマクロファイルを表示します。選択するとマクロファイルが開きます。表示するファイル数は [ツール (T)]-[オプション (O)]-[全般] タブで設定することができます (☞ 4.8.1 [オプション (O)] [全般] タブ)。

4.1.11 [次に進む (F)] Alt+→

マクロ実行の次の検索結果に進みます。マクロ実行時のレコード画面のみ、このメニュー項目が表示されます。

4.1.12 [前に戻る (B)] Alt+←

マクロ実行の前の検索結果に戻ります。一番前の検索結果が表示されている場合は、マクロ選択画面に戻ります。マクロ実行時のレコード画面のみ、このメニュー項目が表示されます。

4.1.13 [ホーム (H)] Alt+Home

レコード画面、フォーム編集画面、Excel フォーム編集画面から、メイン画面に戻ります。メイン画面が表示されている場合は、このメニュー項目はありません。

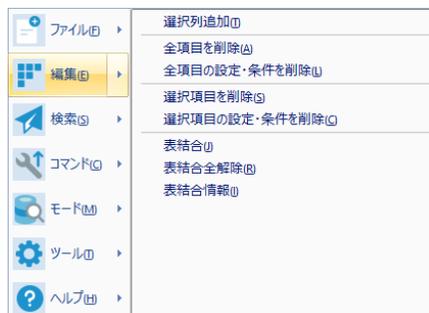
4.1.14 [SkyLinkの終了(X)]

SkyLink を終了します。データベースと接続されているときは、接続を切ります。

4.2

編集(E)-メイン画面

表ウィンドウ・設定ウィンドウへ項目・条件の追加／削除を行うメニューです。



4.2.1 [選択列追加(T)]

表ウィンドウで選択した項目を、設定ウィンドウに追加します。選択した項目は反転表示されています。

4.2.2 [全項目を削除(A)]

設定ウィンドウにある項目をすべて削除します。

4.2.3 [全項目の設定・条件を削除(L)]

設定ウィンドウで設定されているすべての設定・条件を削除します。

4.2.4 [選択項目を削除(S)]

設定ウィンドウで選択した項目を、設定ウィンドウから削除します。選択した項目は [列名] の行が反転表示されています。

4.2.5 [選択項目の設定・条件を削除(C)]

設定ウィンドウで選択した項目の設定・条件を削除します。選択した項目は [列名] の行が反転表示されています。

4.2.6 [表結合(J)]

標準モードの場合は、表ウィンドウに複数の表が追加されているときに有効です。[結合] ダイアログが表示されますので、結合するテーブル、列と結合の種類を選択します。

クラシックモードの場合は、表ウィンドウで項目を選択している場合に有効です。表ウィンドウで選択されている項目に、表結合を設定します。表結合の種類を 14 色から選択してください (☞ 3.11 表を結合して検索)。

4.2.7 [表結合全解除(R)]

表ウィンドウで指定した結合をすべて解除します。結合されている列が存在する場合に、使用することができます。表ウィンドウでの列の選択状態には関係なく、使用することができます。

4.2.8 [表結合情報(I)]

結合した表、列と種類が表示される [結合情報] ダイアログを表示します。

4.3

編集(E)-レコード画面

レコードや項目のデータに関する編集を行うメニューです。



4.3.1 [元に戻す(U)] Ctrl+Z

直前に行った操作をキャンセルして、操作を行う前の状態に戻します。連続してメニュー項目を選択すると、選択した回数分操作を元に戻します。メニュー項目には戻す操作が明記されます。元に戻せる操作を一度もしていない場合や、元に戻せない操作を行った場合は、[元に戻せません (U)] と表示され、メニュー項目は使用することができません。

4.3.2 [やり直す(R)] Ctrl+Y

直前に行った [元に戻す (U)] 処理でキャンセルされた操作を、再度行います。連続してメニュー項目を選択すると、選択した回数分操作をやり直します。メニュー項目にはやり直す操作が明記されます。やり直せる操作を一度もしていない場合や、やり直せない操作を行った場合は、[やり直しできません (R)] と表示され、メニュー項目は使用することができません。

4.3.3 [切り取り(T)] Ctrl+X

選択しているデータを切り取り、クリップボードにコピーします。

4.3.4 [コピー(C)] Ctrl+C

選択しているデータをクリップボードにコピーします。

4.3.5 [貼り付け(P)] Ctrl+V

フォーカス位置にクリップボードからデータを貼り付けます。クリップボードがデータを持っていない場合は、このメニュー項目は使用できません。

4.3.6 [クリア(D)] Del

選択しているデータをクリアします。

4.3.7 [すべて選択(L)] Ctrl+A

シート画面の場合は、シート全体を選択します。フォーム画面の場合は、表示しているレコードのフォーカス位置の項目データをすべて選択します。

4.3.8 [文字列検索(S)] Ctrl+F

[文字列検索] ダイアログが表示されます。[文字列検索] ダイアログでは、レコード画面に表示されているレコードの中から、データを検索することができます (データベースへの検索実行ではありません)。

文字列検索

検索文字列(N) [] [次を検索(F)]

大文字と小文字を区別する(S)

全角と半角を区別する(H)

検索方向(D) [列]

検索範囲

全レコード(L)

選択範囲(G)

[閉じる(C)]

[検索文字列 (N)] コンボボックス

検索したいデータを入力します。▼をクリックして表示される一覧から、以前に入力したデータを選択することもできます。

[次を検索 (F)] ボタン

クリックすると、文字列検索を実行します。データが見つければ該当するレコードのデータが反転表示されます。続けてクリックすると、[検索方向 (D)] コンボボックスの選択内容に従い、次に見つかったデータを表示します。

[大文字と小文字を区別する (S)] チェックボックス

チェックをつけると、大文字と小文字を区別して検索することができます。チェックをつけた状態で「SkyLink」を検索すると、「SKYLINK」や「skylink」、「Skylink」は検索されません。

[全角と半角を区別する (H)] チェックボックス

チェックをつけると、全角と半角を区別して検索することができます。チェックをつけた状態で「スカイリンク」を検索すると、「スカイリンク」や「スカイリンク」は検索されません。

[検索方向 (D)] コンボボックス

▼をクリックして表示される一覧から、文字列検索を行う方向を選択します。

[全レコード (L)] ラジオボタン

ラジオボタンを選択すると、画面に表示されている全レコード・全項目を文字列検索を行う対象とすることができます。

[選択範囲 (G)] ラジオボタン

ラジオボタンを選択すると、画面で選択したレコードと項目を文字列検索を行う対象とすることができます。フォーム画面では使用できません。

[閉じる (C)] ボタン

クリックすると、[文字列検索] ダイアログを閉じます。

4.3.9 [文字列置換 (E)] Ctrl+H

[文字列置換] ダイアログを表示します。[文字列置換] ダイアログでは、レコード画面に表示されているレコードの中から、データを検索し、他の文字列に置き換えることができます。



[検索文字列 (N)] コンボボックス・[次を検索 (F)] ボタン

(☞ 4.3.8[文字列検索 (S)])

[置換後の文字列 (P)] コンボボックス

検索したデータと置き換えたいデータを入力します。▼をクリックして表示される一覧から、以前に入力したデータを選択することができます。

[置換 (R)] ボタン

クリックすると、検索されて反転表示しているデータを [置換

後の文字列 (P) のデータで置き換えます。置換後、[検索方向 (D)] コンボボックスの選択内容に従い、次に見つかったデータを表示します。続けてクリックすることにより、データを検索しながら置換していくことができます。

[すべて置換 (A)] ボタン

クリックすると、[検索範囲] で選択した検索範囲内ですべての [検索文字列 (N)] が [置換後の文字列 (P)] に置換されます。

[大文字と小文字を区別する (S)] チェックボックス

(☞ 4.3.8 [文字列検索 (S)])

[全角と半角を区別する (H)] チェックボックス

(☞ 4.3.8 [文字列検索 (S)])

[検索方向 (D)] コンボボックス

(☞ 4.3.8 [文字列検索 (S)])

[全レコード (L)] ラジオボタン

(☞ 4.3.8 [文字列検索 (S)])

[選択範囲 (G)] ラジオボタン

(☞ 4.3.8 [文字列検索 (S)])

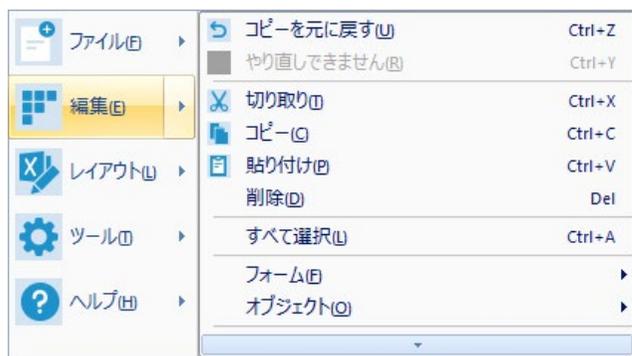
[閉じる (C)] ボタン

(☞ 4.3.8 [文字列検索 (S)])

4.4

編集(E)-フォーム/Excelフォーム

フォームやフォーム上のオブジェクトを編集するメニューです。



4.4.1 [元に戻す(U)] Ctrl+Z

直前に行った操作をキャンセルして、操作を行う前の状態に戻します。連続してメニュー項目を選択すると、選択した回数分操作を元に戻します。メニュー項目には戻す操作が明記されます。元に戻せる操作を一度もしていない場合や、元に戻せない操作を行った場合は、[元に戻せません (U)] と表示され、メニュー項目は使用することができません。

4.4.2 [やり直す(R)] Ctrl+Y

直前に行った [元に戻す (U)] 処理でキャンセルされた操作を、再度行います。連続してメニュー項目を選択すると、選択した回数分操作をやり直します。メニュー項目にはやり直す操作が明記されます。やり直せる操作を一度もしていない場合や、やり直せない操作を行った場合は、[やり直しできません (R)] と表示され、メニュー項目は使用することができません。

4.4.3 [切り取り(T)] Ctrl+X

編集集中のフォームで選択しているオブジェクトを切り取り、クリップ

ボードにコピーします。
Excel フォーム編集ではこのメニュー項目はありません。

4.4.4 [コピー(C)] Ctrl+C

編集中のフォームで選択しているオブジェクトをクリップボードにコピーします。
Excel フォーム編集ではこのメニュー項目はありません。

4.4.5 [貼り付け(P)] Ctrl+V

編集中のフォームに、クリップボードからオブジェクトを貼り付けます。クリップボードがフォームに貼り付けられる形式のデータを持たない場合は、このメニュー項目は使用できません。
Excel フォーム編集ではこのメニュー項目はありません。

4.4.6 [削除(D)] Del

編集中のフォームで選択されているオブジェクトを削除します。

4.4.7 [すべて選択(L)] Ctrl+A

編集中のフォームのすべてのオブジェクトを選択します。

4.4.8 [フォーム(F)]

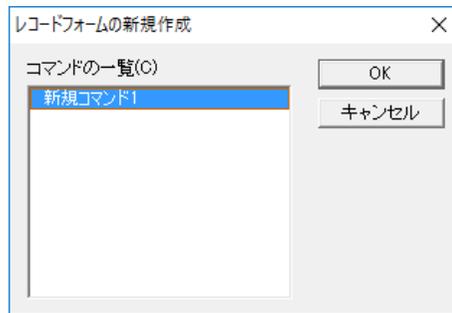
サブメニュー項目 [新規 (N)]、[開く (O)]、[登録 (R)]、[名前を付けて登録 (A)]、[削除 (D)] が表示されます。

[新規 (N)]

フォーム編集の場合は、サブメニュー項目 [レコードフォーム (R)] と [検索条件入力フォーム(V)] が表示されます。[レコードフォーム (R)] を選択すると、[フォームの新規作成] ダイアログが表示されます。[検索条件入力フォーム (V)] を選択すると、[検索条件入力フォームの新規作成] ダイアログが表示されます。

[レコードフォーム (R)]

[レコードフォームの新規作成] ダイアログが表示されます。



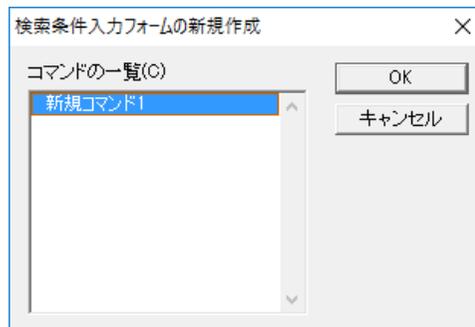
[レコードフォームの新規作成] ダイアログでコマンドを選択して、新規にレコードフォームを自動的に作成、表示します。

[コマンドの一覧 (C)] リスト

現在使用しているコマンドファイルに登録されているコマンドが一覧表示されます。レコードフォームを新規に作成したいコマンドを選択し、[OK] ボタンをクリックします。

[検索条件入力フォーム (V)]

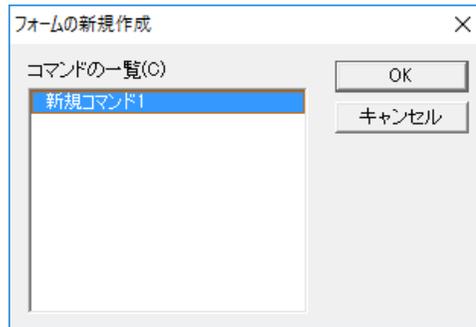
[検索条件入力フォームの新規作成] ダイアログが表示されます。[検索条件入力フォームの新規作成] ダイアログで可変検索条件が設定されているコマンドを選択して、新規に検索条件入力フォームを自動的に作成、表示します。



[コマンドの一覧 (C)] リスト

現在使用しているコマンドファイルに登録されているコマンドが一覧表示されます。検索条件入力フォームを新規に作成したいコマンドを選択し、[OK] ボタンをクリックします。

Excel フォーム編集の場合は、サブメニュー項目は表示されず、[フォームの新規作成] ダイアログが表示されます。

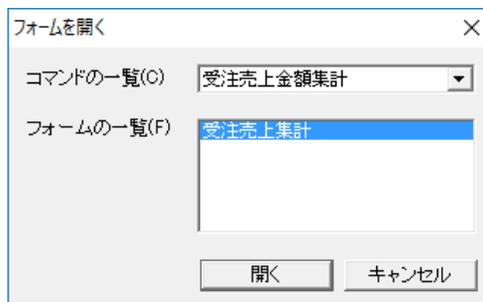


[コマンドの一覧 (C)] リスト

現在使用しているコマンドファイルに登録されているコマンドが一覧表示されます。Excel フォームを新規に作成したいコマンドを選択し、[OK] ボタンをクリックします。

[開く (O)]

[フォームを開く] ダイアログが表示されます。[フォームを開く] ダイアログでフォームを選択して、フォームを画面に表示します。



[コマンドの一覧 (C)] コンボボックス

▼をクリックして表示される一覧から、編集したいフォームを持つコマンドを選択します。

[フォームの一覧 (F)] リスト

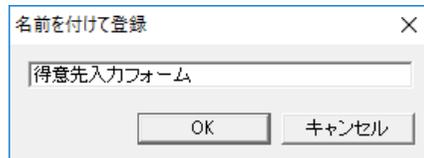
[コマンドの一覧 (C)] コンボボックスで選択したコマンドの持っているフォームが一覧表示されます。編集したいフォームを選択し、[OK] ボタンをクリックします。

[登録 (R)]

編集中のフォームを登録します。フォームはコマンドファイルの保存の際に保存されるため、登録を行うだけではファイルには書き込まれません。最後に行われた登録から何も変更されていない場合は、このメニュー項目は使用できません。

[名前を付けて登録 (A)]

[名前を付けて登録] ダイアログが表示されます。[名前を付けて登録] ダイアログで編集中のフォームに付ける名前を入力し、[OK] ボタンをクリックしてフォームを登録します。フォームはコマンドファイルの保存の際に保存されるため、登録を行うだけではファイルには書き込まれません。



[削除 (D)]

編集中のフォームを削除します。フォームはコマンドファイルの保存の際に保存されるため、削除を行うだけではファイルには書き込まれません。

4.4.9 [オブジェクト(O)]

サブメニュー項目 [見出しの追加 (H)]、[矩形の追加 (R)]、[線の追加 (L)]、[イメージの追加 (I)] が表示されます。各サブメニュー項目を選択して、フォームにオブジェクトを追加できる状態にします (☞ 3.15.5 オブジェクトの基本操作)。

Excel フォーム編集ではこのメニュー項目はありません。

[見出しの追加 (H)]

編集中のフォームに見出しオブジェクトを追加します。

[矩形の追加 (R)]

編集中のフォームに矩形オブジェクトを追加します。

[線の追加 (L)]

編集中のフォームに線オブジェクトを追加します。

[イメージの追加 (I)]

編集中のフォームにイメージオブジェクトを追加します。

4.4.10 [プロパティ (I)] Alt+Enter

フォーム編集画面

フォームの背景の色またはイメージを選択します。フォーム上のオブジェクトが選択されているときは、オブジェクトの属性を設定します (☞ 3.15.6 フォームとオブジェクトのプロパティ)。

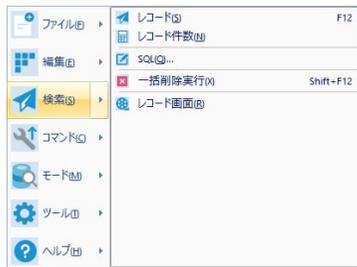
Excel フォーム編集画面

Excel 出力の際の設定を行います (☞ 3.16.5 Excel フォームとオブジェクトのプロパティ)。

4.5

検索(S)

データベース検索・更新など、トランザクション処理に関するメニューです。



4.5.1 [レコード(S)] F12

設定ウィンドウに設定された検索内容で、データベースからレコードの検索を行います。検索結果は [コマンド (C)]-[出力先 (O)] の設定により画面、アプリケーション、ファイル、クリップボードのいずれかに出力されます。削除または更新モードのときは、削除または更新の対象となるレコードを検索します。

(☞ 3.7 レコードを検索する)

(☞ 3.13 レコードを削除する)

(☞ 3.14 レコードを更新する)

4.5.2 [レコード件数(N)]

設定ウィンドウに設定された検索内容でデータベースから検索されるレコードの件数を調べます。件数は、検索ボタン  の右隣の件数表示フィールドに表示されます。

4.5.3 [SQL(Q)]

設定ウィンドウが閉じ、[SQL] ウィンドウが表示されます。[SQL] ウィンドウでは、SkyLink が設定ウィンドウに設定された検索内容で自動生成した SQL 文を確認したり、直接 SQL を編集することができます (☞ 3.7.6 SQL 編集)。[SQL] ウィンドウで編集した SQL はコマンドとして登録することができます (検索モードのと

きのみ)。また、編集した SQL を使用してダイレクトに検索・更新処理実行を行うこともできます。

```
SELECT WOW0001.社員番号, WOW0001.社員名, WOW0001.フリガナ, WOW0001.マネージャ番号,  
WOW0001.給与, WOW0001.部門番号, WOW0001.生年月日, WOW0001.入社日, WOW0001.在籍会社,  
WOW0001.部署名, WOW0001.自宅郵便番号, WOW0001.自宅郵便局, WOW0001.自宅住所1,  
WOW0001.自宅住所2, WOW0001.自宅電話番号, WOW0001.内線, WOW0001.部署コード, WOW0001.  
急遽参加項目  
FROM "dbo"."社員" WOW0001
```

[SQL] ウィンドウは、入力欄のみとなっていますが、[SQL] ウィンドウ上を右クリックして表示されるメニューを選択して、SQL 編集に便利な機能を使用することができます。

[カンマ (O)]

[SQL] ウィンドウ上を右クリックして表示されるメニューから [カンマ] を選択すると、カーレット点滅位置に ‘,’ (カンマ) が入力されます。

[キーワード (K)]

[SQL] ウィンドウ上を右クリックして表示されるメニューから [キーワード (K)] を選択すると、さらにサブメニューが表示されます。サブメニューから各キーワードを選択すると、カーレット点滅位置にキーワードが入力されます(☞ 3.7.6 SQL 編集)。サブメニューの [可変値 (V)] を選択した場合、[SQL] ウィンドウに ‘[#]’ が入力され、検索時にこの部分が値の入力を促すダイアログとして表示されます。

[演算子 (R)]

[SQL] ウィンドウ上を右クリックして表示されるメニューから [演算子 (R)] を選択すると、さらにサブメニューが表示されます。サブメニューから各キーワードを選択すると、カーレット点滅位置に演算子が入力されます(☞ 3.7.6 SQL 編集)。

[元に戻す (U)]

直前に行った操作をキャンセルして、操作を行う前の状態に戻します。連続してメニュー項目を選択すると、選択した回数分操作を元に戻します。元に戻せる操作を一度もしていない場合や、元に戻せない操作を行った場合は、[元に戻す (U)] を選択できなくなりますので、メニュー項目は使用することができません。

[切り取り (T)]

選択しているデータを切り取り、クリップボードにコピーします。

[コピー (C)]

選択しているデータをクリップボードにコピーします。

[貼り付け (P)]

フォーカス位置にクリップボードからデータを貼り付けます。クリップボードがデータを持っていない場合は、このメニュー項目は使用できません。

[削除 (D)]

選択しているデータをクリアします。

[すべて選択 (A)]

SQL 文全体を選択します。

4.5.4 [一括削除実行(X)] Shift+F12

設定ウィンドウに設定された検索内容で、データベースから検索したレコードを、すべて削除します (☞ 3.13.3 一括削除)。このメニュー項目は、一括削除モードのときのみ使用可能となります。

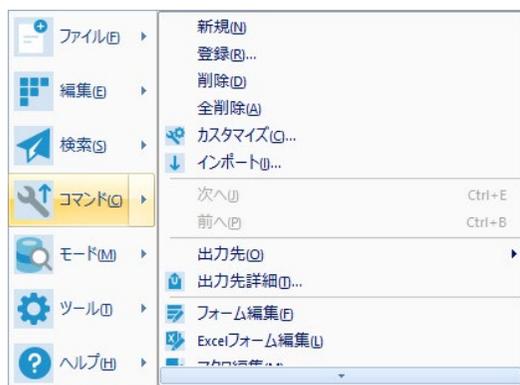
4.5.5 [レコード画面(R)]

直前のレコード画面に戻り、レコードや編集状態の確認が行えます。

4.6

コマンド(C)

現在開いているコマンドファイルに含まれている各コマンドに関するメニューです。

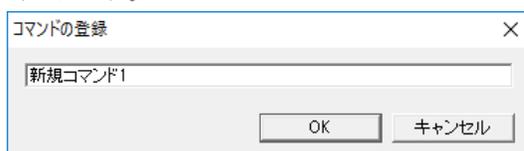


4.6.1 [新規(N)]

設定ウィンドウに項目があればすべて削除し、新規にコマンドファイルの編集をスタートできる状態にします（☞ 3.10.2 コマンドの作成）。

4.6.2 [登録(R)]

[コマンドの登録] ダイアログが表示されます。[コマンドの登録] ダイアログでコマンド名を入力し、設定ウィンドウに設定された検索内容をコマンドとして登録します（☞ 3.10.3 コマンドの登録）。メイン画面のコマンド一覧コンボボックスでコマンドが選択されている場合は、[コマンドの登録] ダイアログで同じコマンド名を付けると、コマンドの再登録（変更）が行えます。新たに別の名前を付けると、設定ウィンドウで編集した内容は別の名前のコマンドとして登録されます。



コマンドはコマンドファイルの保存の際に保存されるため、登録を

行うだけではファイルには書き込まれません。

[コマンド名] ボックス

登録するコマンドの名前を入力します。[OK] ボタンをクリックすると、入力した名前でコマンドが登録されます。まだ登録されていない新規コマンドは「新規コマンド + 番号」と表示されており、そのまま [OK] ボタンをクリックするとそのままの名前でコマンドが登録されます。

4.6.3 [削除(D)]

コマンド一覧コンボボックスで選択しているコマンドを削除します。

4.6.4 [全削除(A)]

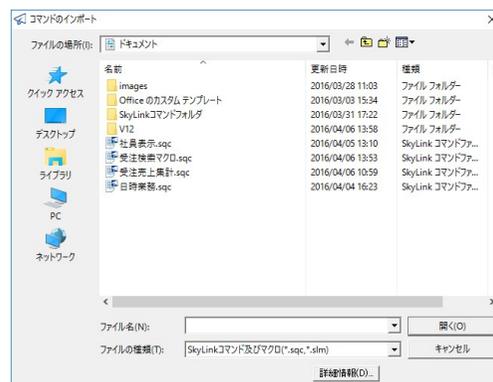
開いているコマンドファイルに含まれる全コマンドを削除します。コマンド一覧コンボボックスは空になります。

4.6.5 [カスタマイズ(C)]

[カスタマイズ] ダイアログが表示されます。[カスタマイズ] ダイアログでは、開いているコマンドファイルのコマンド名の変更・コマンド順序の変更が行えます (☞ 3.10.5 コマンドのカスタマイズ)。

4.6.6 [インポート(I)]

[コマンドのインポート] ダイアログが表示されます。[コマンドのインポート]



ダイアログで選択したコマンドファイル、マクロファイルを開き、さらに表示される [コマンドのインポート] ダイアログで選択したコマンドを、インポートすることができます。

[ファイルの場所 (I)] コンボボックス

▼をクリックして表示される一覧から、目的のコマンドを含むコマンドファイル、マクロファイルのあるフォルダ名を選択します。

[ファイル名 (N)] コンボボックス

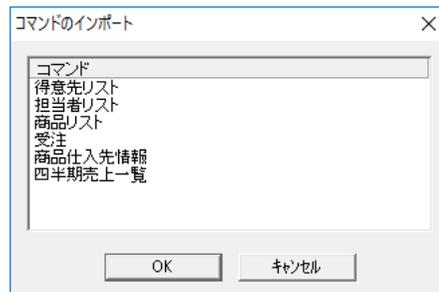
目的のコマンドを含むコマンドファイル名、マクロファイル名を指定します。

[ファイルの種類 (T)] コンボボックス

▼をクリックして表示される一覧から、コマンドファイル、マクロファイルのファイル種類である、「SkyLink コマンド及びマクロ (*.s qc,*.s lm)」を選択します。その他に、コマンドファイルのみを選択する「SkyLink コマンドファイル (*.s qc)」、マクロファイルのみを選択する「SkyLink マクロファイル (*.s lm)」などがあります。

[開く (O)] ボタン

クリックすると、[コマンドのインポート] ダイアログが表示されます。[コマンドのインポート] ダイアログには、[ファイル名(N)] で指定したコマンドファイル、マクロファイルに含まれるコマンドが表示されます。



[コマンド] リスト

現在使用しているコマンドファイルに登録されているコマンドが一覧表示されます。新規に作成したいコマンドを選択し、[OK] ボタンをクリックします。

[キャンセル] ボタン

クリックすると、コマンドファイル、マクロファイルを開かないでダイアログを閉じます。

[詳細情報 (D)] ボタン

[ファイル名 (N)] でコマンドファイルを指定した場合は、[詳細情報 (D)] ボタンをクリックすると、[コマンドファイルの詳細情報] ダイアログを表示します。[ファイル名(N)] でマクロファ

イルを指定した場合は、[詳細情報(D)] ボタンをクリックすると、[マクロファイルの詳細情報] ダイアログを表示します。各ダイアログには、ファイルに保存されている情報が表示され、ここでデータベース名の変更を行うこともできます (☞ 4.1.2 [開く(O)])。

4.6.7 [次へ(N)] Ctrl+E

コマンド一覧コンボボックスで選択している、現在のコマンドの次の順番のコマンドが選択され、設定ウインドウに表示されます。

4.6.8 [前へ(P)] Ctrl+B

コマンド一覧コンボボックスで選択している、現在のコマンドの1つ前の順番のコマンドが選択され、設定ウインドウに表示されます。

4.6.9 [出力先(O)]

サブメニュー項目[画面(V)]、[アプリケーション(A)]、[ファイル(F)]、[クリップボード (C)] が表示されます。

サブメニュー項目を選択して、検索結果の出力先を選択します。選択に応じてメイン画面の出力切替ボタンのアイコンイメージが変更されます。選択された出力先と出力に関する詳細設定はコマンドごとに記憶され、コマンドファイルの保存を行うと、設定がファイルに書き込まれます (☞ 3.9 検索レコードの出力先)。コマンド一覧コンボボックスからコマンドを選択すると、そのコマンドに登録してある出力先が選択されます。

[画面 (V)]

出力先を SkyLink の画面 (シート/フォーム) に設定します。具体的な指定は [コマンド (C)]-[出力先詳細 (T)] を選択して表示される [出力先の詳細] ダイアログで行います (☞ 3.9.2 SkyLink の画面に出力)。

[アプリケーション (A)]

出力先をアプリケーションに設定します。具体的な指定は [コマンド (C)]-[出力先詳細 (T)] を選択して表示される [出力先の詳細] ダイアログで行います (☞ 3.9.3 アプリケーションに出力)。

[ファイル (F)]

出力先をファイルに設定します。具体的な指定は [コマンド (C)]-[出力先詳細(T)] を選択して表示される [出力先の詳細] ダイアログで行います (☞ 3.9.4 ファイルに出力)。

[クリップボード (C)]

出力先をクリップボードに設定します。具体的な指定は [コマンド (C)]-[出力先詳細 (T)] を選択して表示される [出力先の詳細] ダイアログで行います (☞ 3.9.5 クリップボードに出力)。

4.6.10 [出力先詳細(T)]

[出力先の詳細] ダイアログが表示されます。[出力先の詳細] ダイアログは、現在選択している出力先に応じて異なります。[出力先の詳細] ダイアログで出力の具体的な指定を行います。出力先の詳細設定はコマンドごとに記憶され、コマンドファイルの保存を行うと、設定がファイルに書き込まれます。(☞ 3.9 検索レコードの出力先)。

4.6.11 [フォーム編集(F)]

[フォーム編集] 画面が表示されます。[フォーム編集] 画面では、フォームの編集作業を行います。

画面に出力するために、SkyLink は標準的なフォームを用意していますが、[フォーム編集] 画面で編集したフォームに検索結果を出力することもできます。コマンドはコマンドファイルの保存の際に保存されるため、登録を行うだけではファイルには書き込まれません。ユーザ作成のフォームはコマンドごとに記憶され、コマンドファイルの保存を行うとファイルに書き込まれます (☞ 3.15 フォーム編集)。

4.6.12 [Excelフォーム編集(L)]

[Excel フォーム編集] 画面が表示されます。[Excel フォーム編集] 画面では、Excel フォームの編集作業を行います。
[コマンド (C)]-[出力先 (O)] でアプリケーションを選択し、[出力先の詳細] ダイアログで Excel の [フォームを使用する (M)] を選択している場合は、編集した Excel フォームに検索結果を出力することができます。ユーザ作成の Excel フォームはコマンドごとに記憶され、コマンドファイルの保存を行うとファイルに書き込まれます (☞ 3.16 Excel フォーム編集)。

4.6.13 [マクロ編集(M)]

[マクロ編集] ダイアログが表示されます。[マクロ編集] ダイアログでは、マクロの編集作業を行います。

ユーザの作成したマクロは、マクロファイルの保存を行うとファイルに書き込まれます。マクロファイルを開くと、マクロを実行します。また、マクロを自動で実行することも可能です (☞ 3.17 マクロ編集)。

4.6.14 [表の配置(G)]

サブメニュー項目 [整列 (A)]、[現在のウィンドウ位置を保存 (S)] が表示されます。

サブメニュー項目を選択して、表の配置を選択します。

[整列 (A)]

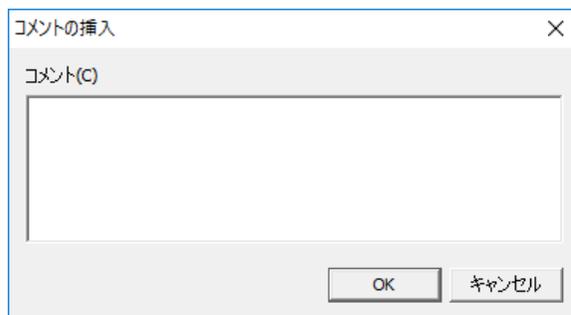
表ウィンドウに追加された表の配置を整列します。

[現在のウィンドウ位置を保存 (S)]

表ウィンドウに追加された表の位置を保存します。

4.6.15 [コメント(H)]

[コメントの挿入] ダイアログが表示されますので、コメントの編集作業を行います。



編集したコメントはデータベースツリーでコマンドタブを選択し、コマンドツリーでプロパティ選択時に表示されます。

4.6.16 [結合情報(H)]

[結合情報] ダイアログが表示されますので、追加、編集、削除の作業を行います。

4.7

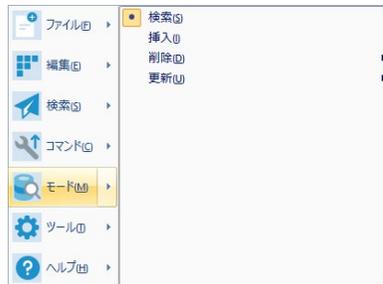
モード(M)

各モードを切り替えるメニューです。

選択されているモードには●マークが付きます。

(☞ 3.6 SkyLink のモード)

このメニューは、検索 / 更新用 SkyLink の場合のみ表示されます。



4.7.1 [検索(S)]

レコードの検索を行う検索モードに移ります。検索モードでは、設定ウィンドウに必要な設定を行った後、メニューの [検索 (S)]-[レコード (S)] または検索実行ボタンをクリックすると検索を実行することができます。他のモードを選択した場合でも、レコード画面からホーム画面に戻ると検索モードになります (☞ 3.6 SkyLink のモード) (☞ 3.7 レコードを検索する)。

4.7.2 [挿入(I)]

レコードの挿入を行う挿入モードに移ります。挿入するレコードのデータを入力するフォーム画面が表示されます (☞ 3.8 レコード画面)。

4.7.3 [削除(D)]

サブメニュー項目 [キー (K)]、[一括 (L)] が表示されます。サブメニュー項目を選択して、レコードの削除を行うキー削除モード / 一括削除モードに移ります。

[キー (K)]

キー削除モードに移ります。キー削除モードでは、検索結果をレコード画面に表示し、項目にキーを指定して削除するレコードを絞ります (☞ 3.13.2 キー削除)。

[一括 (L)]

一括削除モードに移ります。一括削除モードでは、設定ウィンドウの設定条件で検索されるレコードをすべて削除することができます。一括削除は、検索を行わずにメイン画面から直接実行することができます。また、レコード画面で検索結果を確認してから実行することもできます (☞ 3.13.3 一括削除)。

4.7.4 [更新(U)]

サブメニュー項目 [キー (K)]、[一括 (L)] が表示されます。サブメニュー項目を選択して、レコードの更新を行うキー更新モード / 一括更新モードに移ります。

[キー (K)]

キー更新モードに移ります。キー更新モードでは、検索結果をレコード画面に表示し、項目にキーを指定して更新するレコードを絞ります。このモードでは、レコードの挿入とキー削除も行うことができます (☞ 3.14.2 キー更新)。

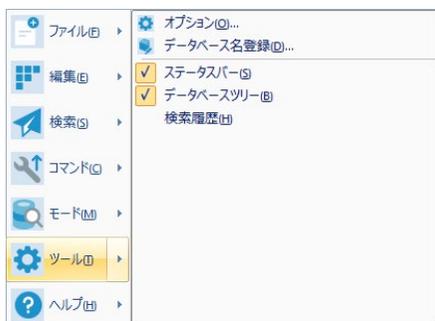
[一括 (L)]

一括更新モードに移ります。一括更新モードでは、設定ウィンドウの設定条件で検索されるレコードをすべて更新することができます。一括更新は、検索を行わずにメイン画面から直接実行することができます。また、レコード画面で検索結果を確認してから実行することもできます (☞ 3.14.3 一括更新)。

4.8

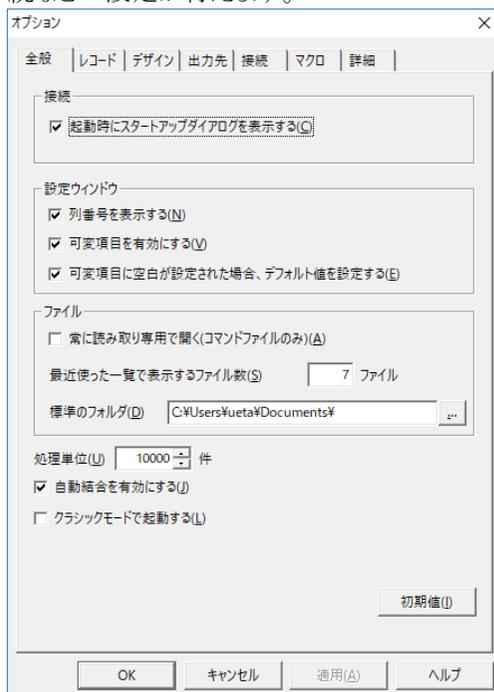
ツール(T)

オプション設定やデータベース名登録、ウィンドウやツールバーの表示関連のメニューです。



4.8.1 [オプション(O)] [全般] タブ

メニュー項目 [オプション (O)] を選択すると、[オプション] ダイアログが表示されます。[オプション] ダイアログの [全般] タブでは、接続などの設定が行えます。



[適用(A)] ボタンをクリックすると、設定した内容が有効となります。[OK] ボタンをクリックすると設定した内容を有効にしダイアログを閉じます。

[起動時にスタートアップダイアログを表示する (C)]

チェックボックス

チェックをつけると、SkyLink を起動するたびに [SkyLink スタート] ダイアログを表示し、データベースへの接続方法またはコマンドファイルを速やかに選択することができます。

 参考

[SkyLink ユーザーマネージャ] を使用する場合は、データベースへの接続ではなく、データソースへの接続となります。(☞ 6 SkyLink ユーザーマネージャ)。

[列番号を表示する (N)] チェックボックス

チェックをつけると、設定ウィンドウに列ヘッダが表示され、項目番号が「1」から順に表示するように設定することができます。

[可変項目を有効にする (V)] チェックボックス

チェックをつけると、検索条件の値を可変にしていた場合は、検索を実行するたびに [検索条件入力] ダイアログが表示され、条件を指定することができるようになります (☞ 3.7.2 検索条件の設定)。

[可変項目に空白が設定された場合、デフォルト値を設定する

(E)] チェックボックス

チェックをつけると、検索条件の値を可変にしていた場合、検索実行時に可変項目に空白が設定されると、デフォルト値が設定されたこととなります。

[常に読み取り専用で開く (コマンドファイルのみ) (A)] チェックボックス

チェックをつけると、コマンドファイルを開く際に読み取り専用で開くように設定することができます。コマンドファイルを複数のクライアントで共有してお使いになる場合に使用してください。

[最近使った一覧で表示するファイル数 (S)] ボックス

メニューの [ファイル(F)]-[最近使ったコマンドファイル(C)]-[ファイル名]、[最近使ったマクロファイル (L)]-[ファイル名] で表示されるコマンドファイル、マクロファイルの一覧にいくつまでファイル名を表示するかを指定します。

[標準のフォルダ (D)] ボックス

コマンドファイル、マクロファイルを保存しておくフォルダを指定します。[...] ボタンをクリックするとファイルを参照できます。

[処理単位 (U)] ボックス

検索の際に、データベースから検索条件に合致したレコードを何件ずつ取り出してくるかを指定します。なお”0”を設定すると、全件のレコードを取得してから検索結果を画面に表示することができます。

[クラシックモードで起動する (L)] チェックボックス

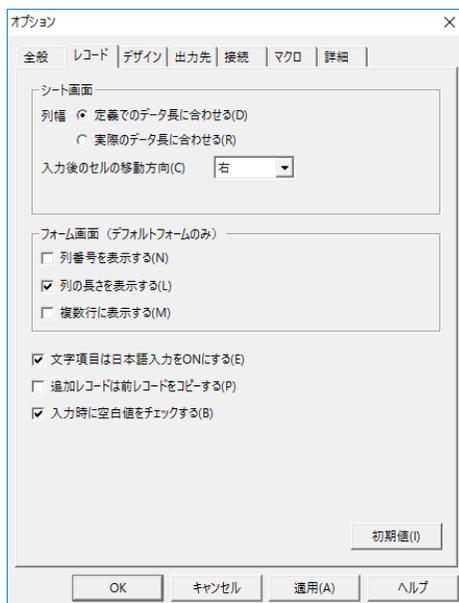
SkyLink のメイン画面のインターフェイスを Ver.8.0 までの表示に設定することができます。非接続時のみ変更できます。

[初期値 (I)] ボタン

クリックすると、このタブの項目すべてがデフォルトの値にセットされます。SkyLink をはじめてお使いになる場合にはデフォルトの値 (SkyLink の推奨値) にセットされています。

4.8.2 [オプション(O)] [レコード] タブ

メニュー項目 [オプション (O)] を選択すると、[オプション] ダイアログが表示されます。[オプション] ダイアログの [レコード] タブでは、レコード画面のカスタマイズやデータ入力時の設定などが行えます。



[適用 (A)] ボタンをクリックすると、設定した内容が有効となります。

[OK] ボタンをクリックすると設定した内容を有効にしダイアログを閉じます。

[定義でのデータ長に合わせる (D)] オプションボタン

オプションボタンを選択すると、シート画面の各列幅をデータベース上の列長定義のサイズにセットするように設定すること

ができます。

[実際のデータ長に合わせる (R)] オプションボタン

オプションボタンを選択すると、シート画面の各列幅を検索されたレコードのそれぞれの項目データがおさまるサイズにセットするように設定することができます。

[入力後のセルの移動方向 (C)] コンボボックス

シート画面でセルのデータを編集して Enter キーまたは Tab キーで確定後、移動するセルの方向を「そのまま、上、下、左、右」から選択します。

[列番号を表示する (N)] チェックボックス

チェックをつけると、フォーム画面で項目のタイトルに項目番号が「1」から順に表示するように設定することができます。

[列の長さを表示する (L)] チェックボックス

チェックをつけると、フォーム画面で項目のタイトルにデータベース上に定義されている列の長さを付けて表示するように設定することができます。

[複数行に表示する (M)] チェックボックス

チェックをつけると、データベースに定義されている項目の長さが比較的長く、フォーム画面でデータを一行で表示しようとすると画面上におさまらない場合に、その項目のデータを複数行にわたって表示／入力できるようにし、表示しきれないデータはスクロールして見ることができるよう設定することができます。

[文字項目は日本語入力を ON にする (E)] チェックボックス

チェックをつけると、シート画面／フォーム画面でデータ入力を行う場合で、データ形式が文字である項目にフォーカスが移動した際に、日本語入力変換を起動します。

☐ 参考

上記の [列番号を表示する (N)]、[列の長さを表示する (L)]、[文字項目は日本語入力を ON にする (E)] について、デフォルトフォームに検索結果を出力する場合はいつも適用されますが、ユーザーが作成したフォームに出力する場合は異なる設定にすることもできます (☞3.15 フォーム編集)。

[追加レコードは前レコードをコピーする (P)] チェックボックス

チェックをつけると、シート画面／フォーム画面で挿入するレコードを追加する際に、現在の最後のレコードの項目データを追加するレコードの項目にコピーするように設定することが

できます。検索／更新用 SkyLink のみ使用可能となります。

[入力時に空白値をチェックする (B)] チェックボックス

チェックをつけると、シート画面／フォーム画面でデータを入力中、空白値を許さない定義が設定された項目に何も入力しなかった場合にメッセージを表示して注意を促すように設定することができます。NEC RDB サーバ対応 DB ではこの項目はありません。

[初期値 (I)] ボタン

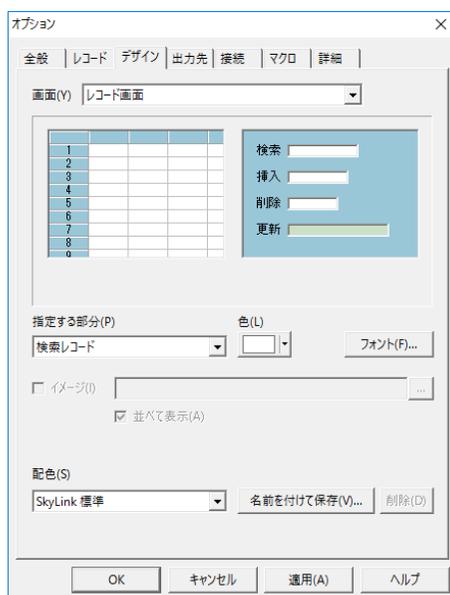
クリックすると、このタブの項目すべてがデフォルトの値にセットされます。SkyLink をはじめてお使いになる場合にはデフォルトの値 (SkyLink の推奨値) にセットされています。

4.8.3 [オプション(O)] [デザイン] タブ

メニュー項目 [オプション (O)] を選択すると、[オプション] ダイアログが表示されます。[オプション] ダイアログの [デザイン] タブでは、表ウィンドウとレコード画面のデザインのカスタマイズが行えます。



表ウィンドウの場合



レコード画面の場合

[適用 (A)] ボタンをクリックすると、設定した内容が有効となります。
 [OK] ボタンをクリックすると設定した内容を有効にしダイアログを閉じます。

[画面 (Y)] コンボボックス

▼をクリックして表示される一覧から、「表画面」または「レコード画面」をデザインを設定する対象として選択します。

[デザインイメージ]

設定されているデザインのサンプルが表示されます。表画面が表示されている場合、色を変更したい表を選択後、[色 (L)] ボタンを使用して色を設定することができます。

[指定する部分 (P)] コンボボックス

[画面 (Y)] コンボボックスでの選択によって、▼をクリックして表示される一覧が異なります。一覧の内容は、以下のとおりです。

[表画面] を選択した場合

表ウィンドウの背景：表ウィンドウの背景色
 表 1 ～表 8： 表ウィンドウの各表の色

[レコード画面] を選択した場合

検索レコード：検索結果レコードの背景色
 挿入レコード：挿入するため追加されたレコードのすべてのセルまたは項目フィールドの背景色

削除レコード：削除指定されたレコードのすべてのセルまたは項目フィールドの背景色
更新レコード：データが変更されたレコードのすべてのセルまたは項目フィールドの背景色
検索モード：検索モードのときのシート画面とデフォルトフォーム画面の背景色
挿入モード：挿入モードのときのシート画面とデフォルトフォーム画面の背景色
削除モード：削除モードのときのシート画面とデフォルトフォーム画面の背景色
更新モード：更新モードのときのシート画面とデフォルトフォーム画面の背景色
検索中の表示：検索中のときのレコード件数表示フィールドの背景色
シートのヘッダおよびフォームの背景色：
シート画面とデフォルトフォーム画面の背景色
(検索用 SkyLink のみ)

をクリックして表示される一覧から項目を選択後、[色 (L)] ボタンを使用して色を設定することができます。

[色 (L)] ボタン

クリックすると、カラーパレットが表示されます。カラーパレットをクリックして、[指定する部分 (P)] コンボボックスで選択した項目の色を指定します。



[その他] ボタン

クリックすると、[色の設定] ダイアログが表示されます。[色の設定] ダイアログでは、カラーパレットに表示されていない色を指定することができます。

[イメージ (I)] チェックボックス

チェックをつけると、[ファイル] ボックスでデフォルトフォーム

画面の背景に表示する画像ファイルを指定することができるようになります。[指定する部分 (P)] コンボボックスで「検索モード」、「挿入モード」、「削除モード」、「更新モード」を選択した場合に、使用可能となります。

[ファイル] ボックス

デフォルトフォーム画面の背景に表示する画像ファイル名を指定します。[...] ボタンをクリックしてファイル名を参照することもできます。画像を指定すると、カラーパレットなどで指定されている色は無視されます。[イメージ (I)] チェックボックスにチェックをつけた場合に、使用可能となります。

[並べて表示 (A)] チェックボックス

チェックをつけると、画像を本来のサイズのまま表示し、画面よりサイズが小さい場合はタイルの様に並べて表示するように設定することができます。

[フォント (F)] ボタン

クリックすると、[フォント設定] ダイアログが表示されます。[フォント設定] ダイアログでは、検索データを表示するフォント名を選択することができます。選択したフォントは、シート画面、デフォルトフォーム画面で使用されます。

[配色 (S)] コンボボックス

▼をクリックして表示される一覧から、このタブで設定できる各部分の色やフォントなどをすべてを 1 セットとして登録した「配色」を選択します。一覧には、SkyLink でお勧めする 2 パターンのほか、[名前を付けて保存 (V)] ボタンを使用して登録した「配色」が表示されます。「配色」が選択されると、配色に保存された内容で各項目が設定されます。

[名前を付けて保存 (V)] ボタン

クリックすると、[配色の保存] ダイアログが表示されます。[配色の保存] ダイアログでは、現在このタブで設定されている各項目の設定内容をすべて1セットの「配色」として保存することができます。



[作成した配色の登録名 (N)] ボックス

新規に登録する「配色」の登録名を指定します。[OK] ボタンをクリックすると、指定した登録名で「配色」が保存されます。

[削除 (D)] ボタン

[配色 (S)] コンボボックスで登録名を選択して [削除 (D)] ボタンをクリックすると、選択した登録名とその内容を削除することができます。

4.8.4 [オプション(O)] [出力先] タブ

メニュー項目 [オプション (O)] を選択すると、[オプション] ダイアログが表示されます。[オプション] ダイアログの [出力先] タブでは、新規コマンドの初期値として検索結果の出力先とその詳細の設定が行えます。



[適用 (A)] ボタンをクリックすると、設定した内容が有効となります。
[OK] ボタンをクリックすると設定した内容を有効にしダイアログを閉じます。

[出力先 (O)] コンボボックス

▼をクリックして表示される一覧から、検索結果の出力先を選択します。選択中の出力先と出力に関する詳細設定は、コマンドを新規に作成したときの初期値とされます。コマンドファイルの保存を行うと、この設定がファイルに書き込まれます (☞ 3.9 検索レコードの出力先)。メニューの [コマンド (C)]-[出力先 (O)] を選択して、コマンドごとに出力先を変更することも

できます。

[出力先詳細]

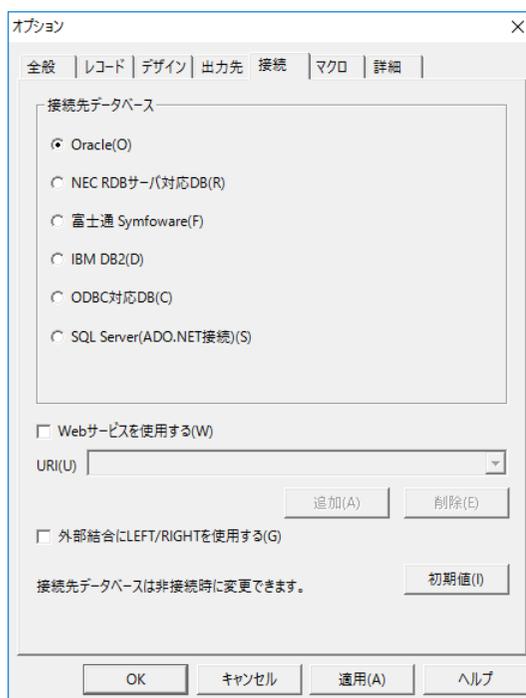
[出力先 (O)] コンボボックスで選択した出力先によって、[出力先 (O)] コンボボックス下部に表示される出力先に関する詳細設定を行う項目が異なります。各設定内容については、[出力先詳細] ダイアログと同様となります (☞ 3.9 検索レコードの出力先)。メニューの [コマンド (C)]-[出力先詳細 (T)] を選択して、コマンドごとに出力先の詳細を変更することもできます。

4.8.5 [オプション(O)] [接続] タブ

メニュー項目 [オプション (O)] を選択すると、[オプション] ダイアログが表示されます。[オプション] ダイアログの [接続] タブでは、接続先データベースの初期値として接続データベースの種類の設定が行えます。

また、Web サービスの使用の設定も行えます。

非接続時のみ接続先データベースの種類の変更ができます。



[接続先データベース]

[Oracle(O)] ラジオボタン

接続先データベースが Oracle の場合、選択します。

[NEC RDB サーバ対応 DB(R)] ラジオボタン

接続先データベースが NEC RDB サーバ対応 DB の場合、
選択します。

[富士通 Symfoware(F)] ラジオボタン

接続先データベースが富士通 Symfoware の場合、選択しま
す。

[IBM DB2(D)] ラジオボタン

接続先データベースが IBM DB2 の場合、選択します。

[ODBC 対応 DB(C)] ラジオボタン

接続先データベースが ODBC 対応 DB の場合、選択します。

[SQL Server(ADO.NET 接続)(S)] ラジオボタン

接続先データベースが Microsoft SQL Server (ADO.NET 接
続) の場合、選択します。ADO.NET を使用しない場合は、
ODBC 対応 DB を選択して、Microsoft SQL Server に接続し
ます。

[Web サービスを使用する (W)] チェックボックス

Web サービスを使用してデータベースに接続する場合、チェック
をつけます。[URI(U)] コンボボックスに Web サービスで使用
するサーバの URI の入力が必要となります。

[URI(U)] コンボボックス

Web サービスで使用するサーバの URI を入力します。

IIS で Web サービスを使用する場合

http:// サーバ名 /Web サービス対応モジュールディレクトリ/
例:

http://skyweb.est.co.jp/skywebsvc/

(☞ 2.2.8 Web サービス対応モジュールのインストール)

[追加 (A)] ボタン

[URI(U)] コンボボックスに入力した Web サービスで使用する
サーバの URI を登録します。

[削除 (E)] ボタン

[URI(U)] コンボボックスで URI を選択して [削除 (E)] ボタンを
クリックすると、登録した URI を削除することができます。

[外部結合に LEFT/RIGHT を使用する (G)] チェックボックス

表を外部結合した際の SQL 文を作成する際に、LEFT
OUTER JOIN, RIGHT OUTER JOIN 句を使用して作成しま
す。ご利用のデータベースがサポートしていない場合、チェッ
クを外してください。

[初期値 (I)] ボタン

クリックすると、このタブの項目すべてがデフォルトの値にセッ
トされます。SkyLink をはじめてお使いになる場合にはデフォ

ルトの値 (SkyLink の推奨値) にセットされています。

4.8.6 [オプション(O)] [マクロ] タブ

メニュー項目 [オプション (O)] を選択すると、[オプション] ダイアログが表示されます。[オプション] ダイアログの[マクロ] タブでは、新規マクロの初期設定としてマクロ実行の選択画面の設定が行えます。



[適用 (A)] ボタンをクリックすると、設定した内容が有効となります。
[OK] ボタンをクリックすると設定した内容を有効にし、ダイアログを閉じます。

[タイトル (C)] ボックス

マクロ実行の選択画面のタイトルを指定します。

[タイプ (T)] コンボボックス

▼をクリックして表示される一覧から、マクロ実行の選択画面に配置するボタンなどのタイプを選択します。

[縦 (H)] ボックス

マクロ実行の選択画面に配置するボタンの縦の個数を指定します。

[横 (M)] ボックス

マクロ実行の選択画面に配置するボタンの横の個数を指定します。

[配置する方向 (F)] コンボボックス

マクロ実行の選択画面に配置するボタンの方向、順番をリストから選択します。

4.8.7 [オプション(O)] [詳細] タブ

メニュー項目 [オプション] を選択すると、[オプション] ダイアログが表示されます。[オプション] ダイアログの [詳細] タブでは、Oracle、NEC RDB サーバ、ODBC のみ表示されます。データベースによって表示される設定項目が異なります。

[適用 (A)] ボタンをクリックすると、設定した内容が有効となります。[OK] ボタンをクリックすると設定した内容を有効にしダイアログを閉じます。

Oracle

DATE 型のデータを表示する場合の日付書式を設定します。接続中は設定できません。書式についての詳細は、Oracle のマニュアルを参照してください。

[現在の規定値] ボックス

現在選択されている日付書式を表示します。検索結果を出力する際に、日付型の項目データをこの形式で出力します。ユーザが作成したフォームに出力する場合は、異なる設定に

することもできます。

[登録されている書式の一覧 (L)] リスト

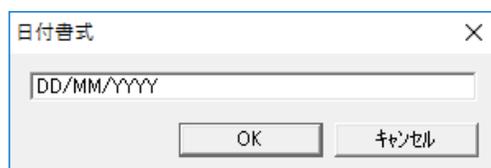
[登録 (R)] ボタンを使用して登録された日付書式の一覧が表示されます。SkyLink では、あらかじめ良く使われる書式がいくつか登録されています。

[規定値に設定] ボタン

クリックすると、[登録されている書式の一覧 (L)] リストで選択した書式 [現在の規定値] にすることができます。

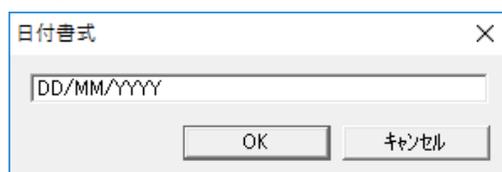
[登録 (R)] ボタン

クリックすると、[日付書式] ダイアログが表示されます。[日付書式] ダイアログで日付書式を入力後、[OK] ボタンをクリックすると、書式を登録することができます。



[変更 (M)] ボタン

[登録されている書式の一覧 (L)] リストで書式を選択して [変更 (M)] ボタンをクリックすると、[日付書式] ダイアログが表示されます。[日付書式] ダイアログで日付書式を変更後、[OK] ボタンをクリックすると、書式を登録することができます。



[削除 (D)] ボタン

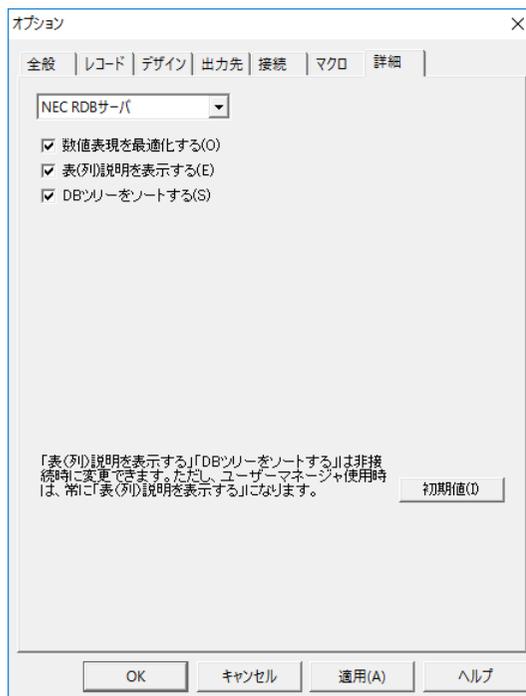
[登録されている書式の一覧 (L)] リストで書式を選択して [削除 (D)] ボタンをクリックすると、選択した書式を削除することができます。

[外部結合時は検索条件にも (+) を付加する (O)]

チェックボックス

外部結合時に検索条件にも (+) を付加する場合チェックします。

NEC RDB サーバ



[数値表現を最適化する (O)] チェックボックス

チェックをつけると、検索したデータから「+」「-」符号や先頭に付いている「0」を取り除いて出力するように設定することができます。

[表 (列) 説明を表示する (E)] チェックボックス

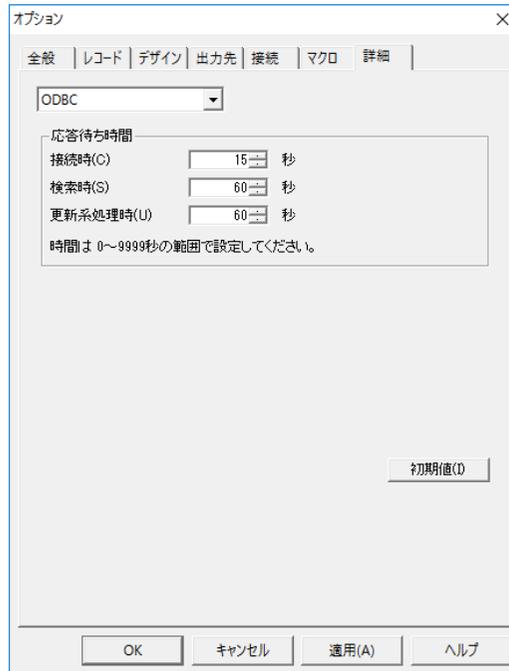
NEC RDB サーバで A-VX または RIQS II V1 に接続する場合にのみ使用可能となります。A-VX の場合はチェックをつけると、表ウィンドウに表示される表・列には「表説明」・「列説明」が表示され、表の定義情報 (☞ 3.5.4 表ウィンドウ) にはデータベースに定義されている通りの表名、列名が表示されるように設定することができます。チェックをつけない場合は、その逆となります。お使いの環境に合わせて指定してください。RIQS II V1 の場合も同様に、あらかじめ RIQS II

V1 上で定義された表や列の表示名を使用できます。ただし、データベースに接続中は変更できません。

[DB ツリーをソートする (S)] チェックボックス

チェックをつけると、DB ツリーを文字コード順にソートします。

各処理を実行する際、サーバのデータベースへ処理を依頼して、サーバから返答が戻ってくるまでの時間を監視します。設定された時間が経っても返答がないときは、タイムアウトのメッセージが表示されます。「・・・中にエラーになりました」の後に ODBCドライバが独自に出力するタイムアウトメッセージが続きます。なお、“0”を設定すると、タイムアウト時間の監視は行われません。つまりタイムアウトは発生しません。各データベースについての個別情報は、イン



ストールフォルダにある README ファイルをご覧ください。

応答待ち時間

[接続時 (C)] ボックス

接続時のタイムアウト時間を設定します。

[検索時 (S)] ボックス

検索時のタイムアウト時間を設定します。

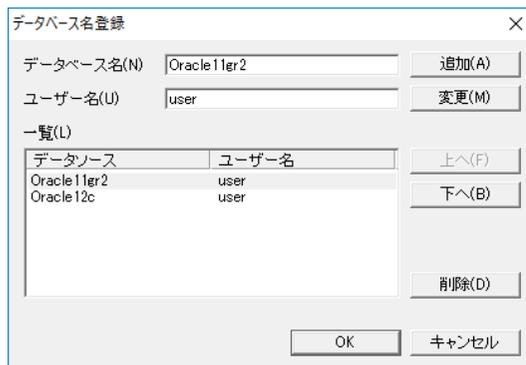
[更新系処理時 (U)] ボックス

更新 (挿入 / 削除 / 更新) 時のタイムアウト時間を設定します。

[初期値 (I)] ボタン

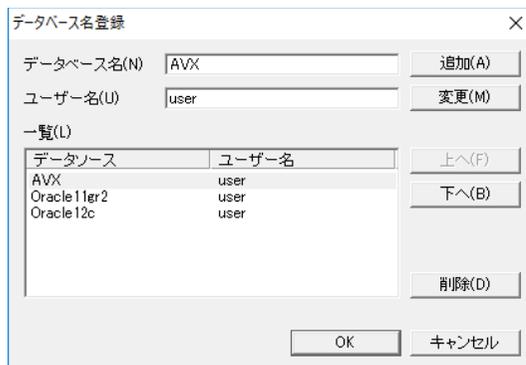
クリックすると、このタブの項目すべてがデフォルトの値にセットされます。SkyLink をはじめてお使いになる場合にはデフォルトの値 (SkyLink の推奨値) にセットされています。

メニュー項目 [データベース名/ステーション名登録 (D)] を選択すると、[データベース名/ステーション名登録] ダイアログが表示されます。Oracle と IBM DB2 では [データベース名登録 (D)]、NEC RDB サーバでは [ステーション名登録 (D)] となります。[データベース名/ステーション名登録] ダイアログであらかじめデータベース名/ステーション名を登録しておく、[接続] ダイアログで、データベース名/ステーション名とユーザー名を  クリックして表示される一覧から選択することができます (☞ 3.4.1 データベースとの接続方法)。



データベース名(N)	ユーザー名(U)
Oracle11gr2	user
Oracle12c	user

Oracle



データベース名(N)	ユーザー名(U)
AVX	user
Oracle11gr2	user
Oracle12c	user

NEC RDBサーバ

- [データベース名 (N)] ボックス・
 - [ステーション名 (N)] ボックス・[ユーザー名 (U)] ボックス
- 新規に登録する場合は、データベース名/ステーション名とユーザー名を入力します。変更や削除を行う場合は、[一覧 (L)] リストで選択したデータベース名/ステーション名とユーザー名が表示されます。

クリックすると、[データベース名 (N)] ボックス / [ステーション名 (N)] ボックスと [ユーザー名 (U)] ボックスに入力した内容で、データベース名 / ステーション名・ユーザー名の組み合わせを登録します。ユーザー名は空欄にしても構いませんが、データベース名 / ステーション名は必ず入力してください。登録された組み合わせは、[一覧 (L)] リストに表示されます。

[変更 (M)] ボタン

クリックすると、[一覧 (L)] リストで選択したデータベース名 / ステーション名とユーザー名の組み合わせを、[データベース名 (N)] ボックス / [ステーション名 (N)] ボックスと [ユーザー名 (U)] ボックスで入力し直した内容で登録します。

[一覧 (L)] リスト

現在登録されているデータベース名 / ステーション名・ユーザー名の一覧を表示します。

[上へ (F)] ボタン・[下へ (B)] ボタン

クリックすると、[一覧 (L)] リストで選択したデータベース名 / ステーション名・ユーザー名の組み合わせの登録順序を、1つ上 ([上へ (F)] ボタン) / 1つ下 ([下へ (B)] ボタン) に移動します。

[削除 (D)] ボタン

[一覧 (L)] リストでデータベース名 / ステーション名・ユーザー名の組み合わせを選択して [削除 (D)] ボタンをクリックすると、選択した組み合わせを削除することができます。

4.8.9 [ステータスバー (S)]

各画面の下にあるステータスバーの表示 / 非表示を切り替えます。現在ステータスバーが表示されている場合はチェックマークが付き、非表示となっている場合はチェックマークはついていません。メニュー項目のチェックをつける / はずすことで、ステータスバーの表示 / 非表示を切り替えることができます。ステータスバーには重要な情報が表示されますので、通常は表示状態にしてください (☞ 3.5.1 SkyLink メイン画面)。

4.8.10 [データベースツリー (B)]

接続中のデータベース、オーナー / スキーマ、表の一覧を表示しているデータベースツリー・列一覧ツリー (ツリーウィンドウ) の表示 / 非表示を切り替えます。メイン画面以外では、このメ

ニュー項目はありません。

現在ツリーウィンドウが表示されている場合はメニュー項目の前のアイコンが押されている状態になり、非表示となっている場合は押されていない状態になります。メニュー項目をクリックすることで、データベースツリー・列一覧ツリー（ツリーウィンドウ）の表示／非表示を切り替えることができます。

4.8.11 [検索履歴(H)]

[検索履歴] ダイアログが表示されます。[検索履歴] ダイアログの [履歴] コンボボックスの  をクリックして表示される一覧から履歴を選択すると、その検索を行った際のレコード画面と同内容のレコードの一覧をリスト内に表示することができます。



	得意先コード	フリガナ	得意先名	担当
1		キッサタイムマン	喫茶たしゅまん	林 千
2		2 コリョウリナンゴク	小料理なんごく	河本 7
3		3 カッポウフソイ	割烹ふい	山久 1
4		4 カイゼンリョウジラ	海鮮料理くら	和辺 1
5		5 イザカヤナナヘ	居酒屋なべえ	渡川 1
6		6 サカグラデン	酒蔵でん	小田 1
7		7 コブキストア	菊ストア	池林 1
8		8 オンゼンレストラン	温泉レストラン	池山 1
9		9 ヤマトマーケット	大和マーケット	木山 1
10		10 トウカイドウスーパー	東海道スーパー	錦藤 1
11		11 コマチストア	小町ストア	佐本 1
12		12 ネクレイマート	北条マート	坂田 1
13		13 サッポロフード	札幌フード	園村 1
14		14 ユキハナガーデン	雪花ガーデン	田本 1
15		15 シロモトカブシキガイシャ	城元株式会社	山水 1

[履歴] コンボボックス

 をクリックして表示される一覧から、表示する履歴を選択します。一覧には、レコード画面の履歴追加ボタンを使用して保存した履歴が表示されます（[4.10.12 履歴に追加](#)）。履歴は SkyLink を終了するまで保存されています。

[件数] ボックス

[履歴内容] リスト上で選択しているレコード位置を表示します。

[昇順] ボタン

クリックすると、[履歴内容] リスト内のレコードを昇順に並び替えることができます。

[降順] ボタン

クリックすると、[履歴内容] リスト内のレコードを降順に並び替えることができます。

[削除] ボタン

[履歴] コンボボックスで履歴を選択後、[削除] ボタンをクリックすると、選択した履歴を削除することができます。

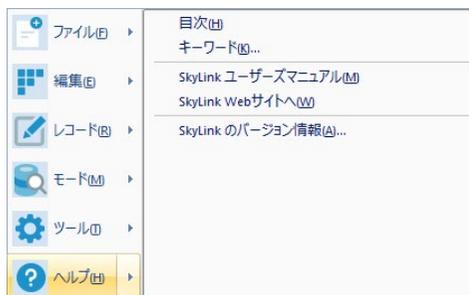
[履歴内容] リスト

[履歴] コンボボックスで選択している履歴の内容を表示します。

4.9

ヘルプ(H)

ヘルプ関連のメニューです。



ヘルプの操作方法について、詳しくは Windows のマニュアルをご覧ください。SkyLink の画面・ダイアログを開いているときに F1 キーを押すと、その箇所について解説したヘルプトピックが表示されます。

4.9.1 [目次(H)]

SkyLink ヘルプの [目次 (C)] タブが表示されます。[目次 (C)]、[キーワード (N)]、[検索 (S)]、[お気に入り (I)] の各タブを切り替えて、目的のヘルプトピックを探してください。

4.9.2 [キーワード(K)]

SkyLink ヘルプの [キーワード (N)] タブが表示されます。[目次 (C)]、[キーワード (N)]、[検索 (S)]、[お気に入り (I)] の各タブを切り替えて、目的のヘルプトピックを探してください。

4.9.3 [SkyLinkユーザーマニュアル(M)]

SkyLink を使用するためのマニュアル(このファイル)を表示します。

4.9.4 [SkyLink Webサイトへ(W)]

イースト株式会社 SkyLink Web サイトを、お使いの Web ブラウザ

に表示します。

4.9.5 [SkyLinkのバージョン情報(A)]

SkyLink のバージョン、著作権などについての情報を表示します。



4.10

レコード(R)

レコード単位の編集作業やレコードデータの入出力、処理実行に関するメニューです。このメニューはレコード画面で表示されます。



4.10.1 [画面切り換え(C)] F5

シート画面とフォーム画面の表示の切り替えを行います（[3.8.1 シート画面とフォーム画面](#)）。ここで切り替わるフォームとは別のフォームに切り替えたい場合は、画面切り替えボタン  の  をクリックして表示されるサブメニュー項目から、目的の画面を選択します。

4.10.2 [次へ(F)] Ctrl+K

次のレコードへ移動します。シート画面の場合、フォーカス位置が次の行へ移動します。

4.10.3 [前へ(B)] Ctrl*L

1つ前のレコードへ移動します。シート画面の場合、フォーカス位置が1つ上の行へ移動します。

4.10.4 [最後へ(O)] Ctrl+End

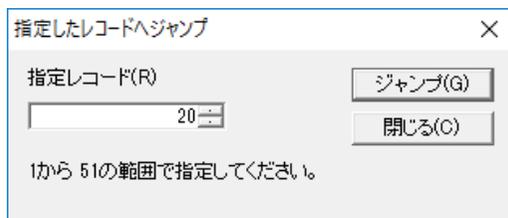
最後のレコードへ移動します。シート画面の場合、フォーカス位置が最後の行へ移動します。

4.10.5 [最初へ(T)] Ctrl+Home

先頭のレコードへ移動します。シート画面の場合、フォーカス位置がいちばん上の行へ移動します。

4.10.6 [ジャンプ(G)] Ctrl+G

[指定したレコードへジャンプ] ダイアログが表示されます。[指定したレコードへジャンプ] ダイアログでレコード番号を入力後 [ジャンプ (G)] ボタンをクリックすると、そのレコードを表示します。シート画面の場合、フォーカス位置が指定された行へ移動します。



[指定レコード (R)] ボックス

表示したいレコードの番号を入力します。番号は先頭レコードの「1」から検索順に振られます。

[ジャンプ (G)] ボタン

クリックすると、[指定レコード (R)] に入力された番号のレコードを表示します。

[閉じる (C)] ボタン

クリックすると、[指定したレコードへジャンプ] ダイアログを閉じます。

4.10.7 [追加(A)]

挿入モードまたはキー更新モードで使用可能となります。

最後のレコードの後ろに新たなレコードを追加して、追加したレコードを表示します。シート画面の場合は、選択している行数と同じ数のレコードをシートの最後に追加します。

メニューの [ツール (T)] - [オプション (O)] を選択して表示される [オプション] ダイアログ - [レコード] タブ - [追加レコードは前レコードをコ

ピーする (P)] チェックボックスにチェックをつけている場合は、追加するレコードの項目に、最後のレコードの項目がコピーされます。追加したレコードは、項目の色が [ツール (T)]-[オプション (O)]-[デザイン] タブで指定された挿入レコードの色になります。メニューの [レコード (R)]-[処理実行 (X)] または処理実行ボタン  をクリックすると、追加されたレコードのデータベースへの挿入を実行します。

4.10.8 [削除指定(M)] Ctrl+M

キー削除モードまたはキー更新モードで使用可能となります。シートの場合はフォーカスのあるセルまたは行選択されている行を、フォームの場合は表示されているレコードを、データベースから削除するレコードとして予約します。削除指定がされたレコードは、項目の色が [ツール (T)]-[オプション (O)]-[デザイン] タブで指定された削除レコードの色になります。メニューの [レコード(R)]-[処理実行 (X)] または処理実行ボタン  をクリックすると、レコードのデータベースからの削除を実行します。

4.10.9 [画面から削除(E)]

一括削除モードまたは一括更新モード以外のモードで使用可能となります。シートの場合はフォーカスのあるセルまたは行選択されている行のレコードを、フォームの場合は表示されているレコードを、画面から削除します。

4.10.10 [昇順(A)]

レコードを昇順に並べ替えます。

4.10.11 [降順(D)]

レコードを降順に並べ替えます。

4.10.12 [履歴に追加(D)]

[履歴の追加] ダイアログが表示されます。[履歴の追加] ダイアログの [コメント (C)] ボックスに保存する履歴の名前を入力後 [OK] ボタンをクリックすると、履歴が保存されます。メニューの [ツール (T)]-[検索履歴 (H)] を使用して [検索履歴] ダイアログに保存した履歴を表示することができます。



[コメント (C)] ボックス

履歴のコメントを指定します。[コメント (C)] ボックスには今回使用したコマンド名および直前に行った検索の検索条件が自動的に表示されます。[コメント (C)] ボックスの内容は自由に

書き換えることができます。コメントを確定後、[OK] ボタンをクリックすると直前に今回行った検索処理の内容を履歴として保存することができます。

4.10.13 [再検索(R)] F12

今回行った検索処理を再度実行し、現在表示している画面に出力します。条件に変値を設定している場合は、再度検索条件入力ダイアログが表示されます。Alt キーを押しながら再検索ボタンをクリックした場合は、絞込み検索が行われます。

4.10.14 [絞り込み検索(W)] Alt+F12

現在の検索条件に、新たに検索条件を付加して検索結果を絞り込みます。可変条件が指定されていない場合は、再検索と同様の処理となります。

4.10.15 [SQL(Q)]

[SQL] ダイアログが表示されます。[SQL] ダイアログでは、SQL の確認および編集を行うことができます (☞ 3.7.6 SQL 編集)。ユーザーが SQL を編集したい場合にこのメニュー項目を選択してください。

4.10.16 [処理実行(X)] Ctrl+F12

データベースに対してトランザクションを発行し、レコード画面で編集された内容により、レコードが挿入／削除／更新されます。

4.10.17 [インポート(L)]

挿入モードまたはキー更新モードの場合で使用可能となります。
CSV ファイルまたは XML ファイルからレコードデータを読み込み、
レコード画面にレコードを追加します。[インポート] ダイアログが表示
されますのでインポートするファイルを選択してください (☞
3.12.3 インポート・エクスポート)。

4.10.18 [エクスポート(S)] - [アプリケーション(A)]

レコード画面で表示されているレコードをアプリケーションに出力し
ます。[アプリケーションへエクスポート] ダイアログが表示されます
ので、エクスポートするアプリケーションを選択してください (☞
3.12.3 インポート・エクスポート)。

4.10.19 [エクスポート(S)] - [ファイル(F)]

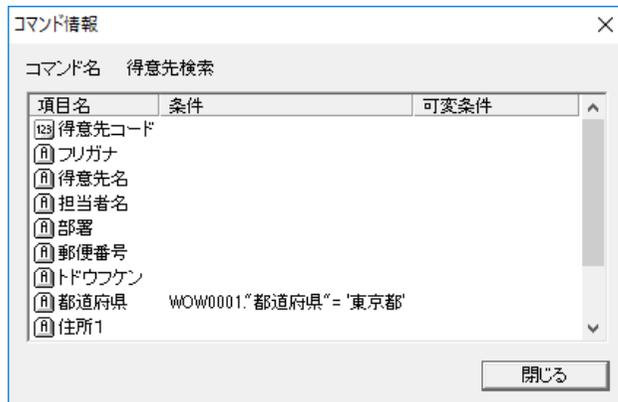
レコード画面で表示されているレコードをファイルに書きこみます。
[ファイルへエクスポート] ダイアログが表示されますので、エクス
ポートするファイルを選択してください (☞ 3.12.3 インポート・エクス
ポート)。

4.10.20 [プロパティ(I)]

現在のコマンドの、[プロパティ] ダイアログを表示します。[プロパ
ティ] ダイアログでは、項目のプロパティの一覧を表示します。日
本語入力、またモードによってキー項目や一括更新値の設定を
行います。

4.10.21 [コマンド情報(N)]

[コマンド情報] ダイアログが表示されます。[コマンド情報] ダイア
ログでは、今回行われた検索のコマンド名と、検索された項目名、検索
条件、可変条件を確認することができます。また、項目名の前に
表示されたアイコンにより、データベース上で定義された項目属性
を確認することができます。



[コマンド名] 欄

現在使用しているコマンド名が表示されます。

[項目名] 列

設定ウィンドウに設定されている項目のタイトルが表示されます。デフォルトは列名と同じになりますが、設定ウィンドウで項目タイトルを編集することもできます (☞ 3.5.5 設定ウィンドウ)。

[条件] 列

設定ウィンドウに設定されている項目の検索条件が表示されます (☞ 3.5.5 設定ウィンドウ)。

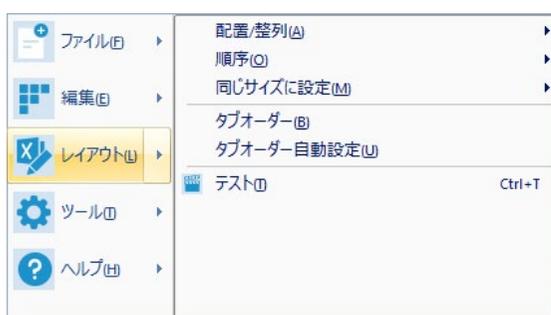
[可変条件] 列

設定ウィンドウに設定されている項目の可変条件が表示されます (☞ 3.5.5 設定ウィンドウ)。

4.11

レイアウト(L)

ユーザーが作成するフォーム／ Excel フォームに配置するオブジェクトのレイアウト作業に関するメニューです。このメニューはフォーム編集画面または Excel フォーム編集画面で表示されます。



* の付いたメニュー項目は、フォーム編集画面のみにあります。
() の付いたキーアサインは、Excel フォーム編集画面のみにあります。

4.11.1 [配置/整列(A)]

サブメニュー項目 [左揃え (L)]、[左右中央揃え (H)]、[右揃え (R)]、[上揃え (T)]、[上下中央揃え (V)]、[下揃え (B)]、[左右に整列 (D)]、[上下に整列 (S)] が表示されます。フォーム上でオブジェクトを選択し、サブメニュー項目を選択すると、オブジェクトの配置または整列を行うことができます。複数のオブジェクトを選択していない場合は、このメニュー項目は使用できません。選択した際に黒色のハンドル ■ が表示されるオブジェクトを、基準オブジェクトと呼びます。

[左揃え (L)] (Ctrl+ ←)

基準オブジェクトの左辺 X 位置に、選択している他のオブジェクトの左辺 X 位置を揃えて再配置します。

[左右中央揃え (H)] Shift+F9 *

基準オブジェクトの左辺と右辺の中央の X 位置に、選択している他のオブジェクトの左辺と右辺の中央の X 位置を揃えて再配置します。

 [右揃え (R)] (Ctrl+ →)

基準オブジェクトの右辺 X 位置に、選択している他のオブジェクトの右辺 X 位置を揃えて再配置します。

 [上揃え (T)] (Ctrl+ ↑)

基準オブジェクトの上辺 Y 位置に、選択している他のオブジェクトの上辺 Y 位置を揃えて再配置します。

 [上下中央揃え (V)] F9 *

基準オブジェクトの上辺と下辺の中央の Y 位置に、選択している他のオブジェクトの上辺と下辺の中央の Y 位置を揃えて再配置します。

 [下揃え (B)] (Ctrl+ ↓)

基準オブジェクトの下辺 Y 位置に、選択している他のオブジェクトの下辺 Y 位置を揃えて再配置します。

 [左右に整列 (D)] *

選択しているオブジェクトのうち最も左にあるものと最も右にあるものの距離を元に、選択しているオブジェクト同士の間隔が X 座標で見た場合等間隔となるよう整列します。

 [上下に整列 (S)] *

選択しているオブジェクトのうち最も上にあるものと最も下にあるものの距離を元に、選択しているオブジェクト同士の間隔が Y 座標で見た場合等間隔となるよう整列します。

4.11.2 [順序(O)]

サブメニュー項目 [最前面へ移動 (T)]、[最背面へ移動 (K)]、[前面へ移動 (F)]、[背面へ移動 (B)] が表示されます。フォーム上でオブジェクトを選択し、サブメニュー項目を選択すると、フォームに配置する順序を入れ替えることができます。通常オブジェクトは追加した順番でフォームに配置されますが、オブジェクト同士が重なった際に、表面に配置したいオブジェクトが他のオブジェクトに隠れている場合は、フォームに配置する順序を入れ替えます。オブジェクトを選択していない場合は、このメニュー項目は使用できません。

[最前面へ移動 (T)] *

選択しているオブジェクトをいちばん手前に移動します。次にオブジェクトを重ねても、常に手前に表示されます。

[最背面へ移動 (K)] *

選択しているオブジェクトをいちばん奥に移動します。オブジェクトが重なっていた場合、隠れていたオブジェクトが見えるようになります。

[前面へ移動 (F)] *

選択しているオブジェクトを1つ手前に移動します。オブジェクトどうしが複雑に重なり合っているような場合に、それぞれのオブジェクトの配置を調整してください。

[背面へ移動 (B)] *

選択しているオブジェクトを1つ奥に移動します。オブジェクトどうしが複雑に重なり合っているような場合に、それぞれのオブジェクトの配置を調整してください。

4.11.3 [同じサイズに設定(M)]

サブメニュー項目 [幅 (W)]、[高さ (H)]、[両方 (B)] が表示されます。フォーム上でオブジェクトを選択し、サブメニュー項目を選択すると、選択しているオブジェクトのサイズを揃えることができます。複数のオブジェクトを選択していない場合は、このメニュー項目は使用できません。選択した際に黒色のハンドル■が表示されるオブジェクトを、基準オブジェクトと呼びます。

[幅 (W)]

基準オブジェクトの幅に、選択している他のオブジェクトの幅を揃えます。

[高さ (H)]

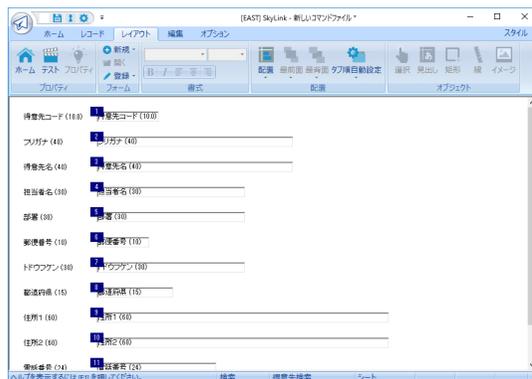
基準オブジェクトの高さに、選択している他のオブジェクトの高さを揃えます。

[両方 (B)]

基準オブジェクトの幅と高さに、選択している他のオブジェクトの幅と高さを揃えます。

4.11.4 [タブオーダー(B)]

タブオーダー設定画面が表示されます。タブオーダー設定画面で各項目の先頭に表示された青い矩形をクリックして、レコードの編集を行う際に Tab キーまたは Enter キーを押して移動する項目の順を設定することができます。

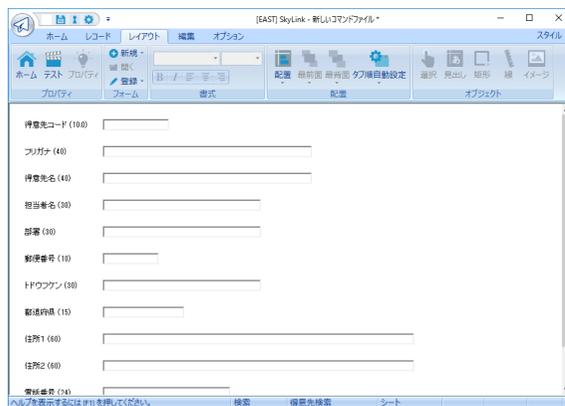


4.11.5 [タブオーダー自動設定(U)]

レコードの編集を行う際に Tab キーまたは Enter キーを押して移動する項目の順を、フォームの左上から右下に向かう順に自動的に設定することができます。

4.11.6 [テスト(T)] Ctrl+T

フォーム編集画面の場合は、フォームイメージを確認するためのテスト画面が表示されます。



Excel フォーム編集画面の場合は、ただちに検索を行い、Excel を起動し (Excel が起動されていないときのみ)、Excel のシートに

出力することができます。これにより、編集した Excel フォームで正しく出力できるかどうかのテストを行うことができます。

付録A SkyLinkでの列の型の表

各データベースで表の列のデータ型が定義されています。それぞれのデータ型に対応する SkyLink の表記について説明します。

Oracle

SkyLink 表記	データ型	
vchar2	VARCHAR2	可変長文字型
num	NUMBER	数値型
num	FLOAT	実数型
long	LONG	固定長文字型
*rowid	ROWID	2進数型
date	DATE	日付型
*raw	RAW	バイナリ型
*lraw	LONG RAW	バイナリ型
char	CHAR	固定長文字型
*mlabel	MLSLABEL	可変長 2進ラベル型
nchar	NCHAR	日本語文字型
nvchar2	NVARCHAR2	可変長日本語文字型

NEC RDB サーバ対応データベース

PC-RDB サーバのマニュアルをご覧ください。

富士通 Symfoware

SkyLink 表記	データ型	
char	CHARACTER	文字型
vchar	CHARACTER VARYING	可変長文字型
nchar	NATIONAL CHARACTER	日本語文字型
nvchar	NATIONAL CHARACTER VARYING	可変長日本語文字型
int	INTEGER	数値型
sint	SMALLINT	数値型
num	NUMERIC	数値型

dec	DECIMAL	数値型
real	REAL	浮動小数点数値型
float	FLOAT	浮動小数点数値型
double	DOUBLE	浮動小数点数値型
date	DATE	日付型
time	TIME	時間型
tstmp	TIMESTAMP	タイムスタンプ型

富士通 Symfoware において SQMI, SQI インタフェースを介して、DATE, TIME, TIMESTAMP 型を使用する場合は、それぞれ、SQMISetOption, SQISetOption 関数の呼び出しが必要です。

IBM DB2

SkyLink 表記	データ型	
char	CHARACTER	文字型
vchar	VARCHAR	可変長文字型
*lvchar	LONG VARCHAR	長文可変長文字型
*clob	CLOB	超長文可変長文字型
graphic	GRAPHIC	日本語文字型
vgraph	VARGRAPHIC	可変長日本語文字型
*lvgrap	LONG VARGRAPHIC	長文可変長日本語文字型
*dbclob	DBCLOB	超長文可変長日本語文字型
date	DATE	日付型
time	TIME	時間型
tstmp	TIMESTAMP	タイムスタンプ型
int	INTEGER	数値型
sint	SMALLINT	数値型
num	NUMERIC	数値型
dec	DECIMAL	数値型
float	FLOAT	浮動小数点数値型
double	DOUBLE	浮動小数点数値型
*blob	BLOB	超長文バイナリ型
*bin	BINARY	バイナリ型
*vbin	VARBINARY	可変長バイナリ型
*lvbin	LONG VARBINARY	可変長バイナリ型
bigint	BIGINT	数値型

ODBC 対応データベース

SkyLink 表記	データ型	
char	CHAR	文字型
vchar	VARCHAR	可変長文字型
lvchar	LONG VARCHAR	可変長文字型
date	DATE	日付型
time	TIME	時間型
tstmp	TIMESTAMP	タイムスタンプ型
num	NUMERIC	数値型
dec	DECIMAL	数値型
int	INTEGER	数値型
sint	SMALLINT	数値型
bint	BIGINT	数値型
tint	TINYINT	数値型
real	REAL	浮動小数点数値型
float	FLOAT	浮動小数点数値型
double	DOUBLE	浮動小数点数値型
*bin	BINARY	バイナリ型
*vbin	VARBINARY	可変長バイナリ型
*lvbin	LONG VARBINARY	可変長バイナリ型
bit	BIT	ビット型
guid	UNIQUEIDENTIFIER	GUID 型
variant	SQL_VARIANT	バリエーション型
wlvarchar	XML	XML 型

SQL Server データベース

SkyLink 表記	データ型	
char	CHAR	文字型
vchar	varchar	文字型
lvchar	text	文字型
wchar	nchar	文字列型
wvchar	nvarchar	可変長文字型
wlvarchar	ntext	可変長文字型
lvchar	varcharmax	可変長文字型
wlvarchar	nvarcharmax	可変長文字型
bint	BIGINT	数値型

bit	bit	数値型
num	numeric	数値型
sint	SMALLINT	数値型
dec	decimal	数値型
dec	SMALLMONEY	数値型
int	INT	数値型
tint	TINYINT	数値型
dec	money	数値型
float	float	浮動小数点数値型
real	real	浮動小数点数値型
wvchar	date	日付型
wvchar	datetimeoffset	日付時刻型
wvchar	datetime2	日付時刻型
tstmp	smalldatetime	タイムスタンプ型
tstmp	datetime	タイムスタンプ型
wvchar	time	時刻型
*bin	timestamp	タイムスタンプ型
*bin	binary	バイナリ型
*lvbin	geography	可変長バイナリ型
*lvbin	geometory	可変長バイナリ型
*lvbin	hierarchyid	可変長システム型
*lvbin	image	バイナリ型
variant	sql_variant	バリエーション型
guid	uniqueidentifier	ID 型
*vbin	varbinary	可変長バイナリ型
*lvbin	varbinarymax	可変長バイナリ型
wlvchar	xml	XML 型

📖 参考

「*」の付いているデータ型は SkyLink では使用できません。

また、表に載っていないデータ型で、*unknown と表示された場合も SkyLink では使用できません。



ユーザーサポートと販売条件

ユーザーサポートは、下記の販売条件に同意し、ユーザー登録をしていただいた方を対象に行います。

連絡先

イースト株式会社 ユーザーサポート係

住 所 〒 151-0053

東京都渋谷区代々木2-22-8

E-mail sysmaster@est.co.jp

SkyLink のプログラム、マニュアルなどについての、ご意見、ご要望などもお待ちしております。

障害などのお問い合わせの場合は、パソコンの機種、Windows のバージョンについてもご連絡ください。

■販売条件

- * このプログラムおよびマニュアルの内容の一部または全部を、無断で複製することは禁止されています。
- * このプログラムは、購入したライセンス数の範囲内で利用するほかは、著作権法上無断で使用、および複製することはできませんのでご注意ください。
- * 製品の仕様は改良のため予告なしに変更することがありますが、ユーザー登録カードを返送されて、ユーザー登録を済ませられている方へは、そのご案内をお送りいたします。
- * 製品の内容については万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点や、誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたらご連絡ください。
- * 本製品を運用されました結果の影響につきましては、前項にかかわらず、責任を負い兼ねますので、ご了承ください。

■ ライセンスのご案内

● マスターパッケージ

マスターパッケージは、システムディスク1セット（検食用 CD-ROM、検索更新用 CD-ROM）、マニュアル1セット、2クライアントライセンスの使用許諾権の販売です。

1特定サイト（例事業所、部署毎）にマスターパッケージは、少なくとも必ず1本は必要です。

● クライアント/サーバ対応環境での購入方法

クライアント/サーバ対応環境で、SkyLink や SkyLink Player、SkyKicker から直接データベースサーバを利用する場合や、サーバ上のSkyLink Online を Web ブラウザから共用する場合には、クライアントライセンスが必要となります。

クライアントライセンスは、クライアントで動作する SkyLink のライセンス本数分の使用許諾権の販売です。本ライセンス製品のライセンス数は、使用するパソコンの台数でカウントします。

● Web サービス対応環境での購入方法

Web サービス対応環境で、Microsoft .NET Framework 上の Web サービスを利用し SkyLink を使用する場合、使用するパソコンの台数分のクライアントライセンスが必要です。

※ ターミナルサービス等の環境で使用する場合には、PC の台数またはユーザー数のうち多い方の上記クライアントライセンスが必要です。

データベース
検索/更新ツール
Windows 7/8.1/10 対応
SkyLink Ver. 13
ユーザーズマニュアル

2019 年 5 月 初版発行

発売元 イースト株式会社
〒 151-0053
東京都渋谷区代々木 2-22-8
E-mail : sysmaster@est.co.jp
(月) ~ (金) (祝祭日除く)
AM 10:00 ~ 12:00
PM 1:00 ~ 5:00

Copyright (C) 1993-2019 EAST Co., Ltd.
イースト株式会社

Microsoft® Windows® 7/8.1/10 Operating System は米国マイクロソフトコーポレーションの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
その他商品名はその会社の商標または登録商標です。